

多摩大学 副学長日誌

志塾の風 2018年度

久恒 啓一

副学長日誌
「志塾の風」

2018 年度

久恒啓一

目次

2018 年 4 月 2 日	新入生オリエンテーション。辞令交付式。	11
2018 年 4 月 4 日	大学院で修士論文基礎講座――「図解・修士論文の書き方」	12
2018 年 4 月 5 日	多摩大学平成 30 年度入学式をパルテノン多摩で開催	14
2018 年 4 月 6 日	秋学期の最初の授業。二人の客員教授と懇談。	17
2018 年 4 月 7 日	大学院入学式	17
2018 年 4 月 9 日	副学長日誌	18
2018 年 4 月 10 日	昭島市と多摩大学の連携に関する協定の締結式」。グローバルスタディーズ学部運営委員会	19
2018 年 4 月 13 日	朝は学部の授業。夜は大学院「インサイトコミュニケーション」の初回の授業：21 人が受講。外国人は中国人、韓国人、ベトナム人、ロシア人と国際色豊か	19
2018 年 4 月 14 日	2018 年度のインターゼミ(社会工学研究会)は史上最高の人数と最強の布陣	23
2018 年 4 月 17 日	ラウンジでコミュニケーション。研究室で書棚の整理	26
2018 年 4 月 18 日	副学長日誌	26
2018 年 4 月 19 日	2018 年春学期リレー講座「世界と日本の構造変化に変わらざる視座を求めて――知の再武装への試み」。第 1 回は寺島「世界の構造変化をどう見抜くか」	26
2018 年 4 月 20 日	午前は授業。午後は 3 つの連続会議	27
2018 年 4 月 21 日	インターゼミ(社会工学研究会)：多摩学班。アジアユーラシア班。AI 班。サービスエンターテイメント班。地域班。	28
2018 年 4 月 22 日	『寺島文庫通信』2018 春号。vol60。	30
2018 年 4 月 24 日	早朝はヨガ、午後は大学	31
2018 年 4 月 25 日	教授会。T-Studio で「名言との対話」収録。	31
2018 年 4 月 26 日	リレー講座：元特命全権大使・天江喜七郎「ロシアの中東外交と同地域の将来」	32
2018 年 4 月 29 日	多摩でスポーツフェスティバル。夜は品川で大学院の授業	34
2018 年 4 月 28 日	2018 年度インターゼミ(社会工学研究会)の運営体制が決まる。	37
2018 年 5 月 5 日	T-Studio「名言との対話」第 31 回をリリース。小林英夫教授の「座右の銘」を巡って	39
2018 年 5 月 7 日	連休明けは、国際交流センター運営委員会から始まる	40
2018 年 5 月 8 日	ラウンジでコミュニケーション、研究室で書類整理。連休明けの仕事が始まった	41
2018 年 5 月 9 日	現代の志塾「経営情報学部」2018 年度全教授陣一が集合！	41
2018 年 5 月 11 日	朝、授業。昼、収録。午後、会議。夜、懇親会。	42
2018 年 5 月 12 日	副学長日誌	43

2018 年 5 月 14 日 VRのゴーグルでホラーを観賞	44
2018 年 5 月 15 日 副学長日誌.....	44
2018 年 5 月 16 日 品川の多摩大大学院で「アジア子ども未来研究会」の初会合。アジアと子どもに未来がある。.....	44
2018 年 5 月 17 日 多摩キャンパスで仕事。	46
2018 年 5 月 18 日 大学院の授業:テーマは「自民党憲法改正草案と現行日本国憲法」の比較図の作成・発表・議論。I can learn the very basic knowledge that all the global citizens need to know.	47
2018 年 5 月 19 日 インターゼミ(社会工学研究会)	51
2018 年 5 月 22 日 認定NPO法人アジア教育友好協会(AEFA)をバートル先生(多摩大国際交流センター長)と訪問.....	52
2018 年 5 月 23 日 副学長日誌.....	53
2018 年 5 月 24 日 多摩(リレー講座、)。品川(大学院運営委員会、)。九段(多摩大志塾会)。	53
2018 年 5 月 25 日 多摩で授業。九段で3つの重要会議。	55
2018 年 5 月 26 日 インターゼミ:日大アメフト部問題。2018 年夏を濃厚な時間に	56
2018 年 5 月 28 日 会食と会議	57
教授会。T-Studio で石川先生と収録。東京で人物館 2 館。日本興業倶楽部で寺島講演。...	57
2018 年 5 月 31 日 リレー講座:前川喜平「安倍政権下の教育政策」.....	58
2018 年 6 月 1 日 夜の大学院のテーマは日本文化:「武士道」「禅」「俳句」「箸」「パチンコ」「カラオケ」「茶道」「相撲」「歌舞伎」「温泉」「畳」「桜」「ひらがな」「神道」「生け花」「和服」「インスタントラーメン」「マンガ」「落語」.....	59
2018 年 6 月 3 日 自己点検ヒヤリングの日	63
2018 年 6 月 4 日 多摩大学・高大接続アクティブラーニング研究会の 2018 年度の第 1 回を開催	65
2018 年 6 月 6 日 トレンドウオッチャー第13回 橘川幸夫客員教授。話題は「連休、アジア、ゲーム、教育とゲーム、、、」.....	67
2018 年 6 月 8 日 授業「図解文章法」:文章を書くことに抵抗が減ったという感想が多かった。67	
2018 年 6 月 9 日 多摩未来創造フォーラム——小池百合子東京都知事の基調講演と、市長・学長・社長のシンポジウム	67
2018 年 6 月 11 日 多摩大出版会編集委員会準備会合.....	69
2018 年 6 月 13 日 副学長日誌.....	70
2018 年 6 月 14 日 湘南キャンパス.....	70
2018 年 6 月 15 日 朝は学部授業「ビジネス・コミュニケーション」で「図解広告」。夜は大学院授業「インサイト・コミュニケーション」で「図解文章法」	70
2018 年 6 月 16 日 インターゼミ(社会工学研究会):研究計画発表会を開催.....	73

2018 年 6 月 18 日	会議二つーアクティブラーニングと入試「質」対策	75
2018 年 6 月 20 日	学部運営委員会。	75
2018 年 6 月 21 日	リレー講座:寺島学長「米朝首脳会談」と「17 世紀オランダ論」	76
2018 年 6 月 22 日	副学長日誌	77
2018 年 6 月 23 日	副学長日誌	78
2018 年 6 月 24 日	後援会主催の教育セミナー	78
2018 年 6 月 25 日	T-Studio『名言との対話』、第 32 回は石川晴子先生の座右の銘「一期一会」を巡る対談	79
2018 年 6 月 27 日	トレンドウオッチャーの第 14 回「無限教師」	79
2018 年 6 月 28 日	副学長日誌	79
2018 年 6 月 29 日	大学院「インサイトコミュニケーション」の 6 回目の授業ー日本・韓国・中国の高齢化事情	80
2018 年 6 月 30 日	インターゼミ	84
2018 年 7 月 5 日	リレー講座:岡崎守恭「政治の底流を読む」	84
2018 年 7 月 6 日	学部の授業:図解のテーマは「新聞の社説」と「日本の論点」。受講生の反応は？	85
2018 年 7 月 7 日	多摩キャンパス:FD研修会(ループリック)。湘南キャンパス:日本国際文化学会での学長講演。インターゼミ	87
2018 年 7 月 9 日	話題の「舞浜倶楽部」(介護付き有料老人ホーム)を見学ー食事と音楽と人間関係。	90
2018 年 7 月 11 日	準備していると考えがまとまってくる。情報交換が次の行動を促してくれる。対話しているとアイデアが浮かんでくる。	90
2018 年 7 月 12 日	リレー講座「知の再武装」	91
2018 年 7 月 13 日	午前は学部授業。夜は大学院授業。ーテーマは文藝春秋『2018 年の論点』	92
2018 年 7 月 14 日	インターゼミ	96
2018 年 7 月 18 日	T-Studio の「久恒啓一の名言との対話」第 33 回は、ゲストは中村その子先生「あわてず、さわがず、たじろがず」	97
2018 年 7 月 19 日	「ビジネスコミュニケーション」の最終レポートは文藝春秋『日本の論点 2018』。識者の論説を図解でまとめる	97
2018 年 7 月 20 日	副学長日誌	98
2018 年 7 月 21 日	インターゼミ	98
2018 年 7 月 22 日	「大いなる多摩学会」ー理事会・総会・研究プロジェクト発表会・懇親会	99
2018 年 7 月 23 日	41.1 度。日本新記録の暑さの日。	101
2018 年 7 月 24 日	副学長日誌	102
2018 年 7 月 25 日	柯 隆「中国が強国になる条件ーー習金平政権の政策課題と新たな日中関	

係」	102
2018 年 7 月 26 日 入試「質向上」ミーティング	103
2018 年 7 月 27 日 春学期の学部と大学院の授業が終了ー多摩(学部)、九段(大学戦略会議・大学運営会議)、品川(大学院)	104
2018 年 7 月 30 日 副学長日誌	107
2018 年 7 月 31 日 副学長日誌	108
2018 年 8 月 1 日 「あなたはこの授業を受けてどう変わりましたか？」	108
2018 年 8 月 2 日 箱根でインターゼミ合宿	110
2018 年 8 月 3 日 インターゼミ二日目(箱根)。	111
2018 年 8 月 4 日 非常勤講師対象の「教育方針説明会」を九段サテライトで開催。	113
2018 年 8 月 6 日 春学期の授業の成績付けの日	114
2018 年 8 月 8 日 春学期の成績確認	114
2018 年 8 月 9 日 湘南キャンパスでのグローバルスタディーズ学部の学部運営委員会にオブザーバー出席	114
2018 年 8 月 10 日 副学長日誌	114
2018 年 8 月 11 日 8 月の大学院教授会(品川)	115
2018 年 8 月 17 日 副学長日誌	115
2018 年 8 月 18 日 久恒啓一の「名言との対話」第 34 回のゲストは梅澤佳子先生「しなやかに」	115
2018 年 8 月 20 日 T-Studio「トレンドウォッチャー」第 15 回をリリース	115
2018 年 8 月 22 日 2018 年夏をどう過ごすか？	116
2018 年 8 月 29 日 フットサル全日本代表候補合宿。先生たちと交流。	116
2018 年 8 月 30 日 副学長日誌	117
2018 年 8 月 31 日 副学長日誌	117
2018 年 9 月 8 日 大学院の学位授与式・入学式	117
2018 年 9 月 12 日 修士論文基礎講座で「図解・修士論文の書き方」を講義。受講者の感想は？	118
2018 年 9 月 14 日 副学長日誌	121
2018 年 9 月 16 日 副学長日誌	121
2018 年 9 月 18 日 「2018 年夏の世界ー構造変化の確認」	121
2018 年 9 月 19 日 副学長日誌	123
2018 年 9 月 20 日 副学長日誌	123
2018 年 9 月 21 日 秋学期の授業が始まる。大学院で「立志人物論」は 13 人のうち 9 名が留学生という新たな挑戦。	123
2019 年 9 月 22 日 インターゼミ(社会工学会)、始まる。	129
2018 年 9 月 25 日 副学長日誌	130

2018 年 9 月 26 日 教授会.....	130
2018 年 9 月 27 日 副学長日誌.....	131
2018 年 9 月 28 日 授業(多摩)と会議(九段)の日.....	131
2018 年 9 月 29 日 インターゼミ.....	131
2018 年 10 月 3 日 副学長日誌.....	132
2018 年 10 月 4 日 2018 年秋のリレー講座始まる。寺島学長の講義「世界の構造変化と日本――何が問われているのか」.....	132
2018 年 10 月 5 日 品川の大学院で「立志人物論」の授業――「仰ぎ見る師匠の存在」....	134
2018 年 10 月 6 日 副学長日誌.....	141
2018 年 10 月 9 日 副学長日誌.....	142
2018 年 10 月 10 日 副学長日誌.....	142
2018 年 10 月 11 日 副学長日誌.....	142
2018 年 10 月 12 日 「立志人物伝」の 4 回目の授業:「切磋琢磨する敵と友」のライバル編――岡本太郎・三島由紀夫.....	142
2018 年 10 月 13 日 ビッグデータ時代の教育のあり方.....	143
2018 年 10 月 17 日 副学長日誌.....	144
2018 年 10 月 18 日 公開講座は良峯先生「脳波」。リレー講座は渡部恒雄「中間選挙を前にしたトランプ政権の動向」。大学院運営委員会.....	144
2018 年 10 月 19 日 社会人大学院の「立志人物論」の受講者のアンケートから。日本人、中国人、ベトナム人.....	146
2018 年 10 月 20 日 インターゼミ(社会工学会)――本物か。本当の力か。コンテンツ。本質。人脈と資産。自分とは何か.....	152
2018 年 10 月 22 日 副学長日誌.....	152
2018 年 10 月 23 日 文庫リレー塾:鼎談「東アジアへの知的三角測量――どう安定させるか」。柯隆・磯崎敦仁・寺島実郎.....	153
2018 年 10 月 24 日 社会人大学院生の論文のインタビューを受ける。人事委員会、学部運営委員会、教授会.....	154
2018 年 10 月 25 日 リレー講座の講師は、柯 隆(東京財団政策研究所主席研究員)先生――中国の構造問題.....	155
2018 年 10 月 26 日 授業「立志人物伝」の久米信行さんによる実況中継。戦略会議・大学運営会議.....	156
2018 年 10 月 27 日 品川の大学院で教授会、修士論文・実践知論文予備審査会報告。九段サテライトでインターゼミ.....	157
2018 年 10 月 29 日 副学長日誌.....	158
2018 年 10 月 30 日 副学長日誌.....	158
2018 年 10 月 31 日 副学長日誌.....	158

2018 年 11 月 1 日 誰をロールモデルにしますか？志賀直哉。藤原玄信。ダ・ヴィンチ。大山康晴。夏目漱石。石塚運昇。ナイチンゲール。ファルカン。ナポレオン。金田一京助	159
2018 年 11 月 2 日 「持続する志」：牧野富太郎。大山康晴。原敬。池波正太郎。市川房枝。羽仁もと子。社会人大学院生と外国人留学生の感想は？	159
2018 年 11 月 3 日 「多摩祭」：「私の志」小論文・スピーチコンテストは 10 回目。古本市も人気	167
2018 年 11 月 5 日 本日の「日刊ゲンダイ」の「ブックレビュー」に「100 年人生の生き方死に方」の書評	168
2018 年 11 月 7 日 文庫リレー塾最終回は寺島塾長の「2019 年 日本の進路」	169
2018 年 11 月 8 日 リレー講座：阿部多摩市長・八木多摩信金理事長・寺島多摩大学長の鼎談。「異次元の高齢化への対処とリニア新幹線インパクト」	170
2018 年 11 月 9 日 「漫画の世界」——立志人物伝の 7 回目「怒濤の仕事量」前編	171
2018 年 11 月 14 日 人事委員会。学部運営委員会。理事長報告	173
2018 年 11 月 15 日 リレー講座をライブビューイングでみる。講師は NHK の大越健介さん。テーマは「壁の正体」	173
2018 年 11 月 16 日 午前は「立志人物伝」(学部)。夜は「立志人物論」(大学院)	175
2018 年 11 月 17 日 インターゼミ	181
2018 年 11 月 20 日 副学長日誌	182
2018 年 11 月 21 日 教授会	182
2018 年 11 月 22 日 本日のリレー講座「テクノロジーによって私たちの暮らしや働き方はどう変わるか？」(浜田敬子先生)	182
2018 年 11 月 23 日 「立志人物伝」の授業の実況中継——「修養・鍛錬・研鑽」	183
2018 年 11 月 24 日 インターゼミ——シンガポール。AI 班	185
2018 年 11 月 26 日 「ビジネススクエア多摩」企画運営委員会。大分合同新聞に講演の記事	187
2018 年 11 月 29 日 リレー講座：真壁昭夫先生「世界経済と金融市場の動向」	187
2018 年 11 月 30 日 大学院で「立志人物論」の講義。テーマは「修養」と「構想力」。日本人、中国人、イタリア人、ベトナム人	188
2018 年 12 月 1 日 九段でインターゼミ。論文執筆が佳境に	195
2018 年 12 月 2 日 多摩大学「シルバーデモクラシー企画」——ワイナリー訪問と、やまなしフォーラム。川上善兵衛	196
2018 年 12 月 3 日 「大いなる多摩学会」理事会	199
2018 年 12 月 5 日 午前は人事委員会。午後は入試改革のプレゼンを受ける。夜は吉祥寺で同僚との懇親会	199
2018 年 12 月 6 日 ポッドキャスト新企画。昭島市役所。リレー講座「グローバルヒストリーへの展開」	200
2018 年 12 月 7 日 大学の授業は「日本への回帰」。「京王ビズプラザ」でミーティング	201

2018 年 12 月 8 日 多摩大学 AL(アクティブラーニング)発表祭 2018——大学、高校が連携した 高大接続AL.....	201
2018 年 12 月 10 日 副学長日誌.....	203
2018 年 12 月 12 日 午前:人事委員会。学部運営委員会。午後:出版社.....	204
2018 年 12 月 13 日 午前:多摩。午後:湘南.....	204
2018 年 12 月 14 日 朝から夜まで:学部授業。事務局ミーティング。「名言との対話」で樋口先生と の対談録画。大学院授業.....	204
2018 年 12 月 15 日 大学院教授会。インターゼミ最終発表会.....	209
2018 年 12 月 17 日 昭島市まちづくり企業サミットでコーディネーター役.....	211
2018 年 12 月 19 日 副学長日誌.....	213
2018 年 12 月 20 日 野田先生を囲む若い人の会.....	213
2018 年 12 月 21 日 多摩:授業。九段:戦略会議・運営会議.....	213
2018 年 12 月 22 日 インターゼミ年内最終回.....	215
2019 年 1 月 7 日 仕事始め.....	216
2019 年 1 月 8 日 早朝ヨガ。書類作成。湘南キャンパス.....	216
2019 年 1 月 9 日 多摩。赤坂.....	216
2019 年 1 月 10 日 副学長日誌.....	217
2019 年 1 月 11 日 大学院「立志人物論」のフィールドワークは「漱石山房記念館」見学。このメン バーでの人物記念館訪問を続けることになった.....	218
2019 年 1 月 12 日 インターゼミ最終回.....	229
2019 年 1 月 15 日 副学長日誌.....	230
2019 年 1 月 16 日 副学長日誌.....	230
2019 年 1 月 17 日 退任記念講義——「これまでの私、これからの私」。「失敗」と「未来」を語る	230
2019 年 1 月 18 日 大学コンソーシアム八王子設立 10 周年記念シンポジウムシリーズ1「大学理 事長・学長と市長との懇談会」.....	234
2019 年 1 月 19 日 センター試験初日.....	235
2019 年 1 月 20 日 センター試験二日目.....	235
2019 年 1 月 21 日 副学長日誌.....	236
2019 年 1 月 22 日 退任記念講義の受講生の感想のまとめ.....	236
2019 年 1 月 23 日 京西テクノス株式会社を見学—メンテナンス業への業態転換。スピード成長。 IOT。グローバルトップニッチ企業。利益率 10%へ。オープンな人事方針。コミュニケーション重視。	240
2019 年 1 月 24 日 SRC(学生研究発表会)。大学院運営委員会.....	242
2019 年 1 月 25 日 大学運営委員会(九段).....	243
インターゼミ(社会工学研究会)の打ち上げ懇親会。サテライト入試初日.....	243

2019 年 1 月 27 日	午後はサテライト入試。	245
2019 年 1 月 28 日	阿部・多摩市長来訪——多摩(聖跡桜ヶ丘・多摩センター・永山)の公共施設の見直しと将来像	245
2019 年 1 月 29 日	東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組みに関する連携協定締結式と記者会見	246
2019 年 1 月 30 日	午前は人事委員会、学部運営委員会。夜は多摩センターで飲み会。	247
2019 年 1 月 31 日	副学長日誌	247
2019 年 2 月 2 日	副学長日誌	248
2019 年 2 月 3 日	副学長日誌	248
2019 年 2 月 4 日	副学長日誌	248
2019 年 2 月 5 日	午前:アドバイザーボード。	248
2019 年 2 月 6 日	「仲よき事は 美しき哉」	249
2019 年 2 月 9 日	大学院の修士論文・実践知論文最終試験——現代のビジネスの課題がよくわかる。	250
2019 年 2 月 10 日	多摩大 T-Studio の「名言との対話」第 35 回——樋口裕一「すべての道がローマに通じるのなら、ドンキホーテよ、デタラメに行け」	250
2019 年 2 月 11 日	退任記念講義の映像	251
2019 年 2 月 13 日	副学長日誌	251
2019 年 2 月 14 日	副学長日誌	252
2019 年 2 月 20 日	副学長日誌	252
2019 年 2 月 21 日	午前:多摩。午後:湘南。	252
2019 年 2 月 22 日	午前:多摩(研究室)	252
2019 年 2 月 23 日	副学長日誌	252
2019 年 2 月 25 日	副学長日誌	253
2019 年 2 月 26 日	「本の引っ越し」大作戦	253
2019 年 2 月 27 日	教員・職員参加の全体方針共有会	254
2019 年 3 月 1 日	副学長日誌	255
2019 年 3 月 3 日	多摩大学経営情報学部 FD/SD 研修会を開催。湘南国際村にて。一泊二日。教員と職員の合同研修会	255
2019 年 3 月 4 日	「つまらなくない生き方を」——研修会二日目。湘南キャンパスにて	257
2019 年 3 月 6 日	副学長日誌	257
2019 年 3 月 7 日	本年度最後の入試	257
2019 年 3 月 9 日	多摩大学大学院授与式	258
2019 年 3 月 12 日	隣の多摩大学総合研究所へ移動	259
2019 年 3 月 13 日	多摩の企業見学 2 回目は、三鷹の株式会社コミクリ(佐藤弘人社長)	259
2019 年 3 月 14 日	副学長日誌	262

2019 年 3 月 15 日	副学長日誌.....	262
2019 年 3 月 16 日	多摩大学目黒高校卒業式で来賓祝辞。歌は「不易」、名前は「流行」...	262
2019 年 3 月 19 日	「図解アルチザン」、再決起集会.....	263
2019 年 3 月 20 日	副学長日誌.....	264
2019 年 3 月 21 日	平成 30 年度多摩大学「卒業のつどい」。私もイチローと一緒に卒業です	264
2019 年 3 月 26 日	第 3 回「ビジネススクエア多摩」企画運営委員会	266
2019 年 3 月 27 日	最後の教授会挨拶「紙、泥、そして木、次は鉄の船へ」	266
2019 年 3 月 28 日	来年度の多摩大総研の活動打ち合わせ.....	267
2019 年 3 月 29 日	最後の大学運営委員会で挨拶。最後の教職員懇親会で挨拶.....	268
2019 年 3 月 31 日	『多摩大学時代の総決算』。『宮城大学時代の総決算』と併せて、宮城大 11 年・多摩大 11 年の合計 22 年間の大学教授生活の総決算	269

2018 年 4 月 2 日 新入生オリエンテーション。辞令交付式。

新入生のオリエンテーションが始まる。

今年は 396 名が入学(定員 320)。冒頭の挨拶は 10 分。



教員の辞令交付式。

採用 3 名: 初見先生。後藤先生。加藤先生。

教授昇格 2 名: 中澤先生とバートル先生。

以下、役職任命。



- ・ バートル先生: 出版
- ・ 松本先生: 出版会
- ・ 高野課長: 出版会

午後：目黒高校からの転任の松井さんを交えて、金ALセンター長と3人で最初の打ち合わせ。



2018年4月4日 大学院で修士論文基礎講座――「図解・修士論文の書き方」

多摩キャンパス：ラウンジ

- ・ 山本さんとTスタでの企画を相談。座右の銘がテーマ。途中で杉田・趙・小林先生が加わる。
- ・ 学部長・学科長連絡会：情報交換。施設全般の使用の見直しをやる。

研究室

- ・ 水谷IR室長：両学部での2018年度入学生の分析結果を聞く。収穫と課題。
- ・ 授業評価：春学期「ビジネスコミュニケーション」、秋学期「立志人物伝」とも今までで最も高い数値になった。

品川キャンパス：夕刻から修士論文基礎講座の講義。「図解・修士論文の書き方」



以下、受講生の感想。

- ・ 図解から文章を書いた。実際に体験してみて、あまりの書きやすさに驚きました。実際に会議で全体合意を得る時には図を使っているが、この外縁が論文執筆に利用できるとは考えていませんでした。先生の講座を受講予定なので楽しみです。
- ・ 物事の全体像を俯瞰で捉え、それを図に表現していくことで頭の中が整理できることが理解できました。文章をその図を見ながらいくらでも書けそうな気がしてきました。図の中の部分同士をつなげて、自分の知識や経験をつづっていくことの積み重ねが論文の完成につながるということがわかりました。久恒先生の講義で不安がなくなりました。
- ・ 船の製作のために設計図があるように文章の設計図として図解を用いることで、構造的な共有や俯瞰的に自分自身を見た際に細部の結びつきの関係も非常に理解しやすくなると感じる。論文を書く際にスキルやハウツーに注力しがちであったが、本質的、体系的に理解するためには、図解は視覚的にも論理的にもスムーズに納得できる手法であると感じた。一点、図に展開した内容を、自分の経験と知識を織り込んで文章に落とし込んでいくプロセスが難しいのではないかと感じた。論文だけでなく、組織や仕事、人生に対してもこの図解コミュニケーションは応用できる。
- ・ 早速、実践してみたいと思いました。行政の立場にありポンチ絵をつくる機会があり共感できる部分が多かった。今まで修論の構想は文章で考えていました。先生の助言で少しずつ図で表現してみようと思います。ありがとうございました。
- ・ 文章はごまかしがきく。「その通り」と思いました。たった 2 行の文章でも描いた図解が違うという現実。十人十色。図解とは論理の構造である。その論理をベースに文章化する。図解とは「全体の構造と部分同士の関係」である。図解とは関係図である。知的好奇心あふれる講義をありがとうございました。
- ・ 図を構成してから文章化することが、論理的に述べやすくなることだと理解できました。特に抜けと漏れがないことをチェックするにも有用であり、修論だけでなく実務でも利用させていただきたい。仕事で学術論文を書くことがあるのですが、次回は図解を描いてからライティングに入りたい。
- ・ 論文を書かなくてはならないという概念のもと、テクニックを優先させた考え方をしていたが、それ以前のものとして本質的な物の考え方をしなければならないことに気づかされた。全体像をつかみ、それに自分なりの箱を用意し、その箱に、つまり部分部分のピースをつなぎ合わせていく作業が必要に気づいた。図にすることにより記憶に残り、深掘りできる気もする。その図をそれぞれに分解することで広がり生まれ、文章を加えていくことで各章の関連性をもたせ論文として成立させることができるか？まだ簡単には理解できていないが、形式・テクニックの前にはしなければいけないことをこのタイミングで得ることができたのは非常にありがたいことである。ありがとうございました。
- ・ SWOT分析に関する話はすべての人に伝えて欲しいとおもいました。現在ウェブサイトの改修をしているのですが、つい箇条書きや写真に頼ってしまっていました。今一度、図解し

て考えたい。ウェブの向いている方向にも鵜呑みにしていた自分に来気づきました。チャットを中心としたやり取りが業務上で多いのですが、誤認につながっているのでしょうか？不安になりました。図を主体としたコミュニケーションを意識して行いたい。図にすることで自分では重要だと思いこんでいたもおのが、ある一つに過ぎないことが分かりそう。一度、すべての気になるテーマを図解してみます。質的調査でモデル図をつくりましたが、とても難しく感じた。本をモデル図に落とすことで著者の考えを後追いできるなら、力がつきそうなので、取り組みたい。人生を変えたい。

- ・ 長々と文章を連ねることが多かった。苦手でも意識的に構造を図に表現していくクセをつけたい。全体の構造と部分同士の関係を四角や矢印などを使って表現していきたい。
- ・ 今まで自分の頭の中で整理できていないことが、図解することで頭の中で整理でき、ストーリー化できることがわかった。自分の知識が数十倍に活用できることを実感した。
- ・ 新たな関係性を見つける、足りない構造を見つける。論文の独自性を生み出すために、図解で「今、わかっていること」の構造、関係、全体像を表すことが有効だと改めて感じました。修士論文が様々な先生の教えをアンドでつなぐだけというのは自分の学びの姿勢としても反省しました。自分の修論テーマを図解して独自性を毎日考えてみようと思います。ありがとうございました。
- ・ 文章を構成する上で全体のストーリーを描くことが大事だと学んだ。全体の構造と各パーツの関係、加えてあるべき姿の構成と関係、現状の構成と関係の差を図に落とし込んで可視化する。それを様々な角度から何度も見直すことで課題の本質を明らかにしたい。部分の関係も表面で見えるものと深い部分の関係を見極めるクセをつけたい。
- ・ 住宅の建築と同じく、文章も全体の設計図が必要だ。全体像のイメージができると文章を書くことが簡単になる。関係詞でつなげること。
- ・ 論文を書くにはテーマが決まることが非常に重要。自分の論文の方向を決めて、論文に関する関係図を描いてみます。ありがとうございました。
- ・ 人の考えやとらえ方によって文章への理解がいかに異なるかが今回の講義でわかった・一つだけ疑問。文章には「順番」がある・図の場合は大量の情報が一気に入ってくるが、どこから読みとるか？
- ・ 大変に興味深い話でした。先に全体像を描いておれば論じたいことは書けそうだ・
- ・ 接続の言葉が大事だとわかった。

2018 年 4 月 5 日 多摩大学平成 30 年度入学式をパルテノン多摩で開催

多摩大学平成 30 年度入学式をパルテノン多摩で開催。

経営情報学部 395 名(定員 320)・グローバルスタディーズ学部 185 名(定員 150)の 580 名が入学。

<https://www.facebook.com/search/top/?q=%E6%B0%B4%E3%81%AE%E6%A3%AE%20%E5%A4%9A%E>

6%91%A9

寺島学長:大人への準備期間。経済的自立(カセギ)と社会的貢献(ツトメ)の両輪。自分を客観視。異次元高齢化。今年生まれた人が100歳以上になるのは二人に一人。学び抜く。人生のマネジメント。何を学ぶか。専門性+テーマ。人間とは何か。生命科学の進展チンパンジーとのDNAの差1.06%は言語とコミュニケーション。AI、シンギュラリティは2030年代か。1.5キロの脳には意識や世界観がある。アジアへの目線を身につけよ。中国は2018年に日本の3倍のGDP。観光立国。2017年2800万人、2020年4000万人。8割はアジアから。

田村理事長:現代の志塾。実学。自分の頭で考え抜く力。今日できることは今日中に。未来は返られる。

阿部多摩市長:学生時代の失敗は許される。多摩ニュータウンはフィールド。ニュータウンの再生に取り組んでいる。多摩市若者会議。

八木多摩信金理事長:多摩42万人。84店舗。平成22年から多摩市・多摩大・多摩信金の三者連携。

保護者説明会。非常にスムーズな進行。

- 副学長挨拶。学部長による教育説明。大森学生委員長。中村教務委員長。良峯就職委員長。
- プレゼミクラスでの担当教員による保護者説明。





大分県から入学の佐保君とお母さんと撮影。佐保君はインターゼミに参加。



2018 年 4 月 6 日 秋学期の最初の授業。二人の客員教授と懇談。

午前

- 橘川客員教授：児玉博。アジア子ども未来研究会。ZOOM、、、。
- 「ビジネスコミュニケーション」の初回の授業。同じ時間に関講している科目も多いが、今回も受講者は多い。オリエンテーションなので、期待を高める講義。
- 授業を終えた河合客員教授と懇談：幕末の偉人の定年後。（T-Studio でも出演を）
- 中村その子先生

午後

- 事務局との定例ミーティング

2018 年 4 月 7 日 大学院入学式

品川キャンパスで大学院入学式。修士課程 40 名。博士課程 4 名。ルール形成(1 年)2 名。



- 学長：社会人大学院。現代の志塾。決意と覚悟。知の再武装。100 歳人生。科学技術の進展。生命科学。1.06%。言語とコミュニケーション。思想・哲学・宗教。慈悲と愛。ジェロントロジー。ルール形成。ソーシャルインベストメント。インターゼミ。
- 理事長：平成 5 年に大学院開校。一流の教授陣。志の高い仲間。同窓会ネットワーク。
- 研究科長：デジタル革命。知の総合化。二刀流。マルチタスキング。
- 同窓会長：三刀流(仕事・家庭・研究)。OB1000 人。人類史の逆流。
- 現役生(真崎)：半年で 58 冊増。一つの学問ではやっていけない。最新の戦略論を学ぶ。涙ぐむ授業。



- 新入生代表(亀井): 12 年間ネンチャー。40 歳前で子ども支援の国際NGO。志。同志。



学長と懇談: 遅咲きの取材。出版予定。

理事長と懇談: 金先生、金野先生が加わる。

2018 年 4 月 9 日 副学長日誌

年度末から年度初めにかけて、大学では行事が詰まっていた。ようやく一連のイベントが終了した。落ち着いて、日々の仕事に取り組もう。

大学の仕事以外に、今年は久しぶりに本を数冊上梓する予定。「人物記念館の旅」を始めて 13 年、

この間の蓄積をまとめる時期に来ている。何でも 10 年続ければものになる、と若い時に言われたことがある。今になってみると、それを実感する。

2018 年 4 月 10 日 昭島市と多摩大学の連携に関する協定の締結式」。グローバルスタディーズ学部運営委員会

14 時：市役所の市民ホールで開催された「昭島市と多摩大学の連携に関する協定の締結式」に出席。

基調講演は寺島学長。「多摩のDNA. 北多摩。江戸時代の八王子千人同心。明治の自由民権運動。戦後の自由大学・五日市憲法。中央リニアと圏央道(4 車線化も)。物流と人流。相模原インパクト。ヤマト、アマゾン、。首都圏 3 環状が重要。国道 16 号線沿いの団地。都市の高齢化。単身化。ジェロントロジー＝高齢化社会工学。100 歳人生。昭島は第一次産業も。

松本先生地域活性化マネジメントセンター長から「昭島市産業活性化のための協創プロジェクト概要」の説明。「プロジェクト推進会議(昭島市・多摩大学・多摩信金・昭島市商工界・昭島観光まちづくり協会等)の設置。昭島市「工業の見える化」プロジェクト。ビッグデータ活用による商業活性化調査プロジェクト、。)

終了後、湘南台へ向かう。拝島駅から八高線で八王子へ 12 分、八王子から橋本へ 13 分だから、中央リニア相模原へは 25 分。

17 時半：湘南台のグローバルスタディーズ学部の学部運営委員会に出席。教育、入試、就職などを含めた 2017 年度の全体像がわかった。成果が出てきている。

2018 年 4 月 13 日 朝は学部の授業。夜は大学院「インサイトコミュニケーション」の初回の授業：21 人が受講。外国人は中国人、韓国人、ベトナム人、ロシア人と国際色豊か

午前：多摩キャンパス

- 橘川先生：情報交換。リタリコ。児玉博。
- 学部授業：受講者は 120 名くらいか。
- 高野課長：インターゼミの打ち合わせ
- マグネットデザイン：hootsuite。B！。Line ニュース。Yahoo！ニュース。togetter。

夜：品川キャンパス：大学院「インサイトコミュニケーション」の初回の授業。18 時半から 21 時 40 分まで。受講者は 21 人。留学生・外国人は、中国、韓国、ロシア、ベトナムの人たち。



以下、翌朝 5 時までフェイスブックに書き込まれた授業後の感想アンケートから。

- 自己紹介にあたり、図を使うことでいかに物事を説明しやすくなるかを痛感しただけではなく、自分自身のことに関して、図示することで初めて発見することがありました。大変新鮮な驚きを得られました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- 文章は誤魔化すことができる。この言葉は、目からうろこが落ちる衝撃であった。というも、私は理論＝図解ということが苦手で、長々とした言葉や文章で問題を誤魔化していたのではないかという心の奥底と合致したからである。図に表現できないことは、論理的に考えられていない、物事の本質を見抜けていないことではないか。個人的にショッキングな講義であった。根本的な意識から変えていかなくてはいけないと思う。ありがとうございました。
- 今日の講義ありがとうございました。文章は説得、図解は納得。図解ができたということは、理論ができたということ。図解は全体が見れる、構造が明らかになる。仕事は論理だから図にできる。図解は進化する。図解は国際コミュニケーションにも最適。図を使って話をするのがよくありますが、この授業を通じて少しでも自分のものにしたいと思いました。演習では、メンバーのみなさんから、新鮮な気付きをいただきました。これからもよろしくお願いいたします。
- 文章が物事を伝える手段として適さないと実践で学びました。同じ文章から図を書いた場合、捉え方がそれぞれ違うのでできあがったものが異なったところからです。図を書くことによって分かり易く簡潔に伝えることが出来る反面、書き方によっては誤った情報を与えてしまう可能性があるので、書き手のスキルも重要になってくるなと感じました。これから宜しくお願いします。
- 仕事の図、説明をただするだけでなく、「どんな思いがあるのか」ということも、表現出来て、面白いなと思いました。誰にでもきちんと伝えられるように、習得したいです。頑張ります

- 宜しくお願い致します。これまで、どのように書けば分かりやすい文書になるかばかりに囚われていました。講義を通じて新たな考え方を習得出来るようがんばります。
- 初回の講義ありがとうございました。論文基礎講座の講義を受けてから本の要約の図解に何度かトライしましたがなかなかうまくいきません。特に今日の演習でもそうでしたが、矢印の使い方や関連性の表現の仕方が難しかったです。この講座での学びを通して、まずは興味を持ってもらえて、かつ分かりやすい資料を作れるようになりたいと思いました。これからもよろしくお願いいたします。
- インサイトコミュニケーションを学び、物事を考える力を養い、本質を捉えられるよう努力していこうと思います。また図解化することで、全体や構造、関係性を抑えられることが分かりました。実際に演出をやってみた感想として、流れや関係は抑えていても、全て並列だったなど。もっと物事の大小を考え、表現できるようにしていきたいです。ありがとうございました。
- 幼い頃画用紙に絵を描いていたことを思い出して思わず熱中してしまいました。ロジックを考える左脳とそれをビジュアルにする右脳をバランスよく使っていきたいと思っています。皆様これからもよろしくお願いいたします
- 自分の仕事を説明する場合、自分が普段接している頻度の高いものが先に出て来る特徴があるなと感じました。内勤の方であれば社内、外交中心の方であれば社外、という風に。
- 今日の授業では、自分の職場を図解しました。たくさんの職域の関係を図解することで整理しやすいと思いました。もっと発展させたいと頑張ります。よろしくお願い申し上げます。
- 幼い頃画用紙に絵を描いていたことを思い出して思わず熱中してしまいました。ロジックを考える左脳とそれをビジュアルにする右脳をバランスよく使っていきたいと思っています。皆様これからもよろしくお願いいたします。
- 「私の仕事」の図解ワークで、単純な仕事だけでなく、その狙いやPDCAをどう廻していくかなど、その先のニュアンスも伝わり易いのがわかりました。また仕事の優先度などを数値として入れると理解度が向上することを実感しました。ありがとうございました！
- 文章では書く側と読む側の認識に齟齬が発生する・書く側はごまかせ、読む側は正しく認識しない・そこで重要となるのが図解である・図解は全体感と土の繋がりがわかる・図解は納得のコミュニケーション。私の仕事の図を書いている時は、書いているそばから直したくなりました。これは考えて書いているということなのかなと感じました。
- 自分の仕事を説明する場合、自分が普段接している頻度の高いものが先に出て来る特徴があるなと感じました。内勤の方であれば社内、外交中心の方であれば社外、という風に。内外の関係性も踏み込めたらより良い説明が出来そうだと思います。
- 図解とは関係図。図解とは地図。図解とは標。と整理しました。次講楽しみにしてます。
- 今日の授業では、自分の職場を図解しましたたくさんの職域の関係を図解することで整理しやすいと思いました。もっと発展させたいと頑張ります。よろしくお願い申し上げます。
- 修士論文に取り掛かり、進まず挫折を繰り返しています。考えるチカラ、整理するチカラ、本質を問うチカラを身につけたいと思います。わたしの仕事の図解の演習で、グループのメン

バーが現在の仕事以外に、彼のキャリアを図解に入れていたのは素晴らしいと思いました。キャリアや歴史がわかり興味も湧き、印象に残りました。

- 今日はありがとうございました。自己紹介にあたり、図を使うことでいかに物事を説明しやすくなるかを痛感しただけではなく、自分自身のことに関して、図示することで初めて発見することがありました。大変新鮮な驚きを得られました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

以下、外国人。

- 初回の講義は面白かったです。論文が苦手私にとって、図解での説明に納得しました。先生ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。
- Today's class was so interesting that I feel time pass so quickly. Especially the group work was exciting and efficient with two other classmates. Professor's homepage with lots of easily understandable schematics was extremely impressive. I think this is definitely the class for anyone who is struggling with schematics in the graduate thesis like me.今日のクラスはとてもおもしろかったので私は時間が過ぎるのを感じる。特にグループワークは、他の人の同級生と効率的で効率的だった。教授のホームページは非常に簡単な設計図が非常に印象的だった。私のような卒業論文の設計図に取り組んでいる人のためのクラスだと思います。
- 修士論文にしろ仕事の議論にしろ、図解を上手く使えば素晴らしいと思います。ある場合は図解だけ見ると説明することなく、本質を分かるようになると思います。講義を通じて図解的な思想を演習して行くように頑張ります。図解コミュニケーションが大切なことであるという感想です。
- 久恒先生、本日の講義、ありがとうございました。図解は本当に面白いです。先生がおっしゃった通り、図解で全体像を見えます。従って、問題を分析し、本を読み、更に卒業論文を書く時、必ず役に立つと考えます。授業中に、図解の実践をした時、先生の言葉をもっと深く理解しました。図解の描き方より、どのように描いたら、情報を相手にはっきり伝えるのかと考える過程の方が大切です。つまり、思考力が極めて重要です。実践を通して、一人ひとりの考え方が全く違うということが良く気づきました。このところも面白いなあと思いました。他人の良い考え方を参照したり、学んだりすると、ますます、自分の考える力を身につけられると思います。
- 今日の講義で初めて図解を理解するようになりました。本当に良い授業を受けたと思います。
- 初回の講義は面白かったです。論文が苦手私にとって、図解で説明に納得しました。先生ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

2018 年 4 月 14 日 2018 年度のインターゼミ(社会工学研究会)は史上最高の人数と最強の布陣

昼:品川キャンパス:大学院教授会

午後:東京ステーションギャラリーの「隈研吾展」

夕:九段サテライト:インターゼミ(社会工学研究会)の 2018 年度の初回。史上最大の人数となった。椅子が足りずに立ち見があった。

経営情報学部 31 名・グローバルスタディーズ学部 9 名で 40 名(4 年生 8・3 年生 4・2 年生 14/1 年生 10・留学生 3。継続 12・新規 27・復活 3)。社会人大学院 13 名。OB 15 名(学部 2・大学院 13)。受講生は 63 名。教授陣:学長以下 17 名。総勢 80 名。



私から:多摩大の現況説明:インターゼミ 10 年目。ヨコへの広がりとはテテへの広がり。「ゼミの多摩大」の代表的ゼミに進化。一年かけて論文に仕上げる。横でやっているテーマを睨む。多摩学・アジア・サービス・環境・AI. 文献研究とフィールドワーク。受講生にとってはヨコとテテの深い人間関係・学長の最新情報講義で世界の動きを理解。教授陣にとっては両学部の交流、新人教員の教育の場、そしてスムーズな大学運営に意味。新人教授陣の紹介:初美先生。後藤先生。加藤先生。渡辺先生。



学長講話。

- 社会工学会。ソーシャルエンジニアリング。文献研究(メソドロジー・社会工学的的方法論)とフィールドワーク(現場)。9年間の論文を読み。スマホ人生。自前の情報環境。ヒューマンリレーションマップ(人間関係)とアセットマップ(資産)。
- 多摩学:ジェロントロジー(高齢化社会工学)。平成狸合戦ぽんぽこ。駅前団地(森繁)。一歩前へ。アジア:東アジアの動向を視野に。サービス:ディズニーとショッピングモール深めるか。エンタメパークの9割はディズニーとUSJ(みんなが行く所に行く)。AKB48・ジャニーズ(普通のスターを愛でる)。AI:深めていくべきテーマ。デジタルエコノミーか。ファーマ+M(フェイスブック・アップル・アマゾン・グーグル。マイクロソフト)5社で時価総額400兆円。中国の Tencent とアリババで100兆円。トヨタ22兆、日立4兆。地域と環境・エネルギー:活性化、。





2018 年 4 月 17 日 ラウンジでコミュニケーション。研究室で書棚の整理

ラウンジ

- 図書館の池田課長:仁上さんの資料を手交。知り合いだそうだ。
- 学長室山本さん:Tスタでの企画。小林先生
- 酒井先生:「授業が増えてきた」
- 学長室渡辺さん:戦略会議の資料をもらう
- 高野課長:情報交換。

研究室

- 松本先生:多摩大総研。大いなる多摩学会は 7 月。タイプ5.。アジアこども未来研究会。.....。
- 書棚整理:近藤秘書と。

2018 年 4 月 18 日 副学長日誌

- 人事委員会:採用。昇格。3 年審査。
- 学部運営委員会:2017 年度の両学部の成果に関する見方を述べておいた。
- 下井先生・中村その子先生:【問題解決学】のまとめについて相談。
- 飯田先生:本の保管

2018 年 4 月 19 日 2018 年春学期リレー講座「世界と日本の構造変化に変わらざる視座を求めて――知の再武装への試み」。第 1 回は寺島「世界の構造変化をどう見抜くか」

- 学長室渡辺さん:明日の戦略会議の説明を受ける
- 事務局との定例ミーティング:タイプ5.
- 学長:ライフワーク
- 2018 年春学期リレー講座「世界と日本の構造変化に変わらざる視座を求めて――知の再武装への試み」。第 1 回は寺島「世界の構造変化をどう見抜くか」

リレー講座 11 年目。240 回。12 万 1774 名が受講。2018 年春は一般 433 名、学生 220 名の計 653 名。湘南キャンパスでのライブビューイングは一般・学生計 72 名。合計で 725 名。



- ・ ジェロントロジー＝高齢化社会学(高齢者を生かす社会システム)。第一次産業。高齢者の参画。知の再武装、何を武装するのか。
- ・ 知性とはつながりを理解する力。知はつながり。
- ・ デジタルエコノミー：デジタル専制(Digital Dictatorship)。米中の2局構造。米国はFAGA＋M(ITビッグ5)で株式時価総額 3.4 兆ドル(364 兆円)。中国はテンセントとアリババで 1 兆ドル(107 兆円)。日本のトップ5(トヨタ 22.5 兆円。NTT10.7 兆円。ドコモ 10.3 兆円。三菱UFJ9.8 兆円。ソフトバンク 8.8 兆円)。ニューセブンスターズ。第四次産業革命＝ITxFT(金融工学)。ウーバー、テスラなど「夢にお金がつく時代」。データリズムの時代。データを支配するものがすべてを支配する。
- ・ 技能オリンピック：日本は9位二転落。1位中国、2位韓国、3位スイス。51種目。最近の日本メーカーの不祥事。現場力の劣化。中間管理職の劣化。ものづくり国家・日本危うし。
- ・ IMF経済見通し：2017 年世界 3.8%成長。世界同時好況(マイナスゾーンなし)。米国 2.3%。ユーロ圏 2.3%。日本 1.7%。アジア 6.5%。中国 6.9%。インド 6.7%。ASEAN5・ 5.3%。ブラジル 1.0%。ロシア 1.5%。
- ・ 日本：2017 年 1.7%。2018 年 1.2%。2019 年 0.9%。2020 年 0.3%。デジタルエコノミーに乗り遅れ。ものづくりの基盤の劣化。株価に注目するマネーゲームへ。

2018 年 4 月 20 日 午前は授業。午後は 3 つの連続会議

10 時：橘川先生：無限教師。音の図書館。大いなる多摩学会。

10 時 40 分：ビジネスコミュニケーションの授業 3 回目。「私はこんな人です」というテーマで図解演習。



13 時 30 分: 教学マネジメント会議「カリキュラムの現状と課題」「教務・教育上の問題点」「教学マネジメント会議の組織化」。

14 時 30 分: 戦略会議「入試」。経営情報学部。グローバルスタディーズ学部。大学院。テーマは質の向上。来年度の数。

15 時 30 分: 大学運営会議

2018 年 4 月 21 日 インターゼミ(社会工学会): 多摩学班。アジアユーラシア班。AI 班。サービスエンターテイメント班。地域班。

インターゼミ(社会工学会)の 2 回目は 15 時半からスタート。

学長

- 多摩学班: グローカリティの思想。地域史が世界史へつながる。知性はつながり。
- アジア班: モンゴルでインスパイヤーされた【世界】の 3 部作。北朝鮮問題。中国とどう向き合うか。チェジュ島、台湾、インドネシアなどアジア経験者が増えている。
- AI 班: 人間とは何か。動物との違いは何か。デジタルエコノミーの光と影。
- サービスエンタメ班: ディズニー。ショッピングセンター。コンビニ。流通エンジニアリング。ネット。銀行、ロフト、デパート、SOGO、赤ちゃん本舗、、、みんなが行く所に行くという流れ。なぜか。
- 地域班: 「2045 年の日本」の衝撃。東京のみ人口増。秋田県は 4 割減少。産業。過疎化の研究。500 万から 370 万人に減る北海道。札幌に 3 分の 2 が集中。動物天国へ。酒田と奈良。

アジア・ユーラシア班



多摩学班



AI班



サービス・エンターテイメント班



地域班



2018 年 4 月 22 日 『寺島文庫通信』2018 春号。vol60。

『寺島文庫通信』2018 春号。vol60。

- アナログの書物・文献からの情報とデジタルで刻々と入ってくる情報の相関の中で、執筆に向かう仕組み。
- 「脳力」はたえざるフィールドワークと文献研究の相関の中でスパークする。
- 知的三角測量。民族と宗教。中華民族。ロシア正教。全体知。6 万冊。

- 『食べる通信』(食のつくり手の特集した情報誌と、彼らが収穫した食べものがセットで定期的に届く“食べもの付き情報誌”。37 地域)

2018 年 4 月 24 日 早朝はヨガ、午後は大学

午後。

- 研究室: 秘書とスケジュール打ち合わせ。講義、講演の資料確認。
- ウンジ: 高野課長とインターゼミの打ち合わせ。班の人数、担当教員の配置、。

2018 年 4 月 25 日 教授会。T-Studio で「名言との対話」収録。

- 学部運営委員会
- 教授会。冒頭、交換留学生の紹介。フランス、中国天津財経大、中国広東財経大から 21 名。賑やかになりそうだ。



- 学長室の渡辺さん: 戦略会議(入試)の「方向と具体策」。
- 小西先生
- バートル先生
- T-Studio で「名言との対話」の 31 回目の収録。ゲストは小林先生。小林先生の座右の銘「精一杯やっただめならしかたがない」を材料に 18 分の対談。
- 大分県別府から入学してきた佐保君来訪。



- 図書館に「多摩大生が選んだ！ おもしろかった本！」コーナー。私の『団塊坊ちゃん青春記』も並んでいるのを発見。



2018 年 4 月 26 日 リレー講座:元特命全権大使・天江喜七郎「ロシアの中東外交と 同地域の将来」

9 時: 東京医療保健大学の田村副理事、利光事務部長、佐藤先生が来訪。杉田学部長と対応。

10 時: 杉田学部長と意見交換。

10 時 40 分: 事業構想論で講義。1 時間。「大学改革の多摩大モデル」

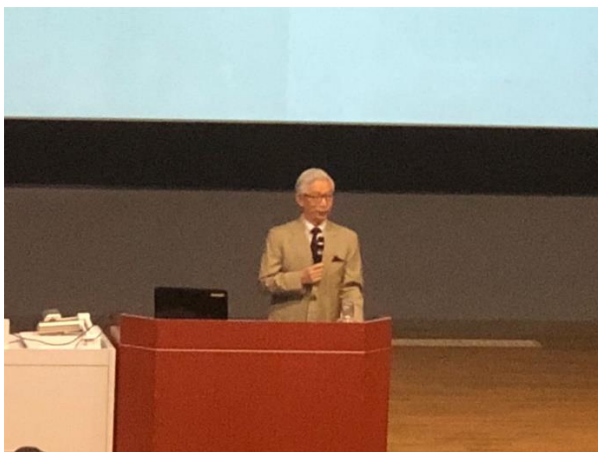


13 時半: 知研の高橋副理事長が来訪。仙台、岡山、沖縄、宮島、北海道、。。

14 時: 今泉先生(大学院教務部会長): 大学院の留学生対応を協議。

14 時 50 分: リレー講座: 元特命全権大使・天江喜七郎「ロシアの中東外交と同地域の将来」。

- プーチン大統領の世界観・中東観: プーチンはソ連崩壊は 20 世紀最大の悲劇と考えている。偉大なロシアの復活、大国ロシアの威信の回復が主題。ソ連崩壊時 2 年で 3000 人の将校が自殺。アフガンではソ連軍の撤退。イラクでは米国支配に。シリアでは米国はアサド排除を企図する。ウクライナまで EU にという流れに反発した。プーチンは力、悪さ、外交など全方位でハイブリッド外交を展開中。
- プーチンの次なる一手: 米国トランプ政権の分裂で外交的足かせになり中東離れを。欧州も中東離れ。シリアでは和平工作を主導しロシアの地位を確立。トルコではイランを味方につけて影響力を拡大。イスラエルではロシア系比率は 20% 台、ネタニヤフ政権と太いパイプ。サウジではエネルギーで接近しサルマン国王がロシアを初訪問。イランとサウジ・イスラエルの仲裁でロシアに地位向上を図る。
- 日本の役割: 中東へ関与を深めるべし。イスラムは 15 億人: 米国一辺倒からの脱却(ロシアとの協調。中国・印度と連携)。シリア内戦(話し合い解決を主張。在シリア日本大使館の再開。トルコとの共同。難民は人道支援を強化。)。イランと米国の核合意を支援(米国への合意遵守を働きかける)。トルコ、イスラエル、サウジを軸に新たな中東外交を図れ。



- ・ 多摩キャンパス
 - ・ 一般受講申込者数:433 名。出席者数:316 名 出席率:72.9%
 - ・ 学生出席者数:187 名(履修外聴講生の数を含む)
- ・ 湘南キャンパスライブビューイング
 - ・ 一般受講申込者数:47 名。出席者数:39 名 出席率:82.9%
 - ・ 学生出席者数:21 名
- ・

18 時半:九段サテライトにて多摩大「志塾会」(学部OB会・大学院OB会)。講師は経済アナリストの池田健三郎先生。冒頭、私から「多摩大の戦略、現在、方向」を説明。



2018 年 4 月 29 日 多摩でスポーツフェスティバル。夜は品川で大学院の授業
 新入生全員が参加する スポーツフェスティバル(運動会)を開催。大成功！

私は開会の挨拶。「UNDOKIは最前線。e スポーツは最先端。クールジャパン。アアジア・アフリカ。運動会屋が繁盛。2020 年に世界綱引き大会。ハクスボール。e スポーツの源流は日本。シンポジウム。吉本興業。、、、」



屋内



夜は大学院の授業。「インサイト・コミュニケーション」の2回目。

- 日経から出した『企画・プレゼンに活かす図解表現の技術』(久恒啓一監修)で学ぶ。
- 新聞の社説の図解の方法の解説。
- 読売・朝日・毎日・産経・日経・東京の新聞のここ1週間の社説を図解する演習
- 全体発表



以下、受講生の感想(翌朝5時までフェウスブックに書き込まれたもの)。

- 図に書くことによって文章の意味が明らかになると共に疑問点や矛盾点が見えてくることを実感しました。まだまだ、どこから書き始めていいか迷ってしまう点や、話の軸がずれてしまう点などがあり、何度も書いて学んで行くことが大事なことだと感じました。
- 心得3箇条。・図解はキーワードのかたまり。・大胆にそして細心に。・丸と矢印を使うだけで充分。図を使うことで自動的に考えられる。・印が繋がらない:疑問点・・矢印が繋がると自分の考えと合わない:批判点。今回の演習では、まさにこの2点を実感できました。文章を読むだけでは読み流してしまいそうな部分も図解により繋がらない部分や違和感がある部分がわかりました。

- 社説を図解にするにあたり、内容の取捨選択で迷いがありました。今後、図解にするにあたってのテキストの読解力を身に着けたいと感じました。
- 図解にしていく過程で、キーワードを抜き出し、それぞれの関係性を考えていると、全体の構造が見えてきて、頭が整理されていくのを実感できました。ただ文章のとおり、上から下へと図を起こしてしまったので、本来同じ分類にできるものが、別れてしまいました。分類分けすることで、もっとシンプルで分かりやすく図解化できるなと感じました。また次回頑張ります。
- 前回講義では自分の仕事すら全く描けなかったですが、今回は講義の初めて見せて頂いたVTRで述べられていた、3つのルールと7つのテクニックを意識することで、少しだけ前回より進歩したと感じました。また、社説の文書を Key Word と矢印だけで表現できることが体感出来、業務への応用するイメージもよりクリアになってきました。
- 考えているようで考えていない普段の自分。図解は熟考させる。図解とは関係図。→「やじるし」がとても重要。今日の気づきはプレゼン力の重要性。図解+プレゼン or 文章で納得させる。腹落ちさせる。図解がゴールではない。1 全部を話してはいけない。要点。2 前提条件を伝えるべき。3 で、なんなの？結論。4 おまえはどう考えている。第1、2講とても価値ある講義でした。
- マルと矢印だけで充分、図解はシンプルにと教わっても、頭で理解できてもなかなか表現できないもどかしさを感じました。そして、文字に逃げてしまうという悪い癖を直さなくては。皆さんの発表も大変勉強になりました。普段の講義のメモ書きからも意識していこうと思います。
- 人にモノを伝えることが、楽しくなるなど、感じ、また、練習が大事だとも、学びました。私は、個人として、次の3点を意識しました。①つ目は、線の太さ、②つ目は、矢印は基本の「左から右⇒」、最後③は、箇条書きを作らず丸で囲えるよう言葉を選ぶこと、の3点です。最後までめてみたら、先生のまとめ方と同じになっていたの、安心しました。
- 今日はとても疲れましたが、図解をしているとあっという間に時間が過ぎていきました。今日の講義では以下の3点が重要だと感じました。①まずは文章の大枠の構造をつかむこと②キーワードはシンプルに書くこと③数をこなすこと。ビデオの企画書の例でもあったように文章の塊を見つけ、シンプルなキーワードを抽出することが分かりやすさのポイントだと感じました。そしてやはり数をこなさないとなかなか洗練された図解には辿りつかないなと思いました。次回も楽しみにしています。
- 社説を図示化すると、各新聞社が説を発信することに責任感を感じていないように伝わりました。いつも社説を読み始めて、嫌になって読むのを止めてしまう理由もここだったのかと。これでは、最近のトピックをまとめたただけのように思います。「文章は誤魔化せる」と言われていた先生のお話そのままです。例えば炎上したとしても、きちんと責任が明確になる文章(あるいは図)で社説を展開した方が、新聞という情報媒体に価値が発生し、差別化になり、購読者も増えるように思いました。でも新聞社だけの問題ではありませんね。私自身も仕事上で気をつけようと思います。
- 文章に線を引いて丸を描いてもう一度眺めると確かにポイントとなる部分が浮き出てくる感覚

を実体験出来ました。しかしキーワードを文章順に追ってるだけになってしまい、その本質的な関係性を掴むまでには至っていません。演繹的、帰納的繋がりを意識して構造化出来るようになりたいと考えます。

- 図解を実際にやってみて気づいたのは、図解思考は、MECE(漏れなく、重複なく)そのものだなということでした。文章を図で構造化する作業は MECE の実践で、論理展開の整理に役立つと思いました。私が扱ったケースでは、経営環境、打開策、本来取り組むべき課題の3つの文章構成に整理できたのですが、筆者の主張が強過ぎて、説明を繋げるためのロジックが不十分(打開策と本来取り組むべき課題の繋がりが浅い)だと思いました。また、ケースでは事例が2件載っていましたが、2件とも同じ企業が出ていて、並列関係が構築できていないと思いました。社説の論理飛躍はよく目にしますが、図解にすると、どこがおかしいのかを特定できて便利だと思いました。

以下、外国人留学生。

- 図解の作成方法、キーを習得しました。一番言いたいことを図の中心に置く、タイレルとコメントを追加する。この二つは自分の中では一番トクした勉強成果です。でも、外国人なので、長くて複雑な文章の内容を理解にくい、特に専門性が高い文章など。今後は頑張ります。
- 授業を通して、新聞記事を図表に変えるのは決して簡単なことではないだと気付かされました。今後、論文を書くために、良いパワーポイントを作るためにも、しっかり練習して上達するように頑張ります。初回の授業が個人的な理由で出席できなかったが、次からの授業で一生懸命勉強します。よろしくお願いします。
- 授業で、最初 長い日本語の新聞記事を見ると、迷ってしまいました。しかし、先生の教えのおかげで、図解でキーワードを抽出することで文章を理解しやすいと思います。また次回頑張ります。よろしくお願いします。
- 今日から久恒先生の授業ゼミに参加しました。中国から参りました。先生の授業ゼミに追加したことは新入生としてよかった選択したと実感しています。先生の授業は素晴らしいです！先生はユーモアがあります。先輩達は熱心です。3時間の受講は楽しかった。先生の講義の内容のテーマは、日本の基本的な政治経済、文化、など国民生活などで、留学生としてはこの授業を通して logic の 知識を積む同時に日本の政経文化知識も積み重ねることができます。皆さんの発表も大変勉強になりました。初めて多摩大学院で正式に発表したので凄く緊張しました。インサイトコミュニケーションの授業を通して logic 思考能力開発とコミュニケーション力の鍛錬ができると思います。そして、留学生の私は毎日、新聞を読むことにします。日本語力の上達が必要だと思います。

2018 年 4 月 28 日 2018 年度インターゼミ(社会工学会)の運営体制が決まる。
インターゼミ(社会工学会)。

10 年目である 2018 年度の運営体制(班・教授陣・学生)が決定。

全員が第一志望の班に配属となった。上下左右のバランスもいい。楽しみな1年となりそうだ。

多摩学班

- 経営情報 5 名。グローバルスタディーズ学部 0 名。大学院 3 名。計 8 名。
- 教授陣: 責任者: 丹下先生。副責任者: 初見先生。荻野先生。



サービス・エンターテイメント班

- 経営情報 10 名。グローバル 1 名。大学院等 2 名。計 13 名。
- 教授陣: 任者: 大場先生。副責任者: バートル先生。杉田先生。安田先生。



地域班

- 経営情報 5 名。グローバル 1 名。大学院等 3 名。
- 教授陣: 責任者: 野坂先生。副: 後藤先生。木村先生。



AI班

- 経営情報 6 名。グローバル 4 名。大学院等 2 名。
- 教授陣：責任者：久保田先生。副：渡邊先生。（久恒）。



アジアダイナミズム班

- 経営情報 2 名。グローバル 3 名。大学院等 4 名。
- 教授陣：責任者：金先生。副：水盛先生。加藤先生。



2018 年 5 月 5 日 T-Studio「名言との対話」第 31 回をリリース。小林英夫教授の「座右の銘」を巡って

「名言との対話」第 31 回 多摩大学経営情報学部 小林英夫 教授の「座右の銘」。

ゲストは多摩大学経営情報学部 小林英夫 教授。「座右の銘」は「精一杯 やってだめなら 仕方がない」。一見ネガティブに思える言葉に込められた真実は、上手いできないことの方が多い人生で、支えとなる考え方、物事に対する姿勢など、柔軟で深い意味が含まれています。若い人たちは是非伝えたい言葉。

ゲスト：多摩大学 教授 小林英夫。ナビゲータ：多摩大学 教授 久恒啓一。

2018 年 5 月 7 日 連休明けは、国際交流センター運営委員会から始まる

- 午前：国際交流センター運営委員会（バートル教授が新センター長）。
湘南キャンパスとは遠隔会議システムを使つての会議。
以下、課題：センターポリシーの再設定が必要。外国人教員比率。留学生の割合。海外派遣人数の目標。両学部の留学プログラムの相互乗り入れ。私費留学生の保証人問題。改革総合への対応。、、、。



- ・ 国際交流センターの目的は何か？「多摩グローバル人材」の育成ではないか。ここを起点にしてやるべきことを全学的に再度考えることが必要だと思う。
- ・ センター長の座る位置にも工夫が必要。
- ・ ZOOM。
- 杉田学部長：入試関係の意見交換
- 午後：九段の寺島文庫で寺島さんとJAL幹部との会合に同席。



スーパーメガリージョン。リコー・沖電気・ALSOK。データリズム。IOT はサバイバルファクター。銀行。中国 20 年後に 6 倍。アジアダイナミズム。1.5 万ドルで個人旅行。構想力。マン投資顧問。MOOK。ジェロントロジー。氏素性。、、、。

2018 年 5 月 8 日 ラウンジでコミュニケーション、研究室で書類整理。連休明けの仕事が始まった

ラウンジ

- バートル先生：国際交流センターの方針について意見交換。
- 学長室の渡辺さん：戦略会議の進め方。
- 高野課長：情報交換。
- 今泉先生：大学院教務分科会の報告。
- 松本先生：多摩大総研。

研究室

- 振り込み：学会・研究会などの年度替わりの会員費の処理。
- 書類整理

2018 年 5 月 9 日 現代の志塾「経営情報学部」2018 年度全教授陣一が集合！

現代の志塾「経営情報学部」2018 年度全メンバーが集合。この写真をどう使うか？



ラウンジにて

- 久保田先生：インターゼミAI班、ZOOM、、、。
- 高野課長：ホームページ
- 渡辺さん：戦略会議の締め切り確認
- 関客員教授：今年は人数が増加。高校教育、、、。
- 荻坂教員教授：「やあ」。

- 杉田学部長:オリパラ対応

学科長ミーティング:杉田学部長、小林学科長、趙学科長と:事業構想学科カリキュラム、懇親会費、バイク、、、、。



2018年5月11日 朝、授業。昼、収録。午後、会議。夜、懇親会。

9時:授業準備。

10時:橘川先生:近況を聞く。アジア子ども未来研究会。ゲーム研究会。ブース。マッハ新書、コミケ、アニメイト、、、、。

10時40分:ビジネス・コミュニケーションの授業の4回目。本日の実習テーマは「私の大学生活、この1年」。図解、グループ発表、全体発表。



12時20分:T-Studioでの「トレンドウォッチャー」の収録。



13 時:事務局との定例ミーティング:入試、、、。

15 時:外出

19 時:目黒の「胡桃茶家」で田村理事長主催の大学幹部懇親会。田村夫妻、宮地事務局長、清水事務長、杉田学部長、安田学部長、徳岡研究科長と。

22 時過ぎ:杉田先生の車で学部運営を相談しながら帰宅

2018 年 5 月 12 日 副学長日誌

- 品川:大学院教授会
- 九段:多摩大OBの岡君から近況報告あり。外資系企業(中国)でITマーケティング。CtoJ(中国のアプリなどを日本へ展開)、デジタル情報を有機体に。ブロックチェーンは自由・分散・民主。改ざんできない。物流、自動運転、生保(スマートコントラクト)、AI(ビッグデータ、大企業)の脆弱性補完、IOT、ベンチャー向き。
- インターゼミ:岡君の近況。新人の大学院生の自己紹介。
学長講話:本気でものを考える。FAAGA+Mのアメリカ。アリババとテンセントの中国で時価総額 500 兆円(日本のGDPと同じ)。食糧を輸入し工業製品の輸出する国。食糧自給率 38%という惨状とテレビ・カメラなどの不振というものづくり国家へ。食と農

多摩学:過去の論文。

地域:県民幸福度ランキング 2018。客観指標。信金の金利、、、若者の視点、女性買った苦、、、。

AI:新分野。松尾先生の本。(ブロックチェーンレボリューション)

アジア:大英帝国は英語・英国法・スポーツが遺産、大英連邦。とモンゴルは消えた。シンガポールは華人・華僑(元・清の異民族支配から)76%。アジア 3500 万人。

ロンドン出張報告:夢にカネがつく時代。蛙跳び経済。アメリカのブラックロック(運用資産 500 兆円)。ロンドンのMAN投資顧問(150 の市場にブリッジ。24hのAI投資)。ロベコ。

グループワーク:私はAI班

終了後、AI班の懇親会に出席。

2018 年 5 月 14 日 VRのゴーグルでホラーを観賞

ラウンジで彩藤先生から、バーチャルリアリティ(VR)のゴーグルでホラーをみさせてもらう。立体映像とステレオ音声で楽しんだ。機器は案外安い。



- 酒井先生(非常勤)
- 大澤先生(非常勤): 今年の授業の様子。本務校。
- 後藤先生: 学修サービス

2018 年 5 月 15 日 副学長日誌

12 日の東京新聞の「遅咲き」特集。同僚や友人から「読んだ」との声が入り始める。東京新聞の読者も多いようだ。

担当の山本さんと T-Studio の「名言との対話」シリーズの相談。女性教員と客員教授。

- 中村その子先生「あわてず、さわがず、、、」
- 梅澤先生「しなやかに」
- 石川先生「？」
- 渡辺さん: パンプ
- 杉田学部長: 情報交換

2018 年 5 月 16 日 品川の多摩大大学院で「アジア子ども未来研究会」の初会合。アジアと子どもに未来がある。

13 時から、品川の多摩大大学院で「アジア子ども未来研究会」の初会合。対象は商社、メーカーなどのアジア担当者。ノンフィクションの児玉博(大分出身)さんとも挨拶。

- 主催者挨拶: 橘川幸夫(デジタルメディア研究所)「DOという主婦マーケティングのシステム。」

まずアジアに生活者ネットワークをつくろう。日本語の e ラーニング。商品開発につなげよう」

- 上昌広(NPO法人医療ガナバンス研究所理事長)
- 宮澤保夫(星槎グループ代表。公益財団法人世界こども財団理事長)
- 藤原和博さん(JAL時代に一緒に遊んでいた人。教育実践家):「日本と同じ 3 万校へ」



- 講演: 谷川洋(認定NPO法人AEFAアジア教育有功協会理事長)

アジアに学校建設。商社マンを辞めた 60 歳から 75 歳までの 15 年間で 272 校建設。保健衛生が大事。現場主義。井戸とトイレ。水。姉妹校。500－700 万。孫を連れて行かないか。大学生の参加も。熟年者ボランティアが足りない。ホストファミリーにならないか。よろい兜を捨ててみないか。住民参加と国際交流。日本の子どもたちに志を持たせたい。



谷川さんから著書を頂いて読了。事務所は九段にあるから訪ねてみよう。



- 留学生トークセッション「アジアの若者たちの本音を聞く」。ファシリテーター：近藤純夫（子ども調査研究所主任研究員）。スリランカ、ネパール、バングラシュ、フィリピン、ベトナムの留学生へのインタビュー。



日本の印象「きれい。天国のよう。安心。おしん。仕事第一。子どもを持つのが面倒という空気。子どもは自立している。日本で就職。食べ物が好き。アニメとマンガ。ドラエモン。ワンピース。時間を守る。マナーを守る。安全。協調性。、、、」

- 挨拶
 - ・ (株)ドウハウス代表取締役高栖祐介「金だけの支援でなく。定性マーケティング」
 - ・ 顧問林光「マーケティング」
 - ・ 顧問久恒啓一「アジアダイナミズム。多摩大の社会人大学院のPR」

2018年5月17日 多摩キャンパスで仕事。

多摩キャンパス

- 佐保君：ZOOMの研究。



- 松本先生: 昭島の企業サミット。大いなる多摩学会。谷川洋。アジア子ども未来研。渡辺さんとの懇談。出版会日程。、、、。
- 高野課長: 薬師寺
- 増田先生: 近況

2018 年 5 月 18 日 大学院の授業: テーマは「自民党憲法改正草案と現行日本国憲法」の比較図の作成・発表・議論。I can learn the very basic knowledge that all the global citizens need to know.

10 時: 橘川先生



10 時 40 分: 学部の授業。

13 時: 事務局との定例ミーティング。

14 時: 杉田学部長と意見交換。

品川キャンパス

18 時: 大学院瀧川課長: 研究開発機構評議員会の打ち合わせ

18 時半。大学院の授業。テーマは「自民党憲法草案と現行日本国憲法」の比較図の作成。出席は 16 名。

図解作成中



発表と議論



以下、出席者の感想から

- 図解により何をするか？比較なのか、プレゼン(説明)なのか、自分で理解するためなのか、その目的によっても図解の仕方が大きく変わるのがよく分かりました。図解する人が頭を使う分、周りの人は短時間で理解しやすくなり、最終的に全体の時間短縮につながるように思いました。ありがとうございました！
- 憲法という普段あまり深く意識しないものに対して興味を持てる講義であった。言葉の言い回しや表現の曖昧な部分、解釈の範囲が重要になるので、図を描くときについつい細かくなってしまう。そのために全体像が見えにくいという状況に陥ってしまう。個別の表現よりも何を変えたいのかというコンセプトとロジックを理解して大枠を掴み、実例の引用で代表する事例を示し、その根拠と問題点を示して図式化するというアプローチが必要だと感じた。今後行われる実際の憲法改正の議論に際してもいきなり個別の文面の是非を問うのではなく、改正したい意図と何処までの拡大解釈を狙っているのか、真の理由など含めて国民に真摯に説明する責任が政府にはあると考える。

- 図解について、3回を受講してコツが掴めてきた何を捨てるか？描き直すことで整理されていく。日頃の問題意識がないと深い質問ができない。why 思考がない図解は浅い。
- 自分のテーマは憲法改正(戦争放棄、安全保障)？メリカに国防を今後永久に頼るのか？完全自前に向けて舵を切っていくのか？バランスを取っていくのか？国民のほとんどが思考停止しているところ。教育によって骨抜きされている。ところでもある。軍事・武器を持たない平和 軍事・武器を持つ平和でも自衛のための軍はある。「どういう日本国にしたいのか」からの憲法改正。
- 今日の授業は、憲法改正の自民党草案について、文章の比較だけでなく、なぜそうになっているのか、その背景について考えることの重要性を学びました。この短い時間のなかで改正のポイントが分かり考えを深めることができ有意義な時間でした。私は天皇、について担当しましたが図解して比較し、なぜここを変えるのかフォーカスすることにより、背景をより鮮明に理解することができるような気がしました。それでもまだ先生の一言で気づかせていただく場面が多く、なぜを増やしていくことを意識したいと思いました。第9条がメディアでも多く取り上げられますが、一つ一つ議論されみていかないといけない、とても不安になりました。
- 憲法改正の自民党草案について、私は地方自治を担当しました。条文比較をする時は、新旧対照表が分かりやすいかなと思い、項目別に整理してみました。今回は文章比較だけでなく、思想背景も比較してみました。皆さんのプレゼンを拝聴して、曖昧な条文を具体化する改正そのものは素晴らしいと思いますが、全般的に国家組織を上位概念とし、国民を下位概念にしようとしている意図を感じました。現行憲法は曖昧ながらもリベラル、自民党草案は具体的なながら保守的。上に立つ存在が国家運営を正しくコントロールできれば良いのですが、国家組織の個人への介入を強める印象を受けました。大日本帝国憲法と治安維持法をうかがわせる要素が含まれていて、これが草案通りに施行されたらと思うと、不安になります。メディアが普段取り上げるのは第9条ばかりの印象ですが、他の項目もきちんと報じて我々がチェックして行く必要性を感じました。
- 憲法改正の中身を現行法案と自民の草案について、キーワードとなる項目や表現を図解にして比較することで、何が違うのか？ポイントがどこか明確になりました。私の課題は比較するものがない新しい草案だったため、関係図みたいでしたが、使用用途によって図解も描き方が変わるのだなと感じました。今日は話題の憲法についても知れて大変勉強になりました。
- 私の担当は＜戦争の放棄・安全保障＞でした。現行憲法では、第2次世界大戦の日本の敗戦経験から、無条件で戦争を放棄する。放棄することが主でした。憲法改正の自民党案は武力を用いた侵略戦争は全面的に行わない。ただし、国や国民を守るための自衛戦争は国防軍を持って行うことができるというものです。しかし、現行憲法においての戦争の放棄を侵略戦争の解釈として、現在の実質的軍隊である自衛隊を現行憲法の中に認める案も出ている。いずれにしても、侵略戦争は行わない。自衛戦争は行うという方向性に進んでいる。以上今回の授業の感想です。自分自身の考えを整理するのに図解はとても有益だと感じました。こ

れからも宜しくお願いします。

- 憲法改正の自民党草案について、文章の比較だけでなくなぜそうなっているのか、その背景について考えることの重要性を学びました。この短い時間のなかで、草案のポイントを知ることができ考えを深めることができ有意義な時間でした。天皇の章の条文を担当。大きく3つの異なる点にフォーカスできました。象徴→元首、国事に関する行為のみ→のみ削除、限定されない 助言と承認→進言 目上の人に意見することいろんな考えがあると思いますが、政治力に利用されないか、不安を感じます。メディア情報に流され 9 条に目が行きがちでしたが、一つ一つが議論され見ていかないと取り返しのつかないことになりそうな、なぜの背景を考える、意識していきたいと思います。
- 「家族・新しい権利など」を、させて頂きました。イメージが出来て、書き始めると、仕組みが分かって、「いまいちピント来ない」、と感じていた条例も、色んなところに繋がりがあることが、分かりました。思い切って、手を動かす大切さを学びました。
- 言葉足らずであることは、時々自分でも感じるので、意識して、気を付けていきたいと思います。
- 自民党草案と現行憲法を図解して比較。・図解により追加、削除、変更部分が明確になる ・長すぎないキーワードの抽出が重要 ・図解で考えることにより草案について疑問に感じる部分が出てくる●地方自治、他の草案について ・草案は具体的になる一方、あらゆるものに規制がかかる印象もある ・改正の大きなイメージは「自由から規制」、「中央集権の強化」こういうものは、さらっと読み流しがちですが、図解し理解しながら考えることで、気になる部分が結構出てきました。
- 今回は二つの対象を比較して図解にするという課題、そしてそこから見えてくるものは何かというもの。頭の柔らかさが大事になってくるワークで、非常に苦戦しました。慣れもあるかと思いますが、日々の生活の中で柔軟に図解表現するようなトレーニング方法がありますか？講義中のメモ、手帳へのメモ、それらもなるべく丸や矢印を使うように心掛けています。
- 苦手な難しい分野も、図解しようとするメンタリティから、ポイントを抑えられるようになる。他のクラスメイトの整理の仕方、発表の仕方、議論に参加する態度などが勉強になりました。
- 以下、留学生。
- 今日の講義のテーマが素晴らしいと実感しています、発表を聞く同時にいろんな分野の憲法上に関する情報と知識が勉強できます。皆様の図示方と発表は上手と実感しています、特に私と同じ権利と義務のテーマについて発表した方が文を細かく読んで、うまく図解して発表しました、彼女の発表をみて私は自分の不足を認識を取りました。外国人として日本の憲法と政治普段あまり深く意識をしなかった、そしてまだ日本語の読むことがうまくいかなかったので、今回の発表がめちゃくちゃ難しかった、個別の表現よりも何を変えたいのかというコンセプトとロジックを理解しが必要だと思います。憲法は国家の最も高い法律の効力を持つ根本的な法律は、通常、1つの国家の社会制度、国家制度、国家機関、公民の基本的な権利と義務などを規定している。日本に生活する憲法を守って、勉強しなければならないと考えていま

す。

- 現行憲法と自民党草案を比較しながら、図を描きました。やはり文書からポイントを指摘する能力がまだ不足です。その上、自分の頭の中で整体構造を形成することが難しいと思います。また、書いた図を通して、全体像をきちんと伝えられないです。これから、頑張ります。
- 今回 私の担当は「司法・内閣」の文章です。日本の政党構成とかとベトナムのはけっこう違いなので、私にとって、なかなか難しいと思います。しかし、先生に頂いた文章を読んで、レジュメをして、発表してから、内閣の構成や内閣の職務などを理解できると思います。詳しく分かるように、自分で調べたいと思っています。次回も頑張ります。
- First, I want to thank to professor Hisatsune for today's topic that I am really excited to learn. The mass media speaks quite a lot about the changing of the Japan Constitution. And I really want to figure out what is the changing; what is the matter if it would be changed; how it would effect the other countries if it would be changed. Today's task helped me to have a look into the detail of the changing of the Constitution. In this business school, I can learn many skills for business in the other classes. Only in the class like the class of "Insight communication", I can learn the very basic knowledge that all the global citizens need to know.
- 憲法前文と自民党案は、さまざまな差があるの中で天皇を日本の元首とするし、戦争は再度に起こらないことが抜けているのである。即ち総理大臣の権限は最も強くになっているのである。個人的な観点は現行憲法と自民党案が最も組み合わせになったのが良いと思う。

2018年5月19日 インターゼミ(社会工学会)

インターゼミ(社会工学会)

- 新人の自己紹介
- バートル先生(国際交流)・金先生(アクティブラーニング)
- 学長講話

薬師寺。法相宗。仏教の5識、、、動物と人間。DNA1.04%の違い。機械と人間。2025年シンギュラリティ。認識(recognize。記憶・計算)と意識(conscious)。人間は木から落ちた猿。二足歩行。脳の発達(1.5 キロ)。1.04%は言語とコミュニケーションに関する部分。人間の不合理・愛情。田舎の高齢は農業と宗教(神社・社)。7.7万の寺院のうち2万は住職がいない。檀家がない。廃寺へ。都市郊外型高齢化と宗教。新中間層の精神的支えは何か。ベッドタウン。日本人の拠り所は何か。ネットワーク。多摩の戦後人。中心概念なき人びと。ボウフラの人生。思想・宗教・哲学

- 各班でのミーティング



杉田学部長の車で意見交換しながら帰宅。

2018年5月22日 認定NPO法人アジア教育友好協会(AEFA)をバートル先生(多摩大国際交流センター長)と訪問

九段の認定NPO法人アジア教育友好協会(AEFA)をバートル先生(多摩大国際交流センター長)と訪問。

アジアの山岳少数民族のための学校建設・日本の学校との国際交流がテーマのNPO法人。谷

川洋理事長と田中コーディネーターと面談。

里山学校。孫を連れたツアー。現地NGO。600 万。山岳民族。大いなる多摩学会。ボランティア。
ベトナム・ラオス・ミャンマー・カンボジア。。。。。



2018 年 5 月 23 日 副学長日誌

- 水谷IR室長：自己点検
- 松本先生：アジア教育友好協会
- 杉田学部長
- 学部運営委員会：10 時 40 分から 12 時半まで。ゼミのあり方。

研究室

- 講演資料準備
- 書類整理

2018 年 5 月 24 日 多摩(リレー講座、)。品川(大学院運営委員会、)。九段(多摩大志塾会)。

松本先生、「事業構想論」の講義で見た桃原さん(九電ビジネスフロント)と井田さん(ブレイク・フィールド。九大経済卒)と昼食を摂りながら懇談。



14 時

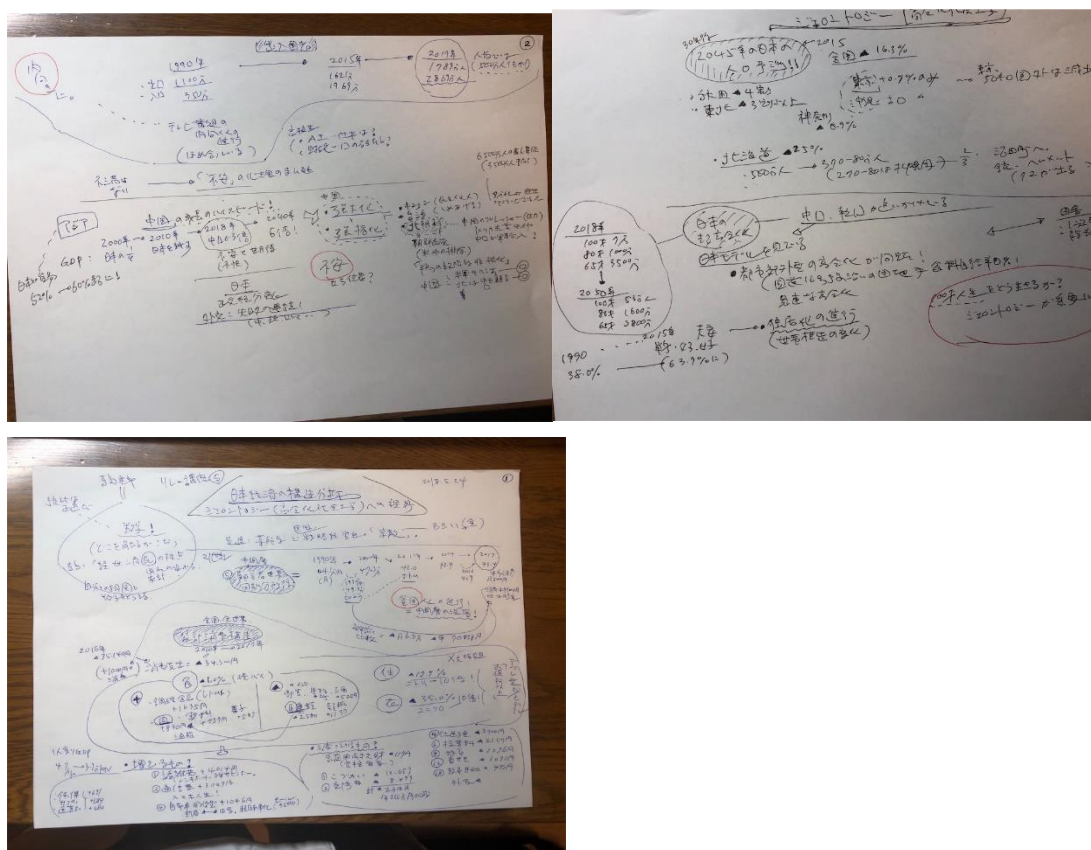
- 学長:児玉、音の図書館、国際貢献センター(日本貿易会)、、、、。
- 高橋さん:知研(編集委員会、宮島には会長出席、、、、)

リレー講座:寺島学長「日本経済の構造分析ージェロントロジーへの視界」



以下、図メモ。

21 世紀に入って起こっていること: 貧困化(中間層の没落)。内向き。不安(アジアの勃興)。100 歳人生(ジェロントロジー)



17 時 30 分: 品川キャンパスで大学院運営委員会に出席。

終了後、瀧川課長と来週の研究開発機構運営会の打ち合わせ

19 時 30 分: 九段サテライトで「多摩大志塾会」のパーティに参加。講師の柳先生(多摩大名誉教授)と懇親、追分さん(社長会。南カルフォルニア大)、、、、。学部OBの八木隆さん(プロジェクトクリ

ック代表)のメディアとのタイアップ、、、。



2018 年 5 月 25 日 多摩で授業。九段で 3 つの重要会議。

多摩。9 時半から

- 授業準備
- 橘川先生:久米、寺島、桃原、谷川。マッハ新書に「人生計画」、写真と前書き。京都でごっこ大学。ミネルバ大学。鴨志田。
- 授業 6 回目:テーマは「大学生の国語力低下を憂う」も 2 回目。以下、図解実習中。



九段。14 時から

- 大学戦略会議:テーマ「就職」。質は上がったか。
- 大学運営会議:実学。進化。現在の日本企業の実態。いい企業の再考。専門性とジェロントロジー。クロスカウンター。シナジー。生命科学・コンピュータサイエンス。世界史としてのグローバルヒストリー。宇宙・生命・人類を視野に置いたビッグヒストリー。教授陣の知的再武装。時代のニーズに耐えるカリキュラム。紀要と単行本。神奈川の活性化とアカデミズム。都市郊外型高齢化への社会科学的アプローチ。宗教。寺じまい・墓じまい。精神の拠り所。ささくれだっ

ている精神をポジティブに転換。

- 「志」入試センター運営委員会: 質は上がったか。AL入試。量と質の考え方。

2018 年 5 月 26 日 インターゼミ: 日大アメフト部問題。2018 年夏を濃厚な時間に

インターゼミ

- 日大アメフト部問題: 3 人の先生「体育とスポーツ。日本体育学会。大学大綱化。規制緩和。外圧。スポーツマンシップ」「日本が根腐れ状態。誠実さが失われている。記者会見。官庁の動き」「パソコンに向いメモをとるのがジャーナリストに。ジャーナリストの末路」「救いは日大の学生が自分の言葉で語る雰囲気・誠実さ。大人のずるさ・醜さ。体育人、メディア人、ヤメ検、元官僚、。黒を白。自分の美学で生きぬくことが大事。」
- ・学長講話: 2018 年夏を心を込めて濃厚な時間に！プーチンのロシア: 2000 年から 2024 年。エネルギーと軍事。ロシアナショナリズム。昨年は 1917 年のロシア革命から 100 年だが共産主義には冷淡。ロシア正教という宗教で束ねようとしている。周金平の中国: 2018 年にマルクス生誕 200 年行事。社会主義。アメリカ: 自由の国のトランプによる迷走。1968 年(フランス 5 月革命・キング牧師暗殺、)。日本: モデル無き時代。自分で考えて一歩前へ。それが 2018 年秋につながる。



2018 年 5 月 28 日 会食と会議

昼食は、九段のグランドパレスの萬寿苑にて。松本地域活性化マネジメントセンター長(多摩大総研副所長)と多摩大総研客員教授をお願いしている渡辺さんと摂る。

「長寿食。食と音楽。シリーズとリピート。時代認識。日野市。京王プラザホテル。17 年間 3000 回イベント。BASEQ。舞浜倶楽部。、、、、。」



14 時: 松本先生と文庫カフェで情報交換

14 時半: 瀧川課長・福井さんから会議資料の説明を受ける。

15 時: 多摩大研究開発機構評議員会(私は機構長)を開催。

- メンバー: 多摩大総研。多摩大情報社会研究所。多摩大医療・介護ソリューション研究所。多摩大ルール傾城戦略研究所。
- 社会的投資研究所の新設。2017 年度算報告。人事。2018 年度事業計画進捗。

教授会。T-Studio で石川先生と収録。東京で人物館 2 館。日本興業倶楽部で寺島講演。

- 10 時: 学部運営委員会
- 10 時 40 分: 教授会: 授業評価の表彰「インターゼミ」も。ホームゼミの考え方の大転換。社会的投資研究所の新設。、、、、。
- 13 時: T-Studio で「名言との対話」の収録。石川先生と対談。座右の銘「一期一会」を巡って。17 分。しばらく、女性シリーズでいこう。



- 19 時: 日本興業倶楽部で寺島文庫リレー塾。第 1 回は寺島実郎「世界の構造変化の本質を考える」
 - ・ 経営は時代認識を深め進めること。知の基盤インフラが時代を見抜く目を育てる。
 - ・ 歴史の鏡を磨く。20 世紀とは? 「1900 年への旅: 欧州・アメリカ」 戦後日本とは? 「世界での連載。脳力のレッスン」 近代とは? 「17 世紀オランダ」。この 1 年はモンゴル 3 部作。モンゴル史観で西洋史観、中華史観の相対化。大英帝国との対比。
 - ・ ネットワーク型で世界を捉える。大中華圏(華僑・華人ネットワーク。連結の中国)。大英帝国(英語・英国法などのソフトパワー。ユニオンジャックの矢)。次にユダヤネットワーク。
 - ・ 2018 年の日本: ソト。GAFA+M で 364 兆円・テンセントとアリババで 107 兆円、合計 500 兆円。ITXFT。ニューセブンシスターズ。デジタル専制。蛙跳び経済。夢にカネがつく時代。データリズムの時代。
 - ・ 2018 年の日本: ウチ。ものづくり国家日本の危機。技能オリンピック9位に転落。現場力・管理職・経営のゆるみ。中国の強大化(スピード感。2018 年日本の 3 倍。不安と苛立ち。中国の強権化: 2 期政権の実績づくり: 経済は 6%後半成長(5 割は政府のインフラ投資)。外交軍事で東アジアをグリップ(香港。台湾。北朝鮮)。北朝鮮問題では中国の存在感。中国は和戦両用。朝鮮半島の非核化「体制保証・米軍の引き上げ・経済協力」。日本は構想力において劣後。外交は失敗。大きなビジョンと構想を示していない。
 - ・ 日本の内なる構造変化: 2018 年「65 歳以上 3500 万人・80 歳以上 1000 万人・100 歳以上 7 万人」。2050 年「65 歳以上 3800 万人・80 歳以上 1600 万人・100 歳以上 53 万人。2045 年の人口「東京と沖縄。秋田はマイナス 40%。都市集中」。国道 16 号線上の団地。都市郊外型高齢化の深刻。ジェロントロジー(高齢社会工学)！100 年人生と異次元の高齢化の日本がモデル。高齢者を活かす戦略。

2018 年 5 月 31 日 リレー講座: 前川喜平「安倍政権下の教育政策」

10 時半: 研究室で事務処理。

13 時: 松井さん: 高大接続改革の近況報告。

14 時: 高橋さん: 知研北海道。okuno clinic。

14 時 50 分: リレー講座: 前川喜平「安倍政権下の教育政策」。

- 1980 年代の中曽根政権: 憲法改正につなげるために、まず国家主義的な供給側の自由拡大のために教育基本法の改正を目指し、1984 年に臨教審を設置。結果は逆に学習者の自由拡大の方向の答申が出た。個性重視・生涯学習・変化対応。その流れの中に現在のアクティブラーニングがある。
- 第一次安倍政権で教育基本法を改正した。伊吹文科大臣は道德の教科化はやらなかった。
- 第二次安倍政権で教育再生実行会議を設置。下村文科大臣が計画者と実行者を兼ねた。2018 年度から徳道教育の教科化が始まった。検定教科書を使用。評価はするが点数化はせずに記述式で評価。教育勅語を使ってもよいという閣議決定。
- 個人と地球の欠落。戦前回帰。国体思想。家族国家観、、、。



2018 年 6 月 1 日 夜の大学院のテーマは日本文化:「武士道」「禅」「俳句」「箸」「パチンコ」「カラオケ」「茶道」「相撲」「歌舞伎」「温泉」「畳」「桜」「ひらがな」「神道」「生け花」「和服」「インスタントラーメン」「マンガ」「落語」。

夜の大学院の授業(18 時半ー21 時 40 分)は 19 人が出席。本日のテーマは「日本文化」の図解に挑戦。「武士道」「禅」「俳句」「箸」「パチンコ」「カラオケ」「茶道」「相撲」「歌舞伎」「温泉」「畳」「桜」「ひらがな」「神道」「生け花」「和服」「インスタントラーメン」「マンガ」「落語」。

日本人に加え、中国、韓国、ベトナムからの留学生もおり、楽しい授業となった。最初は私が出演するDVDをみてもらった。テーマは「コンビニ」。



以下、受講生の感想

- 【第 4 講感想・総括】。・共通点と意見の違いを可視化。・項目の洗い出し、グループ化、キーワード化。・言い換えや色使い。今回の私のテーマは「神道」でした。認識の相違や共通点は図解により整理ができた他、その文章では説明されていないことや不足している情報の把握もできました。
- 図解も回が進むにつれて少しずつわかって来たような気がします。今日のテーマは禅!!□いまままで自分の中で理解していたものを図解で整理して再チャージ出来た。自分の引き出しを整理することに図解は武器になる。ありがとうございます。
- ご講義ありがとうございました。楽しくなってきました。忠実に、正確に、矢印の方向も、論点は沢山出て来るのだらうなと思います。意見交換が楽しくなりそうです。生け花の先生、文章と図を見せたら、いいね♥をくださいました。ありがとうございました。
- 本日もありがとうございました。冒頭の動画での図解が形成されていくプロセスは分かりやすかったです。ただ、はじめの半分からいまでは何とかできそうでしたが後半の半分はなかなかあそこまで発想が及ばないなと思いました。やはりまだ図解を構成するという部分までは至りません。まずは本質的な部分をキーワード化、概念化できるスキルを身につけたいと思いました。次回は学会のため欠席です。度々で申し訳ありません。学会では論文のテーマに合致したシンポジウムが企画されています。そこでの発表やディスカッションを図解にしてゼミや中間発表で使用するという課題を自らにかしたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。
- 本日もありがとうございました。今日は相撲の起源を力士の体から考えるというテーマでした。もちろん今まで力士の体について考えたこともなかったため、金太郎をイメージとした少年相撲による豊作、不作を占うという起源、女性〔妊婦〕をイメージした女相撲による豊作を願った儀式的な起源があることに驚きました。図解を作成することで、自分の理解度は深まり、短時間で説明できるようになることを実感できました。ただ、ややワンパターンになりつつある私の図解。よりよい図解ができるように練習に励みたいと思います。
- 担当は「畳」でした。日本人なのに日本の文化についてあまり知らないと実感しました。文章を何度読み返してもよくわからなかったのですが、図にすると頭が整理されて理解しやすかった

です。何度も書き直しましたがその度に思考が整理されているなと思いました。また、他の人の発表も図があるおかげで素直に理解できました。まだまだ図の作成が下手ですが繰り返し練習して身につけます。

- 感想。* アウトプットを意識してインプットすることの重要性* どうしたら伝わりやすくなるか？ 考えて書き直していく* 3つの手法(3つの塊にして話された方はわかりやすい)と改めて大事と思った。ありがとうございました。来週は仕事で参加できませんが、次回講義楽しみにしています。よろしくお願いします。
- 落語について、図解をまとめました。まず文章を読み、大事なところを線を引き、そこをまずは箇条書きなり思いつくレベルでまずは書き出して、そこから図解にまとめるようにしました。はじめの頃よりは慣れてきましたが、それでもまだまだ発想が乏しいです。引き続き日頃から意識していきたいと思います。
- 本日もありがとうございました。今日の作業では初めに検討した図解では際に細かく書きすぎて情報量が多くなりすぎました。余計な情報をそぎ落とし、重要な点を見つけていく作業が重要であることが経験出来ました。次回の講義も楽しみにしております。
- 本日もありがとうございました。詩人を図解してはいけないのがよく分かりました。言葉で誤魔化す世界が詩であって、そこが詩の良さなんだと。冒頭の講義の感想で、図解が難しく感じたのは、逆に言葉の大切さを改めて感じてきたように思います。うまく組み合わせたいこうと思います。
- 先生、皆様、授業お疲れ様でした。第4回授業の感想です。今回は作成した図表を掲載するようにとのことでしたので、図表をアップ致します。今回は俳句を担当しました。今回の授業で大事な点は、一般化と構造化の2つだと思いました。段々、記事を読んでいて、記事の説明は不完全なものであり(記事内容だけでは構造的、網羅的ではない)、記事内容に忠実に図表化すると、お題を十分には構造化しきれないことを感じました。例えば、俳句の由来について、正岡子規の記述はあったのですが、松尾芭蕉の記述はありませんでした。調べてみると、後世にかなり影響を与えた人物ですが、記述がありませんでした。また、類似例としては、短歌や川柳との違いも触れる必要があると思いますが、記述がなかったので、調べて補足しました。結果的に真ん中に俳句の特徴を集約して、周囲にそれぞれの項目を書き、足りない情報は補足する、というスタイルに今回は落ち着きました。普段目にする記事も、実は基本的な内容に関する網羅性を欠いているものが結構あると思いますが、授業を受けて目が肥えて来たから感じるようになったのだと思いました。

以下、留学生

- 今日の講座はとても感謝しております。図解する前は先生のテレビ教育から図解制作説明を理解した事は非常に嬉しかった。皆様もうお疲れ様でした。先生のテレビ教育における説明の説明を見ながら、メモを取ること図解制作に非常な重要性があると思います。先生から解説をいただきました図解制作はまず、文を読みながら重要な動詞を見つけて、キーワードを

見つけたり、丸を箇条して、後文の関連関係変化所線を引いて。矢印の表現脳中考えて、次に脳の中で文の意味をまとめ、作者の意図と、作者がどんな logic 的な手法で表現したのか。その手法をよって system を分類する。今回先生の解説から気になるのは図を制作時まず、system を分けて同じ system 内容を集めから、図解制作時に同じ所属性キーワード同じ行、列に並ばれて描いて、関連性を考えたら、所属関係の変化によって横 or 縦にする。先生が今回の授業取材は日本文化について。日本の教育、生活、娯楽、経済歴史などの各分野の文化、外国人留学生にとって、学生たちの図解によって日本の深さや博覧文化を直観することができる。今後、観光産業の研究を進め私にとって、重要な意義があります。今回皆さんが作った図は、昔よりよくわかりやすくしてしっかり理解できる実感がありました。特に他人が見にやすいように男の classmate がかわいい花を描いていた、カラーペンでポイントをつけていた女性 classmate もういます。皆は素晴らしかった。今回、私は「温泉」について日本文化を図解担当していました。先生は留学生に優しく簡単な文を配って、自由な選びますけれども、最初を読まれた日本文化分野あまり知らないと実感しました。温泉文化について文典を配って読まれた時、何回温泉に行った事あった私は温泉文化について図解大丈夫だと思いましたが日本文化について文章難しさは思わず、さっすか博深広大な日本文化、わからなかった単語が多い、辞書を調べてばかりが、何度読み返してもよくわからなかったのですが図にすると頭が整理されて理解しにくいでした。何度も書き直しましたがその度に思考が整理されていると思いました。まだまだ図の作成が下手ですが繰り返し練習して身につける非常に必要だと思います、図左は先生に出した初稿です。図右は読み直して、描き直した図解です、(≧▽≦)従列は system をよて同じ所属性キーワード、横行は関連性あるキーワードを並べます、関連性変化によて、矢印の方向を向く。制作した時間がすごくかかりましたから、copy する担当者が長い時間で私を待っていましたけれども、まだうまくいかなかった。迷惑をかけた申し訳ございません。

- 本日は茶道について、いかに皆さんに分かりやすく伝えられるか、考えました。伝えるという視点で、読み込んでいくと、思考が何度も整理され深く理解できると感じました。とはいえ、満足のいく図解にはなっておらず、もっと事例をこなして行きたいと思いました。茶道は昨年から始めたばかりですが、知らないことがあり、勉強になりました。今を大切に生きる、一期一会、ステキな言葉と思うだけではない生き方が、できるといいなと思いました。
- 本日の講義ありがとうございました。日本文化を中心としていろいろな話題を聞いた。私のテーマはインスタントラーメンです。食品、ファスト消費品産業に興味を持って以前インスタント食品に関するレポートなど読んだことがあった。そして、文章のまとめ、図解を説明した後自分の考えを発表した。図解とは、ポイントのを抜粋することは大事と思う。でも、何が漏れるが心配。今後は力を入れて勉強しましょう。
- 本日もありがとうございました。日本文化の講義でカラオケや日本の文化などについて、深く分かるようになっていきます。日本の文化といえば、歌舞伎や茶道などですが、今日は パチンコでも日本の特徴な文化と思われます。次回も頑張っています。よろしくお願いします。

- 本日の授業、ありがとうございました。先生も、皆さんもお疲れ様です。私のテーマは「マンガ」です。初めて、この文章からマンガの歴史を知りました。良い図表の描く方も、日本のマンガ文化も、沢山勉強になりました。今日は発表できなかったが、次回は頑張ります。よろしくお願いします。
- 久恒先生、講義、ありがとうございました。今日、「ひらがな」というテーマをやりました。両国の歴史上の似た点を気づきました。日本で、最初の頃には、漢字しかないでした。そして、漢字を読み書きできるのは、僧侶、役人、貴族の男に限られていました。この点は、古代の中国文化と似ています。古代の女性は、「女誡」、「内訓」、「女論語」と「女範捷録」しか読めなかった。従って、「古代の中国人の女性は教育を受ける権力がない」と言っても過言ではないと思います。そこで、古代の日本女性でも中国女性でも、社会地位が極めて低いということがまた気づきました。これから、この問題について、深く調べたいです。以上です。



10 時:橘川先生(客員)

10 時 40 分:授業

12 時半:河合先生(客員)

12 時 40 分:杉田学部長

13 時:事務局との定例ミーティング

2018 年 6 月 3 日 自己点検ヒヤリングの日

自己点検ヒヤリングの日。9時から17時まで。多摩キャンパス。経営情報学部、グローバルスタディーズ学部、大学院経営情報学研究科の委員会がヒヤリング対象。こちら側は副学長、学部長、研究科長、事務局長。



以下、私のコメント

- 自己点検ヒヤリングは相互に学び合う機会。
- 就職：中計の目標値。実質就職率。数字への執念。トップクラス対策。質の目標値。トップクラス学生。戦略経営塾。留学生。
- 国際交流：長期留学の目標値。学内資源の相互活用。ホームページの更新。多摩大独特のプログラム開発。
- 学生：離学率。
- 学長室・地域：発信・露出対策。成果は問題解決。
- 入試：質を担保する項目。進研ゼミ。
- アクティブラーニング・研究・教務・人事：研究費。授業評価。両学部の授業評価の点数。
- 教務・AL：プロジェクトゼミ・合同ゼミ。両学部の図書館。教養教育。グローバル学部のカリキュラム構成。留学生対応。



総括

- ヒヤリングの場は2学部1研究科の全学のタテ・ヨコの合意形成の時間だ。
- 「質」の向上が全学共通のテーマであることがさらに明確になった。

2018 年 6 月 4 日 多摩大学・高大接続アクティブラーニング研究会の 2018 年度の第 1 回を開催

多摩大学・高大接続アクティブラーニング研究会。2018 年度の第 1 回を開催

- 金センター長挨拶。
- 自己紹介: 多摩大(金・小西・趙・バートル・加藤・初見・松本・杉田。水嶋・池田・松井)以外は以下。神奈川県立上鶴間高校の浅香先生、室井先生、夕田先生。科学技術学園高校の豊島先生。多摩大聖ヶ丘高校のいずおか先生。目黒学院の藤牧先生、多摩大目黒の越前先生、谷川先生、田端先生、加藤先生、、、。



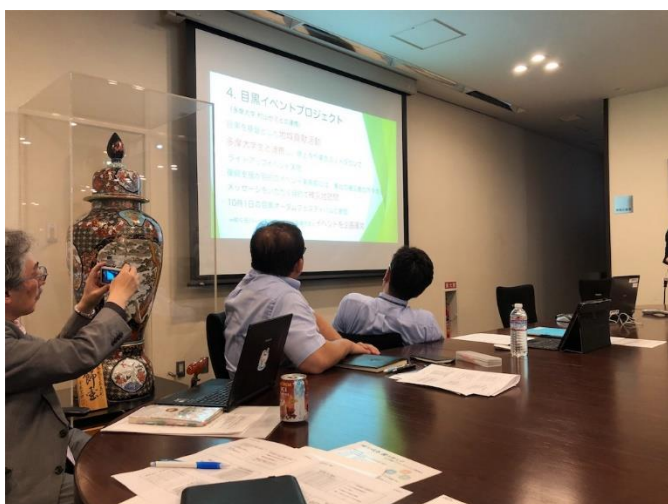
目黒学院の藤牧先生: KP法。質問と回答。なりきる。演劇的手法。納得感の醸成。ペアワーク。ルーブリック。学力も向上。



多摩大目黒の谷川先生: ipad。新教育研究部。classi。actibook(動画)スタディアプリ。kahoot(小テストあり)。デジタル教材の活用。



多摩大目黒の越前先生：校外アクティブラーニング。異文化・異世代・探究。チェジュ島・いちよう団地・起業体験・東北復興に加えプログラミング体験プロジェクトも。



記念撮影



2018 年 6 月 6 日 トレンドウオッチャー第13回 橘川幸夫客員教授。話題は「連休、アジア、ゲーム、教育とゲーム、、、」

- T-Studio「トレンドウオッチャー第13回」は 橘川幸夫客員教授へのインタビュー。
話題は「連休、アジア、ゲーム、教育とゲーム、、、」
- 渡辺さん(学長室):戦略会議「就職」「教務」の打ち合わせ
- 小西先生・趙先生・金先生:自己点検
- 学部長・学科長ミーティング:杉田経営情報学部長、小林経営情報学科長、趙事業構想学科長。

2018 年 6 月 8 日 授業「図解文章法」:文章を書くことに抵抗が減ったという感想が多かった。

10 時:橘川先生:ピリオ(名言)。無限教師。移民、、、。

10 時 40 分:授業:テーマは「図解文章法」。文章を書くことに抵抗が減ったという感想が多かった。

12 時半:山本さん:T-Studio での録画企画。女性教授シリーズ。

12 時 45 分:高野課長:インターゼミ、、、。

2018 年 6 月 9 日 多摩未来創造フォーラム——小池百合子東京都知事の基調講演と、市長・学長・社長のシンポジウム

多摩未来創造フォーラムが玉川大学にて行われ参加した。

元々は公益社団法人「学術・文化・産業ネットワーク多摩」が主催する多摩の大学の理事長・学長会議だった会合がフォーラムに進化した。

名刺交換の時間に懇談:ネットワーク多摩の細野専務。八王子市の木内容子副市長。キャリアマムの堤代表。いなげやの成瀬社長。立飛ホールディングスの村山社長。法政大学の増田副学長。学生情報センターの清藤常務。

小池百合子都知事を迎えての昼食会:気候変動と飢饉、革命。23 区の定員厳格化。首都大の 100 年人生講座。東京オリンピックのオランディア、、、。小池知事とも名刺交換。

小池知事の基調講演。「新しい東京の実現に向けた多摩地域の可能性——2020 年のその先を見すえて」。

- 現在の東京をつくった偉人たち:後藤新平(幹線道路)。安田善次郎(日比谷公会堂)。渋沢栄一(井の頭公園)。

- セーフシティ。ダイバーシティ。スマートシティ。
- 多摩は人口の 3 分の 1。面積の 2 分の 1。昨年、多摩振興プランを作成。多摩は 2020 年の人口 422 万人が 2040 年に 398 万人。都の予算は 7 兆円。予算の総合交付金 490 億円から 550 億円に。製造業 5 兆円は東京都の 6 割。2015 年の観光インバウンド 1000 万、2017 年 1379 万人。多種多様な農産品・加工品。みどり率は 67% (都は 50%)。鳥の目・虫の目・魚の目。
- セーフシティ: 人に着目: 子育て。受動喫煙。児童虐待。医療。多摩ニュータウンの再生。防災。。無電柱化推進条例。
- ダイバーシティ: 幹線道路 6 割。南北・東西 7 割。公共交通ネットワーク。モノレールの延伸調査費。・産業: イノベーション。VR。都市農業。ブランド化。8 つの自然公園の総合ビジョン。
- スマートシティ: ゼロエミ。EV 充電設備。燃料電池車。二輪車。



細野専務司会のシンポジウム。

細野: 大学を核として次の時代を準備する。集積のメリットを出せているか? 交通の問題が大きい。

立川市の清水市長「南北の渋滞」。町田市の石坂市長「モノレール延伸を期待」。いなげやの成瀬社長「人出不足」キャリアマムの堤社長「職住近接。サテライトオフィス」。京西テクノスの臼井社長「人材が課題。4%しか就職しない」。創価大学の馬場学長「留学生 8%。留学生対応が課題」。帝京大学の沖永学長「留学生 3.5%。留学生対応が課題」。桜美林大学の畑山学長「留学生 7%。国際化とキャンパス拠点化」



創価大の馬場学長「生涯教育の拠点に」。帝京大学の沖永学長「日本人だけではやっていけない。留学生。新産業と自治体の有機的連携」。桜美林の畑山学長「国際線パイロット育成事業」。うなげやの成瀬社長「社員は多摩から取りたい」。キャリアマムの堤社長「サテライト。ジョブカード」。京西テクノスの臼井社長「日本にしながらグローバルマーケットを相手に。IoT。メンテ。インターンシップ採用」。立川市の清水市長「モノレール 90 キロ計画。今 16 キロ。隣接の 8 つの市で首長勉強会、そろそろ」。町田市の石坂市長「町田と立川をつな雲のレール」、...

2018 年 6 月 11 日 多摩大出版会編集委員会準備会合

多摩大出版会編集委員会準備会合。

私。松本多摩大総研副所長。杉田学部長。下井研究委員長。総研の池淵客員主任研究員。

今後の進め方。編集委員会のメンバー。、、、。



- 池淵さん: 各種プロジェクトの意見交換
- 金先生: 入試の「質」向上対策

2018 年 6 月 13 日 副学長日誌

事務局との定例ミーティング

2018 年 6 月 14 日 湘南キャンパス

湘南キャンパスに 12 時半過ぎに到着

- 早河課長:女子が多いので活気、。
- 野原課長:近況。
- 学部運営委員会:安田学部長、渡辺学科長、堂下就職委員長、太田入試委員長、高橋教務委員長、橋詰学生委員長、清水事務長、押金教務課長:質の向上。離学率。AL 入試。、、、。
- ライブビューイングによる「リレー講座」(多摩キャンパスから放映)に出席。ヤマトホールディングス株式会社の山内雅喜代表取締役社長「新たな価値を生み出すクロネコヤマトの満足創造経営～地域との連携～」70 名、うち学生 20 名。映像、音声とも良好。ヤマト



2018 年 6 月 15 日 朝は学部授業「ビジネス・コミュニケーション」で「図解広告」。夜は大学院授業「インサイト・コミュニケーション」で「図解文章法」

夜の品川キャンパスでの大学院の 3 時間の授業「インサイトコミュニケーション」の 5 回目。テーマは「図解文章法」。講義。解説。演習 1。演習 2。グループ討議。

参考文献:久恒啓一『図で考えれば文章がうまくなる』(PHP 研究所)と、久恒啓一『合意術』(日本経済新聞社)



以下、受講生の感想

- 本日は図解を用いた文章作成を学びました。文章を先に書いてしまうと、ムダな表現や重複表現が生じたり、肝心の説明が抜けていたりすることが往々にしてありますが、先に図解で構成を考えることによって、文章のムダや重複が大分省けると思いました。本を書く際にもよく目次(構成)から作る、という作業があるかと思いますが、図解と目次の双方で考えおくと、より整理して文章化できると思いました。先日、ある説明会でプレゼン資料に基づいた説明を聞く機会がありましたが、口頭では説明しているのに、肝心のプレゼン資料には大事な項目の記載がありませんでした。文章も同じことで、文章を書く前に言いたいことを図表化して項目を予め整理することが必要だと思いました。また、数学の教科書も、章ごとの構成を図表化すれば、数式の理解が進みやすいと思いました。図表化して章ごとのつながりが分かれば、苦手意識が生まれにくくなりそうです。
- 文章=内容×表現 (表現のノウハウ本は多いが、多くの人が知りたいのは内容の考え方) ・ 同じ図でも文章は人により異なる ・図解の使い手は翻訳家 ・論文は図解から
- 部品をたくさん作る→関係性(矢印)で全体図に。今回はいつもと逆で図から文章を作る演習でした。シンプルに表現された図から多くの文章が書けることを実感しました。また、図があると内容はぶれないので、文章の繋げ方や表現に注力して作成することができました。
- 先生の図解のおかげで短い時間の中で、論文に関する 5 冊の本の要点をおさえることができ、大変勉強になりました。図解の凄さを実感しました。授業では、図解から文章を作成しま

したが、関連する内容を接続詞で繋いでいくことで、スラスラと文章を書くことができたので驚きました。1枚の図解に落とすことで、全体を俯瞰しながら、項目の整理やつながり、関連性について考えることが如何に重要かを理解できました。修論にも活用できるよう、これからも図解の練習に励みます。来週も宜しくお願い致します。

- 今日の授業はこれまでと違い図解から文章を作成しました。こんなに簡単に文章が書けるとは驚きでした。矢印は接続詞、この使い方やつながり、関係性を考えることにかなり気を遣いました。設計図があり、接続詞を学ぶとラクに修論が書ける！図解がメッセージになるように、そのためにはメッセージとは何か、を明確にすること。短文かつ「が」の使い方に、まずは気を付けて図解のクセをつけていきたいと思います。
- 今回はこれまでの講義とは逆の図解から文書を作成しましたが、図解の偉大さが実感できました。図解があれば文書を作成していても論理的に構成でき、文書を書くことが苦手であることを忘れる事ができました。また、接続詞(関係詞)の重要性が体感出来ました。修論を作成していく上でも貴重な手法を知ることが出来、後は練習あるのみです。次週も楽しみにしております。
- 文章読本の流れ、文章の書き方。今回の授業は、図解を見ながら文章を書く授業でした。この授業で気がついたことは、すべての図解を取り入れることは難しい。そのために自分がキーであると思う図解を強調する。文章の中に出てくる書物についての出典を明確にしておく。各章にストーリーを与え読みやすくする。長文は書かずに短文を繋げる。序論に主題を明確に記載し、結びで数行にまとめる。以上今回の文章作成で学びました。授業の回を重ねるごとに自分が成長していることを実感する講座です。

以下、留学生。

- 今日の授業は図解から文章を作成しました。文章書き方はどんどん理解できるようになりました。論文書きはテーマが決めて、論文の構造を考えることになります。又、論文で重要なのはメッセージだとわかりました。そうすれば論文がうまく書けるようになっていく理解できました。先生の授業では留学生の私にとって、知識ではなく、日本語も大変勉強になります。先生、ありがとうございました。
- 今日の授業は先生から論文の作成方法の図解についての授業をしていただきました。本当にsurpriseした。これは論文の作成に直接に役立つと思います。ますます先生の授業が好きになりました。私達のグループの韓国代表は私達の東亜聯盟の感想を非常に上手く現していただきました。私の図解は初めより上手くなったと言われましたが、☺☺新しい図解をしましたので時間がかかりました。やはり日本語がまだ不得手の私が論文を書く時には、先生の本の役に立つと思います。明日、接続語など教えていただいた本『図で考えれば文章がうまくなる』を注文します。
- 図から文章に転換することをやりました。凄く面白いです。勿論、難しいところもあります。図

を読みながら、文章を書く時、最初で、どこから書いた方がいいですか、また、最後に、どうやってまとめますか。

- 全体像の重要性について以前より感じました。中国でも、文章を書く前に、先に内容全体のアトラインを列ぶから文章を書くと言うテクニックがあります。今回、先生の授業を受けて全体像から文章に書く方法も勉強して、良い練習になりました。自分の論文にも実際に試してみます。しかし、文章から図表も、図表から文章も、どちらも簡単ではありまないと、再び分かりました。練習して、上手い図を書けるように頑張ります。

午前と午後は多摩キャンパス。

- 10 時：橘川先生：児玉・高崎。桃原・西村。北田、、、。いつものことながら仕掛けがすごいや。
- 10 時 40 分：ビジネスコミュニケーションの 9 回目の授業。「図解広告」を作成。
- 山本さん：Tスタでのその子先生との録画日程。
- 客員の河合先生と懇談：ドラマの歴史監修者の仕事などのひろがり。



2018 年 6 月 16 日 インターゼミ(社会工学研究会):研究計画発表会を開催

インターゼミ(社会工学研究会):研究計画発表会を開催。

サービス・エンターテイメント班「日本の消費の原女医と今後の展望」



地域班「ソーシャル・キャピタルから紐解く持続可能な地域社会ー若者が考える豊かな地域とは」



多摩学班「100 年時代を幸せに過ごす社会システムの要件とは」



AI班「くらしを助けるAIとしごとを取って代わるAI」



アジア・ユーラシアダイナミズム班「モンゴル帝国の興隆と衰退ー大英帝国との比較を通して」



2018 年 6 月 18 日 会議二つーアクティブラーニングと入試「質」対策

大学

- 10 時 40 分:アクティブラーニング支援センター運営委員会:経営情報学部、グローバルスタンディーズ学部、大学院の責任者・担当者。授業評価。図書館。ICT教育。
- 12 時半:入試「質」改善対策ミーティング:杉田学部長、金入試委員長と。
- 14 時半:高野課長:出版会

2018 年 6 月 20 日 学部運営委員会。

- 杉田学部長:会議の打ち合わせ
- 10 時 40 分:学部運営委員会:入試の「質」対策とホームゼミのあり方が中心テーマで白熱。

- 松本先生
- 中村その子先生
- 金先生・杉田先生

2018 年 6 月 21 日 リレー講座:寺島学長「米朝首脳会談」と「17 世紀オランダ論」

リレー講座:寺島学長「17 世紀オランダからの視界ー近代を問い詰める」



米朝首脳会談

- トランプ: 中間選挙向けの政治ショー。ディールがキーワード。カウボーイメンタリティ。米国民はこの会談を 5 割以上が評価。
- キム・ジョンウン: 朝鮮半島の段階的非核化。同時進行。在留米軍 3.2 万人の削減と非核化。中短距離ミサイルは？ IAEA 査察などの手続きは？ 中国の航空機でシンガポール往復は身を委ねたこと。中国のプレッシャー、猜疑心、恐怖心。
- 周金平: 和戦両用とも中国には望ましい。平和は中国への依存が増す。衝突時には米より先に軍事駐留。強権化と強大化。香港の民主勢力の締め付け。台湾への経済圧力。同時期開催の上海協力機構にはプーチン、ロウハニ、モンゴル大統領が出席。一帯一路・AIIB など構想力。
- 日本人拉致問題: トランプ「人権問題」。日帝 35 年の半島支配時の人権問題も(従軍慰安婦、労働者強制、)。日朝首脳会談。戦後賠償。韓国には現在価値で 4 兆円。南北共通のテーマとして「反日」の人権問題が浮上？ 日本人は肝が小さい。主体的構想が要る。成熟した民主国家への期待が世界にある。東アジアのリーダーにふさわしい知見が必要。

17 世紀オランダからの視界: 世界を見る視界の再構築。歴史の鏡を磨く

- 1997 年ー 2002 年: フォーサイト「1900 年への旅・ヨーロッパ編」「1900 年への旅・アメリカ、アジア編」。20 世紀とは何だったのか？

- 2007 年ー 2010 年:「脳力のレッスンⅢ・問いかけとしての戦後日本と日米同盟」。戦後日本とは何か？
- 2010 年から「17 世紀オランダ論」連載 49 回:近代とは何か？ 17 世紀オランダはデモクラシ O・資本主義・科学技術・高い文化など「近代」の揺籃期。アメリカの誕生への影響。ロシアのピョートル大帝のサンクトペテルブルグはアムステルダム我真似。極東開発で 1804 年以降北から日本へ圧力。集合的知、結晶的知、第 3 の知能は仏教でいう「意識」。つながりが見るのを知性と言う。つながりの中で日本史が見えてくる。
- グローバルヒストリー(世界史)からビッグヒストリー(人類史)、地球史、宇宙史へ。「多摩の地域史が世界史につながる瞬間」。江戸の日本の知は儒学(中国)、国学(日本)、蘭学(欧州)、。丸山眞男という壁、小林秀雄という壁を越えねばならない。寺島の特色は世界を見ていることで、クロスカルチャーの視点あり。西洋史観(西から東)。中華史観(鄭和の大航海。世界の 4 大発明)。モンゴル史観(元・清葉は異民族支配。岡田・杉山など日本の研究が最先端。右翼論客が支持)。すべてを相対化していく。今後は中国の強大化につき合うことになる。2000 年 4 分の 1、2010 年並ぶ、2018 年 3 倍、2038 年 6 倍から 9 倍。今後、文理融合でビッグヒストリーに迫っていく。

その他

- 松本先生:日程調整
- 学長:SNS時代の知的生産の技術、。。。。
- 高橋さん:ジェロントロジーと知研。

2018 年 6 月 22 日 副学長日誌

10 時:橘川先生と懇談。マツハ新書。留学生アンケート。

10 時 40 分:授業。今回のテーマは「自民党憲法草案」。

12 時半:Tスタジオで橘川さんと「トレンドウオッチング」の録画。「無限教師」と「マツハ新書」。



2018 年 6 月 23 日 副学長日誌

午後は、品川キャンパス

- 金先生・浜田先生：日経広告。ホームゼミ。
- 福井さん：研究開発機構の議事録
- 大学院教授会

夕刻は、九段サテライトでインターゼミ。金先生と意見交換。

2018 年 6 月 24 日 後援会主催の教育セミナー

後援会主催の教育セミナーを開催。

第一部：中村会長挨拶。杉田学部長講演。学生による学ぶ・挑戦・志の報告会。

キーワードは「問題解決力」「グループワーク」「自治体・企業との連携」だ。

2 年生の馬場君：アクティブラーニングで 1 年次に飛騨高山。大学連携センター。久々野町。事後報告会。アクティブラーニング発表祭。現地報告会。提案した「学生連携センター」が実現し、実践の段階に。（丹下先生「インターゼミ、地域ゼミ。提案から実践に。7 月、10 月に訪問。成長した」）

2 年生の川村君：多摩のネコサポステーション（ヤマト運輸）。生活支援事業のイベントの企画運営。（中村その子先生「こういったプロジェクトは外からの評価がある。予想外のシチュエーションへの対応あり」）

4 年生の荒井君：海外。1 年次ニュージーランドで語学研修。2 年次中国広東財経大。3 年次カンボジアで「サムライカレー」インターンシップ。グローバル企業に内定。（バートル先生「多摩大の国際交流はホップ、ステップ、ジャンプ。参加学生の 100%が自信と意欲。荒井君はすべて経験」）



第二部：ゼミ別懇談会。アクティブラーニング個別説明会

2018 年 6 月 25 日 T-Studio『名言との対話』、第 32 回は石川晴子先生の座右の銘「一期一会」を巡る対談

T-Studio の久恒啓一の『名言との対話』。第 32 回は石川晴子先生との「座右の銘」対談の初回。テーマは石川先生の座右の銘「一期一会」を巡って。

多摩キャンパス

- 高野課長: 情報交換
- 渡辺さん: 戦略会議の資料
- 下井先生: 学部の課題と方向について意見交換

2018 年 6 月 27 日 トレンドウオッチャーの第 14 回「無限教師」

- トレンドウオッチャーの第 14 回「無限教師」。
「ライフワークとして参加型メディアを追求してきた橘川氏。現在のインターネット環境には、満足と絶望が半々。根拠のないデマやフェイクニュースが蔓延する昨今の状況に、もう一つのインターネットを模索中。開発コードは「無限教師」。記名でコンテンツを発信する全く新しい e-learning について解説します。」
- 学部運営委員会: 済州島のフォーラム出席者が多く、違った雰囲気。
- 教授会: ホームゼミの方針
- 杉田学部長・松本地域センター長: 人事
- 事務局との定例ミーティング: 後援会セミナーの総括。教員との懇親会スタイル。
- 学長室の渡辺さん: 戦略会議。入試。就職。そして今週の教務。

2018 年 6 月 28 日 副学長日誌

午前が多摩キャンパス。

- ラウンジで中村その子先生: ゼミのあり方。
- Tスタで中村その子先生と対談。その子先生の座右の銘「あわてず、さわがず、たじろがす」を巡る会話が 30 分。どんな仕上がりになるか、楽しみだ。



- 夕刻は、品川キャンパスで大学院運営委員会に出席。2019 年度学年暦。ディプロマポリシー。2019 年度カリキュラム。春学期VOICE。教務分科会報告「紀要」。入試広報分科会。FD研修会。多摩大出版会。
- その前に今年 3 月 28 日に開館した新大塚の「鈴木信太郎記念館」を訪問。フランス文学者。

2018 年 6 月 29 日 大学院「インサイトコミュニケーション」の 6 回目の授業——日本・韓国・中国の高齢化事情

夜は品川の大学院の 6 回目の授業。いくつかのグラフ、表を題材に図解化する作業に挑戦してもらった。ほとんどの受講生が受講し、人数が多かった。



受講生のアンケート(フェイスブックへの書き込み)から。

- 本日もありがとうございました。まずは自分なりの仮説を立てて、その裏付けとなるデータを集めていくという流れは他の講義で学んだことと重なり印象に残りました。図解にする、図解にできるということは事柄をロジカルに説明できるということであり、その力がまだまだ足りないと感じました。
- 図解できる人は人生も仕事も、プレゼンも、最短で最大の結果を得ると思います。時間をかけて、だらだら説明するのは非効率。図解し、図解する際に論点や重点を頭で整理できるよう、また次回、スキルを磨きます。早退申し訳ありません。ありがとうございました！
- おつかれさまでした。今日の授業では、テーマが決まらなないとデータは集まらない、テーマが

決まると磁石のように情報が吸い寄せられるとのこと、数字、具体的な事例を入れて自分の仕事を通じたストーリーを作ることを学びました。正直難しかったです。この授業ではいつも皆さんの発表から、多くの新しい気づきをいただきます。今日も同じ経済データを見ているのに、どこに着目して、ストーリーを作っているのか、とても面白く参考になりました。ありがとうございました。

- グラフや表を繋げて図解し、数値を読む。・大数、トレンドから読む。・海外のことを知る。図解して繋げることで、新たな仮説が生まれる。それを検証するために、新たなデータが必要となることもある。今回の演習をしながら、追加でこんなデータが必要になるかもな…と考えながら進めていました。
- 今日の講義は、表や数値から図にする方法を学ぶ事でした。図にするには、数値から結論や傾向を読み理解しなければ図にする事は出来ない事がわかりました。一歩前進です。
- グラフや表から図解に表現していく講義。他のクラスメイトからも多くの発見や気づきの学びを得れることもこの講義の良いところです。世帯構造の変化について、まとめました。つまり、結婚して子供もいる家庭というのが、35年前の半分近くに減っています。このまま、単身世帯が増えていくと、孤独死などの問題にもつながっていき、大きな社会課題ともいえます。ただ、あえて単身という道を選ぶ人も少なくはないようです。
- 大数からの比較。海外との比較(韓国・中国)。我々は比較から物事を把握することができる。アンテナを貼れば情報がはいつてくる。Chance favors prepared mind.
- 難しい課題で初めは少し困惑しましたが、課題を決めてから多数ある情報の中から必要な情報をまとめるのに時間はあまりかかりませんでした。初めの課題設定の重要性がよくわかりました。また、韓国、中国の今まで知らなかった情報も詳細に伺えて面白かったです。次回も楽しみにしております。
- 今日の講義では、文章の図解にデータを加えることで説得力が増すことを実感できました。また簡潔に分かりやすくキーワードや数字を使わないと情報過多になるし、シンプルにしすぎると内容が浅くなるので、バランスも大事だなと感じました。少子化の話の際に、中国では、親がマンションを子供に買うという話を聞けて、2人目を欲しがらない中国の方の話と繋がりました。孫さん、ありがとうございました。
- 前回は、COA Consulting にことで、弁護士事務所に行かせて頂いておりまして、だいぶ喋らされたので、そのままお休みさせて頂きました。法的に、何も無いようで、安心でした。全部の表を使えるのが良い、との先生からの課題に、全部の表から単語を使って、完成させました。現在、業界として1番大きな通信業界ですが、良し悪し色々で、悪循環な図にもなりそうでしたが、良いネットワークが広がるのは、良いことだと思いました。教育も通信で安いのは、助かる人も多いと思いますが、ちょっと寂しいなとも、感じました。
- 本日は、経済データからテーマを考えて図解することを行いました。発表内容としては、日本以外の経済事情の話を伺うことができ、大変勉強になりました。かつ、発表内容も面白かったです。データからテーマを考えるのではなく、テーマからデータを使う、という順路が非常に

重要なことだと、発表している皆さんの内容を拝聴して改めて感じました。

- 今日のテーマはかなりタフでした。文章から図解することにはそのストーリーを把握してロジックを構築して図式化すれば良いのですがデータを読み解く事から始めると自らストーリー作成をしなければならず更に図解するという事で二倍手間がかかります。しかし実はビジネスシーンではこの様な状況は多く存在しており実験データの分析や経営指標などよく目にします。これらの数字を単に眺めるのではなく数字を読み解いてそこで語るべきストーリーを作り、さらに分かりやすく図解して伝えるという一連の流れを意識せずに出来るよう経験を積みたいと感じました。また発表もお国事情が出ていてとても興味深かったです。ありがとうございました
- 結局、内部留保を増やす背景としては、経営は倒産リスクが問われるのと、一度上げた給与は落としにくいこと。配当は、うるさい株主が社員への還元はいつでもよく、将来への投資より自分達への配当を求めるからなのだろうか？政治も大きな問題ですが、経営者の資質も問われている時代なのだと思います。本気でやれば日本はまだ間に合うのが分かったことが良かったです。

以下、留学生。

- 今日 私が選んだテーマは都道府県別総人口増加率でした。下記、2つの図は比較で、日本の高齢少子化の影響を激しく与えています。2018年推計により、日本の47都道府県のうち、人口が増加しているのは東京都しかないでしょう。人口が増加しても、0.7%しか増えません。人口減少率が高い県のは秋田県です(-41.2%)。晩婚・晩産化の問題は一つの原因だと思います。今日の授業のお陰で、また大変勉強になります。先生 ありがとうございました。
- 数字とデータから、図表や文章に書く練習をやって見ました。資料と皆さんの発表からにも、また日本人口や経済などのことを勉強しました。ありがとうございます。
- 自分は初回の授業と比べて、図表を書くことも、文章を構成することも大分上手くなった気がしました。また、次回の授業も楽しみにします。
- 「都道府県別総人口増加率」をテーマとして選定しました。人口問題について関心を持っています。現在、日本の少子高齢化問題が深刻です。実は、中国も数年後そのような状態になる見込みです。さらに厳しいかもしれない。現在の日本の政策を学んだほうがいいと思います。また、文字フォームを曲線グラフに転換したら、一目瞭然となりました。
- 「日本人の不安の心理の蔓延」について、図解しました。現在の日本は多くの問題があります。例えば、格差が大きくなり、消費低迷、社会人は仕事への情熱が低く、若者は革命、変革に関心なしなどです。これらの問題は不安心理の蔓延と密接な関係があると思います。また、もっと深く考えると、なぜこれらの問題が起きたのか、問題の本質は何だろうか。自分で分析してみて、原因が2つあると思いました。1つは経済低迷です。もう一つは人の価値観の変化ということです。ところで、人の価値観は非常に重要です。個人にとって、価値観が個人の思想と行動を支配します。国にとって、国民の価値観が国の発展に影響を及ぼすと思いま

す。もう一つの感想があります。社会問題を説明する時、詳しい数値がなければ、説得力が弱いということです。

- 皆さんの発表は非常に素晴らしかった、他人の発表をかけて現今の日本及び世界で白熱化社会問題を勉強になりました。それぞれの国の学生の発表から外国の社会問題状態を触れました。今回私は 世界の高齢化の現状と今後について、図解の担当しました。グラフによると世界経済先進主要な国とアジア経済発展中心国の高齢者の比率の変化値が分けてデータを示して、結局高齢少子化の人口要因は未来の全世界で直面しなければならない global 社会問題である。人口要因は、国家地区の長期的な経済発展に影響を与える重要な要素であり、政府からの財政支援、移民政策の支持などが直接出生率の向上に影響し、文化の伝統的な種族文化保護は、中長期の地域ひいては世界経済の発展に対してくびきの反作用が存在し、先進的なヨーロッパ、古い文明のヨーロッパ文化は、時と共に入ることができなければ、地域社会の人類文明の進歩を阻害する束縛となるだろう。高齢化社会が入ってからは、国家、政府、企業個人側から対応するか、より重要な認識が避けなくて、国家、社会人、個人は、自側から、目の前の利益を見てることだけではなく、グローバル全人類の観点から、そのまま対策しなければ人類の滅亡の可能性があるとということが大きな試練に自らの貢献をすることができるだろうか。



午前:多摩キャンパス

- 授業「ビジネスコミュニケーション」の11回目。テーマは「新聞の社説」の図解化への挑戦。自信を持つ人が増えてきたようだ。

午後:九段サテライト

- 大学戦略会議:テーマは「教務」。ゼミの体系化。適性科目数の考え方と実現方策。
- 大学運営会議:戦略会議の「入試」と「就職」を報告した。大学の業態転換。社会課題の実現。資格制度設計。高度IOT人材。プロジェクト!。「ジェロントロジー宣言」、...

2018 年 6 月 30 日 インターゼミ

インターゼミ

学長講話:

全体知を目指す。100 歳人生。納得のいく創造的人生。流動性知能と結晶性知能(つながり)は認識。。第三の知能「唯識論的知能」。5 識(5 感、)と深層意識(美意識など)は意識(仏教の教えをスタディ!)

大学のビジネスモデルの変革。ジェロントロジー(高齢化社会工学)。

今夏 2 冊「20 世紀と格闘した先人たち(アジア・アフリカ編)」と「若き日本の肖像(欧州編)」(再読!)。中年の危機の克服は、使命感と出会い。「多摩の地域史」「江戸期の日朝関係」「江戸期の日中関係」を読め(図解化!)



2018 年 7 月 5 日 リレー講座:岡崎守恭「政治の底流を読む」

学長: 松本先生と一緒に「大いなる多摩学会」について説明。

リレー講座: 岡崎守恭(歴史エッセイスト。元日経新聞常務執行役員)の「政治の底流を読む」。

- 学長による紹介: 北京、政治部長、大阪、名古屋。中曽根と金丸の「履歴書」。博覧強記。文化人としての厚みが心を動かす。
- 講義: 10 年たって荒涼とした風景が広がる。55 年体制への回帰。自民党(保守)、立憲民主党(リベラル左派。旧社会党)、国民民主党(リベラル右派。旧民社党。補完勢力)。55 年体制との差異は若者の保守化(63%が自民支持。小泉政権までは 30%)。U 字型(40 代・50 代の自民支持が低い)。男は安倍支持。安倍政権が日常風景に。憲法改正が悲願というのは見せかけ。九条への自衛隊の書き込みでは何も変わらない。2019 年 4-5 月に発議か、2019 年 11 月に発議か。公明党は「下駄の雪」化(09 年衆院選 805 万票、10 年 763 万票、12 年 711 万票、14 年 731 万票、17 年 697 万票)。安倍晋三政権は今日で 2384 日、吉田茂 2616 日(2019 年 2 月 23 日)、伊藤博文 2720 日(6 月 7 日)、佐藤栄作 2798 日(8 月 24 日)、桂太郎 2886 日(11 月 20 日)。2021 年 9 月 30 日に安部は 3567 日に。消費税は 2019 年 10 月に 10%

(骨太の方針「実現する必要がある」。安部にやってもらった方が、)総裁選は竹下派が「ウチも安部」と言えば終わり(細田派 94 人、麻生派 59 人、竹下派 55 人、岸田派 46 人、二階派 44 人、石破派 20 人)。首相動静の見方(地方行脚)。2018 年(第一回投票は地方票 405、議員票 405。決戦投票は地方票 47、議員票 405)。安部は北朝鮮さまさま。三選したらレームダックになる。中曽根は行革をやったことで総理になった。仕事はしなければならない。石破や野田は何をしたか。



理事長との報告・意見交換:杉田学部長と。人事。ゼミ。

2018 年 7 月 6 日 学部の授業:図解のテーマは「新聞の社説」と「日本の論点」。受講生の反応は?

「ビジネスコミュニケーション」の授業の 12 回目からは、文藝春秋『2018 年日本の論点』で、各界の論客が書いた政治から経済、社会、技術、スポーツ、文化にいたる論文を図解するという難題に挑戦する。そしてパワーポイントによる図解の描き方を講義。以下、アンケートから

- 図解の本質に気づいた。自分の意見をようやく持てるようになった。図解は生きる上で必要。決断力に欠けていたが、図解で全てが変わった。自分の考えが 180 度変わった気がする。
- 北朝鮮とアメリカの問題について図解したが、悩んだが最後は良い図が描けた。中国が大きく変わっていることが分かった。今頭の中でも図が浮かんでいるので良い PPT が作れるように授業も頑張りたい。
- 自分の課題は睡眠についてだが、実際色々悩んでいた事なのでどんどん深掘して理解を深めたい。
- 文章でどれだけ凄い人がどれだけ凄い内容を書いても、内容があまり入ってこないのは納得がいく。図解を駆使してパワーポイントでもできるようになりたい。
- 新元号の話は中々面白かった。元号の変わるメカニズムが知れて良かった。
- どのようにすれば分かりやすくできるのか?というのが、経営情報という分野に沿っていると

思えた。IT を経営で活かす、どう活かすかがポイントであると分かった。

- これからの教育は「学力」や「偏差値」では勝負できない。必要なのは「モチベーション」である。
- 読む時、色ペンを上手く使うことで理解しやすくなることを学んだ。就職において学歴はもう関係なく実力主義であり、自分の得意分野に合った大学を探していく必要があるということを知った。
- 授業外の時間も使って取り組むようにしたい。・どこが重要で、どこが必要ではないか判断できるようになってきた。
- 一人一人違う資料なので一人で見えてこなかった部分があり、みんなと協力してやるのでは違うものが見えるため、勉強になった。・自分の課題のテーマが、論理的な文ではなく、出来事をただ書いているだけの論文に見え、図解しにくいと感じた。
- 今回のテーマは研究のしがいがあると感じた。
- パワポだと修正や追加などが容易に行えるので便利だと思った。
- パワーポイントについて詳しくなった。・パワーポイントが図解のためのものだと思ってなかった。・パワーポイントの使い方を本やネットなどで調べマスターしたい。
- パワーポイントの説明が分かりやすかった。
- 図解を駆使してパワーポイントでもできるようになりたい。



前回の新聞の社説の図解に挑戦した 11 回目の授業アンケート。自信がついてきたことがうかがえる。

- 社説を図解したことにより自分に自信がついた。これから武器にしていくことが出来る気がする。・
- 図を書くのが少しずつ楽になってきた。成長を感じる
- 11 回目なので図解が上手く書けるようになった。
- 図解する能力がついてきた。読解力を身につけたい。
- はじめと最後の結論を先に読み、全体を理解すると、内容、関係性が分かった。
- だいたい慣れが出てきてスムーズに頭が動くようになった。
- 何事も練習、経験により上達するのだと理解した。

- スラスラ書けた。重要なキーワードを探し当てられるようになった。・スラスラ図解できた。
- 図解して自分の意見を持てた。
- 図解の書き方の能力が上がり、特別講座の松本先生の講義の時、図解で分かりやすく鮮明に書けた。この講義を受けて良かった。
- 楽しく図解できた。もっとたくさん図解したら、もっと簡単になるのかと思うとわくわくする。
- 図解でき大きな達成感があった。
- 完成した図をみて頑張ったと思った。
- 図にする時に内容をしっかり読むので詳しくなった。
- 図解の書き方のポイントが分かってきた実感があった。
- 図解を自分の武器にしたい。
- 関係性を組み合わせていくのがパズルの様で少し楽しく感じた。
- 頭の回転が速くなった気がする。
- 大事なところをまとめる能力も上がったと思う。・社説を毎日チェックしようと思った。

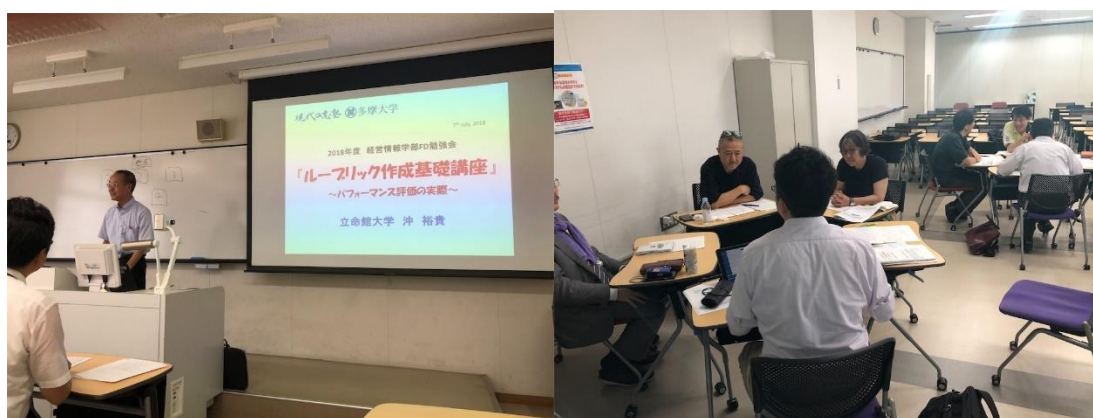
その他

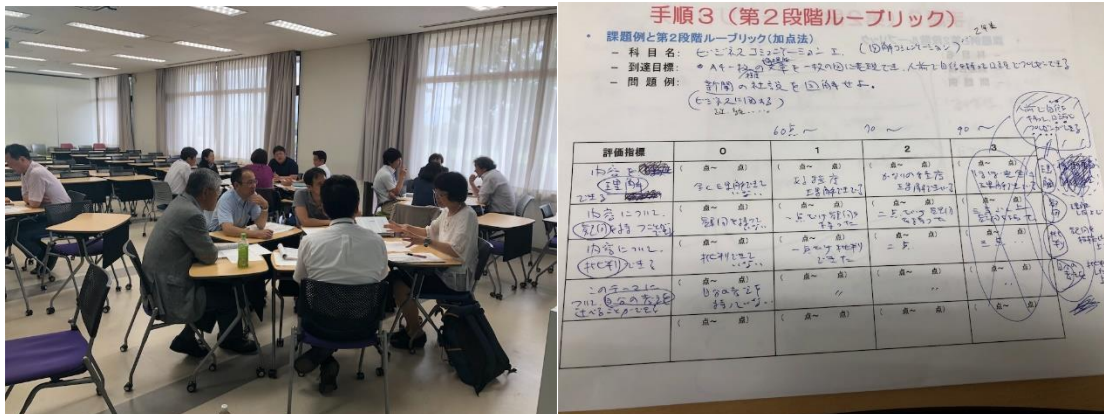
- 橘川先生：フリーあご足マッチング PJCT。子ども向け図解教科書 PJCT。デベソ。ロート。会社。、、、
- 事務局との定例ミーティング

2018年7月7日 多摩キャンパス：FD研修会（ルーブリック）。湘南キャンパス：日本国際文化学会での学長講演。インターゼミ

多摩キャンパス

10時：FD研修会「ルブリック」。





湘南キャンパス

- 14 時半: 学長と面談: 人事
バートル先生: 出版
杉田学部長: 人事
- 15 時半: 日本国際文化学会で学長講演「知の再武装」。



- ・ 文化は人間の全体知。世界認識と時代認識。
- ・ デジタル専制。ニューセブンスターズ(520 兆円) = GAFA(412 兆円) + M(108 兆円)。データを握っているプラットフォームーズ。日本のトップ 5 の合計は 62.9 兆円。日本のものづくりは利益はあがらない。カエル跳びの経済。夢にカネがつく時代。第四次産業革命 = ITXFT。データリズムの時代。アマゾンが金融に入ったら？
- ・ スマホ人生とショッピングモール人生。つながるのは便利だが、つながれる情況。ネットワーク情報革命の本質とジレンマ。
- ・ アジアダイナミズム: 2018 年予測の一人GDP: シンガ 6.2 万ドル。香港 4.9。日本 4.1。韓国 3.3。ブルネイ 3.3。台湾 2.6。中国 1.0。タイ 0.7。日本を除くアジア(中国・インド・アセアン5、,) %代後半の成長が続くと 10 数年後には現在の 2 倍。アメリカとの貿易 15.1%

(2011 年 11.7%からGAFA+Mで経済好調)。中国 21.7%(政経分離)。港湾ランキング:東京 31 位・神戸 55 位・横浜 57 位・名古屋 59 位・大阪 83 位に転落。トップ 10 は中国中心、5 位プサン(米国へ 2 日速い)。米中の貿易は日米の 3 倍。

- ・ スーパーメガリージョン審議会:9 年後に東京名古屋 40 分。7000 万人の太平洋ベルト。早ければ 2037 年(20 年後)に東京大阪 1 時間。
 - ・ 戦後日本人の欠落は日本近代史のブラックアウトという時代認識とメルカトル図法による世界認識。地球儀。人流ではインバウンド 2800 万人が、6000 万人になる。8 割はアジア。期待と不安。文化摩擦。
- ・ ジェロントロジー宣言:人口減少(2045 年:秋田マイナス 41.2%。北海道 500 万が 370 万。札幌に 270 万。キャピタル都市への人口集中)。1996 年 1 億人、2008 年 1.28 億人、2053 年 1 億人。65 歳以上は 6.7%から 38%へ。高齢者が社会参画するプラットフォームの設計。特に都市郊外型高齢社会での参画。農業、6000 万人のインバウンドへの対応。今後様々の事業展開。それが社会の安定につながる。
- ・ フロイトとアインシュタインの対話:暴力への誘惑あり。文化力で抑えることができる。知性で欲望をコントロール。知の力:流動性知能(覚える)。結晶性知能(つながり)。第三の知能「唯識性知能」を提案。AIは認識(recognize)・人間には意識(consciousness)がある。五識(眼識・耳識・鼻識・舌識・身識)と仏教の九識(六識「理知・感情」。七識「末那識(まなしき)・八識「阿頼耶識(あらやしき)」・九識「阿摩羅識(アマらしき)」。宗教は意識。人間が神をつくった。

● 17 時:インターゼミ



2018年7月9日 話題の「舞浜倶楽部」(介護付き有料老人ホーム)を見学——食事と音楽と人間関係。

新浦安の「舞浜倶楽部」を総研・松本先生と見学。グスタフ社長と廉隅顧問から説明を受ける。外観はエミルタージュ美術館を模した建物。



スエーデン式。食事と音楽。地域の力。地域と地域のつながり。ブンネメソッド。タクティールケア入門。ソーシャルサポート。認知症カフェ。サポーター養成講座。人材不足がテーマ。日本はコミュニティづくりに優れている。多様な主体の協働。人が集まるのは食事と音楽。看取りケア。おいしい食事と活発な人間関係。個人史(バックグラウンド)。多世代交流。食事は委託しない。一人一人の好みを把握。ブンネギター。クリニック併設。スタッフ120名で76名。普通食・嗜好食・軟菜食・ミキサー食・行事食・配慮食・きざみ食・医療食・特別配慮食。食事と排泄をきれいにまわす。チェックリスト3000。ピル・ケース。人材育成が一番。離職率が目安。

2018年7月11日 準備していると考えがまとまってくる。情報交換が次の行動を促してくれる。対話しているとアイデアが浮かんでくる。

多摩キャンパス

- 授業準備:学部・大学院。
- 講演準備:準備していると考えがまとまってくる。
- 高野課長:打ち合わせ。情報交換が次の行動を促してくれる。
- 中村その子先生:教務の課題。将来展望。対話しているとアイデアが浮かんでくる。
- 荻阪先生(客員):日経出版から出す4冊目の近刊の相談と報告を受ける。

2018 年 7 月 12 日 リレー講座「知の再武装」

- 松本先生: 大いなる多摩学会。人事。
- 学長: 人事案件の進捗。近刊著書の報告。知研の新プロジェクト。
- 杉田先生: 人事。
- リレー講座: 寺島学長



- ・ 知の再武装。『ジェロントロジー宣言』(NHK出版新書)。3つの知能。1・流動性知能(博識。記憶力・IQ、。年齢とともに衰える)。2・結晶性知能(判断力。体験・文献・出会いなどによって知と知のつながりがみえてくる。努力次第で高まってくる。ヨコ)。3・唯識性知能(本質を感じ取る感受性。心に中の深さ。タテ)。五識五感(センサー)、九識(六識。七:末那識。八:阿頼耶識。九:阿摩羅識)。AIは「認識」、目的手段合理性、recognize)。人間は「意識」、感動・宇宙・世界・美意識・宗教、consciousness)。仏教は無神論。思想。釈迦は自分の悟り。世親が唯識論を唱えた。それに超越的な神秘性を附加(加上)し変化したのが衆生救済の「大乘仏教」。三島由紀夫「豊饒の海」の第4巻「天人五衰」。松尾芭蕉「よくみればなずな花咲く垣根かな」。観音は聞こえないような小さな音を観る。聞は見えない光を感じ取る。
- ・ 人類史における宗教。6 万年前: アフリカからホモ・サピエンスのグレートジャーニー・3.8 万年前: 日本列島に到着。1 万年前: 定住。コミュニティ・協調・配慮・利他愛)。2500 年前: ユダヤ、ブッダ、孔子。
- ・ 人間とは何か。生命科学の発展とAIの進化によって問い直されている。動物行動学・進化認知学。2003 年にヒトゲノム解読終了。チンパンジーとは脳のDNAは 1.2%の違い。個体差を含めると1.06%。それは言語と意思疎通、コミュニケーションの分野。意識の深さ、思想、宗教。サルは現実・人間は空想。「サピエンス全史」では虚構を生み出す力が人間。
- ・ 「1968 年再考」。50 年前。フランス 5 月革命。アメリカはベトナム反戦、黒人の人種差

別撤廃運動。アメリカが色あせ。ソ連の軋み、プラハの春。中国は毛沢東の文革。中南米はゲバラとカストロ、日本は大学紛争、日大・東大闘争。トランプはウオートンビジネススクールの2年生でカネと女。1989年「7月4日に生まれて」はベトナム戦争で傷病兵で帰還した主人公が蔑視で傷つく物語。対照的。クリントン（徴兵拒否、ドラッグ、フリーセックス、）と同年。

・ 今の時代をどう思うか。

1・「なぜか。国会で参院の定数6人増」。自堕落さ極まれり。互助会。怒り。問題意識。消費税増税だから議員定数削減という約束の反古。議員は人口比でアメリカの2倍。2億円×6人×6年=72億円。人口3割減少していく中3割はヒアスののが当然。

2・「なぜ北海道に米軍基地がないのか、なぜ沖縄に米軍基地が70.6%も集中しているのか」。沖縄：人口増加中。基地依存は5%。観光立国で自立。出生数増加と高齢者の移住。日米安保は対ソ連。米軍は北海道から一番遠い沖縄に陣取った。首都圏には横田基地、厚木基地。日本帝国主義復活を抑えるのが日米安保という「ビンの蓋」論。本当に必要な施設は何か。三沢から沖縄までを一つ一つテーブルに載せる。進駐軍のステイタス、思いやり予算。独立国に外交群が常駐という異常さ。ドイツは冷戦後に基地の段階的縮小と地位協定の改定を行い主権を回復。気づきと問題意識から、調べ、自分の考えをつくっていく。

3・「金ジョンウンはなぜ中国の飛行機で米朝首脳会談にシンガポールに行ったのか?」。中国の恫喝、恐怖心。アメリカ主導の半島統一の直前に北朝鮮に中国が軍事介入・駐留し、グリップするという戦略。南との融和に走り、中国には3回行った。カリュウ「中国は北に首輪をつけた」。周金平二次政権の実績として香港・台湾・北朝鮮が必要。

・ 「ジェロントロジー宣言」。都市郊外型高齢化が問題。高齢者を生かしきる、支える側にしていく。食と農、観光立国に対応する高度観光人材。一緒に時代を切り拓いていきましょう

2018年7月13日 午前は学部授業。夜は大学院授業。――テーマは文藝春秋『2018年の論点』

- 学部授業は13回目。
- 橘川先生：情報交換。
- 岩澤さん：図解ウェブのブラッシュアップ。
- 夕刻から、品川キャンパスで大学院の授業の7回目

文藝春秋『2018年の論点』の論文を題材に図解演習と3分間の発表。

富山和彦「医療、自動社、、シリアスな産業がデジタル革命の主役に」。佐藤優「教育の大改革 新時代に必要なスペックとは?」。後藤謙次「チルドレンはいらない 政治家に競争原理

を導入せよ」。所功「新元号はいかにして決定されるか」。飯田将史「戦前の日米関係と酷似米中衝突はあるのか」。橘玲「国家を超える！？ 電子貨幣ビットコインの可能性と弱点」。岩下直行「フィンテックは金融ビジネスを根底から変える」。井上久男「すべてのクルマがEVになる日はくるか」。牧野知弘「民泊ビジネスは地方でこそ推進せよ」。落合陽一「誰が生き残るか？ AI時代の起業に必要な条件」。草笛一郎「年間 150 日休むドイツ人の働き方」。橋田壽賀子「92 歳の私が安楽死を考える理由」。外岡潤「超高齢社会 認知症者が主役の制度に改めよ」。河崎貴一「世界も注目する知られざる日本の食材」。喜連川優「桁違いの巨大データベース競争 鍵を握るのは超高速データベース技術だ」。西田宗千佳「何が来るか？ スマートフォンの次の時代」。森健「2012 年 大学入試はここまで変わる」。北野新太「天才棋士・藤井聡太四段 最年少タイトル獲得なるか」



以下、受講生の感想から

- ・ 本日の私のテーマは、超高齢社会における＜認知症者が主役＞の制度に改めよ、の論説を読んで図解にまとめ3分で発表することでした。本日の新しい試みは、3分で発表できるように図解でまとめることでした。まず論説を読みながらキーワードと重要な短い節文にラインを引き、それを本題に対する問題点と対策にわけ、図解しました。まず中心に認知症者を置き、その周囲に3つの問題点とその対策、解決案をカラー分けして図解し、聴いていただく方たちに一目でわかるようにしました。今回は3分の制約のためできるだけ簡単にまとめることに主眼を置きました。
- ・ 読みながら構造化し、図解へ。・言いたいことを選ぶ。・インプットとそこから作るストーリー。今回は読みながら図解のイメージができたので、書きながら気になる部分を考えることができました。結果、いろいろと気になる部分があり、これが自分の考えとの相違点や質問ポイントになるということが感じられました。
- ・ 今日はあるジャーナリストの政治家に対する提言をまとめました。前回より時間がかからずに図解にすることはできたが、構想力がいまひとつ、流れで書いてしまっているので、もう少し大枠でどう捉えるか考えられるといいと感じました。
- ・ まずは、構想、そこから関係をつなぐ。全体像が浮かぶかどうか。全部を言わない、どれ

を選ぶか。本質が見える。これらを意識してすこしでも図解を自分のものにしたいと思います。

- ・ キーワードを書き出す前に、大枠を捉え、全体の構成を考えたいという意識で、図解を書き始めることで、話の繋がりが分かりやすくなるなど感じました。また構成を考える中で、主張したいことに合致しない情報を除いていくことも、大事だと理解しました。
- ・ 文書を図解にする際に文章全体の構造をイメージすることが重要であることが経験できました。また、どの Key Word を中心にして図解を作成するかで図の形を変えられることも経験出来ました。
- ・ 前回数字からインサイトを読み解いて更に図解で説明するというハードルの高い課題に取り組んだが、今回は文章からということで、全体の構造を掴みやすかった。テーマは2020年の教育改革で求められるスペックと言うタイトルだったが先生のコメントにもあったように求められるスペックである、文章を読み解いて理解して正しく伝えるという力は正に図解そのものであると同感した。図を使いながらストーリー性を持って伝える時にビジュアルは聞き手と共同化する為の最良のツールである。あと限られた時間内でポイントを伝える事も重要な要素であり、大きな流れと結論を先に話して聞き手の理解度を確認しながら詳細に入るというアプローチを取る事でプレゼンのコントロールが出来ると感じた。またメタファになっている部分などをイラストにする事で図が柔らかくなりイメージの共有が更に深まると考える。
- ・ 文章を読むと図が浮かび上がってくる」まさに理想的な状態だと感じました。私はまだそこまでは至りませんが仕事に関する資料や論文などを図解していくクセをつけたいと思います。「文章から何を選ぶか」これも本質的な言葉だと思いました。今までは矢印の使い方など、いかにキレイな図解を作れるかに主眼が向いていました。しかしそれは図解のスキルのほんの一部であり、その前段や周辺にもっと大切なスキルがあることを改めて感じました。
- ・ 期待して読みましたが、図示化により精読することになり、かなり粗が見えて残念な結果になりました。ちょうどこの分野での起業準備を半年以上かけて行っており、ベース知識があるので尚更でした。人に読んでもらうということは購入費用と時間を使ってもらうことなので、自分がその立場になった時はきちんと準備して見合った結果を生み出せるようにしようと思いました。
- ・ 今回、米中衝突はあるのか、というテーマで、防衛省職員の文章を扱いました。私は今回、筆者が言いたいことと、その論拠を抽出して、繋げてまとめました。理由は、枝葉でしかない話が結構あり、筆者の結論とは直接、結び付かないと思ったからです。分解して繋げてみると、筆者の主張として、今後少なくとも10年は米中摩擦は続く、としているのに、肝心の貿易摩擦には触れていませんでした。防衛省職員だから経済産業省所管の内容に触れていない訳ですが、誰がどの立場で主張しているのかを図解しながら特定して行くと、主張のベクトルの矢印も識別できて、発表時間の短縮にも繋がると思います。

した。

- ・ 文字を大きく書く事で端的になることを目指した。わかりやすさとは細かいことを言わないことでもあると考えました。何を選ぶか？尖らせるか？
- ・ 今回の授業は比較的図を作成しやすかった方だと思います。そこで感じたのはストーリーがしっかりしている文章は図に表現しやすいということです。バラバラのパーツを組み立ていかにストーリーとして展開して行くか。そこに図で伝える真の能力が隠れていると感じました。授業中にも述べましたが、話の本質はなんなのか、全体的に何が言いたいのかを意識して身の回りの文章や話について意識するようになりました。

以下、留学生。

- ・ 今回私は「すべてのクルマが EV になる日はくるか」というルール戦略の国際情勢の図解を担当しました。キーワードを丸して、その中で一番重要主語から柱を捉え、主要なキーワーだが梁を左右を作用的に考えて枠を立て、矢を主張が現れて、図解が出来た、図解をかけて、当今世界の企業潮流と ルール戦略変化の根を勉強になりましたところが、文を理解するが一番の大切ですけど、日本語が勉強不足の私がいぶ時間が文の中カタカナを調べる事にかかります、わかりにくい図解を出しました。先生と copy 担当先輩に迷惑をかけましたから、申訳ございません。短く時間割りで文のよく理解出来るように business school 留学生として、日本語を上達する、経済、news を敏感的に関心を持つが一番大切な事と実感しました。
- ・ 私のテーマは天才棋士・藤井聡太です。棋士について結構難しいから、理解できるように、何回も読みました。文章の内容が理解できて、レジュメが書けるようになります。又、勉強になります。ありがとうございます
- ・ セミナーの収穫が大きかった日です。わたしのテーマはビットコインでした。実は、IT に関することはちょっと苦手です。理論などは分からないところがいっぱい。今後も関連する本を見た方がいいと思いました。また、今日の 3 分の発表はギリギリでした。
- ・ 図解を何回して、今日、新しい感想ができました。前回より、ポイントを指摘する能力でも、ポイントを組み合わせる能力でも、全部高まってきました。さらに、質問を考える時でも、理路がもっと整然になりました。
- ・ 今回は、ドイツと日本の働き方の比較図です。GDP が近いが、実際こんなに差があることが初めて知りました。毎回練習して、最初より良い図表を作れるようになったと気がします。矢印とキーワードの接続や、全体図の表示方などいろんな図表の描き方を勉強しました。



2018 年 7 月 14 日 インターゼミ

インターゼミ(社会工学研究会)。九段サテライトにて。
8 月の箱根での夏合宿の中間発表に向けて佳境に。





2018 年 7 月 18 日 T-Studio の「久恒啓一の名言との対話」第 33 回は、ゲストは中村その子先生「あわてず、さわがず、たじろがず」

T-Studio の「久恒啓一の名言との対話」第 33 回。
ゲストは中村その子先生。「あわてず、さわがず、たじろがず」

学部運営委員会:: 量から質へ。

2018 年 7 月 19 日 「ビジネスコミュニケーション」の最終レポートは文藝春秋『日本の論点 2018』。識者の論説を図解でまとめる

学部のビジネスコミュニケーションの授業が 13 回目まで終わった。以下、アンケートの反応を抜粋。最終レポートは文藝春秋『日本の論点 2018』の識者の論説を図解し、パワポイントで提出すること。難題だが、手ごたえが出てきている。

- 図解の本質に気づいた。自分の意見をようやく持てるようになった。図解は生きる上で必要。決断力に欠けていたが、図解で全てが変わった。自分の考えが 180 度変わった気がする。
- 丸の大きさを変えたり線を太くしたり関係性を理解しながら、図解を作っていきたい。読めば読むほど図解も良いものができると感じている。
- 図解を書く力が上がってきた。内容を大きく、くる方法がわかってきた。この授業をとって良かった
- 図解を作っている内に中国に今のようなことが起きているか凄く分かった。図解を作ると物の本当の所を捕まえられる
- 図解は物事の本質を見抜くのに役立つと改めて感じた。
- 講義後半になって文章を図解にするのが上手になってきた。身についている感じがする

- 最終レポートに向けてひたすら読み込んでいるうちに、頭の中に自然と図解が浮かんできた。やってきて良かった
- 自分で考えていることを整理して相手により分かりやすく伝えることができるようになった
- 論文の内容が濃いほど細かく書けてやり甲斐も感じる事ができた
- 今では簡単に図解が浮かぶようになった。ゼミ内のプレゼンで図解を使った。
- 図解の書き方の能力が上がり、特別講座の松本先生の講義の時、図解で分かりやすく鮮明に書けた。この講義を受けて良かった。
- 関係性を組み合わせていくのがパズルの様で少し楽しく感じた。
- はじめと最後の結論を先に読み、全体を理解すると、内容、関係性が分かった。

大学のラウンジ。

- 久保田先生: インターゼミ AI 班。
- 山本さん: T-Studio の録画

2018 年 7 月 20 日 副学長日誌

午前は、学部の授業。

昼は、T-Studio で橘川先生との「トレンドウォッチング」の録画。未来学会。

午後一番目は、事務局との定例ミーティング。入試改革。

午後の二番目は、BS 多摩企画運営会議。多摩センターにエネルギー、。

2018 年 7 月 21 日 インターゼミ

15 時: グランドパレスで長島さんと懇談。

15 時半: 学長に長島さんを紹介。

16 時: インターゼミ。

学長講話

- 日比谷の松本楼。孫文、梅屋庄吉、商震將軍、安田震一。1943 年 11 月のカイロ会談で戦後アジアをどうするかを議論。蒋介石「台湾は中国の一部」「沖縄は米中の共同管理。国際機関の信託統治」(アメリカが沖縄をベースキャンプにしたいという意向に配慮)。商震は 1945 年 8 月 15 日には国民党政府代表でワシントンに滞在。その後、GHQ で中国代表。1949 年の毛沢東の中国になる、日本に残り、安田秘書と結婚。
- 「1968 年」。「カネと女」のトランプは大統領。映画『7 月 4 日に生まれて』の主役は傷病兵とになり、故郷でも軽蔑される。そのコントラスト。1968 年の日本で自分は何をしていたのか。

自分に引きつけてみる力。

- 8月10日『ジェロントロジー宣言』(NHK新書)。100年人生をどう生きるか。
- ライブビューイング。アミューズの大里会長(沢田研二、キャンディーズ。サザン、福山、パフューム)はエンタメ分野でブレイクスルー。NYCのエグザイル、シンガポールのパフューム。サザン40周年ではNHKホール5000人、全国の200の会場に配信、10万人、3500円で3.5億円。社会科学分野で導入できるか。コンテンツビジネス。



17時:蕎麦屋で長島さんと懇親

2018年7月22日「大いなる多摩学会」ー理事会・総会・研究プロジェクト発表会・懇親会

府中市の市民活動センター「プラッツ」6階で、「大いなる多摩学会」の理事会、総会、研究プロジェクト発表会、そして懇親会を開催。テーマ「大都市郊外型高齢化に立ち向かうジェロントロジー(高齢化社会工学)の可能性」。

私は、理事会での冒頭の挨拶と総会での開会挨拶、そして総会の議長の役目。

総会で10分ほどの挨拶「研究ブランディング事業。大都市郊外型高齢化に立ち向かう実践的研究。ジェロントロジー。高齢化社会工学。高齢者の社会参画。大いなる多摩学会の方向が決まった。学会はこれからが本番。人生100年時代。経済的肉体的リスクからライフワークが完成するチャンス。定年後40年ではなく、キャリア3期・人生6期の考え方・上流階級は長生きだった。近年の寿命の長さは庶民が食事と医療に恵まれて健康長寿になったのだ。すでに人生100年時代のモデルは明治時代以降存在する。彼らは「遅咲き」。8月に寺島「ジェロントロジー宣言」と久恒「100年人生の生き方死に方」を出版。アタマとココロ。秋以降に大きなシンポジウムを考えたい」。



- 総会：2017 年度事業報告・決算。2018 年度事業計画。予算。
- 研究プロジェクト報告：
 - ・ 健康まちづくり産業プロジェクト(松本先生)：健康は主観的なもの。若者が不安。動機付けと継続支援。中小企業の健康経営。
 - ・ 健康まちづくり産業プロジェクト(ファンケル)：多摩市・多摩大の教職員 54 名で実験。腸活。健幸フェス。
 - ・ ビッグデータプロジェクト(佐藤先生)：多摩ニュータウンの買い物行動。
 - ・ 湘南インバウンドプロジェクト：インバウンド。アイラブ湘南PJCT。
 - ・ 創業支援プラットフォームプロジェクト：wework。
- テーマセッション
 - ・ 研究ブランディング事業の概要(小林先生)：中心性と辺境生。グローバル人材の定住。心の健康。社会参画。
 - ・ キーノートスピーチ「人生 100 年時代の生き方」(アジア教育友好協会谷川洋理事長)：「熟年世代よ！食い逃げするな、死ぬまで働け」。60 歳から 13 年でアジアに 272 校の学校建設。建設中 15 校。5 年間で 300 校を。3 階建ての事業構想：学校建設・住民参加・国際交流。学校建設の 3 本柱：パッション(情熱)・アクション(行動)・ドネーション(寄付)。住民参加の 3 効果：コスト・意識・技術移転。交際交流 3 つの効果：友情・抑止力と見守り力・気づき学習(日本のこどもとの交流)。現場主義：14 年間で海外出張 77 回・862 日、

ノート 64 冊、メモノート 5 冊、日記 15 冊。出前授業 683 回。すべて民間資金。一村一教師養成プロジェクト。運動会・トイレ清掃など日本文化の輸出。産休先生制度。熱血先生 100 人プロジェクト。AEFA 里山塾。ジジババ応援隊で孫と行くアジア。ワンコインスクール。、、、。

- 関連研究・プロジェクトの紹介
 - ・ 日野市(田中): 勤労体験。副業解禁。サテライトオフィス。生活課題産業化。リビングラボ。
 - ・ 現代文化研究所(佐次清): トヨタの研究所。ウルマを通じた地域づくり。所有から活用へ。担い手は誰か。自分ごと。継続。福祉と公共の狭間。NPO タクシー。客貨混載。ダウンサイジング。自家用車のパブリック化。タクシーの公共化。ドアドアのニーズ。ラストワンマイルが重要。自動車の情報サービス化。移動のニーズを発掘し解決。情報と空間の結びつき。
 - ・ 多摩大(久保田): アクティブシニアの調査。
- フリーディスカッション: 学校建設!
- 終了後、懇親会。現代文化研究所、リレー講座参加者、学会事務局メンバーらと歓談。

帰宅後、フジテレビ「ザ・ノンフィクション」という1時間番組で多摩大社会人大学院生のドキュメントをみる。38 歳、47 歳、51 歳の 3 人の内面を追う番組。いい作品に仕上がっている。

2018 年 7 月 23 日 41.1 度。日本新記録の暑さの日。

本日は熊谷で 41.1 度と、日本新記録の暑さの日。

大学

- 国際交流センター運営会議(バートルセンター長): 経営情報学部とグローバルスタディーズ学部と大学院。国際化ビジョン、、、。
- 高野課長: 打ち合わせ
- T-Studio でのAO入試対策セミナーに顔を出す。樋口先生と近況交換と食事の約束。森島課長から入試の状況を聞く。



2018 年 7 月 24 日 副学長日誌

多摩キャンパス

- 今泉先生:大学院教授会の様子を聞く
- 高野課長:情報交換
- 下井先生:運動会
- 1 年生の佐保君:最近の様子を聞く。ゼミ、ZOOM, アルバイト、。。
- T-Studio の「AO 入試対策セミナー」をのぞく。樋口先生。森島課長・酒井さん



2018 年 7 月 25 日 柯 隆「中国が強国になる条件——習金平政権の政策課題と新たな日中関係」

19 時:丸の内の日本興業倶楽部で文庫リレー塾。講師は東京財団の柯 隆（カリユウ）氏。テーマは「中国が強国になる条件——習金平政権の政策課題と新たな日中関係」。

寺島塾長「南京生まれ。名古屋大に留学。長銀総研。富士通総研。東京財団。愛国のじ情と客観的視点。刮目すべき人物」

柯 隆氏の講演。

- アジアの地政学リスク:独裁(北朝鮮)と自由(米日韓)はトレードオフ。中間にロシアと中国。毛沢東は社会主義の実験で失敗(2000-7000 万人を殺害)。トウ小平は資本主義の実験で失敗(分配と腐敗)。習金平世代は文革(1966-1976 年)世代。統制的。レーニン主義的市場経済(統制された市場経済)。
- 中国経済:高度成長の終了。新常态(ニューノーマル)。公共投資は一巡・加除設備投資があり拡大しない。格差拡大・少子高齢化の猛スピード・無介護保険で消費は伸び悩み(老人

4・夫婦 2・子供 1)。

- 電子商取引:フィンテック(電子金融)が発展。デビットカードのデジタル化がフィンテック。高付加価値へのシフトができていない。企業は基礎研究をやらない。ブランド力のある会社がない。中所得国のワナに陥る可能性。
- 改革開放から 40 年。中国はテクノロジーを盗んだ。テクノロジーは真面目にやても追いつくのに 50 年かかる。サイエンスのキャッチアップは 100 年かかる。
- 格差の解消と社会の安定ができるか？ 1:納税意識が薄い。所得把握が難しく直接税が取りにくい。税体系に問題あり。金持ちは脱税して蓄積し不動産を買う(固定資産税がない)。相続税がない。金持ち天国。ゆがみ。2:資本主義に必要な「信用」が確立していない。文革で中国文明という信じるものが失われた。政府も信用しない。コンプライアンス意識のない企業。家族を信用できない密告。これらをクリアできるか？
- 弱いのはソフトパワー(文化力)。経済は大きいが技術に弱く不十分。軍事力:この 1000 年戦争で一度も勝ったことがない。軍幹部の腐敗のすさまじさ(多い人は 1000 億円超)。軍事予算は軍事力の強化に直結していない。若者の戦う力は弱い。文化力の強化には 100-200 年かかる。日本は明治維新 150 年。中国は道德、マナーが悪い。自由がなければ文化は花開かない。40 歳以下の若者は日本人と同じ文化環境(オスカー映画、アダルトビデオのあおいそらが一番有名)。20-30 年経って彼らが指導部に入ると変わる。
- 米中貿易戦争:3700 億ドルの黒字。過去 20 年改革は進まない。米国の外圧は改革の追い風になるかも。中国は 8 月の長老会議を経て 9 月にメニューとタイムテーブルを提示。米国は 9 月の中間選挙前に妥協か。うまくいかなければ「通貨戦争」。国債売却アナウンスで株の暴落も。日本は中国だけでなく分散も。

多摩キャンパス

- 10 時:学部運営委員会:離学の議論。
- 10 時 40 分:教授会
- 12 時 50 分:学長室の渡辺さん:今週の戦略会議のブリーフィング。

2018 年 7 月 26 日 入試「質向上」ミーティング

- 入試「質向上」ミーティング:杉田学部長・金入試委員長・宮地事務局長・久恒副学長。次は 8 月 20 日。歴史認識と現状認識。
- T-Studio での「名言との対話」の録画。ゲストは梅澤先生。座右の銘は「しなやかに」。



2018 年 7 月 27 日 春学期の学部と大学院の授業が終了——多摩(学部)、九段(大学戦略会議・大学運営会議)、品川(大学院)

多摩キャンパス

- 9 時: 秘書と打ち合わせ。
- 10 時: 橘川先生: ドウハウス。性教育。ロート。無限教師。
- 10 時 40 分: 学部授業「ビジネスコミュニケーション」の春学期最終回。最終レポート「2018 日本の論点」の論考を図解すること。

九段サテライト

- 14 時: 大学運営委員会:
 - ・ 戦略会議の報告は「教務」で、テーマは「ゼミカの多摩大に向けた実質化を進めること」。大学の實力。、、、。
 - ・ 学長「進化と深化。質の向上。「ジェロントロジー宣言」。ふるさと納税を税源としたサービス。お盆渋滞。精神の軸。墓じまい・寺じまい。専門から何か附加を」
- 15 時 30 分: 大学戦略会議: テーマは「学生」で、離学対策の意見交換

品川キャンパス

- 18 時半: 瀧川課長
- 19 時: 大学院授業「インサイトコミュニケーション」の春学期最終回。最終レポートは「私の仕事」

以下、受講生の感想から

- ・ 最終回の講義で私の仕事について受講生の仕事について聞きました。それぞれ色々な仕事をしているのだと驚きでした。また留学生は自分の生活について発表されみなさま

苦労しているのがわかりました。私は自分の仕事について生活のために収入を得るための仕事、社会的活動をボランティアとして無報酬でしている仕事に分けてお話ししました。この講義は自分の考えを図解として捉えまとめるのに非常に有益な講義でした。ありがとうございました。



- ・ 図をいつ出すかが勝負。・図の大きさ、矢印の太さ、色の工夫。・図解したうえで「私の仕事」を一文で表すと？。講義ありがとうございました。皆さんの図解を見ながらいろいろな表現の仕方を学びました。また、日頃の業務等でも図解でイメージしようとする事が多くなりました。
- ・ 私の仕事について図にしたときにどうしても同じ業界目線がかいてしまうと思いました。何もわからない人にプレゼンする気持ちで表現すればさらに詳しく繊細なものが出来上がると実感しました。仕事上、図で表現することが多いので本講義で学んだことを存分に発揮して生かして行きます。ありがとうございました！
- ・ 初めて見る人に向けてプレゼンする場合、皆さんが疑問に感じる点を図解に記載するという点は、論文発表にも通じるものがあるのかな。と感じ、勉強になりました。今回は情報を整理して削ぎ落とすことを意識しましたが、初めて見る相手の立場に立って考えて図解をする事で、一層分かりやすく作れると感じました。ありがとうございました。
- ・ みなさま約 4 ヶ月間ありがとうございました。図解は文章を要約し本質を掴むのにとっても有効だと改めて確認することができました。頭の整理にもなるので、これからも意識して使いたいです。実務でさらに磨いていきたいと思います。
- ・ 久恒先生、皆さま。8 回に渡りありがとうございました。本日の最終講義では、図の大きさ、矢印の太さ、配置等の重要性を改めて理解出来ました。今後は、実務に積極的に使用していきたいと考えております。
- ・ ご講義、ありがとうございました。織系のコンサルティングなので、表だって形式張った仕組みはないですが、人事含め、自社内をしっかり固めたいのが、1 番の思いです。社内教育、イベント等を、充実させたいと思っています。1 番のフォロワーの家族を太く、師

匠も太く、でも、私が貰う分が、どうしても太くなるのだとうな、と、感じています。私自身の人脈の範囲だけでなく、お客様のステークホルダー様含めて、円滑な経営を、お手伝いさせて頂きたいと思います。家族との時間はもちろんですが、社内で重要なのは、ホームパーティーです。以上。楽しい講義でした。ありがとうございました。

- ・ 皆様お疲れ様でした。最終課題は明日アップします。講義を通しての感想は、原点回帰。テクニックやうまく描こうとする意識は私にとっては邪魔なのだと分かり、「仮説」を立てて「感覚」で描き始めて、「昇華」させて行くことが重要なのだと再認識しました。良質な情報と知識のボリューム、すなわち「良質なインプット」と、「見る側とのコミュニケーション」が極めて重要と思いました。本日感じたのは、「私の仕事」なのに大半の方が組織が中心にある違和感でした。この数年で会社という枠組みが弱くなり、個人に仕事がディペンドしていくと私は思っています。ありがとうございました。
- ・ 久恒先生、最後の講義がありがとうございました。今まで、文章を読むスピードが速くなりました。ポイントを探す能力も高まってきました。他の授業でも、図解をよく使いました。本当にありがとうございました。きょう、日本での生活について、図解しました。2016年から今まで、2年間の自分をきちんと振り返って、多くのことを考え直しました。やる気も湧きました。やはり、たまに振り返ったら、最も自分に合う道が見つけられると思います。今学期、先生も、クラスメートの皆さんも、大変お世話になっておりました。本当にありがとうございました。
- ・ 4ヶ月に渡る講義ありがとうございました。最初は図解という行為に中々慣れることが出来ませんでした。意識的に仕事の中で取り入れて共通の絵を見ながら議論する、ファシリテートする事で対話の場が深く、広くなってきた事を実感します。今日発表した自分の仕事に関しても、知らない人にわかりやく且つ的確に伝えることを意識して完成させたいと思うし、絵を描くだけでなく実行して、うまくいかない点を更に図解して課題の本質をつかむ事を繰り返していきたいと思います。
- ・ 事業のビジネスモデルはパワーポイントで表現した通りですが、むしろ本当に伝えたかった内容は手書きで補足した部分です。ありがとうございました。
- ・ 先生、皆さん、授業お疲れ様でした。第8回の授業の感想です。今日の発表内容は、1週間で手直してフェイスブックに掲載するようにとのことでしたので、本日は発表内容の添付なしで感想のみを掲載致します。受講生の皆さんの発表を聞いて、表現のバリエーションの多さに感心しました。数字を盛り込む、強弱を付ける、図表のバリエーションを持つ、が大事だと皆さんの発表を聞いて感じました。ビジネススクールでも図解を扱う授業はなかなかないため、毎回楽しく参加させて頂きました。改めて、ありがとうございました。【7月28日0時45分追記】修正版の図表をアップ致します。作業ウェイトや件数などの数値、世の中へどう貢献しているか等を盛り込みました。こちらで課題提出とさせて頂きます。先生、皆さん、8回に渡りありがとうございました。
- ・ 本日は途中退席になってしまい申し訳ありませんでした。私の仕事を一言で言うと「病院

と地域をつなぎ地域の幸福に貢献すること」だと思っています。この講座を受講して図の書き方がものすごく上達したかと言うとまだまだだと感じています。ただ、今回の課題をいただいて何となくアウトラインを作成した後に、初回に作成した図を見た時にひどい図だなと思いました。そう思ったことが、わずかですが成長できた証かなと思いました。今回私の仕事について図解をし、そして貴重な質問をいただいたことで私自身の頭と心の整理がついたような気がします。本当にありがとうございました。図解はこれからも仕事でずっと使っていくと思います。一枚一枚描くたびに少しでも分かりやすく美しい図解にしていきたいと思います。これまでの講義ありがとうございました。

- ・ 久恒先生、皆さま 全 8 講ありがとうございました。仕事の関係で最終講義早上がりします。＜最終課題＞プレゼン資料に皆様の質問項目を追加して最終課題とします。利益構成比とデザイナー写真を追加。自分の事業は誰もやっていない事業モデルなので説明が難しく伝わらないことを改めて実感しました。

以下、留学生。

- ・ 皆様 お疲れ様でした。第 8 回の講義でありがとうございました。今日は皆様の発表を聞いて、仕事について図解で伝えて貰って、分かりやすいと思います。先生の授業のおかげで、本当に大変勉強になります。ありがとうございました。
- ・ 久恒先生、授業、ありがとうございます。皆さんお疲れ様でした。インサイトコミュニケーションの授業を終了して、たくさんの美しい思い出記憶が残りました、先生から丁寧に教えてくれて、積極的に発表する意識をかきたてられました。私が図解が上手になる同時に、logic の分析する能力も上達しました。日本の方々の仕的知識を得ました。仕事をしていない私が自分の将来のビジネスに関する内容、モバイル時代に o2o の技術を活用する観光事業戦略の発想を描きました。伝統的な観光業は、従来の店舗展業から、ネットワークで hart 事業に変わって、データの利用をして、競合と多角化産業の発展について図解しております。30 分の電車🚆に乗った時間を利用して出来ました、先生から色々な教えていただき、ちょっと進歩しました。

2018 年 7 月 30 日 副学長日誌

予定では今日は岡山で県職員研修を行うことになっていたが、この夏の災害で延期となった。大学に出勤。

- 秘書と打ち合わせ：成績付け。講演準備。スケジュール調整。
- 杉田学部長：近況交換
- 渡辺さん：戦略会議の宿題



2018 年 7 月 31 日 副学長日誌

- 研究室で仕事。次に向けて書類処理。
- 19 時から丸の内の日本工業倶楽部で寺島文庫リレー塾。寺島実郎講師。20 時 30 分まで。椅子席で満杯。250 名くらいか。
 - ・ IMF世界経済見通し:世界 18 年 3.9%、19 年 3.9%、20 年 3.8%。日本 18 年 1.0%、19 年 0.9%、20 年 0.3%(18 年は 0.2%下方修正)。
 - ・ デジタル専制。日本の株価の実力は 1 万 6 千円。3 割ダウン。時価総額でキーエンス 7.6 兆円(IOT)が 6 位、ソニーは 7 位。ユニクロ 5.4 兆円、オリエンタルランド 4.2 兆円、日立 3.8 兆円、新日鉄住金 2.1 兆円。
 - ・ マクロンと師のジャック・アタリ(思想家・作家)。国際連帯税などの新しい政策論。トランプの分析書(ニューヨークタイムス・ワシントンポスト)。1968 年、その時何をしていたか?映画「7 月 4 日に生まれて」。
 - ・ ジェロントロジー:都市郊外型社会の高齢化が問題。工業生産力モデルと通商国家モデルの優等生が住む国道 16 号線。ふるさと納税の活用。寺じまい・墓じまい。80 歳の 7 割は健常者。ミスマッチ。高齢者を支える側にしていく知恵。天人五衰。
 - ・ 知の再武装。3 段階の知。流動性知能。結晶性知能。唯識論性知能。(学習知・経験知・総合知?。暗記・関係・本質?。記憶力・判断力・洞察力?。?・図解・人物。流動性と結晶性はトータルで横バイ。自分史・家族史・回想録がいい。「いくつになっても脳は若返る」(ジーン・D・コーエン))

2018 年 8 月 1 日 「あなたはこの授業を受けてどう変わりましたか？」

学部授業「ビジネスコミュニケーション」の最終回のアンケート「あなたはこの授業を受けてどう変わりましたか？」

- 世界が変わった。これからの大学生活でも“図解”を活用していきたい。

- 一回り大きく成長したように思った。他の人たちに負けない1つの力だと思う。この講義を受けて良かった。
- 図解の本質に触れ、無限大の可能性を感じた。大きく成長できた。「図解」で事業やプロジェクトのビジネスに活かしていきたい。「図解」は社会の課題や問題のソリューションとして活躍できると思う。
- 新しい技法を身につけ読解力がついた。物事を図解にして考えるようになった。
- 分析力が上がった。物事の本質を見られる様に成長した。
- キーワードの関連性や関係性、俯瞰視点での見え方が分かるようになった。
- 今まで避けていた内容の文章にも慣れたので苦手意識がなくなった。
- 構成力を身につけることができた。分かりにくい文章も分かりやすくまとめる自身がついた。自分に期待したい。
- 今まで避けていた内容の文章にも慣れたので苦手意識がなくなった。
- まず物事を見る目が変わった。どんなことをするにも、全体像を見渡すことが出来れば問題解決がかなりし易くなる。
- 新しい技法を身につけ読解力がついた。物事を図解にして考えるようになった。
- 「俯瞰」の目を持つ。図解には個性がある。図解には正解がないという言葉で描きやすくなった。大きく成長できた。
- 講義を受けていなければここまでできるようにならなかったのも、非常にありがたい授業だった。
- 「頭の筋肉を鍛え、考える力を強化する」という言葉が心に響いた。
- 最終課題の文章を読んでいるときに、自然と図解を考えられるようになり、成長に繋がったと感じた。
- 図解が大好きになった。
- 文章を理解する能力が上がった。
- 論理的な考えがある程度高められた。文章やデータの中から中心的なことをすぐ探すことが上手くなった。まとめる能力も高められた。
- 図で表現することにより、企業の考え、偉人が考えている事が図で表現出来るようになった。就活の際には図を利用したいと思った。
- 多角的な視点で物をとらえて見る事ができるようになった。
- 図解を知り、こんなにも人に伝えやすく見やすいものがあるのかと驚いた。
- 言葉と言葉をつなぐポイントが分かった。文章を読む力がついた。長時間作業する力がついた。
- 図解するんだ、と思って文を読むと頭に入ってきやすくて、とてもいいことを学んだ。
- 図解を学んだ事により難しい文章も理解し易くなった。これからも図解を使っていこうと思う。考える事が重要だと感じた。
- 長文の読解力が上昇し、「まとめる」→「分かる」というプロセスができあがった。

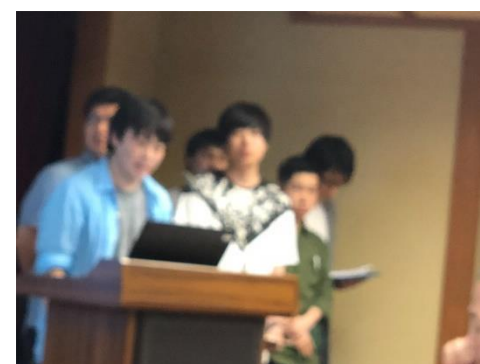
- 他の講義で活かせる機会が多かった。
- 普段のノートの取り方が変わった。来期も楽しみにしています。
- 図で表現することにより、企業の考え、偉人が考えている事が図で表現出来る様になった。
就活の際には図を利用したいと思った。

2018 年 8 月 2 日 箱根でインターゼミ合宿

箱根湯本の水明荘でインターゼミ合宿。

13 時から新人教員3人の自己紹介のミニ講演。5つの班の中間発表。終了は 17 時前。

18 時 15 分から食事会。二次会。三次会と続く。





10 年目の今年は、人数は史上最高だった。内容も一番良かった。

初見先生「労働に喜びは存在するのか」。後藤先生「協力に基づく幸せな社会のあり方」。加藤先生「生活を豊かに」。

AI 班「豊かな人生とは何か」。地域班「人生の満足度」。サービス班「高学歴高齢者の再武装が幸せに繋がる」。多摩学班「人生 100 年時代を幸せに過ごす社会システム」。アジア班「どういう体制が幸せをもたらすか」。

全体の底流を流れている研究テーマは、人生 100 年時代の「幸せと豊かさ」だ。寺島学長の 8 月 10 日発刊の「ジェロントロジー宣言」(NHK ブックス)は、人生 100 年時代を睨んで社会システムをどう変えるかがテーマであり、私の 8 月 4 日発刊の「100 年人生の生き方死に方」(さくら舎)は、人生 100 年時代の個人の生き方のモデルを提示したものだ。

2018 年 8 月 3 日 インターゼミ二日目(箱根)。

学長講話



- デジタル・ディクテータシップ。「IT」(平準化技術。ビッグデータ)X「FT」(金融。ファンドが成功させる)=FAGA+M(412兆円)。カエル跳び経済。
- 時価総額:2018年。トヨタ・ドコモ・ソフトバンク。5位KDDI。6位キーエンス。5.4兆円ユニクロは1.4兆円の東レの技術。4.2兆円のオリエンタルランドは2.1兆円の新日鉄住金の2倍。日立(3.8兆円)・新日鉄住金・東レは経団連会長企業。危うい「ものづくり国家・日本」。
- 日本の株価:アベノミクスで2倍。公的資金+外資(公的資金投入で安心感)。公的資金(投入は日本のみ)=日銀ETF買い(年8兆円)+年金基金(25兆円)。株価の実力は1万6千円台(3割減少)。
- 高齢者(72%が保有。自堕落な誘惑)。財界も株価上昇で恩恵(安危に流れる)。失政続きの安倍政権(仕方がないという無力感)。
- ジェロントロジー:都市郊外型高齢化が問題! 国道16号線に住む元企業戦士。サラリーマン(新中間層。帰属組織が無くなり不安とおびえ)・戦後生まれ(戦後民主主義で自己主張。私生活主義のミーイズム)・コミュニティの欠如(宗教がない。精神的支柱がない。寺じまい・墓じまい)。高齢者を社会参画する存在に!
- 生命史と人類史から:生命科学の新知見。「人間とは何か」の視界の変化(人間とチンパンジーのDNAの差は1.06%(含む個体差)=言語とコミュニケーション)。歴史学の変化(ラスコーの壁画・アイスマン(5300年前)・ギリシャ。アフリカ単一起源説(6万年前からグレートジャーニー)。1万年前に定住革命(農業)。2500年前に世界宗教の萌芽(ブッダ・孔子・ユダヤ教、キリスト)。コミュニティの誕生。自分を越えた大きな価値・存在(神・仏・天)。虚構の誕生。思いやり・配慮・建前・文化・規範、、、。
- ブッダ(16歳結婚。29歳出家。35歳悟り)。自灯明・法灯明。個人の内面に向き合った存在。解脱を追求する仏教は無神論であり思想・学問。弟子達が「加上」(神秘性を附加)した大乘仏教(衆生の救済)へ。世親の「唯識論」。観音力(聞こえない音を観る)・聞光力(見えない光を聞く)。
- 1648年ウエストファリア条約で政治が宗教から自立。400年経って現代は宗教の蘇りの時代。AIは思想・宗教・哲学に影響を与える。自分自身のものの考え方を持て。思想・宗教・哲学。

自主自立。考え抜く力をつけよ。



2018 年 8 月 4 日 非常勤講師対象の「教育方針説明会」を九段サテライトで開催。

15 時から、非常勤講師対象の「教育方針説明会」を九段サテライト開催。

私は冒頭の 20 分の説明を担当。

- 三浦梅園「おのおの、その長ずるところにしたがい、好むところに向かわしめる」
- アクレクサンダー・S・ニール「もっともよい教師とは、子どもとともに笑う教師である。もっともよくない教師とは、子どもを笑う教師である」
- ウィリアム・アーサー・ワード「凡庸な教師はただしゃべる。良い教師は説明する。優れた教師は自らやってみせる。偉大な教師は心に火をつける」
- 高宮行男「予備校教師は 5 者を兼ねなければならない。学者、医者、役者、芸者、そして易者だ」



- 「授業マネジメント、授業のアクティブラーニング化」についての非常勤講師の方々の発言か

らのヒント。

ビジネススキル検定。接客英語。英語のAL化の工夫(グループ。リーダー。プレゼン)その日にテスト。スマホの方針を細かく(留学生対応も含め)。知識とALのバランス。経済とAL(映像・動画・手を使う課題設定)。アウトプットのイメージの提示。企業訪問。ハガキでコミュニケーション。ZOOM。図書館で授業。関心のある商品の説明から入る。アイコンタクト。毎回所感を提出。誇りを持たせる。、、、。

- 一階の文庫カフェで1時間ほどの懇親会。先生たちと懇親。
感想:「非常勤講師」という呼び方を考え直したらいいのではないか。常勤・非常勤とは外形からの区別に過ぎない。「協力講師」など、専任と一緒に大事な教育をやっていく同志という意味が示せる名称を考えよう。

2018年8月6日 春学期の授業の成績付けの日

研究室で春学期の成績付けを行う。学部と大学院。

2018年8月8日 春学期の成績確認

研究室

- 春学期の成績確認。
- お盆休み後の、様々な予定の準備を済ます。

2018年8月9日 湘南キャンパスでのグローバルスタディーズ学部の学部運営委員会にオブザーバー出席

湘南キャンパスでのグローバルスタディーズ学部の学部運営委員会にオブザーバー出席。15時から17時半。

- 安田学部長。渡辺学科長。堂下就職委員長。高橋教務委員長。太田入試委員長。橋詰学生委員長。清水事務長。押鐘教務課長。
- 離学率。トライ。女子。有名企業。、、、。

2018年8月10日 副学長日誌

午前:立川のパレスホテルで、人事案件で関係者と面談

2018 年 8 月 11 日 8 月の大学院教授会(品川)

12 時から品川で大学院教授会。

- 審議事項: 秋修了者最終試験評価。成績優秀論文。専任教員採用告知。カリキュラム。入試追加募集。授業料減免。
- 報告事項: 教務。研究活性化。入試広報。院生。教員FD勉強会。教職員SD研修。秋季学位授与式・入学式。

終了後、徳岡研究科長と瀧川課長: 人事。インターンシップ。

2018 年 8 月 17 日 副学長日誌

大学にて

- 松本先生(地域活性化センター長): 人事。
- 高野課長(学長室): 人事。
- 渡辺さん(学長室): 戦略会議「学生」の方針。
- バートル先生(国際交流センター長)
- 森島課長(入試課): スケジュール
- 山本さん(学長室): T-Studio の 34 階の名言との対話。
- 樋口先生と電話: さくら舎

2018 年 8 月 18 日 久恒啓一の「名言との対話」第 34 回のゲストは梅澤佳子先生「しなやかに」

久恒啓一の「名言との対話」第 34 回。ゲストは梅澤佳子先生「しなやかに」。

「レジャーの環境やプログラムサービス開発が専門の梅澤佳子教授の座右の銘は「しなやかに」。弾力に富み柔らかくたわむだけでなく瑞々しさも含む言葉には、どんな厳しい場面でも折れない強さが隠されている。そしてその強さは品格に繋がっている。「人生 100 年時代」を生きる学生の精神的な支柱に、シルバー世代が心の世界を開花させるためにも大切にしたい言葉」

2018 年 8 月 20 日 T-Studio「トレンドウォッチャー」第 15 回をリリース

トレンドウォッチャー橘川幸夫第 15 回
大学。

- 研究室にて。
 - ・ 講演のやり取り: 東京都人材育成センター。岡山県職員研修所。大分県PTA連合会。
 - ・ スケジュール調整等
- ラウンジにて: 入試改革ミーティング: 金入試委員長、杉田学部長、宮地事務局長、私。2 時間ほど。大きな絵柄の原案が描けた。

2018 年 8 月 22 日 2018 年夏をどう過ごすか？

大学。

- 秘書と打ち合わせ: 夏休みの間のスケジュール。資料確認、、、
- 学長室渡辺さん: 戦略会議「学生」の指示書の検討。

2018 年 8 月 29 日 フットサル全日本代表候補合宿。先生たちと交流。

10 時半: フットサルU21の全日本代表候補合宿が多摩大で開かれていた。この中に多摩大生が二人。杉田学部長と小仲さんと見学。練習を見てみたが、さすがにレベルが高い。



11 時。

研究室: 講演準備。スケジュール。「遅咲き」のデータ。「独学」、、、、。

ラウンジ

- 中村その子先生: T-STUDIO「名言との対話」のPRを。
- 増田先生: セブ島の語学研修
- 金先生: 入試。インターゼミの北京のフィールドワークの様子を聞く。
- 杉田学部長: 新潟での全国経営学部長会議に向かう

2018 年 8 月 30 日 副学長日誌

京王プラザホテル「樹林」

- 13 時半: 客員教授の荻坂さんから新著『成長が速い人遅い人』(日経)を頂く。
- 14 時: 総研客員の渡辺先生と懇談。ギリークラブで「100 年人生」の講演。
- 14 時半: 総研の渡辺先生と多摩信金の長島部長を引き合わせ。鵜飼亭、研究会、長寿食、コンテスト、、、、。

2018 年 8 月 31 日 副学長日誌

明日から、大分、山口、広島、岡山の旅に出るので、大学で仕事を済ませます。

2018 年 9 月 8 日 大学院の学位授与式・入学式

大学院の学位授与式。



- 学長: ジェロントロジー宣言。高齢化社会工学。知の再武装。100 年人生。生命科学とコンピュータサイエンス。流動性知能。結晶性知能(課題解決力)。プロジェクトへの参加を。
- 理事長: 実学。ネットワーク。
- 研究科長: イノベーション。40 億人が貧困。80 歳現役時代。ライフワーク。
- 同窓会長: 大渾身会。リレー講座。留学生ネットワーク。
- 院生代表: 過去を読み、未来を読む。実践知。
- 修了生代表: 実務家教授陣。社会人大学院。プロジェクト。インターンシップ。

大学院入学式。17 名が入学

- 学長: 経営とは時代認識。座標軸を踏み固める 2 年間。知の再武装。100 才人生。人間とは何か。世界の構造転換。
- 理事長: 平均年齢 37 歳。実務家教授陣。社会人大学院。同窓会ネットワーク。
- 研究科長: 時代変化を自分ごとに。
- 同窓会長: RE同窓会。rearmament。revolution。recurrent。

- 院生代表:深い問いかけ。未来を考える場。仲間。
- 入学生代表:知の再武装を決意。



- 式典の前に学長と懇談:人事案件。
- 式典の後に理事長と懇談:人事案件など。

2018年9月12日 修士論文基礎講座で「図解・修士論文の書き方」を講義。受講者の感想は？

- 12時45分から14時半まで、夏期の研究発表会を開催。
17年度共同研究成果発表。18年度共同研究プロジェクト発表。面白い研究が多く、成果に期待がある。
AL。グローバルビジネス。シラバス。ビッグデータ。北京の中かん村。中国の出版活動。健康学習。イベント満足度評価。健康まちづくり産業。イーラーニング。分析ストーリー。都市農業。脳波。アクティブシニア。シニア見守り。オンライン行動分析。中国の企業ガバナンス。



- 14 時 40 分:理事長報告:学部長と。先だって囲碁について出原先生。
- 18 時:品川の大学院
 - ・ 瀧川課長。福井さん
 - ・ 論文基礎講座シリーズで、講義。タイトルは「図解・修士論文の書き方」。ほとんどが 2018 年春入学生。人数も多い。



以下、授業終了後のアンケートから

- ・ 自分が長い間、間違った方法で文章を書いていたと反省することになりました。文章の設計を書く重要性。はやく実践したい。
- ・ 論文を書くにあたって悩んでいたが、道が開けたと思います。この大学院で学んだことを形にするためには、設計図が必須だと思いました。覚えるのではなく、身につけることができたと胸をはって言えるように、これからの生き方も図で表現できるよう、修行していきたい。
- ・ 先生のお話と資料を拝見し、改めて感心しました。
- ・ まず設計図を描き、自分が言いたいことの構造と関係を整理してから論文を書き始めることの重要性を感じました。

- ・ 全体を見て、個別の事象を関係性でつなぐ。偉人伝の授業を受けたい。
- ・ 自分の周りの物事の構造と関係を意識して、図解する能力を磨いていきたい。
- ・ 大変満足。設計図をつくってから文章を書く。接続詞をうまく使う。関係性を考えてつなぐ。この3つをポイントに修士論文に挑戦したい。図解で勝負できる人になりたい。
- ・ アタマの革命としての図解力を磨きたいので春の授業を受けます。ココロの革命として、日本の過去の偉人の足跡を追う活動に興味をひかれました。
- ・ 気持ちが軽くなった。設計図を自己発見の旅として楽しもう。
- ・ ここ数ヶ月悩んでいましたが、先生に教えていただいた図解コミュニケーションという考え方で、少し道筋が見えてきたように思います。入学式のときに知っておきたかった。
- ・ 文章は、内容と表現でできている。そして構造と関係を図解することで設計図となり、内容が固まる。論理的で素直に腑に落ちました。
- ・ 春学期に受講しなかったことを少し後悔しました。図解の重要性を説きながらも、アンケート、授業内で文章を書く作業を行うことは、これらは両輪の関係になっていると思えました。
- ・ 論文のテーマ決めから構成まで図解を活用していこう。教授との面談でも図解を利用すれば認識のズレがないだろう。つながり、相手の受け取り方を意識することが重要だとわかった。
- ・ 図解を使うと、最短で伝えられると感じました。最適。先生の本を読んで図解の面白さを体験したいと思います。
- ・ 非常に納得できました。本日の90分で私は新しいツールを得ました。明日から仕事に使っていきたい。楽しみです。

以下、留学生。

- ・ 論文を書くのに役立つ。
- ・ 図で考えれば文章がうまくなると思う。
- ・ やってみようという気持ちがわいた。
- ・ 文章を膨らませる方法もわかりました。
- ・ キーワード、マル、矢印。
- ・ 図を使うと自分の視野がどんどん広がっていく。その図をみながら文章を書くことができる。
- ・ 図で考えるのは、初めて聞いた学問です。
- ・ 図解はものすごく効率が高い。手順や流れを意識して書ける。論文だけでなく、考え方が一変しそうだ。



2018 年 9 月 14 日 副学長日誌

午前: 研究室で、今後の講演・講義の準備

2018 年 9 月 16 日 副学長日誌

- 秋学期の学部と大学院の授業準備。
- 「紀要」の原稿書き。

2018 年 9 月 18 日 「2018 年夏の世界——構造変化の確認」

- 寺島文庫リレー塾 2018 年後期が始まった。
統一テーマは「世界の構造変化と正対する日本の視座」。初回の本日は寺島実郎さんの「2018 年名夏の世界——構造変化の確認」。
- ・ 「17 世紀オランダからの視界」(「世界」連載中)は、2019 年に単行本(上下)になる。歴史の鏡を磨く。知の再武装。
- ・ 2018 年 7 月の「ビッグヒストリーにおける人類史」(宇宙史から)。2108 年 9 月の「グローバルヒストリーへの入り口を探って」(地球史から)。2018 年 10 月の「アイスマンの衝撃」。
- ・ モンゴル 3 部作: 2018 年 1 月「モンゴルという衝撃」。2018 年 3 月「ロシア史における「タタールの軛」とプーチンに至る影」。2018 年 5 月「大中華圏とモンゴル、その世界史へのインパクト」中華史の相対化。西洋史観・中華史観・モンゴル史観からの脱却。
- ・ 2500 年前に宗教が出現。ユダヤ教から一神教であるイスラム教、キリスト教。インドのブッダ、中国の孔子。
- ・ 2001 年 9 月 11 日の「同時多発テロ」は転換点。20 世紀はアメリカの世紀。21 世紀に入りアメリカが世界を束ねる力が減少、その痙攣がトランプ現象。

- ・ 2008 年 9 月 15 日の「リーマンショック」から 10 年。原油価格はマネーゲームによる乱高下。現在 70 ドルあたり。アメリカが世界一の原油・天然ガス産出国。イランの増産。
- ・ 世界同時好況：世界 3.9% 成長。マイナス成長ゾーンは 2017 年から無くなった。米国 2.9% と好調、欧州減速気味。米中貿易戦争、中東の混迷（イラン、イスラエル）で不安あり。0.5 ポイント減速の可能性。日本は 1.0。19 年は 0.9。20 年は 0.3（消費増税の影響）。
- ・ アメリカ経済の好調：西海岸シリコンバレーの GAFA+M。東海岸ウォールストリートのマネーゲーム。南部ヒューストンのエネルギー要素。食と農も万全（食糧自給率 130%）。2016 年 1.5%、2017 年 2.3%、2018 年 2.9%、2019 年 2.7%。デジタルエコノミー GAFA+M（株式時価総額 4 兆ドル）、中国のテンセント、アリババの 0.9 兆ドルでニューセブンスターズで合計 4.9 兆ドル（545 兆円）。石油メジャー 4 社で 1 兆ドルに過ぎない。プラットフォームズ。データリズム。
- ・ 株式時価総額で日本の上位 5 社（トヨタ・ドコモ・ソフトバンク・三菱 UFJ・KDDI）の合計で 62.4 兆円にしか過ぎない。2018 年、トヨタ 23.8 兆円、ドコモ 10.9 兆円、ソフトバンク 10.2 兆円、8 位のキーエンス、ファーストリテイリング 5.2 兆円、オリエンタルランド 4.4 兆円、日立 3.8 兆円、新日鉄住金 2.1 兆円、東レ 1.4 兆円。東レと日立は経団連会長企業。株価の高さの要因の一つは GPIF 年金資金など公的資金の 65 兆円の投入。無ければ 3 割ダウン。もう一つが外資。アメリカの出口戦略の金利上昇で日本の株に異変か。ジャパンリスク。
- ・ 第四次産業革命＝IT（平準化技術）XFT（金融）。デジタル専制。企業も個人も IOT への対応が必要。知の再武装を。知の 3 段階：流動性知能（記憶力）。結晶性知能（課題解決力）。唯識性知能（意識・宗教。共感。利他）。
- ・ 中東：イランとトルコの巨大化。アメリカのイラクでの失敗による中東からの後退で 100 年前の昔の地図が出現。イランはペルシャの復活、トルコはオスマンの復活
- ・ 中国の強大化と強権化：6 月 12 日の米朝会談で中国は北朝鮮に首輪をつけた。アメリカによる南北統一の直前に軍事介入の可能性。兄・叔父の殺害は中国の介入を恐れていること。朝鮮自治区の扱い。香港には民主化勢力はいなくなっている。台湾の統合へ向けて着々、エルサルバドルが断行・欧州唯一のバチカンが次か。残るは 19 ヶ国で外交的孤立へ。周金平の三期以降には正統性が必要。経済的実績と政治的実績（東アジア。香港・台湾・北朝鮮）。
- ・ 原子力の技術基盤を持ちこたえられるか：廃炉にも専門家、技術が必要。中国は 80 基 8000 万キロワットを目指し、ロシアは原子力に重点で 12 ヶ国 34 期基を輸出。IAEA における中口のプレゼンスアップ。アメリカは SMR（30 万キロワット以下の小型原発）の方向。湯川秀樹「太陽エネルギーは核融合だ。原子力だ」。日本も本気で立ち向かうべきだ。国家が責任を持つべきだ。
- ・ ジェロントロジー（高齢化社会工学）：異次元の高齢化は社会的コストの増大。高齢者の社会参画の設計。プラットフォームの形成。高齢者の責任。美学。新しいテーマ。仕事の

質を変化させる。カセギからツトメへの転換。高度観光人材など、プロジェクトを一つずつつくっていく。

大学にて。

- ミーティング：人事案件で宮地局長、杉田学部長と。
- 高野課長、山本さん「ジャスダック上場企業の大学ランキング 22 位」。
- 授業準備

2018 年 9 月 19 日 副学長日誌

- 9 月の学部運営委員会：学部の幹部教員による会議。秋の陣が始まった。
- 松本先生：総研

2018 年 9 月 20 日 副学長日誌

品川の大学院で運営委員会に出席。

2018 年 9 月 21 日 秋学期の授業が始まる。大学院で「立志人物論」は 13 人のうち 9 名が留学生という新たな挑戦。

秋学期の授業が始まった。

- 9 時過ぎ：授業準備
- 10 時 40 分：学部「立志人物伝」の授業。今回は人数が多い。
- 12 時半：客員の久米先生と懇談
- 12 時 50 分：事務局との定例ミーティング。
- 13 時半：事務処理
- 18 時半：品川の大学院で「立志人物論」の授業の初回。総数 13 名のうち、外国人留学生が 9 人という、初めてのケースだ。心して挑みたい。日本人も含め、歴史に興味がある人がほとんどだ。



以下、翌朝 5 時までにフェイスブックに書き込みがあった、学びと感想。

- ・ 以前より個人的に歴史を好み、立志人物論は楽しみにしていた講義でした。第一回目の印象は非常に面白く、学びにしていけそうだという感触を掴むことができました。今後、自分の知らなかったもしくは学びが浅かった偉人について学んでいこうと思いました。自分はこれまでも世界史の流れや戦史、人物論とビジネスや現代での活用などにも興味が強くありましたので、その方向性でも学んでいこうと思います。本日の動画に出てきました三島由紀夫、岡本太郎、司馬遼太郎ですが、特に司馬遼太郎の歴史観が戦争体験にあり、非常にシビアな人間観察の元になっているのは手塚治虫などにも通じる所があるとおもいました。映像にも出てきた秋山好古、真之兄弟も軍部上層部ではなく、現場指揮官、軍師として活躍をした人物であり、乃木希典を能力に欠けると断じるあたりは先生のおっしゃる日本人観の代表例だと感じました。ただ、第二次世界大戦においては、既に昭和 20 年以降では軍をまとめるだけの人材が既に居なかったのではないかと、司馬遼太郎が見た、実感した日本軍は既に衰退期に入っていたのではないかとおもいました。また、岡本太郎は映像には出てきませんでしたが、彼の独創性の形成要因の中には幼少期における複雑な家庭環境があるのではないかとおもいました。芸術的才能を発揮する人物には魯山人や岡本太郎の様に生い立ちが複雑な方が多い気がします。この辺りも今後、授業で注目していきたいと思います。三島由紀夫の防衛論は国防軍と訳されていましたが、実際にはアメリカ軍だと話をしていました。国防軍イコールアメリカ軍の認識が当時、一般的だったのか、意図された訳かは不明ですが、国防に対する意識の違いがメディアで論ぜられている時点で現代よりも意識は高かったのだと強く感じました。また、十数年前に金閣寺を読んで、意味が全く分からなかった事を思い出しました。今なら多少なりとも理解できるのではと思いました。先生のおっしゃった文化が伸びる時は経済が伸びている時、ミケランジェロやボッティチェリ、ラファエルの時代もメディチ家の勢いがあり、ルネサンス勃興の時代、日本の戦後はある種経験できた人生は羨ましいなとも思いました。
- ・ 本日学んだことは3つあります。1つめは、人生100年時代のライフデザインです。60歳定年の会社で人事部に在籍していた20代の頃、50代後半の人間は「終わった人」でした。定年までひっそりと会社人生の終活をして、60歳以降は再雇用で下働き要員とされる、そんな人たちを数多く目にし、「自分は絶対にああはなるものか！」と思い、彼らのことを見下していました。孔子の人生50年時代の考え方に毒されていたのです。しかし、会社を離れフリーランスとなり、40歳になった今になって思えば、50代後半などまだまだ

だ未熟者・鼻たれ小僧です。人生100年時代のライフデザインの定義でいえば壮年期。実年期の80歳までを働き盛りとすれば、まだまだ現役で活躍する時間は残っている。現在、会社を顧客とする商売をしています。60歳で職業人生を終わりと考える顧客が多いことに違和感を覚えていました。それが今回、人生100年時代のライフデザインを学んだことで、違和感の理由が明確になり、60歳で引退をする必要はないということに確信を得ることができました。ちなみに、私は生涯現役であることを志しています。100歳まで生きるとすると、職業人としての人生はあと60年。これからも色々なことへ挑戦をする時間がある、とうれしくなりました。2つめは、人生は豊かさ(自由の拡大)への旅である、です。以前勤務していた会社においては、年齢の割には高給とりでした。しかし、月平均の残業時間が100時間超。あるときなど、1ヵ月の総労働時間が400時間を超えたこともありました。お金はあったため経済的自由はありましたが、時間的自由はなく、もちろん精神的自由もない。最終的には心身を壊し、肉体的自由までもがなくなってしまうしました。その結果、社会復帰するまで半年の休養を余儀なくされました。あのとき、人生は豊かさ(自由の拡大)への旅である、を知っていれば、体を壊す前に会社を辞め、人生について真剣に考えていたと思います。現在は比較的、経済的自由・時間的自由・肉体的自由、そして精神的自由のどれもが平均的に満たされていますが、今回、人生は豊かさ(自由の拡大)への旅である、を学んだことを契機として、今後の人生について、今一度真剣に考えます。正直言って、現状は刺激にかけると感じているのです。3つめは、偉人たちに共通する本物の条件です。偉人の一覧表をみたとき、同じ日本人であるにもかかわらずその名をきいたことのない偉人が複数いました。高校では日本史を選択していたにもかかわらず、です。そのことは素直に反省し、この講義の中でしっかりと学べばよいのだ、と心をいれかえ、強い意思をもってこの講義に取り組むことを決意しました。そして、講義の中で、「新たな共通する条件を、8つめの条件を私が見つけ出したい」という意欲もわいてきました。本物の条件が私の中にもあるとわかれれば、それは大きな自信になります。本物の条件についても学びを深めて、自分と共通する部分も探していこうと決心をした次第であります。なお、私は二宮尊徳について深く調べることを予定しています。私は二宮尊徳のことを、元祖経営コンサルタントであると認識しています。私もコンサルタント要素のある仕事をしている、二宮尊徳と自分とではなにが違うのかを明確にし、将来の仕事に活かしていく所存であります。最後に、半年後の修了をひかえ、修士論文を作成中です。現在私が試みているのは、文章と図解が融合した論文の作成です。この講義の中で図解についても学び、論文にもいかしていきます。

・ 学生の時以来、日本の歴史及び人物について深く考えたことがなかった為、日本人として知らなかったことを新たに発見した思いです。文明の生態史観や人生100年時代のライフデザインは、今までなんとなく捕まえていたことを図で理解することで、間違えて記憶していたことに気づかされました。人生の豊かさ表現する課題に関しては、まさに目からウロコを得たように1枚の図の威力を感じました。[人物記念館の850館の旅か

ら]では、人物を 7 つの分野に分類しているところは、大変新鮮に感じました。幕末・明治から平成までこれだけ多くの偉人がいたのかと改めて感心させられました。日本人として知らないことが多いのは、恥ずかしい限りです。また、youtube の人物紹介では私本人にとって懐かしい思い出でもあり、当時は

- ・ かなりショッキングな話題になった三島由紀夫や[太陽の塔]の岡本太郎はまさに偉人にふさわしい人物である。さらに岡本太郎が大阪万博で太陽の塔を作成している時に、同時並行でメキシコで壁画を描いていたことは、はじめて知りました。気がつかないということは、恐ろしいことで、いつも通勤で通っている渋谷駅から井の頭線に乗り換える通路にその壁画が飾られているとは、思ってもいませんでした。(壁画の写真を掲載します。) 司馬遼太郎は好きな作家の一人で、龍馬が行く、坂の上の雲は何度か読み返した作品です。名作です。もう一度読みたい気がしてきました。まさか栃木の佐野で戦車に乗っていたなんて、あまり知られざるエピソードです。日本への回帰からこの作品が生まれてきたことは偶然ではないと思っています。留学生も多いこの講義では、日本とは何か、日本人とは何か、もう一度深く掘り下げて考えてみる必要があります。
- ・ 今回の講義で学んだ事、印象に残った事は、国が一番栄えた時に偉人が生まれると言うことです。幕末から明治にかけての動乱期には、まさしく、今の時代の私達が想像もできない境遇の中に身を投じた人たちの決死の覚悟が伺えます。翻って、まもなく平成の時代が終わりを告げようとしている中、先人たちに胸を張って生きているかと問われれば、頭が下がる思いです。今回の講義で、偉人がどういう経緯で偉人と呼ばれるまでに至ったか知る事で、今後の糧としたいと思います。

以下、留学生

- ・ (イタリア人)今日の授業を聞いて考えたことは次の通りです。1. 日本の文化を深く理解するために影響を与えた偉い人物を知る必要があります。どうして有名になったのか、何をしたのか、考え方は何だったのかなどを知ることで、今の日本人の習慣や考え方が分かりやすくなります。2. 日本語の勉強を始めて 6 年、日本に住み始めて 2 年半になりましたのに、恥ずかしくてたまらないことは日本の歴史上や芸術の偉い人についてはほとんど何も知らないことです。もっと勉強したいと思います。3. 先生がおっしゃったように、歴史は年号を覚えるものじゃなくて、偉人の人生から学ぶべきものです。なぜなら、歴史は人々が描いたものなので、できごとより人のほうが大切です。
- ・ (以下、中国人)第一目の「立志人物論」授業を受けて、日本の歴史と社会文化に前より強く学習意欲が湧きました。日本の偉人といえば、夏目漱石とか福沢諭吉とか宮崎駿とか数人しか知りませんでしたが、今回の授業を通じて、各領域における日本偉人の名前を習得しました。例えば、渋沢栄一、岡本太郎、司馬遼太郎などの名前を初耳です。今後もっと詳しく教えていただいたら、日本社会と文化の理解に対して、大いに役に立つと思います。留学する前、北京で様々な偉人記念館を訪れました。例えば、中国近代の国父孫文の奥さん宋慶齡の記念館とか中国南宋詩人文天祥の記念館とか。多くの記

念館は昔偉人暮らしした場所にあります。様々な記念館を訪ねて偉人の履歴と事跡をみると勉強になるとともに、偉人が所属した時代の社会と文化も深く理解できました。この授業をきっかけとして、日本、特に東京の偉人の記念館や美術館を訪ねます。今日、先生から紹介された岡本太郎記念館と夏目漱石記念館はすごく興味がああり、来月に時間あれば、行くつもりです。もし、他の人も興味があれば、ぜひ私に連絡してください。一緒に楽しんで行きましょう！(^)/

- ・今日久恒先生の授業を受けて頂いて、日本人の偉人にある粘り強く頑張る気持ちや日々の鍛錬など私は器量の大きさを感じました。特に岡本太郎から「自分は駄目だと思う時、駄目な方向を選べ、あえてエネルギーを得ることができる。」という話を聞かせてもらいました。ちょっと変わった話ですが、逆に考えると、危険な道を選び、抜け道を捨て、どうせ失敗すると思ったら精一杯頑張ることが可能になります。結果として成功することは多いのではないかと思います。
- ・偉人の影響力は深いし、広いし、長いです。死んだあともちの人々に大きな影響を与えます。今回映像を見た中で、岡本太郎は面白い人だと思いました。小学一年生で学校を退学したという話は当時でもそうですが、今ではありえないことだと思います。また彼は家族の関係が複雑で母、父、愛人が同じ家に暮らすのは異常だと思いました。私は偉人とか天才の人は凡人とはどこか違う考え方をしているのだと思います。中国では常規を破るということわざがあります。学校では空は青、リンゴは赤などを常識と教えますが、芸術においてそのような常識を破り自分の描く情景などを作品にすることで見る者に様々な影響を与えます。天才と呼ばれるひとには人柄などが悪い人がいますが、しかし彼らの作品は後の人々に大きな影響を与え、彼らの人柄を隠します。この授業を通して彼らの共通点探して勉強したいと思います。
- ・今日の授業はいろいろなことを思い出しました。古中国にことわざがあります。「銅を鏡とすれば、衣冠を正せる。古を鏡とすれば、興亡の理が見える。人を鏡とすれば、过失を知ることが出来る」だから、私は日本の歴史で有名な人物に興味を持っています。日本の偉人の事跡や名言をもっと知りたいと思います。そして、この授業を勉強します。今回の講義で、人生にはさまざまな段階があり、各段階には自分の使命があります。世界には相対的な自由だけがあり、絶対的自由はありません。歴史で有名な人はすべて異なる人生の軌跡を持っていますけれども、後世の人びとに賛美されています。彼らの過去を学ぶことによって、自分の精神をもっと豊かにすることができます。特に私は松下幸之助のような有名な企業家に対して興味を持っています。これからは先生の授業や自分の勉強を通じて、日本の歴史、偉人や文化などをもっと理解していきたいと思います。
- ・以前、人生の豊かさといえば、精神的と物質的の豊かさしか考えなかったが、今回の講義を受けて、豊かさの定義を改めて理解しました。今の私にとって、どうすれば経済的

自由と時間的自由をうまくバランスするのが、一番重要なことだと思いました。“売れなくても構わない、好かれなくても良い、認められなくても良い、成功しなくても良い”を言った岡本太郎さんが、自分なりにの道に生きていて、太陽の塔みたい偉大な作品を制作しました。そして、偉人たちの話を聞いて、彼らが残してくれた知恵、それは現代においても十分使えるヒントがたくさん詰まっていると思います。

- ・ 本日の講義を受けて偉人は深さ、広さ、長さ、つまり体積で影響力を測れることを認識しました。偉人の知恵や名言は後世の人々に影響を与えます。私も悩んだ時に偉人の名言を探して元気をもらいます。芸術家の岡本太郎の「なんでもいいから、まずやってみる。それだけなんだよ」という名言がある。非常にシンプルな言葉ですけど、確かにおっしゃった通りです。動かなければ、現状が変わりません。とにかくやってみると面白いアイデアなどが出てきます。後半のグループディスカッションで日本の方と意見を交換したり、知らない歴史を解説してくれたり、非常に勉強になりました。歴史を暗記することが苦手ですが、歴史があまり好きではないですが、先生の講義を受けて、人物から勉強すると、歴史が面白くなったと実感しました。7つの分野に分けられる偉人の中で、恥ずかしいですが、知らない人が大多数で、自分ももっと勉強しようと思います。
- ・ 久恒先生、春学期で色々な教えていただきますので心から感謝しています、今日の授業もありがとうございます、秋学期も先生の「立志人物論」の講座を受けられて、すごく嬉しい。皆さんと一緒に先生の指導の下に進歩と成長を楽しみにしています。初回の講座感想:中国では「昔方志半人物」という説がある。日本史、アジア史、世界史の発展にも大きな人物たちの影響と役割が不可欠である。経営学の学習者としての私は、leaderの養成教育において、歴史学、そ大人物の志、精神、学ばた。今回の講義で、「人物記念館の850館の旅から」で、人物を7つの分野に分類しているところは、大変新鮮に感じました。近代多くの偉人がいたのかと改めて感心させられました。7つの group を分けて、人生の planning, 人脉, 性格, 修养, 内涵, やる気、人生の本質的なイノベーション、人生の归属7つの分野で大人物達を紹介していただきました、日本近代大人物たちは、江戸幕府の藩文化の体現である。慶応義塾大学創立者の福沢諭吉は日本の近代の教育と文化に貢献した。留学生として、この講義では大人物の志を勉強通して日本の政治経済文明根源を掘ること、また日本人の方々と一緒に group で交流して、日本の文化を勉強したい。この講座を通して、大人物たちの志を学び、自分の将来の就職、起業、人生計画に生かしたい。



23 時過ぎに、自宅到着。

2019 年 9 月 22 日 インターゼミ(社会工学会)、始まる。

インターゼミの秋学期始まる。

始まる前に文庫カフェで、学長、先生方と懇談。

今後のスケジュール確認。新規参加者紹介。

2018 年夏の動き：蓮見先生（北海道停電）。バートル先生（モンゴル研修）。森川君、佐保君。。。。

学長講話

- 体験・体系化・解答。練る、凝縮する。
- リニア新幹線：橋本。品川、甲府、10 分。
- 北海道：全道で 400－500 万KW。苫東の火力、160 万KWがブラックアウト。本州の東北電力から 60 万KWを送る手はずがダメだった。直流、交流の切り替えの電源がブラックアウト。再生エネの太陽光、苫東にメガソーラあり、北電がシステムに組み込んでいた、これがブラックアウト。固定価格買取制度は 2 倍が 4 分の 1 に下落、押しつけられた北電。コンビニの健闘：1100 店舗あるセイコーマートはプラグインハイブリッドで活躍（プリウスは走る発電機）でレジが動いた。セブン、イオンはレジが動かなかった。泊原発の 210 万KWがスタンバイしていたが再稼働に高いハードルあり。真剣に考えるべき。原子力の基盤技術の維持が重要。

廃炉にも技術。原子力人材の若手がいなくなった。ロシアは原子力に舵。中国は 80 基 8000 万kW。湯川秀樹「太陽光エネルギーは核融合」。日本の原発売り込みは卑怯な印象。

- モンゴル:東方フォーラムのロシアの軍事演習 30 万。モンゴルが参加、ロシア・中国に引き込まれつつある。日本への期待は失望に。
- 情報は受け手の能力しだいで伝わる。



終了後、アジア班と、蕎麦屋で社会人大学院生を中心に歓談。水盛先生から『悪の歴史 東アジア編下・南・東南アジア編』をいただく。帰りの電車で「林則徐」を読了。「袁世凱」を今から。

2018 年 9 月 25 日 副学長日誌

- 研究室で事務処理
- 山本さん:新機材
- ラウンジで歓談:今泉先生、彩藤先生、久保田先生、。。

2018 年 9 月 26 日 教授会

- 9 月の教授会。冒頭、交換留学生の紹介があった。中国、韓国、台湾からで総勢 12 名



- 大森先生
- 学長室の渡辺さん:大学戦略会議の資料説明を受ける。
- バートル国際交流センター長、寺山さんから、大学運営会議での報告の説明を受ける。

2018 年 9 月 27 日 副学長日誌

- 長島部長:杉田学部長と面談。
- 松本先生、長島部長と懇談。

2018 年 9 月 28 日 授業(多摩)と会議(九段)の日

多摩キャンパス

- 10 時:久米先生と懇談。
- 10 時 40 分:授業「立志人物伝」:登録は 220 名ほど。エニアグラムの性格分析を行った。来週から本格的な授業を行う。

九段サテライト

- 13 時 30 分:教学マネジメント会議:IR報告。上位層対策。
- 14 時 30 分:大学戦略会議:アクティブ・ラーニング。
- 15 時 30 分:大学運営会議
 - ・ 補正予算。人事。大学戦略会議報告(「学生」)・国際化ビジョン報告・教学マネジメント会議報告(私から報告)。改革総合。規程。
 - ・ 学長:主体的に。実体化。上位者の参画。ジョロントロジー。都市郊外型高齢化は戦後日本の行き着いた先の問題。シルバーデモクラシーの逆説。戦後社会。社会不安の解消。常温社会(なんとなく不安)。社会革命。プラットフォームへの参画。

2018 年 9 月 29 日 インターゼミ

学長と面談

インターゼミ。

- 学長講話:
 - ・ 日本人の海外へのアウトバウンドは 2000 年に 1700 万人。その後も増えていない。複数回の人もいるから実際は 500－600 万人か。若い女性と高齢者が中心。壮年層は出張。偏っている。ハワイ、グアム・サイパンとアメリカの東海岸・西海岸。マルドメ派の逆襲。内向する日本。
 - ・ 中国は「中華民族」と「社会主義」で束ねようとしている。ロシアは「ロシア正教」という宗教で束ねようとしている。ロシアの 30 万人の軍事演習に中国とモンゴルが参加、モンゴ

ルは日本への失望からロシアに接近、中ソの狭間再び。



2018 年 10 月 3 日 副学長日誌

ラウンジ

- 飯田先生: 古本市
- 梅澤先生: T-Studio
- 高野課長: 人事

2018 年 10 月 4 日 2018 年秋のリレー講座始まる。寺島学長の講義「世界の構造変化と日本——何が問われているのか」

2018 年秋のリレー講座が始まる。

テーマ「世界と日本の構造変化と変わらざる視座を求めて——知の再武装の試み」。

本日の寺島学長の講義「世界の構造変化と日本——何が問われているのか」



- リレー講座: 2008 年から 252 回、13 万人。多摩 581 (一般 392・学生 189)。ライブビューイングで湘南・九段 147、合計 728 名。10 年の変化: 100 年人生と AI・生命科学の進化。知の再武装が必要。
- 知の再武装: 流動性知能 (知識量・劣化) — 結晶性知能 (つながり・課題解決力・努力で上昇) — 唯識性知能 (情動・美学・利他)。

- 2018 年・秋夏:IMFの見通し:世界 3.9%成長。世界同時好況。アメリカ 2.9%(IOT. シリコンバレー)。ユーロ圏 2.2%(鈍化)。日本 1.0、0.9、0.3(2020 年。消費増税)。
- 株式時価総額:GAFA+Mで 4.0 兆ドル(442 兆円)・テンセント・アリババで 0.9 兆ドル=ニューセブンシスターズ=プラットフォームズ=データリズムの勝者。ITは平準化技術。プラットフォームで囲い込む。ITとFTの結婚)。
- 2018 年の日本:トヨタ 23.8 兆円・NTTドコモ 10.9 兆円・ソフトバンク 10.2 兆円。ユニクロ 5.2 兆円・オリエンタルランド 4.4 兆円。経団連会長企業の日立 3.8 兆円・新日鉄 2.1 兆円・東レ 1.4 兆円。株価上昇の原因は公的資金 65 兆円(日銀ETF買・GPIF年金)と外資(政府保証だ)。水ぶくれは 3 割(5 割という説も)。
- トランプ:「グローバルを拒否」というが、実態は金融緩和で景気拡大を目指している
- 中東(火薬庫):イスラエルシフト(アメリカ大使館移転)。イランとの核合意破棄(イスラム教シーア派の三日月)。トルコへの制裁(通貨 4 割下落)。カタールがサウジと断交。100 年前のオスマン帝国とペルシャの復権。中東の液状化の進行。トランプの国内支持者向け施策。
- 中国の強権化と強大化:台湾:エルサルバドルが断交。残りは 19 ヶ国。バチカンが中国の教会を認める。外交的孤立。北朝鮮:7.12 米朝首脳会談。朝鮮半島の非核化(北も米軍も)。香港:一国二制度は消えた。アンブレラ革命の民主化消滅。
- ロシア:モンゴル:ロシアの東方経済フォーラムに参加・軍事演習に参加。ロシアに引き寄せられている。年内の日ロ平和条約締結提案。1956 年の日ソ共同宣言(平和条約で 2 島返還)。
- 日本:ロシアの極東開発の資金源。北朝鮮への資金源。

終了後:BS11の「未来先見塾」を放映。10 人



T-Studio でリレー講座参加者と学生も交えた「交流サロン」



始まる前に学長と懇談

2018 年 10 月 5 日 品川の大学院で「立志人物論」の授業——「仰ぎ見る師匠の存在」

- 夜は品川の大学院で「立志人物論」の講義。登録者は、日本人 5 名、留学生 10 人(中国、イタリア、ベトナム)



- ・ 本日の講義では、我々日本人にとっては周知の福沢諭吉、吉田松陰、森鷗外に加えて岡倉天心、渋沢栄一などの歴史上の人物を学ばせて頂きました。時代が幕末から明治、大正、昭和と推移して来ていますが、大きな変革が起きる時には必然的に偉人が出てくるものだと感心させられます。また、今回は一般的には知られていない人物、鬼塚喜八郎と古野清孝を取り上げて頂いた事は、戦後の物作りに大いに貢献した人物として興味を持ちました。オニツカタイガーのバスケットシューズを実際に愛用していた年代としては懐かしく、鬼塚喜八郎の偉業に改めて感心させられました。一方、古野電気の魚群探知機は業界では画期的な製品で海の魚の資源を有効に活用することで漁業に大いに貢献しています。その後、レーダ技術なども加わり優良会社となっています。それぞれの分野で多くの人のたゆまぬ努力が成功を生み、日本の発展を支えてきたと言えます。歴史に名を残す人物は、小さな積み重ねを長年にわたって続けて来てやり遂げています。自分自身にも変革を起こさなければ、何も変わらないと痛感させられました。歴史つ

て面白いですね。

- ・ 日本人なら知らない人はいないと言っても過言ではない人物、福沢諭吉。名著である「学問のすずめ」もさることながら、数々の名言を残したことで有名であるが、本日講義の中でその言葉ひとつひとつを聞くうちに、改めて懐の深い人物であることを再認識しました。今回、数ある名言のうち、「理想が高尚でなければ、活動もまた高尚にならない」この言葉が一番、胸に刺さりました。高尚とはすなわち、気高くて、立派なことであり、高い志を意味します。この言葉を聞いた時、高尚な理想をもって、活動をしているかと自分自身に問いかける良いきっかけとなりました。私自身、多摩大学大学院に入学した理由は、故郷である高知県四万十市に帰郷し、地元の地域活性化、地方創生というテーマに取り組みたい一心で、そのためのノウハウ、スキルを学ぶために入学を決意しました。高尚な理想、また、活動であるためにも、自分自身の志が、己の利益のみ考える利己ではなく、常に他人の利益、幸福を考える利他の考えに即したものでなければならぬと今回の講義を通じ、切に思いました。
- ・ 幕末に活躍した久坂玄瑞・高杉晋作には、吉田松陰という師匠がいた。慶應義塾大学創設者で思想家・教育者の福沢諭吉には、緒方洪庵という師匠がいた。著名な画家である横山大観には、岡倉天という師匠がいた。軍医と小説家という二刀流でありながらそれぞれで一流になった森鷗外には、渋江抽斎というお手本がいた。など、歴史に名を残す人物には、優れた師匠・お手本がいたということを学びました。また、講義の中で出てきた福沢諭吉の言葉。「努力は『天命』さえも変える」胸に響きました。自分の人生ついてない、と嘆くことが多々ありますが、それは、「おまえなんてまだまだ努力が足りてない。もっと努力をしろ」という天の声である。嘆く前に、もっともっと努力をすべきなのだと思省しました。では、どのように努力をすればよいのか。今は多摩大学大学院で学ぶことだと考えます。同じく福沢諭吉の言葉。「人間に貴賤の差はない、しかし、勉強したかしないかの差は大きい」。その通りだと考えます。将来に向けて力を蓄えるために、今は全力で学びます。師匠について、ひるがえって自分には師匠と呼べる存在がいるかを考えたところ、2人思い浮かびました。1人は、前職の上司・K次長。社内での出世競争にはやぶれ、それ以上昇進することなく関連会社に転籍となってしまった方ですが、人の心をよむことが非常にうまい方でした。落ち込んでいる社員に良いタイミングで声をかける。仕事で結果を出した日の夜にお祝いのメールを送ってくれる。チームの雰囲気盛り上がり始めたときに、チーム全員を飲みにつれていき団結力を高める、など人の心に寄り添った巧みなマネジメントをする方でした。当時の私は一匹狼タイプ。自分は自分、他人は他人と線引きをしていましたが、それではいい結果が出ない。1人の力などたかが知れている、しかし、心と力をあわせてみんなでチームになれば、大きなことを成し遂げることができるのだ、ということ、K次長は身をもって教えてくれました。自分が部下をもつ立場になったら、K次長のような人の心を慮る上司になりマネジメントをすべきである、個人事業主となった今でもそう思っています。そしてもう1人は、ごま

をするわけではなく、多摩大学大学院の徳岡晃一郎教授。現役のコンサルタントでありながら大学院の教授として後進の育成にも注力している二刀流。コンサル業務に携わる私にとって、徳岡先生はあこがれです。多摩大学大学院に入学したのも徳岡先生の教えをうけたいと考えたからであり、そして実際に教えを受けると、徳岡先生のようにになりたい、と望むようになりました。私はかねてより、自分自身が第一線で活躍できる時間は長くない、と考えていました。せいぜい10年、長くても20年、たったそれだけの時間です。では、何をすべきなのか、それは後進を育成することだと考えます。師匠から私が学び、私が第一線で活躍しながら、あるいは第一線を退いた後に、私が師匠となって後進を育成する。そして弟子たちがやがては師匠となり、さらに後進を育成する。このようにして、歴史に名を残すことはできないとしても、自分たちの魂が脈々と受け継がれていく。それこそが私がこの世に生まれてきた意味なのだと考えます。師匠と呼べる存在がいる、この世に生まれてきた意味についても自覚をしている、そのうえで、今は何をすべきであろうか。繰り返しになりますが、今は多摩大学大学院で学ぶことです。そして近い将来、第一線で活躍する一方で、後進の育成にも力を注ぐ、他人から師匠と呼ばれる存在になれるよう、今は全力で学びます。

・ 【良き師をもつべし、学ぶべし】①良い師に学び続け、それを自分の力としてアウトプットし、仕事(事業)に活かすことで運命が拓ける。②役立てることのない学びは、学ばないことと同じ。③自信と謙虚の間に立つ。噛めば噛むほど学びの多い講義でした。貴重なお話をありがとうございます。短い言葉ほど覚えている、長い言葉は忘れてしまうというお話がありましたので、今日の学びのエッセンスを3つにまとめて本文として投稿し、詳細は添付ファイルとして別途添付することにします。今日の講義は、「師」と「教育」を軸に構成され人選も人を育てた人物として、大きくは吉田松陰、福沢諭吉、岡倉天心の3名を学びました。吉田松陰は、山口県の萩で松下村塾を開き、明治維新への大革命を主導する多くの偉人を輩出した人物です。その松下村塾がたった2年間という短い期間しか開かれていなかったこと、松陰自信は30歳で亡くなったことに驚きました。人が人に影響を与えるために、それほど長い時間はいらいのかもしれません。福沢諭吉は、日本の近代化を支え、多くの名言を残した人物です。学問の勧めは当時160人に一人が読んだベストセラー。私も学生の時に福翁自伝とともに学んだ記憶があります。実学の言葉の通り、事業として世のため人のためになる学問を重視しました。西洋の学問を輸入し自由と平等の人という印象ですが、実は子供の結婚相手を自ら選び子供に自由を与えなかったという話を聞き、人間の二面性と儻ならなさを感じました。岡倉天心は、日本美術を守り再興した人物です。帝大の政治学科で論文を書いたものの、当時の同棲相手と喧嘩し論文を燃やされてしまい、テーマを美術の変えたことから文科省へ就職し、偉大な仕事を成し遂げるに至ったという話に運命の不思議を感じました。福沢諭吉の二面性と言い、私の興味は本筋からややずれているようです。主要な3名以外では、大滝秀治(先生は「しゅうじ」と発音されていましたが「ひでじ」さんでしょうか。)の言葉がもっ

とも印象に残りました。人間の態度として、うぬぼれ、自信、謙虚、卑屈 の段階があり、うぬぼれもいけないし卑屈もいけない。自信と謙虚の間にいることが大切だろうとのこと。自分に自信を持ち、謙虚な姿勢で学び続けることを60になっても70になっても続けられる人間でいたいと思います。まずは今日から。今日も生涯の一日なり。その他にも、アシックスの鬼塚喜八郎が日本人を健康にという思いからスポーツシューズをつくった話も印象に残りました。いい仕事をするには、高い志が必要で、戦後の日本では多くの人が鬼塚氏と似た考え方で様々ないい事業を起こした、その先に日本の高度成長があったというお話。いま日本が抱える様々な課題に対して自分自身も高い志をもって仕事に向かいたいと思います。具体的に言えば、私は人事をやっていますので、「100年人生を生涯現役で豊かに幸福に生き抜ける社会・会社をつくりたい」と思う次第です。

・ 本日の講義では吉田松陰と久坂玄瑞、高杉晋作のお話があり、吉田松陰の猪突猛進、学問を学ぶ事の目的は暴力も辞さない主張を通す事。その為の武装であり、暴力に訴えた為に命を落としたのだと思いました。この思想は歴史上、混乱期に現れるものであり、久坂玄瑞や高杉晋作はこの思想を受けて短命だったであろうと感じました。これに対して、福沢諭吉は合理的に物事を捉え、学ぶ事で武装し、スキルセットを使って資金を作り、自立せよと説いています。恐らく、この考え方も師匠である適塾の緒方洪庵から引き継いだ点においては久坂、高杉と同様ですが、福沢は学び舎を作り、永続的に学ぶ人間を作り続ける事を適塾の規模から文部大臣として飛躍的に拡大した事が日本に対する最大の貢献だったのだと思いました。最終的には官僚主義が進み崩壊するのですが、この国風形成があったことによって日露戦争勝利後の国際的地位の形成に繋がったのではないかと考えています。余談ですが、福沢諭吉が戦時中は評価が低かった事に関しては自由度の高い学びは当時の軍部に都合が悪かったのではないかと思います。軍部に都合の良い人物は東郷平八郎や楠木正成の様な忠義を尽くし、奇襲で大勝した人物であり、世論形成に歴史が都合よく権力者に使われてしまう絵図は現代と変わらないと思います。個人的には東郷平八郎の老害と化した後半生はその後の戦争の惨禍の遠因となっていると考えています。講義の後半、映像を見せて頂いた岡倉天心は非常に興味深い人物であり、幼少期の英語習得がその後、彼の活動範囲を海外に広げて、結果としてその見識が日本の芸術を救ったという点が彼の使命であったのだらうと感じさせられました。日本の特徴として他国から入ってきた文化の方が高尚であり、学ぶべきと考える傾向があります。この考え方には長短ありますが、当時の絵画は黒田清輝が印象派を持ち込み、日本絵画を駆逐する局面があったと思います。新しいものが優れ、古いものが劣り、消えて行くべきであるというのは典型的なアングロサクソンの考え方で zero-sum です。その理論を日本に持ち込もうとした多数派に対して、岡倉天心の存在は天の配剤だと思いました。共存共栄は日本の八紘一宇的な考え方です。岡倉は両方の文化背景を理解していた為に何が起きていたのかを理解していたのだと思いました。これこそが歴史を学ぶ本来の意味だと思います。本日も学ばせて頂きました。

以下、留学生。

- ・ 今回の講義で、久恒先生は日本の教育史先駆者の吉田松陰さんから、近代日本の発展に欠かせない大人物たちの紹介を行った。吉田松陰先生の思想は日本の明治維新後、一部の対外政策や吉田松陰が計画した発展の道を参考にしたのも、日本帝国の拡張主義や植民地主義、軍国主義の根幹になった、志は自分の力を変えて、国の力を変えることができると思います。私の志はなんですか？またどのような環境の変遷のために初志を変えましたか？今日私が深く感じたのは、日本の教育家の福沢諭吉先生の 1、〈あまり人生を重く見ず 捨て身になって 何事も一心になすべし。〉2、〈独立の気力なき者は必ず人に依頼す、人に依頼する者は必ず人を恐る、人を恐るる者は必ず人にへつらうものなり。〉という 2 つ名言である。優雅な音楽を流れて伴った〈あまり人生を重く見ず 捨て身になって 何事も一心になすべし。〉という字幕が出てくると、ちょっと眠くなった私は、急に悲しさが湧いてきた。何故ならば、いつか、私も志を持っていたのですが、時の流れによって淡くなってきていたからです。この名言を見たことがなくて、私は失った志をここでただ残念に思いました。2 つ目は福沢先生から人生の独立と自尊を教えた名言である、自分で考え、自分で行動し、他人に頼らない精神を持つことが必要である、国でも、社会でも、個人でも同じ独立と自尊の事を失わせよ！「一身独立、一国独立」ということで、全体（ここでは国）がしっかりと独立を維持して、外部から尊厳を保って見られるためにはそこに帰属する一人一人が独立精神がないといけない、という言葉を紹介しました。同じ事はもちろん会社という組織にも言えます。もし、私たちが何か外に対して依存していればきっと、いざ、なにかあった時には、その相手に気兼ねしてしまう。そして、その気がねすることが常態化すると卑屈になり媚び諂ってしまう。ひとりひとりに置き換えてみましょう。もし、自分の仕事のスタイルが自己解決型ではなくて、この部分は〇〇さん、この仕事を終えるには〇〇さん、と思いながら依存してやっていく癖がつきすぎると、どうなってしまおうでしょうか？これから私の残る人生で自分の鞭撻を刻々と刻みつける必要性がある。まだ、同じ group の日本人方丁寧に、色んな歴史的な知識を教えられて、もう日本の文化を勉強になる。ありがとうございました。今日の授業が 将来の就職と人生計画を指導することになると思う。
- ・ 本日の講義では、吉田松陰と福沢諭吉について、人生の経歴と高い志を持つことが分かってきました。特に松陰は遊学の時に民の苦難を痛感し、幕府改革の必要性が自分の志になり、一生を貫きました。最初は黒船事件に老中暗殺の計画が失敗し投獄されました。しかし、驚いたのは松陰は道半ばで倒れず、松下村塾を創ったことです。逆に柔軟な発想で、国の改革を優秀な若者たちに頼みます。さらに、教育を徹底することで、なんと僅か 2 年で、卒業した学生達がそれぞれ歴史に名を残しました。ここで、私は范仲淹の「岳陽樓記」を思いつきました。彼はそういう話を言いました。「士たるものは天下の人々をの心配事に先だって、いち早く心配しなければならぬ。しかも楽しみごとのほうは、天下の人々の楽しみにおくられて楽しむべきである」と。彼は権利を持つ人が必ず国や国

民の利益を一位に置き、不安点や不測の事態に備えた準備を心に刻むべきだと表れました。二人共国民生活の改善を前提として、国の改革に至って高い志を持っているところは共通点です。そう言えば、確かに夢や志を追いかける方は困難にも負けず、進むしか考えないですね。私も志を常に持っている人間になりたい、今日の講義を通じてすごく勉強になります。ありがとうございます！

- ・ 今回の講義を受け、印象に残っている言葉は「どんな偉人でも、先生がいる」。また人間の偉さという、後世の人への影響力が非常に大事であることだ。本日の講義で鬼塚喜八郎、福沢諭吉、吉田松陰、久坂玄瑞、高杉晋作、渋沢栄一の話がありました。福沢諭吉は「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」が有名で、人間は全て平等で、人の差は生まれつきにあるのではなく、「学問したか、しなかったか」によるものです。人間は一生勉強で、学問に年齢は関係ないです。勉強したいことがあるなら、考慮せずに挑戦した方がいいと思います。福沢諭吉の名言「ペンは剣よりも強い」も頭の中に残っています。文字によって書かれた学問、思想は武力より強い力を持っています。自分が経験したことだけでなく、他人の思想から勉強できるものもたくさんあります。また、今の時代でマスコミの報道は国民の心を動かす力を持っているので、真実を伝えることも重要だと思います。「今日も生涯の一日になり」も胸を刺されるような言葉です。ぶらぶらして一日を過ごすより、ちゃんと自分のスケジュールを管理して毎日が充実したいです。『福翁自伝』を読んでもっと勉強させていただきたいと思います。
- ・ 今日の授業では吉田松陰、福沢諭吉、岡倉天心の日本人の人物に関して学ばせていただきました。本当に勉強になったと思います。特に気になる人物は福沢諭吉の名言です。「学問の本質は学問を自分がどう活用できるかにかかっている。」とか 先生に教えて頂いた「今日も生涯の一日なり」などの福沢諭吉の名言を理解できるようになりました。又はグループワークした時、素晴らしい人物の吉田松陰について、教えてください、ありがとうございました。先生のおかげで、自分の生涯の一日を無駄にしないでよく分かりました。
- ・ 今日は様々な分野の師匠の思想や貢献などを学びました。彼らが特定の歴史的な条件のもとで、それ以降の世代にプラスの影響を与えて、国、さらには全人類にとって有益な思想を編み出した。大変勉強になりました。特に、福沢諭吉は単なる 1 万円の人物ではなくて、思想家、教育者であることがわかりました。「人は他人に迷惑をかけない範囲で自由である」。この名言を聞いて、現代の日本では、他人に迷惑をかけないのが文化の一つだと感心しました。もしかしたらその時から、今までずっと日本人に影響を与えているではないでしょうか？やはり、人がいなくなっても、思想が残ると感じました。そして、動乱時代では、吉田松陰のような偉大な思想や抗議の勇気をもって、指導者として国を守る人物が時代の宝物だと思います。鬼塚喜八郎は日本の実業家で、日本人に健康にしたいという夢があって、ASICS を創業した。現在では国内の同業界内で、業界屈指の総合スポーツ用品企業です。ですから、高い志というのが非常に大切なことと思

ました。

- ・ 各業界である仰ぎ見る師匠には数人のことを少し習得しました。ビデオを見て、福沢諭吉さんの沢山名言を勉強になりました。その中で、一番印象を残ったのは「時には二人の意見が異なることがあっても、自分の意見が是か非か、自ら心の中で裁判すれば、他人に判断してもらうような面倒を掛けなくとも、早速に落ち着くところに落ち着くであろう」という言葉であり、自分と相手の双方の主張を冷静に見比べてみるのが大切だと理解しました。福沢さんを代表として教育家は西洋の文化と先進技術を国に引き込む一方、岡倉天心さんが「歴史の中に未来の秘密がある」という本土の文化を誉める思想家もいました。文化の融合と継承両方も達成しました。異なる側面から日本近代発展に関する学習を一步前進しました。「今日も生涯の一日なり」。
- ・ 仰ぎ見る師匠の存在をみて目の前に思い浮かべるのは吉田松陰ですが、留学生である私は正直きいたことがありませんでした。先生の授業の中の動画を見ることと先生の話を書くことでこの人のことを少しだけ理解できました。吉田松陰は平民のため国のために、一君万民論を唱えました。この思想が明治維新を作り上げたのだと思います。松下村塾を作り、その中で明治維新を行う多くの若者を送り出しました。明治維新という歴史的出来事は吉田松陰の教えをのちの多くの人々に影響を及ぼすものとなりました。師匠になれるのはやはり人々の力を引き出せるような思想を説く人物であると思いました。思想家は時代を動かすような人々にとっての原動力となるでしょう。私はもっと多くの思想家の人たちの考えについて知りたいと思いました。この授業を通してもっと知ることができればいいなと思います。
- ・ 本日の講義を通して、たくさん日本歴史の中に偉人のライフストーリーを学んでいました。これらの偉人は各業界の仕事に従事しているが、当時の日本にたくさんの影響を与えていました。最も関心があるのは岡倉天心です。彼は芸術家の身分と共に、現代の日本で最も重要な人物である。福沢諭吉と反対思想を持つ、西洋より東洋のほうが文明が深い、提唱するはずです。彼は近代西洋文明は物質的に強いが、工業化により人々は機会の奴隷になります。最近、中国人の考え方も徐々に変化されています。昔には欧米の物事を憧れていた人が、最近、自国の文化を新たに重視になっています。
- ・ 今日の講義は簡単ではない。内容はいっぱいです。はずかしいですが、今日紹介された人物の中 福沢諭吉以外は初めて聞きました。福沢さんは学問を強調した、特に実学を重視するべきだと。これは多摩大学大学院の理念もマッチと思います。吉田松陰は29歳なくなった、本当に「昔から英雄が少年を出す」ですね。早めに人生の志を確立しましょう。「今日も生涯の一日なり」。



- 9 時:授業準備
- 10 時:久米先生と歓談
- 10 時 40 分:学部の「立志人物伝」の授業。
- 昼休み:出原「名人」の囲碁教室



- 13 時:事務局との定例ミーティング

2018 年 10 月 6 日 副学長日誌
 午後は、九段でインターゼミ

2018 年 10 月 9 日 副学長日誌

- 研究室
- 杉田学部長

2018 年 10 月 10 日 副学長日誌

- 志賀先生:書物。テーマ。
- 椎木先生:キスカ島撤退作戦
- 杉田学部長
- 飯田先生

2018 年 10 月 11 日 副学長日誌

13 時:湘南キャンパスの学部運営委員会に出席:教授会日程。ホスピとインターの希望の割合。離学の状態。キャリアサポーターズ。450。

2018 年 10 月 12 日 「立志人物伝」の 4 回目の授業:「切磋琢磨する敵と友」のライバル編ー岡本太郎・三島由紀夫

- 学部の授業 4 回目。
 - ・ 前回アンケートから。
 - ・ 長州の「松下村塾」・薩摩の「郷中教育」・会津の「什教育」。
 - ・ 名言との対話から:ジョンレノン・武満徹。安田幸吉。中村元。。
 - ・ 切磋琢磨する友と敵 ライバル編。●岡本太郎:・ユーチューブ「岡本太郎」の「芸術は爆発だ」。解説:私との縁「学生時代」「JAL時代」。
 - ・ライバルは、ピカソ!ピカソの説明。
 - ・ 渋谷「明日の神話」の壁画。
 - ・ユーチューブ「岡本太郎名言集」。名言を紹介する。
 - 三島由紀夫:・解説。
 - ・石原慎太郎。川端康成。
 - ・ユーチューブ「英語インタビュー」
 - 「川端康成」。
 - 大鵬と柏戸。イチローと松井。ゲイツとジョブス。
- 渡辺さん:戦略会議「AL」の課題を確認。
- 樋口先生:新著『65 歳から頭がよくなる言葉習慣』をいただく。この本の中に、毎日必死でブログを書き続けている変な人(?)、として私も登場していた。



- 大森映子先生：新著『お家相続』をいただく



- 国際交流センター運営委員会に出席
- 研究室：力丸・岩沢：新プロジェクト始動。自宅に移動。

2018 年 10 月 13 日 ビッグデータ時代の教育のあり方

午前中のFD 研修は、多摩大目黒高校の荒尾進路部長の講義。14 人が受講。ビッグデータ時代の教育のあり方は大変参考になった。

- japan-ePortfolio。Classi。スタディアプリ。サービスサポート。生徒手帳。生徒カルテ。グループ機能。ウェブテスト。成績カルテ。学習記録。不安の解消。ノートとり不要。考える力。進路指導。基礎学力＋応用力。プロセスが大事。電子調査書。図と絵も。日常生活が教材。夏休み。国語力。高大接続改革。
- 父兄とのコミュニケーション。授業改善。データの蓄積。深く、きめ細かな指導。省力化。一貫。ビッグデータ時代の学校。教職員同士のコミュニケーション。自前はダメ。学生満足度調査。共有・主体性・蓄積。入試は通過点。生涯教育。



九段サテライト

- 東洋学園大学の愛知太郎理事長が見学に見える。名刺交換。
- 金先生、荻野先生、バートル先生と懇談
- インターゼミ
 - ・ 久保田先生「ルーマニアでの学会」。奥山先生(明治大)「OB会。研究のやり方」。木村先生「北朝鮮訪問から」。
 - ・ 学長講話
 - ・ サンデー毎日「100歳人生 本当の処方箋」
 - ・ 脳力のレッスン 199 特別篇「2018 年秋の不吉な予感ー臨界点迫るリスクと日本の劣化」



2018 年 10 月 17 日 副学長日誌

- 学部運営委員会
- 杉田学部長: 人事
- 佐保君: 大分帰省。Zoom。
- 理事長: 人事

2018 年 10 月 18 日 公開講座は良峯先生「脳波」。リレー講座は渡部恒雄「中間選挙を前にしたトランプ政権の動向」。大学院運営委員会。

- 13 時: 本日の公開講座は良峯先生の「脳波と言う身近で不思議な力」。60 名という盛況。哲学。心。脳の研究。瞑想(マインドフルネス)。生体データビジネス。85 歳の 205 が認知症。ニューロメディテーション(脳波計を使った瞑想)。脳波研究の父ハンス・ベルガー。デルタ波(熟睡)・シータ波(まどろみ)・アルファ波(安静)・ベータ波(緊張)・ガンマ波(認知)。脳波で心の状態がわかる。脳波トレーニング(ニューロフィードバック)。瞑想・呼吸・洞察。脳の可塑性を利用。マインドフルネスムーブメントで認知能力を維持向上(注意能力・気持ちの切り替

え・アンチエイジング)。前頭前野の厚みは維持できる。脳は若いまま。海馬(記憶力)が大きくなる。ガイド役は脳波計にまかせよう、、、。図解と脳波！



- リレー講座。本日の講師は渡部恒雄(笹川平和財団上席研究員)。テーマは「中間選挙を前にしたトランプ政権の動向」
 - ・ アメリカの中間選挙 11 月 6 日。
 - ・ トランプ大統領。アメリカファーストは世界秩序の崩壊へ向かう。サウジのカショギ殺人、中国人の国際刑事組織のトップ拘束、ロシアのクリミアなど、世界はジャングル化へ。今後もっと難しくなるだろう。
 - ・ トランプ政権は 2017 年 8 月から 2018 年 1 月まではわりとまともだった。現実主義者の重しがなくなった。ジョン・ケリー(首席補佐官)、ロブ・ポーター秘書官、ティラーソン、マクマスター安保補佐官、ポンペイオ長官、ミッキー・ヘリリー、チナ・パウエル、、、。トランプは勝手に人に会うようになってしまった。
 - ・ 2018 年 3 月 8 日以降、先祖返り。鉄鋼・アルミの追加関税と北朝鮮キムジョウンとの会談の決定。支持率は上昇。共和党保守派からの支持。アメリカは中道がなくなった。ネオナチ・白人至上主義。世界とアメリカのシンクロ現象。中間選挙囲碁にマティス国防長官もクビか。トランプは貿易収支のみに関心。同盟国も批判。ドイツ・日本は厳しくなる。日米貿易担当のライト・ハイザーは管理貿易主義者。
 - ・ トランプの苦労: セクハラのお礼料が選挙資金か。ロシアゲート疑惑。中間選挙では下院は民主党勝利、上院は共和党に。アメリカは分断。リベラルとキリスト教保守派。民主党も左派と中道に割れているから弾劾はできない。下院の委員長ポストを民主党が握るので議会でトランプは追い詰められていく。左右の対立は激しくなる。結果としてアメリカは弱くなる。
 - ・ トランプはトリックスター(神や自然界の秩序を破り物語を展開する者。いたずらが好き)。左右の分断、メディアの分断という世界になったとき、トランプがトリックスターだったと気がつくだろう。
- 17 時 30 分: 品川で大学院運営委員会

2018年10月19日 社会人大学院の「立志人物論」の受講者のアンケートから。日本人、中国人、ベトナム人

午前

- 久米先生と懇談：専門職大学のお話。日下公人スクール。
- 授業「立志人物伝」の5回目

午後 事務局との定例ミーティング

夜 大学院授業「立志人物論」

- 受講生の訪問した人物記念館の発表。「渋沢史料館」「山本有三記念館」「開高健記念館」「渋沢史料館」。
- 講義・映像・感想・グループでの議論



- 以下、授業の感想。日本人
 - ・ 日頃から文学に慣れ親しんでない私にとって留学生の方々をリードするのは正直厳しかったです。文学だけでなく、近代の立志人物に関する知識は日本史の時間に触れ程度で今まで殆どかわることはありませんでした。唯一夏目漱石、正岡子規は自分の卒業した高校と縁が深かったので良く知っています。正岡子規は高校の先輩であり、夏目漱石が高校(当時は旧制中学)に英語教師として赴任してきた経験をもとに書いた小説が坊ちゃんが有名であり記憶に残っています。正岡子規の影響で高校でも俳句の授業もありました。根津に子規庵があるので機会があれば一度訪ねてみたいと思います。漱石と子規の間には深い友情があり、最愛の友を失った漱石はさぞ落胆した事であろう

と思います。志賀直哉の暗夜行路は日本史で覚えた記憶はあるが内容については知識を持ち合わせてません。26 年もかけた作品だとは知りませんでし。志賀直哉の文章は名文と呼ばれているので一度読んでみたいといいます。また尾道にある志賀直哉旧居も是非訪れてみたい。風光明媚な街で海を見ながら書き出した小説が何故も 26 年かかったのかを感じながら読んでみたい。残り 30 分のグループディスカッションで驚いたのは留学生の方々が日本の近代文学史に非常に興味を持っている点である。日本人でさえあまり触れないのに外国人の方々が各作家に対して洞察を持ち各々の意見を語っていただいたのは面白かった。今度は中国の文学についても教えて頂きたいと感じました。また改めて日本の立志人物について触れてみたいといいます。

- ・ ライバルの存在。切磋琢磨する友の存在。これらの存在を考える上で、自分自身のことを考えるとこういった友の存在について胸を張って言えると思いました。彼らは大学時代の付き合いで、お互い刺激し合って、今でも良い関係だと自負しています。ただ、ライバルというと、目標としたい見習いたい上司の姿は浮かぶが、ライバルという点では、残念ながら思い浮かばなかったです。しかし、今回、岡本太郎がパブロ・ピカソのことをライバルと語ったように、身近の人に限定することなく、半ば勝手にその道の人、業界の人をライバルに設定すれば良いのだと思い、気が楽になったと同時に、張り合いがでそうだなと思いました。今回紹介のあった人物に話を戻すと、三島由紀夫の生き様が印象に残りました。カナダのテレビ局のインタビューに堂々と、また、冷静に自身の考えを語る姿に畏敬の念を感じました。三島由紀夫の作品は、かつて「潮騒」を読んだことがあり(あまり詳細は覚えていないが)、当時読んだ時に美しい言い回し、表現方法がすごく印象に残っています。講義資料にあった「日本はなくなって、その代わりに、無機的な、からっぽな、ニュートラルな、中間色の、裕福な、抜け目がない、或る経済大国の一角に残るのであろう」、この言葉は、かつての日本が持っていたアイデンティティに対して、失われつつある現状を憂いた言葉のように感じました。講義を通じて、改めて、こういった文豪の作品に触れたいと感じました。
- ・ 「ライバルがいない(思い浮かばない)！」。ライバルとは何か？パッと説明できず、留学生のお二人が調べてくれた。「ライバルとは競争相手のこと」だ。(教えてくれてありがとうございます。)先生からは自分を高めるために、2 ランク上の人を自分のライバルと思うとよい、そして格上のライバルに勝つには周到な事前準備をすべしとのアドバイスを頂いた。しかし、はたと自分を振り返ると、そもそも、ライバルが一人も思い浮かばないのである。これは自分を高めていけない、成長阻害要因だ。なぜライバルが思い浮かばないか、考察しなければいけない。電車で揺られ考えたところによると、ライバルが思い浮かばないのは、私がいつも「争いを避ける」選択をしているからだとの自己分析結果に至った。そう、私は争うことが苦痛でいつも、出来るだけ争いを避けてきたのだ。そして、私は争いは善くないという価値観を無意識に強く持っている。今日は、この価値観の見直しに着手しよう。争いの「何が」善くないのか。争い、つまり、暴力による問題の解決を

目指す意思是、善くない。ここは間違っていない。次に、仕事やスポーツで競争相手と切磋琢磨する行為、これも争いの一種である。つまり、ライバルとの切磋琢磨という争い、これは自分と相手を高めることになり、善いことだ。暴力的争いと切磋琢磨する競争を峻別し、積極的に善い争いをしていきたい。読み返すと当たり前のことを書いているので読む人にうまく伝わるか不安だが、自分にとっては意味のある気づきだ。岡本太郎が人に笑われようが自分の歌いたい歌を歌う、と言っていたじゃないか。いや、それはやや文脈が違うか。いずれにせよ、これからは 1、2 ランク上のライバルを見つけて、競い合い切磋琢磨するぞ。もう一つ、結果的に似たような話しになりそうだが調和についても岡本太郎の言葉に衝撃を受けた。調和とぶつかり合うことについても、価値観の見直しをしたい。岡本太郎は、「調和なんて嫌いだ」と言っていた。私はぶつかり合うことが嫌いだ。ぶつかり合うことイコール、争いイコール善くないことという価値観がある。調和は大好きだ。だから岡本太郎の言葉に驚いた。さらに、岡本太郎は言う。「本気のぶつかり合いでしか真の調和は生まれない。」と。これは、グサッと刺さる言葉だった。つまり岡本太郎は正反合、止揚、アウフヘーベンのことを言っている。真の調和は、争いのない、誰ともぶつからない、ふんわりとした、小綺麗などころでは生まれない。バチバチ本気でぶつかるような知的格闘の結果、苦しみの果てに生まれるものだ。と岡本太郎は言っているのだ。大阪万博のテーマたる「人類の進歩と調和」を否定して、丹下健三の設計した大天井に挑み、太陽の塔で大天井に風穴をあける。人の心を揺さぶる情熱。揺るぎない信念。私は、争いと苦しみを避けて、安易な緩い調和を善しとしていた。自分の今できる最高の地点で、相手とぶつかり合い、争い、苦しみ、真の調和に辿り着く、そんな調和を目指してみたい。岡本太郎の言葉には、そんな衝撃があった。そのほか、お二人の留学生と話した三島由紀夫の話も楽しかった。先生、クラスの皆様、今日は貴重な時間ご一緒させて頂き、感謝いたします。ありがとうございます。

・ 本日の人物論では、川端康成と三島由紀夫の関係が大変興味深かったです。年齢の違いがありますが、世界的な作家がお互いを尊重していることに感銘を受けました。私自身は両者ともに存命している時を知っていますが、天才同士が強く惹かれている運命を感じます。小説の文体は異なりますが、川端の自然描写、三島の感情表現の凄さにあらためて感心させられます。個人的に三島由紀夫の壮絶な死が今でも記憶に残っています。市ヶ谷の自衛隊で決起を促したが、受け入れられず割腹自殺をしてしまいます。多彩な才能の持ち主だった三島がもう少し生きていたら、時代は変わっていたに違いないと思っています。偉人は早死にするということでしょうか。もう一人、あまり知らなかった人物として正岡子規がいます。友人だった夏目漱石はあまりにも有名ですが、子規が野球の名付け親だったとはなんとも面白い話しです。子規も若くして死んでしまいますが、ペニシリンがその時代に普及していれば結核で死ぬこともなかったでしょう。なんとも惜しい話です。数多くの偉人が日本を支えて、そのおかげで日本の発展があります。個人的な興味ですが、科学技術の発展に貢献した人物を取り上げて頂ければと思っています。

す。次回授業を楽しみしております。

- ・ ライバルと友の重要性について学び、再認識しました。「ライバル」。岡本太郎とピカソ。川端康成と三島由紀夫。ライバルとは敵であると同時に、一番の理解者なのかもしれません。かつての大相撲における若貴兄弟と曙も、横綱としての栄誉を得ながらも、一方で横綱にしかわからない大きな苦悩もあったと考えます。その苦悩などは、同程度の力量をもち、最高位までのぼりつめたものしかわからない。だからこそ、敵同士ではありながらも、相手のことを認め、尊敬もする。そのようなライバルがいれば、お互いを高めあうことができ、いずれは良き友となれるのではないだろうか(若貴兄弟と曙が、現在友であるかどうかは存じませんが)、ライバルの存在は、やはり大切であると認識しました。「友」。正岡子規と夏目漱石。志賀直哉と武者小路実篤。正岡子規のことをしたのは、司馬遼太郎の「坂の上の雲」でした。坂の上の雲においても、正岡子規と夏目漱石の友情について言及があったと記憶しております。お互いの力を認め合う友、非常に心強い存在でしょう。志賀直哉と武者小路実篤の友情には驚きました。志賀直哉が26年もの歳月をかけて書き上げた「暗夜行路」を、友である武者小路実篤に捧げる。もし私が志賀直哉であったら、すべてを私のものとしたことでしょう。友というと馴れ合うというイメージもありますが、真の友というのはそうではない。影響を与え合いながら、お互いに成長する存在である。そのような友が身近にいるのであれば、一人きりで努力をするよりも格段に速いスピードで成長をしていけるのでしょうか。ひるがえって、自分はどうかだろうか。ライバルは…、「いない」。強いて言えば過去の自分がライバルだ、などと言ったこともありますが、他人と競うことを避けていたのだと考えます。ライバルを設定して、その人物に負けたとき、立ち直れなくなるほど傷つく、そのことを恐れていたのだと思います。しかし、「この業界のトップランナーになりたい」という思いはあります。では、まずこの業界における現在のトップランナーは誰かを設定し、その方をライバルとすることから始めよう、と今決心しました。私がこれからライバルとする「その方」は、きっと私よりも頭の良い人でしょう。しかし、準備をすることで互角になる、そしてその方の2倍働けば、勝つことができると思います。友についてはどうかだろうか。私は中学生のころから、「友だちはいない」と公言している。すでに20年以上が経過しています。その理由は、中学一年生のとき、友だちとはスーパーファミコン1台分の価値しかない、ということをものあたりにしてしまったからです。それ以来、私に友という存在はいません。しかし、そんな私にも、少数ではあるがビジネスパートナーはいます。彼らはその分野におけるエキスパートであり、私にないものをもっている。私は彼らを信頼している、彼らも私のことを信頼してくれている。お互いにプロとして認め合い、仕事を依頼し・依頼される関係である。尊敬すべき人たちである。しかし、尊敬はしているが、現状では、影響を与え合いながらお互いに成長をしていく関係ではない。もう20年以上も友のいない私であるが、ビジネスパートナーに一步踏み込み、友の関係になることを真剣に検討してみようと、今回の講義を通じて考えました。20年以上も友をつくることを拒否していた私ですから、友をつくることに正直不

安はあります。しかしそこは、岡本太郎のいう「危険な道をいけ」、「怖かったら怖いほど飛び込め」、「自分の姿をありのままに直視する。それが強さだ」を胸に刻み、挑戦をします。最後に、留学生との意見交換は非常に勉強になります。日本人での常識が常識ではない。それは留学生に問題があるというのではなく、常識という固定観念にとらわれている私に問題があるのです。新しい発見をいただいています。ありがとうございます。今回も学びの多い時間をいただき感謝申し上げます。今後の講義も楽しみにしております。

以下、留学生。中国人、ベトナム人

- ・ 今夜はライバルと友達をテーマとして、日本の有名な小説家や作家が紹介されました。その中には三島と川端がノーベル賞のために競争しあい、お互いに良い小説が出来上がりました。ライバルを作るのは友人同士とか、ピカソといった歴史上の人物でもかまいません！確かに、久恒先生が仰った通り、自分のライバルを作ることが大事です。自分よりツーランク上の人をライバルにすることもすごく重要なポイントです。自分の欠点を見抜けて、前もって準備をし、いつかライバルを追い超えることも可能だというのが今日の勉強になりました。今日の授業を通じて、初めて日本の小説の神と尊称する志賀直哉を知りました。恐らく実篤の支えを置いて、こんな傑作は作れないでしょう。そして、これから「暗夜行路」を読みたいと思います。
- ・ 今日の講義は紹介されていた日本の人物でしたが、人物のライバルと友達の関係でした。ほぼ 初めて聞いていた人物です。しかし、夏目漱石はベトナムの大学で日本文化を勉強した時、「吾輩は猫である」という名作を学んだことがあります。猫の視点で明治代の知識層の人間を語りました。結構面白いと思います。さすが イギリスの教育を受けた夏目漱石でした。大変勉強になります。
- ・ 今回の授業を受けていただき、何人をライバルに紹介をさせてくれました。その中で、二つ深い印象を残りました。一つは、岡本太郎さんの名言「いいかい、怖かったら怖いほど、逆にそこに飛び込むんだ」です。ご自分らしく自由に生きる、より豊かな人生を過ごすという気持ちを大切だと思います。または、踏み出す勇気が出る！ 思い切って行動することも大事なことです。もう一つは、夏目漱石の「道楽と職業」です。夏目漱石さんは、他人のためにすることを職業、自分ためにすることを道楽、としています。 職業とは、他人のためにすることです。「他人のため」とはすなわち、他人の欲望を満たすことであり、一方、道楽とは、自分のためにすることです。 人は職業を通じて得た対価を用いて、自分の欲望を満たします。自分が食うためには他人のために何かしらをする必要があります、ということを知りました。昔と比べ、職業は加速度的に増えたとともに、細分化してきました。自分の研究以外には何も知らない人間が多く出てきました。研究は狭く深いものであり、自分の専門にかけては非常に知識が豊富かもしれぬが、一般教養の欠如した人間が増えていると説きます。そういう時代を生きる我々に必要なもの、それ即ち「文学」であると説きます。人間に共通な点についての批評なり叙述であるため、職業や階級の如何

に関わらず、人間相互の結びつきを強めてくれるものだと思います。文学は人間学であり、狭い視野を拡げてくれる存在だと認識しました。

- ・ 授業を通して、成長できるために、尊敬して、目標にできるライバルを作らなければならないということがわかりました。ライバルというよりむしろ先生と師範です。ライバルと良い友人 になると、お互いから学び合い、一緒に進歩することができますが、競争心から嫉妬心を生み出すかもしれません。人を追い抜くことや勝つことばかりではなくて、思いやりの心や人に譲る心のある人になるべきだとずっと思っていました。しかし、三島由紀夫の「嫉妬こそ生きる力だ」という言葉を読んで、競争と嫉妬の関係をあらためて理解していきたいと思います。
- ・ 今日の授業に紹介した人物の中で、夏目漱石と正岡子規が一番興味がありました。夏目漱石と正岡子規は第一高等中学時代に初めて出会います。正岡子規のため、夏目漱石は俳句を書くことを学び始めました。明治 33 年、夏目漱石はイギリスに留学する前に、親友の正岡子規は重い病気で夏目漱石の見送りができず、俳句を書いてだけで夏目漱石に送りました。「萩すすき 来年あはむ さりながら」「秋の雨 荷物ぬらすな 風邪ひくな」イギリスに出発日に、天気予報は雨でした。2 年後、夏目漱石は帰国時に、正岡子規が結核でなくなりました。夏目漱石は一生で 2,000 以上の俳句を書きましたが、そのすべては正岡子規が生きている間に書かれました。正岡子規が死後、夏目漱石は俳句を書くのやる気もなくなったと思います。本日の講義を通して、この二人の友情に感動しました。
- ・ 今回三島由紀夫と川端康成について初めて知ったのですが、先生の授業を聞くうちに少しずつ理解していきました。川端康成はいつも愛情についての物事を美しい言葉で表現しました。彼の作品の伊豆の踊子は中国でも有名で授業を聞いて彼が書いた作品であると知り驚きました。彼は幼い日からともに住んでいた多くの人を亡くした経験から人の死の描写から物語が始まる作品が多くあります。三島由紀夫は幼いころから特殊な教育をされてきました。また、その経験もあり繊細でインパクトのある作品を書いてきました。また、ゆがんだ愛情について多く書かれました。二人は友でありながら、一方ライバルという存在でした。三島由紀夫は戦後の世の中を憂いで最後は切腹しました。川端康成の自殺はその影響によるものであると思います。また、私はノーベル賞で三島由紀夫が受賞していれば自殺するのか？と思いました。戦後の日本社会に絶望したという理由もありますが、一方で彼はノーベル賞で世界的に認められたならまた自殺するのでしょうか？
- ・ 今日紹介された人物は文学家、小説家ですね。恥ずかしい、前は了解が少し、他の人は初めて聞きました。川端康成は自分の一番好きな日本作家です。作品をだいたい読みました。ノーベル文学賞受賞理由と同じ、日本の特の美しさの精髓を、すぐれた感受をもって表現、世界の人に深い感銘を与える。先生の話を通じて川端さんはいつも新しい才能の若手を発見したことを知って、本当に偉い人だと思います。さて、同グループの日本

方同士と交流して、日本人の多数は夏目漱石が文学の一番目と思う。なぜか？疑問だね。岡本太郎さんは面白い人ね。「他人は笑おうが笑うまいか、自分の歌を歌えばいいんだよ」。その句が好きです。人生は自分好きなスタイルで生きる！ 作品について興味が持って、週末美術館に行きましょう！

2018 年 10 月 20 日 インターゼミ(社会工学会)ー本物か。本当の力か。コンテンツ。本質。人脈と資産。自分とは何か

インターゼミ

- 学長講話: 生誕 100 周年の保守政治家・田中角栄(1918 年生)と没後 10 年の戦後リベラル知識人・加藤周一(1919 年生)。世代の共通項。戦争への拒否感と中国への贖罪意識。世代の可能性と限界。(自分史と昭和史・平成史の歴史年表)
- 本物か。本当の力か。コンテンツ。本質。人脈と資産。自分とは何か



2018 年 10 月 22 日 副学長日誌

- 多摩信用金庫の八木理事長と長島部長来訪。杉田学部長と応接。
- 学長室・渡辺さん: 戦略会議

- 初見先生:ゼミ
- 高野課長:情報交換

2018年10月23日 文庫リレー塾:鼎談「東アジアへの知的三角測量ーどう安定させるか」。柯 隆・磯崎敦仁・寺島実郎

文庫リレー塾。鼎談「東アジアへの知的三角測量ーどう安定させるか」。

(東京財団政策研究所主席研究員:中国)・磯崎敦仁(慶応義塾大学准教授・北朝鮮)・寺島。

- 6/12の米朝首脳会談以後？
 - ・ 柯 隆:改革開放から40年。今週の安部首相訪中でODA終了。今の中国?2018年3月のトランプ政権は全人代で主席の任期撤廃の憲法改正が許せない。貿易の不均衡に着目し「貿易戦争」へ。中国の官僚が素案を作らない、中国からのレスポンスがない。自動車はマイナス。雇用が問題で外国企業が海外へ逃げると農業もできない労働者が犯罪に走る恐れ。これからの中国?3つのワナに直面。中所得国のワナ(1万ドルから2万ドルへは「技術」(知財権)の壁)。タクトウスのワナ(政府への信用の危機)。ツキディデイスのワナ(挑戦すると必ず戦争が起きる)。
 - ・ 磯崎:1.北朝鮮はサミット外交の国・トップの方針転換で変わる。首脳会談が不可欠。金正恩はリスクを取り勝負に出た。実用主義、抜き打ち視察。核を持つデメリットもある。体制維持と高度成長。米朝融和という大きな方向は不可逆。非核化は進むだろう。2.国内に向けてはかなり説明。4月20日、核と経済の併進という恒久路線から、経済集中の高度成長路線へ転換。専断政治という言葉も使わなくなった。国防委員会を国務委員会に変える。軍服からスーツへ。非核に進む。
 - ・ 柯 隆:中国にとっての北朝鮮?中国は核ドミノを心配(南、日本、台湾)。中国は南北統一を心配(緩衝地帯がなくなる)。米中関係?中国はプラットフォームが強い(8億人のユーザー)。5G/チップなど「技術」に弱い。
 - ・ 磯崎:経済制裁は効いているのか?影響はあるが独裁の北は中枢を守る力はある。「高度成長を目指す」。物価は安定。ドン底が脱した。南北湯和の先に反日になるのではない?その徴候あり。アメリカ批判はなくなった。日本批判が強まっている。反米から反日へ。
 - ・ 柯 隆:アメリカとの関係?中国はトランプ政権に対してどうしていいかわからない。周近平はリークワンユー(終身独裁者)を目指している。「下放」世代の特徴は破壊力はあるが、つくる力はない。どういう中国をつくるのが、夢がはっきりしない。米欧のバランス戦略。ロシアという変数あり。
 - ・ 磯崎:トランプの苦境(中間選挙の結果・サウジの問題)になると、何か動きもあるかも。
 - ・ 柯 隆:日本人の好きな「共存共栄」は存在しない、通用しない。飲み込まれるか対抗するか。日本は極端。真ん中がない。安定した関係のキープが必要。政治にリードさせる

と不安定。民間の関係構築を。

- ・ 磯崎: 北は「対外の多角化」と宣言。中国、ロシア、韓国。
- ・ 柯 隆: 民間主導の日中関係。日本は右と左にどうしてこうもぶれるのか・日本には多様性のあるシンクタンクが少なすぎる。分析し、戦略を立てる必要がうある。
- ・ 磯崎: 日本は感情の先走りは危険。希望的観測は国益を損なう。
- ・ 寺島: 東アジアにおける日本の立ち位置？ 技術力のある成熟した民主国家

2018 年 10 月 24 日 社会人大学院生の論文のインタビューを受ける。人事委員会、学部運営委員会、教授会

- 9 時 20 分: 人事委員会: 教員公募
- 10 時: 学部運営委員会
- 10 時 40 分: 教授会: 再任 1 名。昇格 3 名。
- 松本先生: 多摩大総研の運営
- 13 時半: 学長室の渡辺さん: 戦略会議
- 14 時: 岩下賢作さん来訪。

2003 年に出した『図解で考える 40 歳からのライフデザイン』（講談社）で編集をしていただいた方。久しぶりに再会。岩下さんは JICA で仕事をしていたが、最近、東京経済大学の社会人大学院に入学し、「キャリア」をテーマに論文を書くということで、私を取材にみえた。「志」「中年の危機」「100 年時代」「豊かさ」「定年」「キャリアデザイン」「完全な自分」、... など持論を語る。



岩下さんが編集した萩本欽一さんの本をいただいた。「ボクは 73 歳で大学生になった」。萩本さんは 2015 年から駒澤大学仏教学部に在学中。

で勝ったことがない。文革で古典文化は途絶えた、モラルは上がらない。文化力・文明力・ソフトパワー築くには100年、200年かかる。



- 松本先生:多摩大総研

2018年10月26日 授業「立志人物伝」の久米信行さんによる実況中継。戦略会議・大学運営会議。

多摩

- 10時:久米先生と懇談
- 10時40分:「立志人物伝」の6回目の授業。以下、毎秋受講してくれている久米先生の実況中継

【多摩大 久恒啓一副学長「立志人物伝」持続する志。ベンチャー企業という言葉は中村秀一郎先生が創った】。みなさんご存知でしたか？今、私たちが当たり前に使っている「ベンチャー企業」という言葉は、多摩大学二代目学長である中村秀一郎先生が発明した言葉なのです。惜しむらくは、これからという時に、中村先生は天に召されました。久恒先生曰く、もし中村先生が生きていたら、多摩大学はまったく別の大学になっていたであろうとのこと。詳しくは、久恒先生のノートと、初代学長、野田一夫先生の弔辞をご高覧ください。

▼中村秀一郎「ベンチャー企業」

<https://note.mu/hisatune/n/n32c54db37d33>

▼弔辞 多摩大学第二代学長 中村秀一郎氏を偲んで

<https://www.tama.ac.jp/topics/news/2007/10/post-776.html>

前回シェアした講義メモで「久恒先生の講義はブログなどを活用して効率的」と書いたら、そのココロは、自分が得た「最新情報」を学生にシェアしたい思いから...とのことでした。今週は、久恒先生が聞いた、東京財団 柯 隆(かりゅう)先生の「中国の構造問題」についての講演の話。私が共感したのは、昨日の十六銀行の講演でもお話した「中国は文化大革命で文化を失った」というポイントです。そこに日本のチャンスがある。多くの入

が語らない中国の話ですので、詳細は久恒先生のブログをご高覧ください。

▼リレー講座の講師は、柯 隆(東京財団政策研究所主席研究員)先生ー中国の構造問題 <http://k-hisatune.hatenablog.com/entry/2018/10/25/000000>

さて、今日の講義のテーマは「持続する志」。久恒先生が選ばれた偉人は、牧野富太郎、大山康晴、原敬、池波正太郎、市川房枝、羽仁もと子という驚くべき組み合わせ。例によって、名言とYoutube で、その生き様を紹介します。

私が、特に驚いたのは、将棋の大山康晴名人の言葉です。「人が真似できない芸を持つことが一流の条件である」。将棋という抽象的な勝負事の中にさえ「芸」があること、昔から伝わる定石が数ある中で真似ができない「独創性」を発揮することが大切であること...。私も、経営者向けの講演をする時はもちろん、学生向けの文章を書く時でさえ、常に「自分を芸人」だと思っています。まだうまくできませんが、なんとか他の人ができないこと、それでいてお客様が喜ぶことをできるようにと、自分に言い聞かせております。

▼大山康晴「賞はごほうびではなく、激励のしるしである」

<https://note.mu/hisatune/n/na9ce8e66dea2>

それ以外にも「将棋棋士の名言」という Youtube を見て宝石のような言葉の数々に感激しました。例えば、谷川浩司永世名人の言葉は重いです。

谷川浩司の名言。落とし穴がある。経験はプラスにもなるが、マイナスになることもあるのだ。どの言葉も、将棋棋士の「Keep On Learning, and Win」という強い志の数々が感じられます。ぜひみなさんも見てください。

▼将棋棋士の名言

<https://www.youtube.com/watch?v=gfXivWJmTHA>

九段

- 14 時: 大学戦略会議。テーマは「国際交流」。
- 15 時半: 大学戦略会議。学長から: 時代を学ぶ。死生観。哲学。肝。常温社会。人事方針(特任、研究、一定。)、、、、

2018 年 10 月 27 日 品川の大学院で教授会、修士論文・実践知論文予備審査会報告。九段サテライトでインターゼミ

- 品川の大学院で、教授会: 2019 年春修了者修士論文・実践知論文予備審査会の報告がメインテーマ。以下、キーワード。日本の産業現場の問題が一望できる感がある。成長マインド。中国企業の人材流出。外国人労働者受け入れ。ミャンマーの人材育成。成長戦略。留学生の就職。ドラッグストアの中国進出。バイオマス。中国観光客。フィットネスクラブ。台湾福祉用具レンタル。企業見学。構造変革。中国高齢者介護。やりがい。戦略的直感。離職対策。分散型労働。SDGSビジネス。日本港湾の未来。身元保証人問題。介護施設のマネジメント。中国マンジェリコ茶。病院組織。歓楽街。医療サービス大学院。抜擢。祭り。民

泊。ヘルスツーリズム。教育研修部門。新規事業創出。ベトナム小売企業。最寄り品。営業
マネジャー。中国浙江省中小企業。意思決定。映画コンテンツ。鉄道貨物輸送の生き残り

- 金先生・バトル先生とコーヒーをのみなながら懇談
- 九段サテライト: インターゼミ



2018 年 10 月 29 日 副学長日誌

- 入試質向上ミーティング: 杉田・金。宮地・森島。
- 近藤秘書と打ち合わせ

2018 年 10 月 30 日 副学長日誌

- 高野課長: 近況
- 佐保君: ZOOMの実験。山本さんも立ち合い

2018 年 10 月 31 日 副学長日誌

ラウンジ

- バトル先生
- 学科長会議: コミュニティ機能と施設問題

2018 年 11 月 1 日 誰をロールモデルにしますか？志賀直哉。藤原玄信。ダ・ヴィンチ。大山康晴。夏目漱石。石塚運昇。ナイチンゲール。ファルカン。ナポレオン。金田一京助

立志人物伝 6 回目のアンケートから。「誰をロールモデルにしますか？」

- 志賀直哉に決めた。「網走まで」「或る朝」「菜の花と小娘」を読んで、白樺派と呼ばれていた作風を感じつつレポートにつなげていきたい。
- ダ・ヴィンチにしようと思う。
- 「人が真似できない芸を持つことが一流の条件である」この言葉が非常に気に入ったので、大山康晴について書こうと思う。
- 夏目漱石について書くと決めた。
- 尊敬している人は石塚運昇さん。世界的な作品ポケットモンスターのオーキド博士を始めとし色々なキャラクターの吹き替えを担当し、様々な役を演じていた。突然死去されてとてもショックを受けた。石塚さんを忘れません。
- 一番尊敬しているのはナイチンゲール
- 秋元康にする
- フットサルブラジル代表の「ファルカン」にしようと思っている。
- レポートはナポレオンを書こうと思う。
- 主に動画を見てメモを取った。野球選手についてレポートを書こうと思っている。
- 自分の出身地などから有名人を探していきたい。
- 金田一京助についてレポートを書く。

2018 年 11 月 2 日 「持続する志」: 牧野富太郎。大山康晴。原敬。池波正太郎。市川房枝。羽仁もと子。社会人大学院生と外国人留学生の感想は？

夜は品川の社会人大学院(多摩大大学院)で 4 回目の「立志人物論」の授業。15 人が出席。18 時半から 21 時 40 分まで。

テーマは「持続する志」。牧野富太郎。大山康晴。原敬。池波正太郎。市川房枝。羽仁もと子。資料、口頭説明、ユーチューブ。

加えて、松尾孝(カルビー)、笹崎龍雄(サイボクハム)、白川静(東洋学者)、保直次(城山観光ホテル)、中村秀一郎(多摩大学長)、増田通二(パルコ)の人生と名言も紹介した。



以下、授業の感想。日本人

- 本日の講義で紹介のあった人物達は一つの物事を突き詰める人種であり、故に各々が使命や役割を持っていると感じました。牧野富太郎は草木の精であると言うように植物を解明する事に時間を費やし、大山名人は勝利を重ねて、最後の役割は負けて時代を進める、その為の人柱となる事を役割としているようにも見えます。原敬にしても、功績は偉大なれど、死を持って歴史の中で役割を終える事は幕末や大戦時ではむしろ普通に起こっており、役割に徹したと言えるかも知れません。池波正太郎は現代と江戸時代を繋ぎ、市川房枝は女性の人権確立を進め、羽仁もと子は学校を作り人を排出したと伺いました。皆、使命を果たして歴史に残ったのだと考えました。個人的に興味深かったのは、棋士の名言は言葉を対にして使い、非常に論理だてた文章が多かったのに対して、池波正太郎は情緒的な文章で読者の想起意欲を感化させ、情景に訴える事を目的としていると感じました。又、市川房枝の論は政治腐敗と徴兵を同義として使っていて非常におかしい文章をエネルギーを持って正当化する辺り、政治家として優れていると思いました。現代の政治家の源流であると思いますが、現代のそれに対してまだ、ノスタルジックな雰囲気が残っているのは時代背景ではないかと思えます。街頭演説の映像に映っている群衆は若く、市川房枝に聴き入っています。現代の街頭には若者よりも老人が多く、国の文化の推移とは存外この様な論調一つにも現れるのかも知れないと感じました。職業や役割によっても物の考え方が異なり、アウトプットとして文章に残る。立志人物論、面白いです。単なる知識の習得だけに留まらず、時代や文化背景にまで思いをはせる事ができます。加えて、留学生の方の物の見方が日本人と相違しているところも参考になります。本日もありがとうございました。

- 持続する志というテーマの中で、登場した各偉人の方々に共通することは、ただひたすらに一つの物事に打ち込んだそのひたむきさにあると感じました。一方で、この志を持続させることに対して、やはりたった一人の力で成し遂げたというよりは、良き伴侶、理解者、協力者の力なくしては成し遂げられないだろうとも感じました。授業冒頭で議題となった「志」。何気なく「志」という言葉を使っている、いざその意味を問われるとすぐに答えが出ない。とっさに、利他の心と口には出たが、その意味するところをしっかりと理解することはとても重要だと痛感しました。また、「現代の志塾」と称する多摩大学の掲げる「志」という意味についても、`社会の不条理の解決のために自らの職業や仕事を通じて貢献をする`という意味が込められており、このことを知ることは、改めて理解を深める良い機会となりました。講義で紹介のあった偉人のように、一つを極めるということは、生半可な覚悟では到底できず、自分自身にこの気概があるかと問われれば、正直不安でもあります。ただ、偉人の足跡は学ぶべきところが非常に多く、少しでも多くを学び、自分の糧になるよう努力を積み重ねていきたいと思いました。本日の講義ありがとうございました。
- 原敬「無私」。市川房枝「婦選は鍵なり」。「平等なくして平和なし、平和なくして平等なし」現代の志学という多摩大学のキャッチフレーズはグサリと私の心に刺さった。40歳を目前にして、これからの半生(人生100年時代とすると60年！)をどのように生きるか、現代の志学たる多摩大学という場に出会い様々な方々と語り合うことで自分の志を見つめている。今日の立志人物論でご紹介頂いた人物の中では、原敬と市川房枝の志に強い感銘を受けた。原敬は平民出身者で始めて総理大臣まで上り詰め、日本の歴史に残る数々の仕事をした大人物だ。爵位の授与を固く拒み、無私の心で志を軸に生きた姿を短い講義の中でも強烈に感じる事ができた。市川房枝は演説の映像が印象的だった。運動は事務の堆積であるという言葉の通り、自ら行動し、有言実行、言行一致の潔い人物像が映像からも伝わってきた。私は部署がら女性社員と働くことが多く、女性の力を日々感じている。市川房枝が言うように、女性が活躍する社会、世界は人が大切にされ、戦争のない平和な世界であると思う。昨今の男女平等やダイバシティの活動にもつながる「平和への意志」を市川房枝の演説から受け取ったように感じた。私は人事/総務分野を専門として仕事をしてきた。人事の世界ではモチベーションなるワードがもてはやされて久しい。社員のモチベーションを高めるために、評価や報酬、社内環境など様々な面から工夫を凝らす。しかし、モチベーションにはフワフワした一過性の気分のような側面がある。ボーナスが増えるからもう少し頑張ろうとか、社内に気持ちのいいカフェがあるからやる気が出るとか、もちろんそういう面は人間誰しもある。しかし、それで今の社会課題や、企業の抱える課題が解決できるだろうか。壁にぶつかっても悲観せず、必ずやり遂げることができると楽観の意志を持ち行動し続ける人物を小手先のモチベーション論では決して育てることはできないだろう。「社員が(つまり自分自身が)いかに持続する志を持つようになるか」、という問いこそ、いま企業の人事/総務部門が持つべき問いなのではないか。いま日本は少子高齢化、人口オーナス、政府の過大な負債など多くの困難な課題に直面している。企業においては、今までの延長上にある単純な努力が報われる余地は少ない。

目の前の人参を追いかけるようなモチベーション論ではなく、一人一人の生き方や信念に根ざした「持続する志」こそ、私たちの直面している今の現実を切り開く心のありようとして相応しい。学科長の徳岡先生の授業では、意志力というワードで表現されていて、今日の久恒先生の持続する志と共通するものだとの理解が深まった。今日も、たくさんの学びをいただきました。先生やクラスの皆さんに感謝いたします。

- [志]のテーマに関して人物紹介、将棋で活躍する棋士の言葉の引用がありました。若い方や留学生の方々には馴染みがないかもしれませんが、私にとってはリアルに体験した人物ばかりです。池波正太郎は、その作品の多くを読み、かつ映画、テレビで見る事もあり、大変馴染みの深い作家です。鬼平犯科帳はところどころに食べものの記載もあり、食通の池波ならではの作品です。時代小説で作品の多さでも人気のある作家です。中国からの留学生との会話の中で、中国にも[金庸]という中国国民が誰でも知っている有名作家がおり、広く読まれていることも教えてもらいました。作品は侠客、外伝など池波作品に近いようですが、中国では格が上の作家と聞いています。日本語訳もあるようですので、今度機会があれば読んでみようと思っています。今回、特筆すべき人物としては、志し半ばで暗殺されてしまった宰相の原敬ではないでしょうか。東京駅で暗殺されたようですが、興味深いことで、そのことを調べている人もおり、暗殺された場所が残っています。今では、もう誰も気に留める人もなく、大勢の人がその場所を通り過ぎています。後に、もっとも優秀な宰相が誰かというアンケートで、第一位になっているくらい人気と実力があつたと言われる人物です。暗殺されなければ、今日の日本も大きく変わっていたかもしれません。歴史は時として皮肉な運命を作り出すものです。もう一つのテーマでもあります女性として、その地位の向上に貢献した市川房枝がいます。幸いにして、私は市川房枝が市民運動をしていた若い頃の姿を知っていますので、あの正義感と純粋な心に一種の憧れを持ちました。そしてもう一人、学生だった好青年の菅直人も同じ活動を支援していました。後に民主党の首相になるのですが、運悪く震災の影響で政治家としての活躍の場を失ってしまったようです。今回、将棋の大山康晴を取り上げて頂いたことに感謝しております。私自身でも、将棋を長く愛好しており、大山と柁田の名人戦の勝負も記憶に留めており、学生の時に仲間と将棋を指したことが懐かしく思い出されます。今と異なり、スマホゲームなどありませんから、囲碁、将棋、麻雀のアナログゲームが活躍していた時代です。将棋は、上位者、有段者が絶対優位で序列がはっきりしていましたが、七冠をとった羽生善治に対抗する藤井聡太の出現で将棋の根底をひっくり返すような時代がやって来たのかも知れません。藤井聡太は、100年に一人の天才と言わざるを得ません。そして、大山康晴は、かつて長きにわたり、その頂点を極めた大天才です。惜しむらくは、同じ時代での将棋の対戦が見れないのが残念です。
- 「持続する志」。牧野富太郎は植物の研究に80年以上の人生を捧げた。大山康晴は将棋棋士として、「一時の栄光よりも、長く続けることが大事」と、1度は頂点を極め、50歳で無冠となりどん底を経験しながらも、将棋の世界において果敢に挑戦をしつづけた。原敬は平民から総理大臣にまで上り詰め、激務の中でも19歳から65歳まで日記を書き続けた。池波正太郎

は小説家となってから、自分を段取ることにより膨大な作品を書き続けた。市川房枝は婦人運動家として、亡くなるまで日本における女性の社会的地位向上のための運動を続けた。羽仁もと子は日本女性初のジャーナリストとなり、自由学園も創設。出版と教育に人生を捧げた。今回学んだ人物に共通しているのは、まさしく持続する志である。途中で挫折しそうなことが何度もあったであろう。しかし、それを乗り越えて、名を馳せた方々である。強い思いを持ち続け、意思を貫徹してきた方々、頭がさがる思いです。ひるがえって自分はどうかだろうか。転職回数でいえば立派なジョブホッパーであることは自覚しています。しかし、会社・業界は違えど、人事領域に携わるといふ軸はぶらしていないと考えます。そして今回の講義をうけ、私が尊敬している人から以前もらったアドバイスを思い出しました。「一流のエキスパートというのは、1つの武器を持ちながらも、それ以外のことについても見識がひろい人物のことをいう。それしか知らない・できない専門バカとは天と地ほども違う」。その通りであると考え、私がMBAコースで学ぶ理由もそれです。人事領域しかしない人事バカになるのではなく、人事という誰にも負けない一芸を持ちながらも、マーケティングや財務等についても幅広い知識を身につける。そうでなければ今後ビジネスの世界で生き残っていくことはできないという危機感を抱えている。だからこそ、MBA コースで今学んでいるのです。そしてやがては、「あいつは本物の人事のプロ。そして経営全般についても造形が深い」と称される存在になることを目標に、近い目標に設定しました。講義で人物伝を学び、過去の忘れていたこと、現在の自分の思い、そして将来の目標を整理することができるようになりました。毎日を漠然と過ごしていたら絶対にできないことです。改めてありがとうございます。「高い志を貫徹する男」と周囲から称されるようになるよう、今後も精進を続けていく所存であります。立志人物伝の講義では非常に多くの刺激をいただいております。次回以降もよろしくお願い申し上げます。





以下、外国人留学生

- 今日の授業は志をテーマとして、棋士達と偉人の方々の名言や人生のリアリティを感じられました。今日の授業に通って、一番響く言葉が下記です。「努力は裏切らない」という言葉があるけれど、これが真実だ。ただし、[長い目で見ると]という一言が言葉の裏に潜んでいることを知っておかねばならない。成功にたどり着くものは努力があったからこそだという事は知っていますが、やり続けて、根拠強く持続することはもっと大事だと、瀬川晶司はそう仰っしゃりました。恥ずかしいですが、私は締切に迫られ、目標に精一杯向かうものです。しかし、結局時間厳守を守れないことになりました。それを改善するために、今はもっと前向きの姿勢で行動するけど、これからは長期の目標を実現するために力を注がなければいけないと思います。一方、先生からの質問で、「長い目」って一体どれくらいの長さでいいのですかについて、それは熱意と工夫と共鳴できる友達同士の支えのかけ算です。一人でダメそうな時に助けを求めたり、最初の熱意を思い出したりすれば、努力もきっと長く続けると思います。これは授業に通って勉強になった事です。ありがとうございました。
- 持続する志とは彼らのように一つのことに生涯をかけて打ち込み続けることである。牧野富太郎は草木の精である。子供のころから植物に関心を持ち、大人になったのちも妻による経済的支援の中植物についての研究をつづけた。牧野にとって植物の研究に没頭するようになったきっかけの本草綱目啓蒙の元は中国の本草綱目だ。本草綱目の元は中国の本草綱目だ。本草綱目は李時珍によって明の時代に書かれた。李時珍は中国で薬聖と呼ばれており、李時珍の家族も薬に関係した仕事をしており、父は宮廷につかえる先生であった。そうしたこともあり、李時珍は宮廷の試験を受け先生となった。宮廷では様々な薬草を検閲しており、これが本草綱目の基礎となった。この仕事を辞めたのち、薬草を検閲するための旅に出た。当時 61 歳で 27 年を経て本草綱目の初稿を完成させた。そののち 10 年間で 3 度の修正を経て完成させた。本草綱目を完全に完成させるまでに 40 年かかった。李時珍は家族の影響で生涯薬学に専念した。本草綱目は中国薬学の発展に大きく貢献しただけでなく、世界の医学、植物学、動物学、鉱物学、化学の発展に大きな影響を与えた。李時珍は彼の実家の湖北省蕪春県に記念墓地が建てられている。是非行ってみることを勧める。

- 本日のテーマは持続する志です。授業に出てきました人物の共通点は持続的な志を持っていることです。失敗しても心が折れない、やり続けることが成功の秘訣と感じました。植物学者の牧野富太郎は自分の生涯において標本を 60 万点を採集し、新変種を 1500 種以上を発見し、日本植物名を命名しました。日本植物分類の基礎を独学で築きました。牧野富太郎のように、一つの目標を決めたら、自分の生涯をかけて、続いて研究し最後までやり遂げることがすごいと感じました。自分は志を持っているが、持続する力が足りないことなのだと感じました。授業中に将棋棋士の名言の映像も流してくれました。山崎隆之棋士がおっしゃっていた「真剣な思考は前進を生み、深刻な思考は停滞を招く」という言葉が心に残っています。真剣な思考は自分が何かを始めようと思う時、本当にやりたいことは何か、自分に向いているかなどを考えることです。一方、自分が何かを間違っていた時に、自分はダメ人間とか考えてしまったのは深刻な思考なのだと思います。考えれば考えるほど、出口が見つからないし、悲観的な気分になってしまいました。その時に、深刻な思考を抑制し、折れない心で楽観的に考えることが大事だと思います。羽仁もと子は日本で女性初のジャーナリスト、自由学園の創立者、また家計簿を作った人です。段取りを整えることが如何に気持ちに潤いができるかがわかりました。効率よく仕事を進めず手段とは段取り力を身につけることを勉強しました。段取り上手な人になりますように頑張ります。本日はありがとうございました。
- 今回の講義は「持続する志」について、偉人のことを勉強しました。様々な将棋名人から、いろんな名言を習得しました。例えば、「大切なのは『年齢』ではなく、『熱情』。それさえ失わなければ、きっと、何歳になっても新しい発見があり続けるに違いない」や「努力は裏切らない」、「前進出来ない駒はないんだ」など。中国語から通訳する「死にまで持続して勉強しなければならない」という言葉とある程度には同じ意味です。向上心を持って、一生に新たな自分を見つめます。偉人・有名人・成功者達には共通点があります。それは、多くの失敗を繰り返し、辛く苦しい思いを何度も経験してきたということです。今の生活が辛く苦しいと感じる事がありますか？あるいはとんでもない大失敗をしてしまった事がありますか？もしそんな経験があるなら大いに喜ぶがいいです。何故なら、それは成功者への道を順調に進んでいる証拠だからです。
- 今日は「持続する志」を持った偉人について学びました。興味があること又はやりたいことを最後までやる人は本当に偉くて、心から尊敬します。人生の目的を明確であっても、色々苦労したり、失敗したり、落ち込んだりする時もきっとあったと思います。しかし、あきらめず長く続けることは言葉でうまく説明できないぐらいの素晴らしさだと思います。特に先生が紹介してくれた人物の中で感動したのは牧野富太郎です。彼は「日本の植物学の父」といわれ、若い時からなくなるまでずっと植物学を研究していましたが、なんと全ては独学でした。やはり、情熱さえあれば、何でもできることを教えてくださいました。あと、市川房枝も素晴らしい方でした。自分のためだけ戦うことではなくて、日本の女性たちが男性と同じ権利や平等な状態になるため努力してきて、感謝します。私も早くやりたいことを見つけて、一生懸命頑張りたいです。
- 成功するには、生まれもった才能よりも、努力を持続的に続けるのが大事だと思われました。

しかし、志を立てるのが簡単ですが、それを持続させるのは難しい。私はなかなか持続できないタイプですが、多分情熱を注げるものが見つからないからです。これから、色々勉強して、世界を体験して、熱情あるものを探して、松尾孝みたいに「生涯一人一研究」ができればいいと思います。そして、「着眼大局 着手小局」という言葉を勉強しました。私はこれがまさに禅のような言葉だと思っています。偉人達が物事を長い目で見ること、小さなことから実践すること、偉人になったではないでしょうか。

- 今日の授業は「持続する志」のテーマでした。「日本の植物学の父」と言われた牧野富太郎の生涯に多数の新種を発見しました。又、将棋の才能の大山康晴は「私は、小学校時代から将棋の師につき、木見門に入り、永世名人になって百二十四回の優勝をかさねてきた。そのためには自分なりに努力をしたつもりだが、ひとつには運に恵まれていたと感謝する。ことに軍隊では幸運をつかんでいなければ、沖縄戦に参加して、おそらくは生きて帰れなかっただろう」と言った。成功するために、才能よりも努力を持続するのが大切な事だと思います。今日の授業に偉い名物のおかげで、自分ことについてよく分かったので、尊敬して、感謝したいと思います。ありがとうございました。次回もよろしくお願いします。
- 講義に牧野富太郎のことを勉強になりました。彼は小学校 2 年で中退、植物の採集などをして過ごし、家の資産を植物研究に全て注ぎました。東京大学理学部植物学教室へ出入りし、助手、非常勤講師を歴任。しかし、学歴のないことなどから他の研究員たちからは冷遇されました。それでも、彼は志を持って、苦しいながらも、妻の助けで研究を続けていきました。ついに、採集や雑誌の発刊など成果をあげて、50 歳の時に大学講師となります。講師を辞任後も「牧野日本植物図鑑」、「植物記」、「続植物記」、「牧野植物随筆」など著書を数々残す。日本人は彼のことを日本の植物学の父と呼ばれました。たくさんの人は仕事やチャレンジなどのことを始めた時に、希望に胸膨らませ、キラキラした瞳で飛び込んでいきます。ところが、チャレンジや難しいこと長く続けると、やはり多くの人は短い間に夢を諦めて辞めてしまいます。持続する志は成功するために、どんな時代でも、どんな状況でも重要なことだと思います。
- 先生、本日の講義非常に面白かった、ありがとうございます！まずさまざまな記念館行って実践経験を共有して教えてくれて柏谷さんと李妍さんに感謝しておきます。そして、皆さんに名人記念館行く前に、できればこの group で予定と日程を up を願うと呼びかけたいです、外国人留学生の私は日本の有名人記念館に訪って行きたいが、場所と日本歴史に詳しくない。そうになったら納得的な勉強になれると思う。本日先生から紹介のあった大人物達は成功の模範である。保値次さんの「夢を見、夢を追い、夢を食う」。「夢を見」について、個人的に興味深かったのは、「大切なのは年齢ではなくて情熱を続けて」、目標方向を決めて、情熱を込めて、本気を投入して、人生はいつでも遅くならないと思う、今日先生が紹介してくれた白川静は 74 歳で初めての賞から 94 歳(没しあした前年)まで受賞記録を絶えず更新する、だから、かつての私は、年を取って、生計を立てて、結婚の大事さを口実にして、自分が挿絵を学ぶことをあきらめていたが現今で見ればどれほど愚かだな！又は、「夢を追い」と言えば棋士の名言「もし僕に才能あったら、折れない心だけなんだろう、」はまさにこの言葉の写照である。夢

の実現の途中には、環境変換による消極的な影響がある、挫折に直面せず、立ち上がり、簡単に諦めてしまい、中途半端の私は逃げ犬と区別がつかないと思う、今回の持続志の講座から、原敬首相が暗殺されたという脅威に対しても、右派の旧勢力との闘うことは命を奪取されたまでに日本の新たな政治を堅持した事件に感動している、大人物は夢の追求に命をかけて保護することができる。挫折して、倒れて立ち上がれない。失敗と成功と言えは瞬間の念願の差じゃないかな？最後、「夢を食う」について、夢を実現する為には手段的な事である。今日の授業で、私の気になるのは「一方堅ければ、他方に弱点ができるものです」という名棋士の名言である、それは私なりの人が人生の中で、勉強しても、ゲームにしても、仕事にしてもこの言葉は私にとって非常に重要な座右の銘になる、すなわち、ライバルに対する姿勢を示して、勝ちたいばかりの欲念を持って強くて攻めて、寧ろ、心を静かになると柔軟な姿勢を迂回すると相手の弱点を捕まえて、勝ちになれると思う大人物の志を習うのは面白いです。単なる知識の習得だけに留まらず、ますます日本の歴史を好きになってきた。加えて、日本人と一緒に group で discussions して、勉強になる、今日の持続な志についての講座では、自分の過去の人生を客観的にみることができた。

2018 年 11 月 3 日 「多摩祭」:「私の志」小論文・スピーチコンテストは 10 回目。古本市も人気

「多摩祭」。

「私の志」小論文・スピーチコンテストも、もう 10 回目。

着任直後に「現代の志塾」を教育理念にすることを提案した。その後、入試課の若い職員から「小論文コンテスト」の提案を受けて、始めたイベントだから、私も思い入れがある。始まった頃は責任者として関わったが、昨年から再度、実行委員長になっている。今回の役目は、表彰状を読み上げ渡すことだけだが、個人的には感慨があった。





T-Studio の一階では飯田ゼミの「古本市」が開かれている。
私の研究室から出した本も中央にのテーブルに出ている。



そういえば、「現代の志塾」「多摩祭」「T-Studio」「小論文コンテスト」の命名は私だったなあ。
入試対応でアゴラにいた樋口先生と懇談。

2018 年 11 月 5 日 本日の「日刊ゲンダイ」の「ブックレビュー」に「100 年人生の生き

方死に方」の書評

大学:ラウンジ

- 下井先生:入試
- 中村その子先生:カリキュラム
- 渡辺さん(学長室):戦略会議「国際」。統合、共通、共有。
- 高野課長:多摩祭

大学:研究室

- 講演の準備

2018 年 11 月 7 日 文庫リレー塾最終回は寺島塾長の「2019 年 日本の進路」

午後:九段サテライトで研究開発機構評議員会:インパクトサロン。社会的投資推進財団。新経済連盟。ソーシャルIPO。認知呼予防。技術安全保障研究会。安全保障経済政策支援(データのルール)。日豪戦略対話。長寿食。多摩市。日野市。現代文化研究所。志塾会・学部でのPR。

夜:東京の日本工業倶楽部で文庫リレー塾。寺島塾長「2019 年 日本の進路」

- アメリカ中間選挙:上院は共和党、下院は民主党。ねじれ。
- トランプ現象による痙攣(スパズム)。「グローバリズムを拒否」。金融資本主義とIT革命が本質。
- 世界経済の減速。長期金利上昇による株価乱高下と新興国リスク(トルコ・アルゼンチン)。アメリカの財政赤字の拡大(7800 億ドル)、中間層減税で拍車。
- 加藤周一と田中角栄は「戦争への怒り」と「中国への後ろめたさ」が共通体験。日本の人口:1900 年 4384 万人、2008 年 1 億 2800 万人(3 倍)。2100 年 6000 万人(半減)
- 『ジェロントロジー宣言』。80 歳で 7 割は健常者。支える側にするための参画のプラットフォームづくり。都市郊外型高齢化が問題。こくどう 16 号線上の団地族の高齢化。単身化進行中。食と農がない。宗教がない(魂の基軸がない。死生観がない)。
- 常温社会(ぬるま湯)。驚くべき内向。勤労者世帯可処分所得は 20 年で年間 70 万円ダウン(1997 年 49.7 万、2017 年 43.4 万円。貧困化・中間層の没落)。全世帯家計消費は 18 年間で年間 40 万円ダウン。食 1.0%ダウン・住 17.7%ダウン・衣 35.0%ダウン。増加は諸雑費・通信費・自動車関係費・医療保険サブリ。減少は交際費と小遣いで 24 万円ダウン、仕送り金・授業料(地域大学化)、教養・娯楽費、書籍。「学べなくなり、学ばなくなった」。内向化、保守化。21 世紀の出入国:入国 527 万人から 2800 万人。出国 1700 万人から 1789 万人と横ばい、500 万、若い女性と高齢者、壮年男子は出張のみ。
- 常温社会。不満はないが不安がある。私生活主義。小さな幸せ。スマホ人生・モール人生・ク

ーボン人生・皆と同じ行動。

- 吊り天井の経済(71 兆円の株価支援)。1%成長と低迷。株価は高い。ITビッグ5(GAFA+M)時価総額(476 兆円)で圧倒。日立(経団連会長)3.7 兆円。東レ 1.4 兆円はユニクロの 6 分の 1。新日鉄はオリエンタルランドの半分。
- 日本はどこに立つのか。松本重治「日米関係は米中関係だ」。米中接近の悪夢。アメリカの親中国は親日の 10 倍の厚み。蹴り合いとこすり合い。日本はアンビバレント(複雑)な
- 日本の状況。多国間貿易(TPP・欧州EPA)と戦前回帰のナショナリズム。複雑骨折。
- ・日本の基軸:戦後民主主義。成熟した資本主義国家。非核平和主義。技術を持った国。ものづくり。今後は具体的なプロジェクト(ジェロントロジーなど)に落としこんでいきたい。

2018 年 11 月 8 日 リレー講座:阿部多摩市長・八木多摩信金理事長・寺島多摩大学長の鼎談。「異次元の高齢化への対処とリニア新幹線インパクト」

事業構想論の授業を見学。渡辺幸弘(多摩大総研客員教授)の講義。

長寿食フォーラム。食と音楽。舞浜倶楽部。グスタフ社長。ホーム運営 3000 項目。軟菜食・きざみ食・ミキサー・流動食。カスタマイズ。料理人。、、、。



- 昼食は、渡辺先生と多摩信金の長島部長と「増田屋」で。
- 学長:大学院の科目の件を相談
- リレー講座は鼎談。阿部多摩市長、八木多摩信金理事長、寺島学長。



寺島:多摩のDNA。江戸時代は天領。幕末の新撰組。明治維新の自由民権運動。戦後の多

摩自由大学。ジェロントロジー。

阿部市長：維新 150 年は、戊辰戦争 150 年。三多摩壮士。東京都に編入。現在のテーマは職住接近、ニュータウンのリニューアル。

八木理事長：本店は立川飛行場。昭和大恐慌後に創業。「収益よりも地域の発展」。人口 422 万人(10 位)。企業 13 万社(12 位)。工業出荷額 4.9 兆円(10 数位)。大学 44(4 位)。2020 年に人口がピーク。2040 年の高齢者人口 35%。人手不足が顕在化。

寺島学長：現在 100 歳以上は 7 万人。2050 年には 53 万人。異次元の高齢化にどう対処するか？。9 年後のリニア中央新幹線による中間駅インパクトをどう生かすか？。名古屋甲府 5 時間から 30 分、橋本へは 40 分。

阿部市長：多摩市の 100 歳 31 人(ほとんど女性)。健康寿命(東京都方式)で男 83 歳・女 86 歳(東京 23 区・26 市で 1 位！)。健康寿命が高い人は読書好き。

八木理事長：金融ジェロントロジー。高齢者への金融サービスの提供がテーマとなる。

寺島学長：宗教ジェロントロジー。多摩のテーマ：食と農に無縁。死生観がない。

阿部：地元の大学との連携が大事だ。長谷工ミュージアム・KDDIミュージアム。

八木：全国 4 位の規模に成長。お客様の幸せの創造が理念。幸福度調査では高い。実感、生活、地域が高い。事業継承が課題。

寺島：シルバードモクラシー企画。12 月 2 日に山梨フォーラムを開催。

2018 年 11 月 9 日「漫画の世界」——立志人物伝の 7 回目「怒濤の仕事量」前編

大学。

9 時：授業準備。

10 時：客員の久米先生と懇談。未来学会、専門職大学、。。

10 時 40 分：「立志人物伝」の 7 回目の授業。

以下、久米先生の実況中継を転載(ありがとうございます！)

多摩大学 久恒啓一教授「立志人物伝」

今日は漫画の日。手塚治虫 石ノ森章太郎 赤塚不二夫】

なんと今日は素敵な日。いきなり今は亡き手塚治虫先生のビデオインタビューから。No Manga, No Life の私にとって、大学の講義で、三大巨匠(手塚・石ノ森・赤塚？)の生き様に触れることができるとは。さすが、日本で始めてシラバスや VOICE を取り入れた多摩大学。

特に、手塚治虫の「火の鳥(特に未来編)」 「ブラックジャック」に出会っていなかったら、私の人生観は大きく変わっていたことでしょう。未完の傑作「アドルフに告ぐ」の先も読みたかった。

もちろん、三人の記念館には行ったことのある私です。ところが.....コミケ生みの親、米沢嘉博記念図書館、伝説のサブカル誌ガロ初代編集長、長井勝一漫画美術館まで押さえているところが、久恒先生のすごいところ。

寺島実郎学長の講座レポート「2019 年 日本の進路」も怖かった。日本は常温(ぬるま湯社会)「不満がないが不安はある」「スマホ人生、モール人生、クーポン人生」日本人は内向き、学べない、保守化。GAFA に差をつけられる。日中、日米より米中の時代。

だからこそ、手塚治虫の言葉を、学生たちに向かって叫びたい！

「一流の映画を見ろ、一流の音楽を聞け、一流の芝居を見ろ、一流の本を読め、そして、それから自分の世界を作れ」

それから印象に残ったのは、文化勲章の辞退者の話。

河井寛次郎＝名利を求めない主義で、自作にも銘を入れず人間国宝も辞退。

熊谷守一＝孤高の画家。これ以上人が来ては困る。

大江健三郎＝ノーベル賞は受賞したが文化勲章はおかしい。

杉村春子＝自分には大きすぎる。戦争中にももらえなかった人がいる。

▼手塚治虫の名言

<https://note.mu/hisatune/n/n10140e554463>

▼石ノ森章太郎の名言

<https://note.mu/hisatune/n/n94d21275f5eb>

▼赤塚不二夫の名言

<https://note.mu/hisatune/n/n6f7ade63ea03>

▼文庫リレー塾最終回は寺島塾長の「2019 年 日本の進路」

<http://k-hisatune.hatenablog.com/entry/2018/11/07/000000>

▼リレー講座:阿部多摩市長・八木多摩信金理事長・寺島多摩大学長の鼎談。「異次元の高齢化への対処とリニア新幹線インパクト」

<http://k-hisatune.hatenablog.com/entry/2018/11/08/000000>

▼多摩大学 久恒啓一先生

<https://www.tama.ac.jp/guide/teacher/hisatune.html>

▼久恒啓一 図解 web

<http://www.hisatune.net/>

2月9日。手塚治虫「一流の映画を見ろ、一流の音楽を聞け、一流の芝居を見ろ、一流の本を読め、そして、それから自分の世界を作れ」 | 久恒 啓一 | note

手塚 治虫

以下。久米先生の午後の講義から

【多摩大生からの質問に答えます 181018

今期のおすすめアニメを教えてください】

多摩大生から寄せられた質問に答えてみました！

問 情報発信する時の為に自分のブランド価値を高める必要がありますか？

問 久米先生が日頃から行なっている努力は何かありますか？

問 会議をする時にスムーズにすすめる方法がありますか？

問 過去の記事で桜美林大学の講義 VTRを見たのですが、アマゾンで久米先生の書籍が 1 円で買えると聞いたのですががどういことでしょうか？

問 休日はどのように過ごしていますか？

問 今年 1 番の映画は？（久米さんの主観で）

問 多摩のおすすめスポットは？（久米さんの）

問 今はすごくInstagramが活発です。この次に話題となる SNS は？

問 今期のおすすめアニメを教えてください

▼回答はこちら

BLOG.CANPAN.INFO

【2018 講義 04】記事で紹介した店主などへのメッセージの出し方

受講生のみなさま ようこそ！ビジネスコミュニケーションⅡへ！ こんにちは。客員教授の久米 信行です！ 今週は、紹介したお店やおすすめスポットの 店長・館長・園長などに、お礼メッセージを出して ご縁を結ぶ方法を....

2018 年 11 月 14 日 人事委員会。学部運営委員会。理事長報告

大学

午前

- 人事委員会
- 学部運営委員会

午後

- 理事長報告：杉田学部長と。

2018 年 11 月 15 日 リレー講座をライブビューイングでみる。講師は NHK の大越健介さん。テーマは「壁の正体」

キャンパスで開催されたリレー講座を、ライブビューイングで、湘南キャンパスと九段サテライトで聞くスタイルを始めている。

本日の講座は、多摩キャンパスでは一般 299 名・学生 125 名、湘南キャンパスでは一般 30 名・学生 16 名、九段サテライトでは一般 76 名が受講。



本日はグローバルスタディーズ学部での会議の前に、この講座を視聴。

講師は NHK の大越健介さん。テーマは「壁の正体」

- ジャーナリストは、一人の人間と真正面から向きあい、その人の生き様を突破口として、国、民族、世界のことを考えたことを人々に知らせていくのが仕事である。
- 大きな言葉・大な主語(日本、国、国際社会、...)で語らないようにしている。「3・11で 2 万人が死亡」という言い方では真実は見えない。
- 稀勢の里の休場、ハラハラを乗り越えていく姿。大谷翔平のドキュメント、野球のみの生活、大したものだ。
- 壁1「北朝鮮」: 韓国の脱北者。マレーシアでの兄の殺人による反北朝鮮ムード。アメリカの冷静な分析。ロシアのウラジオストックでの北の労働者のまじめさによる友好ムード。壁の鍵穴から覗き実相に迫る。
- 壁2「メキシコ」: 中米(ホンジュラス、エルサルバドル、...)からの移民希望者の大行進が本日国境に到着。人間の想像力に訴える。無数のストーリーがある。材料を提供する。
- 壁3「ヨーロッパ」: 2 度の世界大戦で傷つき「EU」という壮大な実験を始めた。移民・難民で揺れている。自国第一主義、反 EU、反共存共栄。オランダ、フランス、ポーランド、英国、...。日本人は本当にかんがえているのだろうか。
- 壁4「台湾」: 日本人大好きな台湾人。大陸の壁。
- 壁5「外国人労働者」: 人手不足。心の準備はできているか。世界への貢献も。平和ボケ。
- 生身の人間が体現しているものを大切にする。
- 2020 年のオリパラはチャンス。日本が世界をみる。世界が日本をみる。スポーツキャスターになった。日曜日 21 時からの「サンデースポーツ 2020」。少しでも良い方向に変えていきたい。一人一人の人生をリスペクト。想像の翼。当事者として向き合う。
(ミクロの視点。リベラル。中国旅行。実際よりライブビューイングの方がいい? 表情がよくわかる、...)



安田学部長と懇談: 人事。

グローバルスタディーズ学部の学部運営委員会にオブザーバー出席。

2018 年 11 月 16 日 午前は「立志人物伝」(学部)。夜は「立志人物論」(大学院)



大学院の 5 回目。立志人物論「怒涛の仕事量」がテーマ。以下、受講者の感想から。

日本人社会人

- 怒涛の仕事量というテーマの中、今回は主に漫画家や物書き(歌人、小説家等)の方々が数多く紹介されておりました。仕事に向き合い没頭したからこそ、そこに人を惹きつける何かがあるのだろうと感じました。講義中に手塚治虫の言葉が紹介されました。トキワ荘に集う同志たちに向け、「一流の映画を見ろ、一流の音楽を聞け、一流の芝居を見ろ、一流の本を読み、

そして、それから自分の世界を作れ」と語ったとのこと。漫画の世界のみならず、どの業界にも通じる言葉であり、常に自分自身に刺激を与え、磨き続けることで確固たる自分を持ってという強いメッセージを感じました。もう一人、講義中に印象に残った人物がいました。志村ふくみという染織家で草木染めをされる方です。この志村ふくみの仕事観に驚嘆しました。草木染めという一つの仕事にただひたすらに打ち込み、我が子のように愛するその姿勢に、はたして自分自身もこの気持ちを持って仕事をしているか？と考えました。当然ながらまだまだこの境地には及ばず、至らない点が多いと自覚しました。怒涛の仕事量とは、まさにこのことで、仕事とプライベートの境界がなくなり、寝食を忘れる程没頭できるか？仕事に情熱、愛を持って接することができるか？ということに尽きると思います。今の世の中、働き改革と謳われていますが、そんな言葉とは無縁の方々の生涯を振り返ることは大変興味深く、また、学ぶべき点多かったです。本日もありがとうございました。

- 手塚治虫、石ノ森章太郎、赤塚不二夫は僕が少年時代慣れ親しんだ漫画家である。ギャグ漫画が好きだった僕は特に赤塚不二夫作品をよく読んだものであった。読む我々はあまり意識してなかったが、確かに次々に作品を生み出すその労働力は並外れた努力の賜物であるとする。漫画は1枚描くのになんとか時間がかかるが単に書くだけでなくその絵の構想を練るのにも時間がかかり、作家に比べると求められる生産性、創造性はけた外れに要求されるし、連載していると毎週納期に追われる日々が続くそのストレスは想像を絶すると思う。漫画家の寿命が短いのはそのせいもあるかもしれない。僕らに夢を与えてくれた漫画は人生の成長の過程においては色々な勉強にもなり漫画なしでは語れないものがある。例えばOne Pieceなどはリーダーシップを学ぶのに役立つと思うし、本だけでなく漫画から学ぶことはそのシーンを右脳に焼き付けるという意味においても記憶に残ると思う。後半の女性作家に関しては、与謝野晶子のバイタリティには驚いた。国語や日本史の教科書によく出て来るので名前は知っていたが、11人の子供を産みながらそれでも5万を超える歌を読んだという事は知らなかった。正に量をもって質に転換している好例と言える。また、戦争に突き進んでいる時代においても戦地に赴く弟に死ぬなということを世論の批判も臆する事なくに言うところなどは勇気があるし肝っ玉が座っている。自分は和歌はあまり慣れ親しんでないが、一度じっくり読んでみたいと思う。
- 「人生を賭して為すこと」。人生を賭してなす仕事には、その人の原体験が深く根差している。今日は怒涛の仕事量というキーワードで、漫画家と歴史に名を残した女性をご紹介頂いた。怒涛の仕事の背景には、その人の原体験が隠れているのではないかと想像しながら授業を受けた。ご紹介頂いた中で特に印象に残ったのは、手塚治虫さんと志村ふくみさんだった。手塚治虫さんの作品は多く読んでいて、特に「火の鳥」は何度も読んでいて、読むたびに強い印象を受けている。他にも好きな作品が多く、「三つ目が通る」や「ブラックジャック」「鉄腕アトム」「ブッダ」「MW」「リボンの騎士」などどれを読んでも面白い。作風とテーマが多様で深い。授業では、手塚治虫さんが漫画家の後輩に「マンガを描くためには教養が必要だ」と繰り返し伝えたということが紹介されていた通り、古今東西の広く深い知識を縦横無尽に掛け合

わせて、人間と動物、善と悪、愛と信仰、ロボットと心、古代文明と科学、など今の時代でも色褪せない本質的なテーマを持った作品を残している。授業でみた VTR では実際にお話しているご本人を見て、優しい人柄が伝わってきた。今回の話ではあまりフォーカスされていなかったが、手塚治虫は、基本的にマンガを子供たちのために描き続けた、ときいたことがある。学生時代に戦争を経験し、厳しい時代をマンガを描くことで、夢をもって生き抜いた経験が VTR で語られていたが、その少年時代の想いを元に「子供たちのために」とこだわり続けたのではないかと想像した。志を持続させて、人生を賭して為す仕事には、その人の原体験が深く根差している。手塚さんの同世代の方は、みなさん戦争という想像を絶するような辛い原体験を昇華させている。もうお一方は、授業でご紹介頂き始めて知った志村ふくみさん。WEB で肩書を調べたところ、染織家・随筆家となっている。

- 志村さんは VTR 冒頭で、「色に命がある」と仰った。一瞬意味がわからず思考が停止した。その後お話を聴くと、志村さんは染織家という枠で捉えることに違和感を感じだした。志村さんは、「藍はその人の人格を写す」「人間は自然と対等ではない。」「古代から日本人は自然を崇めてきた」「私は人と人が向き合って、魂を育てることをしたい。」というようなことをおっしゃっていた。染織という一つのことを徹底的に突き詰めていくと、そこには日本の伝統的な価値観の連なりがあり、哲学があるのだと感じた。幼少期の原体験というようなことは描かれていなかったが、3. 11 を契機に、魂を育てていきたいという思いを持たれたと仰っていた。志村さんの VTR を見て、私が尊敬する佐藤初女さんという方を思い出した。初女さんは、もう数年前に亡くなられてしまったが、青森で森のイスキアという施設を運営されていた方で、NHK や映画でも紹介されたことがある。活動を一言で言いあらわしにくいのだが、日本のマザーテレサと呼ばれることもある素晴らしい方で一度お会いしたことがあるがとてもやさしくチャームグだった。記念館はないが、書籍はご本人が書いたものを含めて多数発行されているのもしご興味ある方がいたらご覧ください。NHK アーカイブ あの人に会いたい。
- 本日の「怒涛の仕事量」のテーマで漫画家と女性がクローズアップされていましたが、近年はだいぶ様子が変わってきたと思われます。但し、後世に名を残す人は、才能はもとより凄まじい努力の結果が素晴らしい成果を生んでいるようです。漫画家に関して、手塚治虫、石ノ森章太郎、赤塚不二夫は私にとって大変懐かしくかつ当時は熱烈なファンでした。特に手塚治虫は半世紀たった今でも、その発想力、創造力は衰えることなく、夢を与え続けています。現在になり、ようやく技術革新が手塚治虫に追いついてきたように思えます。また、一種独特な感性でギャグ漫画の世界を築いた赤塚不二夫も天才と言わざるを得ません。人々を魅了した、いや驚かせたギャグ漫画の完成までには長い葛藤の時間を要したと思いますが、その裏の世界は微塵も見せていない赤塚不二夫の偉大さがあります。さて、もう一つのテーマである女性の活躍には、本当に感心させられます。今と違って女性の地位や評価が低い時代に成果と結果を出してきた、与謝野晶子や樋口大祐は、どれほどの努力をしたのか計り知れません。まさに頭が下がる思いです。加えて、石井桃子は名前があまり知られていませんが、児童文学では第一人者であり、のんちゃん雲に乗る、熊のプーさんの編集、翻訳は誰でも見

ている本ではないでしょうか。本日の講義ではあまり取り上げて頂けなかったようですが、向田邦子という脚本家はテレビドラマで数々のヒット作を残しています。寺内貫太郎一家というドラマはいまでも心に残っています。その活躍の裏には凄まじい生活があったと思います。そして、突然の航空機事故で亡くなるまで精力的に仕事をしていたようです。遺書が見つかるのですが、なんと2年も前に書かれたもので、向田邦子の覚悟が伺えます。「どこで命を終わるのも運命です。…」凡人にはわかりませんが、悔いのない人生を送りたいものです。

- 本日、論文ゼミが2時間超となったため、やむを得ず欠席させていただきました。申し訳ございません。「立志人物伝」の講義は毎回楽しみにしているので、非常に残念です。次回は必ず出席します。また、来週記念館に行くことを予定しているので、次回の講義までに記念館報告をさせていただきます。

留学生

- 今回の授業の怒涛の仕事量をこなす人については三名の漫画家とたくさんの女性の偉人を紹介しました。漫画家は手塚治虫、石ノ森章太郎、赤塚不二夫です。私知っている方は手塚治虫、漫画界の第一人者であり日本のアニメの創始者です。彼の自画像のキャラクターはよく自身のアニメの中で度々登場します。私は手塚治虫の二つの作品を見たことがあります「鉄腕アトム」と「ブラック・ジャック」です。どちらもとってもおもしろく、子供の頃見た時と大人になって見たときの感想はやはり違いました。手塚治虫の魅了はどの年齢層でも夢中になれることでしょう。手塚治虫は漫画家だけでなく、医師でもあり。漫画家として毎日沢山の原稿を描かないといけず、新しいのアイデアを作れないといけないので強大の精神力持っていないと続かないだろうと思います。手塚治虫は一生で15万ページ以上の漫画作品を創作しました。ピークのときは13作の漫画連載をこなしました。大量の仕事の関係で、彼はどこに行く時でも原稿用紙を側に持っていました。たとえ旅の電車の中でも、飛行機の中でも、彼は漫画を描き続けました。私は子供から今まで好きなアニメはちびまる子ちゃんです。子供の頃からテレビで香港の声優さんの吹き替えがされたちびまる子ちゃんはとても好きです。今でも昔からずっと残っていたDVDを今でもちょくちょく見ます。ちびまる子ちゃんを見た私は初めて日本の文化に興味を持ちました。日常的な生活、女の子の繊細な心、家族の暖かさ。これを知れたのはさくらももこの描いたちびまる子ちゃんのおかげです。2ヶ月前に亡くなったさくらももこ、今日はありがとうの会が挙行されました。彼女はもういなくなりましたが、彼女の作品はきっと永遠に感動を与えます。
- 本日は量のテーマでした。中国では、「量的な変化が質的な変化をもたらす」という話があります。しかし、質的な変化が起こす前に、物事を続けるのが誰でもできるものではないです。今日は一番印象に残ったのは与謝野晶子さんです。彼女は24歳からずっと妊娠状態で、子供を育てながら、作品を完成しました。「人間は何事にせよ、自己に適した一能一芸に深く達してさえおればよろしい。」ひとつことを深く追求することが大事ですが、自分に合っていることこそ、エネルギー源になれるではないでしょうか。ちなみに、私は子供時代がないみたいに、漫画に興味全然ないで1冊も見ませんでした。今日は色々な漫画家のインタビューを見た

り、皆さんと交流したり、意外に漫画を一冊ぐらい読みたくなりした。それがこの授業の魅力だと思います。今日もありがとうございました。

- 今回は「漫画」について、偉人の事を勉強した。自分と日本漫画の繋がりはどんどん思い出を浮かべた。日本の漫画について、小学三年生の時に、初めて見たのは日本の漫画『ドラえもん』という作品である。その作品は凄く面白いと思われた。これから数年間、「ドラえもん」はずっと私のランキングには1位になっていた。『ドラえもん』とは、藤子・F・不二雄による日本の児童漫画・SF 漫画作品。及び、作品内に登場する主人公(未来からやってきたネコ型ロボット)の名前である。作者が最も長く描き続けた代表作であり、漫画を原作として、テレビアニメ化、映画化、舞台化なども行われ、多くのキャラクター商品が販売されている。誕生から約半世紀を経た現在でも、日本国内では高い人気と知名度を維持しており、2012 年 9 月にはドラえもん生誕 100 年前を記念して、各地で様々なイベントが開催された。海外でも、東アジアを中心に高い人気を誇る。そのあと、中学 2 年生の時は、多田かおるの少女漫画『イタズラな Kiss』という作品は第一回目に読んだ。このから 20 代まで何十回を繰り返し読んだ。『別冊マーガレット』(集英社)で 1990 年 6 月号から連載開始。当初は短編(全 3 話)の予定だったが、多田かおる本人の希望と読者からの人気を受け、長期連載となる。1999 年 3 月号まで連載中だったが、多田の急逝により未完となった。単行本は全 23 巻。累計発行部数は 3500 万部。1996 年にテレビ朝日でテレビドラマ化された。2005 年には台湾で『悪作劇之吻』のタイトルでテレビドラマ化され、同年度台湾のテレビドラマ年間最高視聴率を記録した。2007 年に台湾で続編『悪作劇 2 吻』が放送され、前作に引き続き主演を務めた林依晨(アリエル・リン)は、台湾版のエミー賞に相当する第 43 回電視金鐘獎で主演女優賞を受賞した。2008 年 4 月から同年 9 月まで中部日本放送および TBS でテレビアニメが放送された。原作の未完部分を、多田が遺していた構想ノートなどを基に構成し、完結させたストーリーとなっている。2008 年 11 月 27 日から同年 12 月 7 日まで『舞台版 イタズラな kiss ～恋の味方の学園伝説～』のタイトルでシアターサンモールにて舞台化された。2010 年には韓国で『장난스런 KISS』(イタズラな KISS)のタイトルでテレビドラマ化された。2013 年 3 月 29 日から『イタズラな kiss ～Love in TOKYO』としてオリジナル要素も含めて CS 放送・フジテレビ TWO に再ドラマ化されている。以上の各ドラマ(日本、台湾、韓国)は全部何回で見ました。その中で、台湾作ったドラマは大好きです。シンプルなストーリーを通じて、主人公の誠実な感情を描いた。実は、その物語は、作者とご主人様自分の恋愛ストーリーから作られた。多くのファンは、この原因で深く動いた。もちろん、私は大好きな日本漫画家授業に紹介した様々な偉人漫画家と比べて、そんなに有名ではない。でも、私にとって、印象が一番深いまたは感動された漫画家である。今日もありがとうございました。
- 私は怒涛の仕事量が高質の圧倒的な仕事量だと思います。大量な仕事を綺麗な完成する人はどの時代でも偉人になるでしょう。漫画家の手塚治虫はそのような人です。彼は漫画家になった後、胃癌で亡くなった前に、ずっと漫画の仕事に活躍していました。手塚治虫は医者

の出身ため、作品も一般的な漫画ではなく、哲学を包んで、現代につながる日本のテレビアニメに多大な影響を及ぼしました。本日もありがとうございました。

- 今日はこの講義の中で一番面白かった授業だと思います。怒涛の仕事量をテーマに漫画家と女性について学びました。考えられないぐらい仕事量が大きくて、死ぬまで一生懸命それ続けた方は素晴らしいですね。中でも、漫画という話が出ましたので、とても興味がありました。私は小さい頃からずっとアニメが大好きで、いつもテレビで見えていて、私にとって嬉しくて貴重な思い出です。これを可能にしたのは漫画の父親手塚治虫です。彼の努力のおかげでいろんな世代の人たちは楽しい子供時代を過ごしたと思います。そして、女性のご紹介の中で樋口一葉のことを聞いて驚きました。貧乏の家族で生まれたんですが、勉強が大好きで、とても優秀な女性でした。母親が進学に反対しても、彼女は熱心で作品を完成しましたが、残念なことに 24 歳で死亡しました。やはり、この方の力になっていたのはきっと愛だと思います。仕事や趣味に対しての熱心さえあれば幸せになれると教えてくれました。
- 今日のテーマは「怒涛の仕事量」です。授業に数多くの漫画家と女性が出てきました。手塚治虫は日本においてストーリー漫画の第一人者で、日本初のテレビアニメシリーズ『鉄腕アトム』を制作しました。日本だけではなく、海外でもよく知られています。私は子供の時に見たことがあります。次に、藤子不二雄、石ノ森章太郎などといったトキワ荘メンバー漫画家達の名も出場してきました。日本において手塚漫画の影響を受けていない漫画家はいないと思います。手塚治虫の漫画の描き方で注目すべきは漫画の発想の仕方や漫画表現の根本を教えてください。全部の漫画は落書きから出発していることです。自由奔放なアイデアがすごく大事だと思います。もう一つ印象に残ったことは仕事量です。仕事の量をこなさないと、質の良い仕事はできません。「質の高め方」を探るのはそれに対応する時間をかけた後に、「量をこなすこと」をへた後に自然に出てきません。簡単に言いますと、「量をこなすと質が上がる」ということです。やっぱり仕事の量をこなすと、たくさん工夫したら、根気よくやりさえすれば何でもできると思います。勉強も同じことです。専門分野の本が難しすぎて理解できないなどの悩みがよく出ています。でも一回読んでよくわからない場合は、何回繰り返せば、著者の主張がわかります。量をこなすにつれて、効率と質が上がっていき、質が上がれば、量もこなせます。
- 第 5 回は先生から日本の漫画文化の紹介して通しで、仕事の量についてテーマの志を習いました。日本の現代漫画は手塚治虫から大繁栄に向かっている。手塚治虫の日本の漫画の影響は大きく、ほとんどの早中頃の漫画家は手塚治虫の作品の啓蒙を受けている。その後の発展は、石森章太郎、藤子不二雄、白土三平、横山光輝らが大きな役割を果たしてきた。日本の漫画の繁栄、世界的に漫画業が最も繁栄している国となった。調べてみると、漫画の作者は、画質を保証する必要があるほか、ストーリーの品質を保証しなければならない。もし周よりも 1 ヶ月 96 ページだが、新人の周の更なる可能性はほぼ 0 になっている。なぜなら、絵を描けるようになったから、彩漫の制作は時間がかかっているし、多くの新人は一撃で、通常、ほとんどの作品は 2 週間で 1 回更新して、つまり 48 ページである。あるいは、1 ヶ月に 1 回の

更新をしているので、まだ有名になっていない漫画家たちは、寝食を忘れ、流れ星を記録するようなインスピレーションを捉えています。夜は仕事に追われ、仕事の量が膨大である、日本漫画今の地位と成就是かれらの勤勉的な働くと離れられません。私が大好きな漫画家は宮城駿です、宮崎駿と高畑勲は、国際的に広く評価されているアニメスタジオ・ジブリのスタジオを創設した。宮崎駿の作品はかなりの成功を獲得し、アメリカの絵画師ワット・ディズニー(Walt ディズニー)、イギリスのスポーツ師のナイキ・パックとアクションの先駆者、アメリカ動画師のロバー・アンキーと並行して、最も影響力のある人物だと思われる[3][4]。宮崎駿は東映アニメーションでプロのキャリアを始め、「グレーバーの宇宙旅行」の制作に参加した。彼はこの作品の中で自分の考えを出して、ついに映画の結末になった。アニメ産業で様々な役割を果たし、1979 年に第 1 部アニメ「ルパン三世カオストロの城」を監督する。次の映画「風の谷」で広く称賛され、高畑勲と共にジブリのスタジオを作り、多くの作品を作り続けた。「もののけ姫」を完成させた宮崎駿は、一時退職することを選んだ宮崎駿。しばらくの間、宮崎駿は 2001 年にアニメ『千と千尋の神隠し』を完成させた。今まで『千と千尋の神隠し』は私一番感動して居る大好きな動漫作品です。豊かな宴を楽しむような、味わい深い。「お父さん、お母さん、きっと助けてあげるよ！」と多くの観客が覚えている。「食べられないんだよ！」そうでないと食べられます。親が豚になるのは、ただ物語の始まりで、千尋は決意を決め、一条の驚異的な成長の旅を踏むこれはまさに日本の学ぶ道に踏み込んだ私の苦境に直面して成長したのと同じで、私の感動の原因でもあります「天才は勤勉、賢い源は蓄積している」とコメントし、天才と聡明さは先天的にあるものではなく、主にあさつての勤勉と蓄積によるものである。天才：特殊な知能と才能。出典：所得については、勤勉、聡明さが蓄積されている。堅固な理論の基礎と豊富な実践の経験を持っていて、勤勉に練習する基礎の上で独立の思考と問題を発見する能力を育成します。

2018 年 11 月 17 日 インターゼミ





2018 年 11 月 20 日 副学長日誌

研究室

- 原稿修正
- シラバス作成

ラウンジ

- 高野課長:シンガポール出張

2018 年 11 月 21 日 教授会

大学

- 金先生、趙先生
- 学部運営委員会:指定校推薦問題。
- 教授会:人事

ラウンジ

- 今泉先生:大学院
- 下井先生。杉田学部長:ゼミ必修化。
- 彩藤先生、志賀先生。
- 飯田先生

2018 年 11 月 22 日 本日のリレー講座「テクノロジーによって私たちの暮らしや働き方はどう変わるか？」(浜田敬子先生)

- 本日のリレー講座。講師:浜田敬子先生(ビジネスインサイダージャパン総括編集長)
タイトル「テクノロジーによって私たちの暮らしや働き方はどう変わるか？」。

- ・ ソゾスーツ(体のデータ収集)。アマゾン GO(ムジン店舗)。ギグエコノミー。ウーバー。ウーバーイーツ(出前)。タスカジ(家事)。ゴーストレストラン(厨房のみ)。タイルバック(時間単位の副業)。クラウドワークス(マッチング)。シュフティー(主婦)。キッズライン(ベビーシッター)。AirB&B。アマゾンプライム。ソシャルスコア(バーチャルスラム)。ウォルマート(口座提供)。
- ・ デジタルポピュリズム。格差。テクノロジーから置き去りにされた人々。社会の不安定。トランプ誕生。苦しさがネットで増幅。怒り。声をあげよう。デジタル巨人とどう向き合うか。憲法改正。分断。
(データリズムとギグエコノミー。youtube。ソフトバンクの AI 戦略。孫正義のビジョンファンド。個人のビッグデータ戦略へのヒント。得意技。テープ起こし、、、)

- 高野滋課長(キャリア支援課):就職関係で意見交換
- 高野課長(学長室):学内情勢
- 品川キャンパス:17 時半から。
大学院運営委員会

2018 年 11 月 23 日「立志人物伝」の授業の実況中継——「修養・鍛錬・研鑽」

- 「SNS 論」の久米先生と懇談
- 「立志人物伝」の授業。客員の久米先生が受講してくれていて、毎回授業の様子を SNS にレポートしてもらっている。

【多摩大学 久恒啓一教授「立志人物伝」181123 野口英世 新渡戸稲造 二宮尊徳 宮本武蔵 安岡正篤】

勤労感謝の日ですが、多摩大生も私も勉強しております。

■ 偉人を育むのは母(父ではなく)

野口英世に関する、講義冒頭の言葉で仰天、そして納得しました。「野口英世を見ているとお母さんが偉い。偉人にはお母さんが偉い人が多い。お父さんが偉くても、ダメな子供になることもあるが...。」寂しいけれど、きっとそうでしょう、。

野口英世「私はこの世界に、何事かをなさんがために生まれてきたのだ」

<https://note.mu/hisatune/n/n3238eef39169>

■ 日本人とは何かを図解(神道×儒教×仏教)

○新渡戸稲造

「神道から忍耐 儒教から道徳 仏教から慈悲心」

○二宮尊徳

「神道がひとさじ、儒教と仏教は半さじずつ。」

これも納得。神道章ボーイスカウトで禅に心惹かれる私が見るに、神道のアニミズム、禊の思想、教義や偶像を持たないことで、儒教や仏教も自然に受けられたのではないで

しょうか。

■今日のテーマは「修養・鍛錬・研鑽」

自分で自分を律して決めることができる人になろう。

鍛錬。鍛は約3年 錬は約30年

○宮本武蔵

「千日の稽古を鍛となし、万日の稽古を錬となす」

<http://k-hisatune.hatenablog.com/entry/20120526>

修業(終わりがあある。卒業)と 修行(一生続く)

安岡正篤

私の今があるのは「縁尋奇妙」というメールマガジンを、インターネット黎明期に 10 年以上書き続けていたからです。このタイトルは安岡正篤先生が引用されていた「縁尋機妙＝人は会うべき時に会うべき人に会う」という言葉にちなんでいます。インターネットの網縁によって、さらにご縁が不思議な広がりを見せると体感して、不遜ではありますが命名しました。

「自分はつきつめた所、何になるかといえば、自分は自分になる『完全な自己』になるということだ」

「人間はできるだけ早くから、良き師、良き友を持ち、良き書を読み、ひそかに自ら省み、自ら修めることである。人生は心がけと努力次第である。」

「どんな一事・一物からでも、それを究尽すれば必ず真理に近づいてゆき、竟には宇宙・天・神という問題にぶつかるものだ」

「宗教と道徳を区別するのは西洋近代学の通念であって、東洋ではこの二者を”道”として一なるものと考えてきた」

「愚直で、少々頭も悪く、小才も利かぬ、そんな人間の方が、根が真面目なだけに、修養努力して大人物になることが多い 」

<https://note.mu/hisatune/n/n2b48ea16c3aa>

■ 上司の心得

「上、下を見ること3年。下、上を見ること3日」

久恒先生曰く、上司が部下を理解するには3年かかるけれど、部下が上司を見抜くのは3日あればいい。私も勤め人をしていたころは、呑んでは愚痴をこぼすことが多く、身に覚えがあります。もちろん面従腹背の部下を持ったことも....恐ろしいことですね。

■AIに代表されるテクノロジーが醸す未来

リレー講座「テクノロジーによって私たちの暮らしや働き方はどう変わるか？」(浜田敬子先生)

久恒先生は、孫正義さんが AI 関連企業に投資をしていることを合わせて紹介。ビッグデータの時代に、AI を制する企業が最終的に儲かるから。個人のビッグデータをどう集積するか。毎日ブログなどを書き続ける自分がモデルになる。

▼久恒先生のブログより企業の ICT 活用の新しいサービス

・ゾゾスーツ(体のデータ収集)。アマゾン GO(ムジン店舗)。ギグエコノミー。ウーバー。ウーバーイーツ(出前)。タスカジ(家事)。ゴーストレストラン(厨房のみ)。タイルバック(時間単位の副業)。クラウドワークス(マッチング)。シュフティー(主婦)。キッズライン(ベビーシッター)。AirB&B。アマゾンプライム。ソーシャルスコア(バーチャルスラム)。ウォルマート(口座提供)。

・デジタルポピュリズム。格差。テクノロジーから置き去りにされた人々。社会の不安定。トランプ誕生。苦しさがネットで増幅。怒り。声をあげよう。デジタル巨人とどう向き合うか。憲法改正。分断。

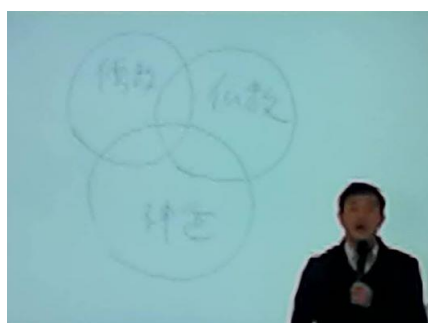
<http://k-hisatune.hatenablog.com/entry/2018/11/22/000000>

■本多静六という金回しと勉学道楽の達人

恥ずかしながら、林学博士、造園家、株式投資家にして日本の「公園の父」「本多静六」氏を知りませんでした。勤儉貯蓄と投資で財産を築きながら、社会貢献のため寄付をして無一文になりました。それでいて幸せだという秘密は...

「人生の最大の幸福はその職業の道楽化にある。職業を道楽化する方法はひとつ努力(勉強)にある」

「人生の幸福は、現在の生活程度自体よりはむしろその生活の方向が上り坂か下り坂か、上を向くかで決定されるものである。つまり、人の幸福は、出発点の高下によるものでなく、出発後の方向のいかんによるものだ」



昼休み

- ラウンジ・出原先生の囲碁教室に参加。椎木先生、樋口先生と。
- 馬場君、研究室に来訪。本を2冊贈呈。

2018 年 11 月 24 日 インターゼミ——シンガポール。AI 班

インターゼミ

- 杉田先生「シンガポール出張。早稲田シンガポール高校。JETRO、高齢者を働かせる仕組み。フィリピン人家政婦、戦略経営塾、570 万人、」。・大場先生「福生市の石川酒造。英語 HP、

1万人のうち2割は外国人、免税書類の問題、ハイエンド旅行者獲得の課題、、、」。船井・佐保君からも報告。・加藤先生「アメリカの認知心理学学会参加報告」。・田辺君「藤沢市観光協会に就職」・加藤君「読書。新渡戸の武士道、、、」。

● 学長講話

- ・ 文献とフィールドワークで得た材料を収れんさせていく。積み木の上に立つ。
- ・ 「ネットワーク型視点(つながり)」。「自分なりの座標軸」。シンガポールモデル: 5.8 万ドル(日本は 3.8 万。東京と同等)。74%が華僑・華人。3500 万人の中華系(異民族支配、反共)。「弱点を強みに変える知恵」。社会実験の国。水の淡水化。交通のコントロール。教育格差、14 歳で決定。「笑顔の北朝鮮」。大中華圏の南端。ユニオンジャックの矢の一基点(大英連邦。英語、英国法)。日本とシンガポール。パーシバル将軍(6 万人兵)の降伏。電源と水。山下将軍。銀輪部隊。昭南島。1900 年の漱石がみたシンガポール。600 人のジャパユキさん(売春婦)、数千人の日本人墓地、二葉亭四迷の墓、、、)



- ・ AI 班: 人間はどうする。自分はどうする。自分の言葉に置き換える。人間とは何か。課題解決力。誰に相談するか。粘り腰。生身の人間。君はどう思うか。AI の可能性。1.5 キロの脳は 3 分の一のエネルギー消費。認識と意識。美意識、価値意識、愛。



AI 関係の書棚。200 冊近い本。

『世界』12月号の「脳力のレッスン」200「人類史における宗教の淵源」

以下、宗教の起源に関して言及している本。

E・フリー・トリー(スタンフォード大学の精神医学者)『神は、脳がつくった』

R・ドーキンス『神は妄想である——宗教との決別』

エドワード・タイラー(19C の文化人類学者)『原始文化——神話・哲学・宗教・言語・芸術』

クリストファー・ボーム(南カルフォルニア大学の人類学者)『モラルの起源』

フランス・ドゥ・ヴァール『道徳性の期限——ボノボが教えてくれること』

ニコラス・ウェイド(英国のジャーナリスト)『宗教を生み出す本能——進化論からみたヒトと信仰』

芥川竜之介『さまよえる猶太人』『西方の人』『続西方の人』



2018 年 11 月 26 日 「ビジネススクエア多摩」企画運営委員会。大分合同新聞に講演の記事

- 午後:「ビジネススクエア多摩」企画運営委員会。多摩市・多摩大・多摩信金
 - ・ 近況報告:多摩大「ジェロントロジー。ルール研と社会的投資研」。多摩市「東京都多摩市基本計画。ビジネス支援施設認定制度。長谷工ミュージアム」。多摩センター駅のサンリオ化」。多摩信金「創業支援。クラウドファンディング。キャッシュレス」。電通大の竹内先生「深セン出張報告:中国スタンダード。中華イノベーション。香港と 1 時間。キャッシュレス化」。
 - ・ 平成 30 年度 BS 多摩運営報告。未来創造シンポジウム。来年度の創業支援事業計画、。。。。。
- 大森拓哉先生:ゼミ必修化

2018 年 11 月 29 日 リレー講座:真壁昭夫先生「世界経済と金融市場の動向」

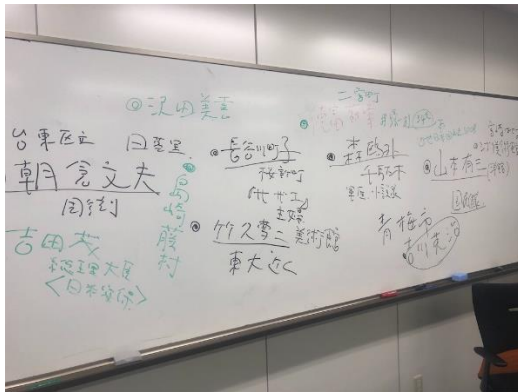
リレー講座。真壁昭夫先生「世界経済と金融市場の動向」



- アメリカ: 潜在成長率 1.8% (実力)。GDP (企業の儲けと個人の給与) 2018 年 4-6 月期 4.2%、7-9 月期 3.5%。だんだん減速するが、失速はしない。利上げは年内 1 回、2019 年 2 回か。2020 年は厳しい。米中摩擦は覇権争いで長く続く。覇権争いは 100 年単位。11 月 30 日からの米中会談あり。
- 日本: 景気は海外次第だ。2019 年には 2 つのイベントあり。夏の参院選は自民が勝つためには景気をよくしたくなる。消費増税に向けてのバラマキで税収は上がらない。2020 年までは景気を維持する。オリンピック以降は円高になる。
- 世界: アメリカは金利の動向に注意、GAFA には規制がかかり高収益は期待できなくなる。新興国では中国は減速、その影響で蓄積のないアセアン諸国は厳しくなる。欧州はドイツの政治的リスク、イタリア。中東はサウジの不安。
- 日本: 2012 年 11 月の底以来景気上昇中、円安で輸出企業が潤った、為替差益が大きかった。2019 年はドル安で円高になるだろう。海外頼みの国内経済だ。人口減でも成長はできる。その核は「イノベーション」だ。新しいことをやること。この意欲！

2018 年 11 月 30 日 大学院で「立志人物論」の講義。テーマは「修養」と「構想力」。
日本人、中国人、イタリア人、ベトナム人

- 夜; 品川の大学院で「立志人物論」の講義。
 テーマは「修養」と「構想力」



以下、日本人。

- ・ 今回(11/30)の学びについて記述します。・修養(身を修め、心を養う):一生かけて人徳を磨いていくこと。二宮尊徳は苦学を重ね、生涯で600以上の大名旗本家の財政再建と農村の復興事業を推進した。野口英世は母の苦勞に報いるため、左手に障害を抱えながらも医学の発展に命を賭した。安岡正篤は歴代総理大臣の指南役として尽力し、その名を馳せた。人間は学び続けなければならない。学問をしない人間は、面相・言語が卑しくなる。ビジネスでこれまでに数百名の人と対面しましたが、学ぶことを放棄した人間の面相・言語は卑屈であるということを実感しています。新渡戸稲造は教養と勤勉さで、生涯において膨大な仕事をこなした。人生をかけて人徳を磨いた彼ら、だからこそ今も語り継がれる偉人と成り得たのだと考えます。構想力:着想と計画を結びつける力。後藤新平は大ぼら吹きと言われながらも、壮大な計画をうちだし、およそ100年が経過した現在、後藤新平の計画は実現されています。また、関東大震災の復興を成し遂げた人でもある。私は宮城県名取市閑上、3.11で壊滅した町の出身です。震災前に過疎化がすすんでいた町ではありましたが、現代に後藤新平のような政治家がいれば、私の故郷はもっと違った形で復興をしたのではないかと残念さを感じました。徳川光圀は大局観をもって「大日本史」の制作を志し、徳川光圀の死後も志を引き継いだ者たちが制作を続け、250年の歳月をかけて「大日本史」を完成させた。構想力とは、着想と計画を結びつける力であると同時に、志を引き継ぐ人間を育てる力なのだと考えます。自分が死んでも後進が成し遂げる、そこまでの大局観をもつことが、構想力であり、後藤新平も徳川光圀もそれがあったため、今も語り継がれる偉人となっているのだと考えます。ひるがえって自分はどうかであろうか。一生かけて人徳を磨いていくこと、目の前の仕事をこなすことに精一杯で、「一生をかけてこれを極めたい」という志を意識したこともありません。着想と計画を結びつける力。着想をすることはあっても計画にむすびつけるところまでいかない、計画をたてても計画通りになることは少ない。恥ずかしい限りです。今回の講義を経て、深く反省しました。しかし、しかし、久恒先生からいただいた言葉。「物事を極めるには30年が必要。まだ間に合う」非常に勇気づけられました。これから30年、いや、死ぬまで修養し、人徳を磨き、構想力も身につけて人の役に立てる人間となること。なん

なら、閉上を復興させることが人間になること。今後の歩むべき道が見えた気がします。古きに学び新しきを知る。立志人物伝の講義はまさにそのことを教えてくれます。

- ・ 今日野口英世のお話を伺う所からのスタートでしたが、英世は幼少の折に事故で左手を不自由にしました。当時の考え方からいって、母親の自責の念は想像に絶すると推測され、その感情が英世をしっかり育てようと重労働にも耐えた根底にあったと思いました。加えて、英世も田舎で困窮した生活、かつ、障害を持っているという境遇が彼の世に出たいという欲求に拍車をかけ、功を成す礎となったのだと思いました。英世は典型的な天才型で人格がやや破綻していると思いますが、研究においては正確無比な技術力を駆使して様々な結果を出していきます。高い個人の技術力に裏打ちされた論文は凡人には再現性が乏しく、一説にはこれがノーベル賞を逃した大きな理由であり、これを受けてより再現性の高い研究を行うべく現在のガーナに入った所、自ら黄熱病に罹り命を落としました。後世の研究が英世の正当性を認めますが、研究のみならず、この時代において世界に出て活躍したという事が最も功績に値するのだと思いました。水戸光圈においても、青年期の兄に対する遠慮からの反発や史記への傾倒というところは非常に感情が細やかな人物であると推察されます。ドラマ同様勧善懲悪の思想は残した書物を one sided の視点ではなく、歴史を俯瞰して捉えることに重きを置いています。この感情は青年期に不条理な扱いを見てきたからこそ身につけてしまったものであるとともにこれが徳川慶喜に受け継がれてしまったのは皮肉とすら言えます。帝に弓を弾かざる美学は恐らく儒教による所があると思います。清廉潔白な思想が維新の流れには通用していない、噛み合っていなかったというのが実情だと思いました。歴史を見るときに、俯瞰して人物のバックボーンを鑑みて理解をする事が光圈流だとするならば、これこそが未来に生きる歴史の学びであると改めて思った次第です。本日もありがとうございます。また、ディスカッションでは留学生の方々からジブリやゲーム、マンガなどのお話を聞かせて頂きました。自分の知らないことを学ぶのがとても良いと思います。
- ・ 本日は、「修養」と「構想」について学ばせて頂きました。やはり、あまり聞かなくなった言葉かもしれません。後世に名を残す人は、人一倍努力しているという事だと思います。今回の授業では、新渡戸稲造が印象に残りました。明治初期の時代に英語を駆使して国際連盟で活躍し、日本の女子教育に貢献する学校を創設するなど、当時としては時代の先端を走っていたと思います。いまでは、あたり前のことでも明治の日本では理解できなかったに違いありません。語学力という観点では、後世に国広正雄に影響を与えたことは、興味深い事です。学生時代にNHKの英会話番組で国広先生の明快な解説に感心したものです。どこかで師弟関係で繋がっているのは不思議です。「構想」では、後藤新平がその高い能力を発揮したと思われます。南満州鉄道の総裁、東京市長などスケールの大きい構想で後世にも充分役に立つ都市計画を立てています。東京駅の計画にも携わり、大きさを当時は無駄使いの大風呂敷と陰口を叩かれたようですが、現在の東京駅でも規模が小さい気がしますので、後藤新平の先見性に驚かせられました。い

つの時代にも型破りな人がいるものですが、後世に評価されることを成し遂げた人は、やはり普段のたゆまぬ努力をしている人ではないでしょうか。徳川光圀、いわゆる水戸黄門のことですが、我々の世代ではテレビの影響で黄門様が印籠をかざして、悪を懲らしめるイメージが強いです。史実では、歴史を編纂した学識高い人物であったことはあまり知られていないようです。徳川家の私的な事業として日本の歴史が完成するまで250年の歳月がかかっていたとは、驚くべきことです。日本人の勤勉さにあらためて敬意を持ちます。歴史教育は大事なことに思えます。



以下、外国人留学生。中国人、ベトナム人、イタリア人。

- ・ 野口英世は本当の偉大人物ですね。私は元々医者さんその職業を崇拜します。人の命を救うことだった。1歳時、火傷で左手を变形するが苦難を経たことは初めて聞きました。だから、野口英世の話「障害者であることは、学問においては問題にならない」。健康の私たちが、人生の困難を直面しない理由はなしわけだ。徳川光圀、歴史の人物ね。調べたらまだ困った。関する資料がめちゃ多い。今日のグループは日本人 vs 留学生 1:3、わからないことを知らせるはありがとうございます。「三人行へば、必ず我が師あり」
- ・ 今日の授業で学んだ野口英世は、千円札に肖像が載っていたので授業で見てこの人が野口英世なのだなと思いました。調べてみると黄熱病研究において主に南半球諸地域で偉大な功績を残されていて、多くの国の人たちを救っているのだということがよくわかりました。最期は研究の中で黄熱病に罹り若くして亡くなりましたが、最期まで研究を続ける姿勢は私も学ばなければならないと思いました。
- ・ 野口英世は1876年11月9日、福島県の田舎で生まれ、父はギャンブラー、家族は村で最も貧しいです。若い時に偶然にストーブに落ち、左手に大火傷を負いました。15歳になった英世は、左手の障害について書いた作文がきっかけで、クラスメイトからの募金が集まり、手術を受けて左手に少しの自由を取り戻しました。手術をしていた医者を見て、後に医者になることを決めた。英世は医師免許を取るために、恩師・小林栄からの多額の援助を受けて、試験は、発合格しました。21歳で医師免許を取得し、蛇毒の血清学的研究、梅毒スピロヘータを進行性麻痺・脊髄癱患者の脳病理組織内で発見、京都大学より医学博士の学位を、東京大学より理学博士の学位を授与されます。1913年、野口は日本に戻りましたが、日本の医学界は、野口英世のことを認めませんでした。彼は怒って、米国に戻り、決して日本に帰ってこなかった。ノーベル医学賞に3回候補に名前が挙がったが、最後は受賞していませんでした。継続的な学習と研究の態度は私が

学ぶ必要があるものと思います。

- ・ 今回は「修養」をテーマに、偉人の事を勉強した。そのなかで、安岡正篤の『人間は学び続けなければならない。学ぶことをやめたら、人間でなくなる。』という名言を凄く共感します。社会の変化への適応を疎かにしないことの大切さ、とも言えるかもしれません。しかし、学び続けられる人とそうでない人とでは格差が生まれます。社会で活動したり、社会の変化に適応したりする上で、学び続ける姿勢は必須です。学ぶことを止めた場合、過去の経験でしか判断できない結晶性知能だけを見れば過去に生きることになります。学ぶことは人の器を大きくさせ、人生を豊かにしてくれます。また、現在を生きるという視点からも学び続けることは重要な役割を果たします。比較的学习意欲が高いほうだと認識しているのですが、学び続ける人生に少し悩んだこともありましたが、この一言にハッとさせられました。学び続けることは人生の一部なんだと今では思っています。自分の未来をより良く生きていくためにも、勉強はし続けるべきです。楽しく学べるのが見つければなお良いという意見をいただきました。以上です。ありがとうございます。
- ・ 「人に勝つより自分に勝ちなさい」日本の柔道家、教育者である嘉納治五郎氏の言葉です。ひとは色々な誘惑に負けるかもしれません。欲望に勝つには敵に勝つより難しいと考えます。だからこそ、それを乗り越えた時、自身の成長があると思います。嘉納治五郎氏の人生と業績を見ると、このひとこそ、自分に勝った人だと思わざるを得ない。そして、松下幸之助を調べて、意外なことが見つけました。休日を週二日にしてくれたのは松下幸之助でした。週休二日制は、1965年に松下幸之助の号令のもと、松下電器産業（現パナソニック）が始めたそうで、他の企業が導入しはじめたのはそれから15年後の1980年ごろなのだそうです。官公庁に導入されたのはさらに12年遅れの1992年、そして公立小中学校及び高等学校の多くでは、2002年に毎週土日が休みになりました。
- ・ 本日のテーマは修養と構想です。修養とは一生をかけて、人格を磨いて行くことです。授業に出場してきた人物野口英世は1歳の時に囲炉裏に転落し、左手に大やけどを負います。障害のために農作業が上手く出来なかったことから、母に学問で身を立てるように論されました。母親の導きや本人の努力もあり、優秀な細菌学者になりました。もう一人は安岡正篤です。安岡正篤の言葉は「どんな忙人にも、寸陰というものはある」。寸陰を惜しむということです。わずかの時間を大切にすることは大事だと思います。中国の名人魯迅は「時間はスポンジの水のようで、握ってみればあるものだ」とおっしゃいました。電車での通勤時間や寝る前の時間をちゃんと利用して、日経のニュースを読んだり、単語を暗記したり、小さいことを毎日やったら大きな成功になります。一日のスケジュールを完璧に立てることを訓練します。本日はありがとうございました。
- ・ 今日の講義はまた日本の偉人について勉強しました。一番印象的になっている人は野口英世です。貧しい家族に生まれて、小さい時は左手に怪我がありました。そして、学校に友達がいじめられましたので、学校を辞めたい清作は今まで日本ではなく、世界の偉

人になっていたと思います。医学に色々な必要な研究を発見しました。また、野口英世のお母さんも偉人のお母さんだと思います。貧しい農家だけど、子育ては本当に素晴らしいでした。何でも、野口英世は教育を受けてもらって、必ず偉い人になって期待されました。野口英世のお母さんは野口さんに手で書いた手紙を見たことがあります。字が誤ったことが多かったが、野口のお母さんの心が大変理解できます。偉いなお母さん に尊敬すると思います。

- ・ 第 6 回修養と構想力の志を習いました。修養とは人が自身の心身と道徳を積極的に鍛錬していた後の良好な沈殿する精神状態であると思う。構想力とは1 物事を体系的に考え、まとめあげる能力。2 ⇒想像力である。初めて、先生から修養と構想力の講義資料を頂きました時はこの二つ分野の関係がすぐなかったと思いましたが、今日の授業を受けたら深刻な改観しました。立派な教養がない人は、高いプラットフォームの視点持たない、所謂構想力もう産まれないと考えた。今夜、日本の近現代史上載せた、高い構想力を持って、日本の政治、経済、文化、社会及び世界で人類発展に貢献した大人物達の志、物事を習って、大人物が巨大な社会貢献を与えたのは、彼らと積極的に社会を変えることに力を尽くして、衆生に貢献することを目指しているのは、このよう根本的な禅宗は善良である。野口英世先生が「頼りにならない父だけど、母の苦勞に報いたい」の感恩の念願を持って世界のおくの人命を救うことだった。私が気になってるの名言は徳川光圀の「誕生日は、最も粗末な食事でもいい。この日こそ、母を最も苦しめた日なのだから」である、これこそ中国で「百善孝为先」ことわざの表すである。彼は水戸徳川家を継ぐだが、中国の「伯夷伝」にならい次代は兄の子に継承させ兄の深い悲しみに答えた。この言葉も、情に厚い光圀の真骨頂を示している。深い文化教養を持っているからこそ、水圀は、「大日本史」を編纂の偉大な構想をつくる力がある。だから、運命を変える大人物になる前に、鍛えられた修養がなくても、構想力が出ないと、何も変えず、運命を変えて、世界を救うのか、それとも自分自身からして、知識をかけて、修為を錘鍊して、そのあと衆生を渡せると思う。

- 午前:学部授業「飛翔する構想力」。以下、客員の久米先生のレポート
【多摩大学 久恒啓一「立志人物伝」181230 事業構想 後藤新平「人を残して死ぬのは上」】
今日のテーマは事業構想。その象徴として後藤新平が取り上げられました。元ボーイスカウトで、現本所消防懇話会長の私が考えるのは、いま後藤新平が生きていて東京都知事だったら何をするか？です。オリンピックに使うお金で、どんな教育をしたらどうか？震災後を展望して、どんな大東京復興計画を創っただろうか？
おそらくは、AI・ロボット・IOT など駆使して、都庁の職員も、都内を走るクルマ(渋滞と排ガス)も 1/10 にするでしょう。そこで得られた資金で、世界から人財産を抜擢して、教育とベンチャー・NPO 振興に投資、世界で一番学びたい、起業したい、住みたい安心安全な街にすることでしょう。

■1 復興の祖 後藤新平

後藤新平「カネを残すのは下、事業を残すのは中、人を残すのは上」

<https://note.mu/hisatune/n/nb71fd67b8358>

後藤新平、先が見えすぎた自分を称して曰く「遠眼鏡、一人で持てば、罪作り」

後藤新平ボーイスカウトの総裁として曰く「人のお世話にならぬよう。人のお世話をするよう。

そして報いを求めぬよう(自治三結)」

ビスマルク曰く「一も金、二も金、三も金」

後藤新平曰く「一も人、二も人、三も人」

新渡戸稲造曰く「児玉は10分、後藤は20分、自分は2時間」(理解と仕事が速い)

→台湾統治

(総合プラン＝行政改革しつつ上下水道、道路、医学部など新設 抜擢人事 ＝新渡戸稲造など)

→南満洲鉄道総裁

(ヨーロッパと結ぶ構想。俊才を抜擢し世界基準の線路幅、駅舎、ローマ字名)

→帝都復興院→東京市長

(都市のランドデザイン＝消失面積を超える再開発。国家予算の半分を使って道路と公園を立派に。昭和通り、環状一号から八号、隅田川を川の博物館に)

▼石原元都知事の弁

後藤新平のような政治家が必要。90年を経て平成 25 年に中央環状線がようやく完成

▼猪瀬元都知事の弁

内務省など既得権力者の抵抗を超えるため、川の上はフリーなので隅田川の橋から着手。

▼奥州市 後藤新平記念館長の弁

困難にあえばあうほど力。どんなことがあってもめげない。

■2 宮城大学の事業構想を図解

多摩大学初代学長 野田一夫さんから宮城大学の事業構想を図解せよと言われて作った図(写真を参照のこと)事業アイデアと計画をつなぐ構想力の欠如が日本の問題。構想力は図解力でもある>ビジネスコミュニケーション1「図解」を受講しよう。

■3 徳川光圀の 250 年越しの事業構想。

徳川光圀「誕生日は、最も粗末な食事でもいい。この日こそ、母を最も苦しめた日だから」

18歳の時に「史記」を読んで、歴史書を創ろうと決意、没後15年で列伝が完成、維新後、明治39年に250年かけてようやく完成。

<https://note.mu/hisatune/n/nf8ed19489a6f>

■4 その他 事業構想の達人の言葉

柔道を発明した嘉納治五郎

「人に勝より、自分に勝ちなさい」

<https://note.mu/hisatune/n/ne4238f6ecf96>

パナソニック創業者 松下幸之助

「第一の経営哲学、経営理念が確立できれば、まず五十点で半分成功したのと一緒に」

<https://note.mu/hisatune/n/n933e3bf44350>

世界的な版画家 棟方志功

「わだばゴッホになる」

<https://note.mu/hisatune/n/n58af39bf2d4a>

■5 リレー講座:真壁昭夫先生「世界経済と金融市場の動向」

日本:2012年11月の底以来景気上昇中、円安で輸出企業が潤った、為替差益が大きかった。2019年はドル安で円高になるだろう。海外頼みの国内経済だ。人口減でも成長はできる。その核は...

<http://k-hisatune.hatenablog.com/entry/2018/11/29/000000>

- 14時:大学戦略会議:テーマは「地域」。
- 15時半:大学運営会議

2018年12月1日 九段でインターゼミ。。論文執筆が佳境に

インターゼミ。論文執筆が佳境に。

- 教授陣:水盛先生(戦略経営塾)。バトル先生(国際化ヴィジョン)。大場先生(英語リーディング入試)。金先生(デジタルエコノミー・アジアダイナミズム・ジェロントロジー)。
- 大学院:越田さん(国際経営、人材育成。光永さん(セカンドキャリア就業)。
- 学生:村田君(ムンク展)。長谷川君(富山県)。

学長講話

- 情報感度。意味、気づき、行動、現場。似鳥。孫正義。
- 21世紀の日本:1900年の人口4300万人。1966年1億人、2008年1.28億人。2053年1億人。2065年8800万人。2100年6000万人。100年で3倍、100年で半減。
- 世界人口:61億人、75億人。2100年に120億人。世界人口は2倍になる。
- 2045年の日本の人口=縞模様:全国16.3%減。東京のみ増加0.7%増、沖縄0.4%減。秋田県41.2%減(現在100万、4割減。高齢者は25万)。東北6県と新潟は3割以上の減。北海道25.6%の減(500万から37万へ。内札幌7.5%減で270万)。福岡県10.7%減(福岡市7.5%増、北九州市19.8%減)。宮城県22.5%減(仙台市14.7%減)。政令指定都市でプラスは福岡市、川崎市、さいたま市のみ。
- 国道16号線沿いの高齢化(戦後日本の工業化モデルの結果):10万戸の団地。都市中間層。食と農、宗教がない地域。横浜・町田・相模原・多摩・日野・武蔵村山・ふじみ・上尾・春日部・三郷・柏・白井・松戸・八千代・草加、、、。死生観なき高齢者の群れ。診療宗教士。

- 高齢化率:日本の 65 歳以上 2015 年 26.0%、2050 年 36.4%。中国 9.7%から 26.3%へ。韓国 13.0%から 35.3%へ。日本を世界が見つめている。
- モノづくり国家だけでは食の確保に疑問。デジタルエコノミーの時代(新日鉄 2 兆ドル、GAFA は各々100 兆ドル)。



2018 年 12 月 2 日 多摩大学「シルバーデモクラシー企画」——ワイナリー訪問と、やまなしフォーラム。川上善兵衛

多摩大学「シルバーデモクラシー企画」。

午前: 山梨県甲斐市のサントリーのワイナリー訪問



「サントリー登美の丘ワイナリー」の敷地は東京ドーム 32 個分。ドイツのライン川沿いと同じ風景。雨が少なく日照が多い傾斜地。1909 年から 109 年目。

ワイナリー(醸造棟)。瓶熟庫。セラー(貯蔵庫)。

ブドウに糖分を加え 10 日から 20 日発酵させるとアルコールになる。赤ワインは高温(20ー30 度)、白ワインは低温(10ー20 度)。蓋の打ち込み型は長期熟成、キャップ型は短期熟成。樽に使う樽の木はフランス製で上品で香ばしい香り。瓶熟庫は 15ー18 度 C。暗く、静寂で、ひんやり。白は半年から 1 年。赤は 3 年から 5 年。

テイastingカウンター・ショップでは、無料の赤ワインに続き、一杯 2000 円の貴腐ワインを試飲。とろける甘さ。1 本 54000 円。

このワイナリーの歴史が貼ってある。小山新助: 中央線建設に功績。1909 年(明治 41 年)に登美の丘に農園。ハインリッヒ・ハム: 28 歳で来日。鳥井信治郎: 1999 年寿屋。1907 年に赤玉ポートワインが大ヒット。

川上善兵衛: 日本のブドウワインの父。川上の口利きで鳥井治郎が廃園同様になっていた登美の丘農園を引き継ぐ。この人の名前は「日本のワイン葡萄の父」として知っていた。書斎に資料がある。1868 年(明治元年)生。時代のうねりの中で「自分は何を成し得るのだろう」と思いを巡らす。親交のあった勝海舟の私邸で海外の香りの高いワインと出会いいい、葡萄栽培とワイン醸造に目を向ける。山梨などの葡萄園を見学した後、故郷越後の上越市の実家の名園をつぶし、「岩の原葡萄園」を始める。日本の風土に合う葡萄を求めて交配実験を繰り返し、「マスカット・ベリー A」を誕生させる。雪を利用した低温発酵や温度管理も実現したが、販売は伸びず倒産の危機に瀕する。救いの手を差し伸べたのが寿屋の創業者・鳥井信治郎で共同経営者となった。川上は経営の重圧から解放されて、品種改良に情熱を注ぐ。川上は朝晩、正座してワインを飲んだ。JR 信越本線「高田駅」でおりる「川上善兵衛資料館」も訪問したい。



午後: 南アルプス市で第 3 回やまなしフォーラム。多摩大学と地域デザイン学会が主催。

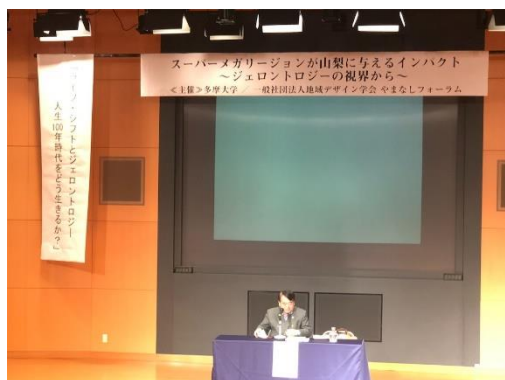


南アルプス市の金丸市長の挨拶。「ジェロントロジー。シルバーデモクラシー。第 6 次産業」。

駒澤大学の青木先生「やまなしにおけるライフシフト 人生 100 年の課題」。「東京 30 万、南アルプス市 5.7 万。東京 1 億円、甲府 2500 万。甲府品川 24 分に。

多摩大学小林先生「私立大学研究ブランディング事業としての多摩大学と南アルプス市の交流行事プログラムの成果」。「知縁」。

市教育委員会の斎藤秀樹さんの「南アルプス市における高齢者の歴史的文化的潜在力」。「高齢者の記憶の記録化プロジェクト。数百人インタビュー。宝を伝えたい。ふるさと博物館」



寺島実郎多摩大学長「スーパーメガリージョンが山梨に与えるインパクトージェロントロジーの視界から」。多摩と山梨。八王子千人同心。甲斐武田一族。つながり。読書。水上達三。石橋湛山。辻信太郎。7000 万人のスーパーメガリージョン。



パネルディスカッション「やまなしにおける交通・医療・教育・財政の課題と未来」

山梨大学の石井先生。山梨学院大の今井先生。山梨県立大の澁谷先生。大学婚ソーシアムの佐藤先生。多摩大の趙先生。駒沢大の青木先生。

石井「元気な高齢者」。今井「健康寿命日本一は山梨」。澁谷「財産管理」。佐藤「学び直し」。趙「地域ごとのローモデル。幸福度。生涯学習」。石井「セルフデザイン。山梨モデル」。今井「パラレルキャリア。国道 16 号線の受け皿」。澁谷「決済の民主化。福祉型イフインテック。構想力」。佐藤「learning by Doing. 教養としての自己表現」。趙「異なる大学の連携」。青木「旗を立てよう」。総括は、地域デザイン学会の原田理事長。「理論が未熟。運動を起こしていく。デザインとセルフ」。

(往復とも、小西先生の車。バトル先生、今泉先生、加藤先生と雑談しながら。)

2018 年 12 月 3 日 「大いなる多摩学会」理事会

- 午前:「大いなる多摩学会」の理事会。
挨拶「大いなる、の意味。センテナリアン・スーパーセンテナリアン。山梨フォーラム。新プロジェクト。社会の変化をリードする学会へ」
 - ・ 全体研究会:食とジェロントロジー。
 - ・ 研究プロジェクト:健康経営。創業支援。インバウンド。ビッグデータ
- 多摩信金の長島部長と懇談:明星大の関先生、中央大の細野先生。
- 杉田先生、趙先生と懇談

2018 年 12 月 5 日 午前は人事委員会。午後は入試改革のプレゼンを受ける。夜は吉祥寺で同僚との懇親会

- 10 時:大学:人事委員会:採用人事。
- 12 時 15 分 :久しぶりに多摩センターの京王プラザホテルのサテライトオフィス「京王ビズプラザ」を訪問
- 15 時:進研アドからのプレゼンを受ける。杉田学部長、金入試委員長。宮地事務局長、森島入試課長、酒井主任。
- 18 時半:吉祥寺のロシア&ジョージア(旧グルジア)料理のレストラン「カフェ ロシア」で、同僚の樋口先生、中村先生、石川先生との懇親会。



プーチン大統領の写真入りのカレンダーも



2018 年 12 月 6 日 ポッドキャスト新企画。昭島市役所。リレー講座「グローバルヒストリーへの展開」

- 11 時:「こえラボ」の岡田社長来訪。ポッドキャストで毎日配信している私の「名言との対話」は 3500 人が聴いている。新しい企画を相談。
- 12 時:水嶋教務課長
- 13 時:昭島市役所の方々が来訪。12 月 17 日の「昭島サミット」の打ち合わせ。私はコーディネーター役。
- 14 時:学長への報告
- 14 時 50 分:リレー講座。寺島学長「グローバルヒストリーへの展開」



1997 年から 5 年間の連載のテーマは「20 世紀とは何か」。「1900 年への旅」は 2 冊の文庫本。

2002 年からの 8 年間のテーマは「戦後日本」。「戦後に恩と問いかけとしての日米同盟」は 2010 年に単行本。

2010 年からの 10 年間のテーマは「近現代を問う」。「17 世紀オランダからの視界」は 2020 年に上下 2 巻の単行本に。立体世界認識への試み。

連載 49 回「ビッグヒストリーにおける人類史」: 宇宙史、地球史、生命史、人類史、。生命科学の急速な進化で「ヒトとは何か」。ヒトとチンパンジーの DNA は 1.06% の差。言語と意思疎通に関わる能力。生きる意味の問いかけや歴史意識。10 世代前(250 年前)から 2046 人の血、20 世代前(500 万年前)からは 209 万人の血。純粋日本人などいない。連載 50 回「グローバルヒストリーへの入口を探って」: 人類は 1 万年前に狩猟社会から定住革命(農耕)へ。人と一緒に生きる。社会、コミュニティ、我慢。5000 年前にメソポタミアでシュメール文化、人類最古のシュメール文字の誕生。

連載 51 回「アイスマンの衝撃」: 1991 年に 5300 年前の瞬間冷凍人間。157C、50k、45 歳、O 型、豊かな食生活、タトゥー(ツボ)、胆石、殺された、、、。5000 年前は日本の縄文時代。

連載 52 回「人類史における宗教の淵源」: アニミズム、フェティシズム、多神教、一神教

という進化論のエドワード・タイラー「宗教進化論」は間違い。現代にもディズニーキャラクター、環境主義などのアニミズム、神セブン・ブランドへのこだわりなどのフェティシズムは存在、多様なものに価値があるという日本の多神教など。『神は人間がつくった』では、20 万年前ホモサピエンス誕生、10 万年前に内省的な能力、省察力を身に着ける、6 万年前に出アフリカ、4 万年前に自伝的記憶能力を獲得し歴史意識を持つ。1 万年前に定住革命、7 千年前までに宗教の淵源である「神」が誕生。愛、利他愛。芥川竜之介「回心」、「さまよえる猶太人」。

「ジェロントロジー宣言」：国道 16 号線上のベッドタウン。工業生産力モデル。都市郊外型高齢化。食と農との接点がない。宗教がない。死生観がない高齢者。どう生きるか、どう死ぬか。

2018 年 12 月 7 日 大学の授業は「日本への回帰」。「京王ビズプラザ」でミーティング

- 授業：「日本への回帰」。司馬遼太郎と梅棹忠夫。
- 12 時半：ラウンジ。杉田先生、趙先生。樋口先生が加わる
- 13 時：事務局とのミーティング

2018 年 12 月 8 日 多摩大学 AL(アクティブラーニング)発表祭 2018——大学、高校が連携した高大接続AL

多摩大学 AL(アクティブラーニング)発表祭 2018。

- 田村理事長：現代の志塾。大学、附属中高とも連携し全学で AL を推進。
- 金 AL センター長：10 回目。100 件の発表。過去最高の数。高大接続。250 科目すべてに AL を導入。46 の AL プログラム。全 35 ゼミで AL。知識創造の場。
- 帝塚山大学(奈良)の松下先生：関西では AL といえば多摩大。
- 東京経済大の山本先生：2014 年からゼミ発表。多摩大に学んでいる。
- 目黒高校の谷川先生：高校 1 年生全員が参加





目黒高校の谷川先生:多摩大のゼミに高校生が参加。6 プロジェクト。アジアダイナミズム。目黒イベントプロジェクト。プログラミング体験。いちよう団地プロジェクト。起業体験プロジェクト。きく・はなす・考えるワークショップ。



昭島市オリジナル婚姻届けプロジェクト:市民課と連携。婚姻届、出生届の作成。増上寺七夕まつり、和紙キャンドルナイト 2018:41770 名(3.2 倍)。天の川 5400 枚のキャンドル(東北の子供たちのメッセージ)。藍染体験。帝塚山大学:奈良の昔の暮らしプロジェクト。多文化共生に向けた取り組み、神奈川いちよう団地から見た国際交流:3 割が外国人(ベトナム・カンボジア・ラオス)。8 つの団体がサポート。言葉の壁、教育格差、アイデンティティの維持問題。



南スーダン共和国のハンドクリーム:チャリティハンドクリーム。オーガニックハニー。フェアトレードマーク。OEM。クラウドファンディング。収支。利益率。つながりーいちよう団地、高齢者が求める自主サークル:健康クラブ。憩いの部屋。サードプ

レイス。つながりの実感。

インターゼミ多摩岳範:ジェロントロジー。アクティブシニアを活かす社会システム。フィジカル班、コミュニティ班、ワーク班、ファイナンス班。ふるさとチョイスとしてのアクティビティ提案。



閉会式:帝塚山の松下先生:堂々とした発表。

杉田学部長:学びの場。教育を研究する場。

中庭先生(総合司会):終了！



高校生、大学生、他大学生、市民、、などが集った大アクティブラーニング発表祭。アクティブラーニングは「生涯学習」の場に発展していこう

2018 年 12 月 10 日 副学長日誌

10 時 40 分:アクティブラーニングセンター運営委員会。

12 時半:学長室渡辺さん:戦略会議の相談。「地域」

2018 年 12 月 12 日 午前:人事委員会。学部運営委員会。午後:出版社

- 9 時半:人事委員会:新任教員採用人事。非常勤人事。その他。
- 10 時 40 分:学部運営委員会。13 時まで。

2018 年 12 月 13 日 午前:多摩。午後:湘南

- 午前:多摩キャンパス
打ち合わせ。書類書き、、、。
- 午後:湘南キャンパス
リレー講座のライブビューイング:良峯先生「AI と人間」。



- グローバルスタディーズ学部運営委員会に出席

2018 年 12 月 14 日 朝から夜まで:学部授業。事務局ミーティング。「名言との対話」で樋口先生との対談録画。大学院授業

- 10 時:久米先生と懇談
- 10 時 40 分:学部授業「立志人物伝」。エニアグラムと適職。パワーポイントでの図解の描き方。
- 12 時 15 分:ラウンジで杉田学部長。樋口先生、飯田先生、、、。
- 13 時:事務局との定例ミーティング
- 14 時 40 分:T-Studio で樋口先生の座右の銘を巡って「名言との対話」の録画。
- 18 時:品川キャンパス:滝川課長から大学院入試の状況を聞く。
- 18 時半:大学院授業「立志人物論」の 7 回目。本日のテーマは「日本への回帰」



以下、日本人受講生

- ・ 外国の文化等に影響は受けるが、日本の良さを認識し、日本へと戻ってくる。坂口謹一郎、三輪壽雪、隅谷正峯、山下文男、辰濃和男、加藤周一、呉清源、市川健夫、磯田一郎... 今回の講義まで名を知らぬ人たちですが、日本を見つめ、日本で地に足をつけ、それぞれの分野を極めようとした尊敬すべき人々。東芝・西田厚聰は日本で足腰を固めることを軽視したため、「平成のスター経営者」から「名門崩壊を導いた戦犯」になってしまったのだと感じました。そして、第二次世界大戦時の日本への失望から、日露戦争までの良き日本を題材に数々の名作を執筆した司馬遼太郎。世界を探検して歩き、読みやすいひらがなでオリジナルを書くことにこだわった梅棹忠夫。海外へ旅に出ることで、日本の奥深さを再認識し、日本の風景画を生涯にわたって描きつづけた東山魁夷。徹底したフィールドワークで日本全国を歩き、日本人の文化的アイデンティティの拠り所を再確認した柳田國男。皆、日本のすばらしさを認識し、心身とも日本に回帰して、それぞれの分野で日本を表現した偉人です。ひるがえって自分はどうであろうか。海外へは数える程しかいったことはありませんが、海外へ行くと日本の良さを身に染みて感じます。外国の空気や食べ物に違和感があり、ホーム＆アウェイではアウェイが不利、ということを感じます。日本人であれば日本に回帰するのは自然なことであるとも感じます。40歳にして小さな人間である、と自己嫌悪に陥ることもあります。東山魁夷は遅くして世に出た。柳田國男が本格的に学問を始めたのは44歳。40歳の自分であっても、まだまだ可能性はある、落ちこむ必要はないと、未来に希望を抱くことができました。年内の講義は本日で最後。立志人物伝で学んだことを活用し、来年は飛躍の年にすることをここで誓います。
- ・ 今回の授業テーマは「日本への回帰」です。古くは中国から、明治維新後は欧米の文化に遅れないように新しい文化をいち早く取り入れてきました。一方的になり過ぎると、逆の方向にゆり戻しがあるのは必然のようです。講義の前半は、日本人にとっても馴染みのない人物でした。坂口謹一郎、酒の博士と歌人という組み合わせで、しかも高齢になってから取り組んだということでなんとユニークな人です。酒を嗜む者として神田の和泉屋には是非行ってみたいものです。三輪壽雪、陶芸家も今まで聞いたこともありませんでした。30年の修行期間を経て45歳からの活動は遅いと思いますが、100歳を超え

る人生では十分に時間があつたと思います。隅谷正峯、日本刀の大御所ということで初めての名前でした。人間国宝なので、すごいというほかありません。山下文男、日本の津波災害史研究家だそうですが、まったく知りませんでした。次に辰濃和男、朝日新聞の天声人語のコラムニスト、何処で聞いたような名前ですが、文章には定評があるようです。さらに、加藤周一、平凡社の百貨辞典の編集者ということでこちらも未知の人でした。呉清源、ようやく知った名前がでてきました。囲碁はヘボですが、少しは嗜むので呉清源は知っています。私の年齢では門下の林海峰が有名です。たしか、藤沢秀行が強かったです。市川健夫、稀代のフィールドワーカーですが、残念ながら名前を知りません。磯田一郎、元住友銀行頭取ですが、偉業というよりイトマン事件のほうが有名です。当時は許永中の報道でマスコミを賑わせていました。西田厚聡、元東芝社長、イランビジネスや原子力で WH 社買収の失敗など負の面で名前が出て来たのは残念です。ここから、授業の後半ですが、やっと日本人なら誰でも知っている司馬遼太郎、梅棹忠夫、東山魁夷、柳田國男が題材で出てきました。ここでは、司馬遼太郎のことを考えておきます。あの悲惨な戦争をなぜしなければならなかったのか、良識ある日本のトップがいなかったのか、司馬遼太郎は歴史の真実を小説を通して伝えたかったに違いありません。今、考えてみれば誰でもわかることをあの時代では見過ごしてしまったのです。一部の人の良識の欠如により思い込みと過信で間違った方向に動いてしまったこと、そして「もっとちゃんと考えな あかんで」、ほんとうに深い意味のある言葉です。何事も真摯に取り組むこと大事です。心に深く浸透してくるような気がします。もう一度、司馬遼太郎の作品を読み返してみる価値はありそうです。

- ・ 日本はその時代時代の先進国から柔軟に学び、一見すると自分がないようだが、外国に学ぶとその後また日本に回帰するというサイクルを持っている。日本回帰の文脈で、司馬遼太郎、梅棹忠夫、東山魁夷、柳田國男の 4 名の人物をご紹介頂いた。知名度の高い方々だが、あまり知識がなく、どの方についてもわたしには新鮮なお話だった。その中で、司馬遼太郎の空海の風景の紹介があった。私は空海が好きなので今日は紹介頂いた人物から離れてしまうが、日本回帰の文脈で空海について書く。空海は日本に密教を持ち込んだ真言宗の開祖として知られている。奈良から平安に遷都があった平安時代に活躍した。単なる宗教家ではなく、農業用水のための溜池の難工事を成功させたり、弘法にも筆の誤りと今にも残る諺があるように書の達人だったり、マルチな才能を持った天才だ。中国に留学し、当時最先端の密教を日本に持ち帰るが、単に持ち帰るだけでなく、密教の正当な伝承者と認められたという事実からも天才ぶりが伺える。海外から持ち込んだものを柔軟に日本の文化に取り込み日本化するという意味で、理想の日本流モデルを示している人物であり、空海は日本回帰というテーマにふさわしい。司馬遼太郎が残した歴史小説で扱ったテーマでもっとも古い時代の人物が空海だということは知らなかったが、司馬遼太郎にとって日本の歴史を空海から描くことに意味があったのではないかと感じられた。ご紹介頂いた 4 名の方は、それぞれ深く知りたい魅力的

な人物で、今後、著書を読んだり、鑑賞したり、時間をかけて消化していきたい人物ばかりだった。

- ・ 日本への回帰が今回のテーマでした。司馬遼太郎からは、今回のテーマ通り、日本回帰の想いを強く感じることができました。やはり、日本人の心の中には司馬遼太郎の世界観が色濃く残っているのだなと思いました。司馬遼太郎の作品は、「龍馬がゆく」、「坂の上の雲」の2作品を読みました。特に私の中で印象深い作品は、「坂の上の雲」です。この作品は映像化(本木雅弘、阿部寛の主演)もされているため、小説を読む時間がない方にはオススメです。明治時代からの勃興を描く本作品は、連合艦隊参謀として日本海海戦の勝利に貢献する秋山真之と、その兄で日本騎兵の父となる秋山好古の2人、秋山兄弟に焦点を当てた作品です。強国ロシアとの戦力差を冷静に分析するその謙虚さ及びその勤勉さは、今の時代でも当然必要な姿勢だと思います。文中でも、当時の人の勤勉さ、猛烈な勉強風景について、いくつか描写がありました。国を背負って立つ使命感と覚悟の表れをひしひしと感じました。私もいつかこの人物たちのような気概を持って仕事をしたいです。そして、もう一人講義の中で印象に残った人物がいます。市川建夫です。人文地理学者とありますが、初めて耳にする人物でした。ただ、この方の徹底したフィールドワークに対する姿勢はとても参考になりました。文字になっていない事実を発見し、それを文字にすることに生涯をかけたとあります。それを実行するためのフィールドワーク。だからこそ、フィールドワークに裏打ちされた理論は強い。素直に納得がいきます。この考え方を仕事にも当てはめ実践していきたいと感じました。

以下、留学生

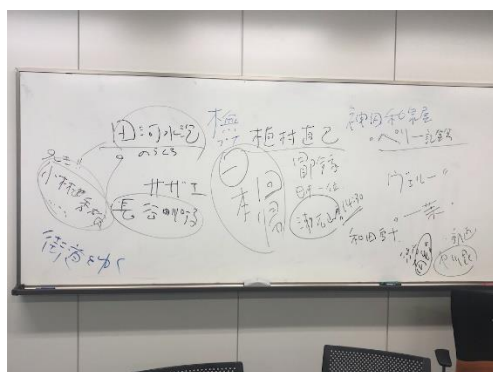
- ・ 今日日本への回帰がテーマで、偉人を紹介いただきました。授業で 東山魁夷の絵を見て、なかの凜とした空気感が、まるでその事実を伝えるようです。東山魁夷が中国でも有名で、「黄山曉雲」という絵で千変万化する山の姿を鮮やかに描き出した。黄山を「充実した無の世界」と表現しました。それに、彼のエッセイ「一枚の葉」は、2002年北京大學入学試験のテキストだったそうです。短いから、そのエッセイをみて見ました。東山魁夷は人間の生命を葉と関連付けて、「無常と流転」と「自分の人生を大切に、他人の人生も大切にする」という価値観を伝えました。とても感動しました。司馬遼太郎は日本の方だれでも知っているくらい有名ですが、まだ彼の本を読むことはなかった。一冊でも読んで見たいです。
- ・ 人物、司馬遼太郎、本名は福田定一。日本を代表する有名な小説家です。戦国や幕末といった時代を背景とした歴史小説が圧倒的に多い、『龍馬がゆく』、『坂の上の雲』『関ヶ原』などの代表作があります。司馬遼太郎は歴史研究家ではなく、小説家なので、作品の内容全てが史実と完全に一致している訳ではないです。事実を考えながら小説を読むことも勉強の一つです。日本人の考え方と、日本の歴史をもっと了解するために、『坂の上の雲』を読んでみたいです。もう一つは図解の考え方です。文章を図で考えると、内容とは図解です。修士論文を書く時に、まずは図解で筋を出して、内容も書きやすくな

っていきます。自分の人生を図で分析すると、自分の長所、短所、趣味、志向が見つかって、将来の就職などにも役立てると思います。非常に勉強になりました。ありがとうございました。

- ・ 今回は「日本への回帰」をテーマにして、諸偉人の事を勉強しました。これまで「和魂漢才」と「和魂洋才」で生きてきた日本人。グローバル化が急速に進む中で、日本人はあらためて「日本文明とは何か」「日本人とは何か」を問われています。これからの時代を生き抜くために、日本人に求められる教養とは何か、日本人の教養を探求します。今回のテーマは、外国人の私に対して、凄く理解し難いです。「日本の良いところ・悪いところは何ですか？」と聞かれてどのくらいの日本人がはっきり答えられるのでしょうか？テレビなどの街頭インタビューで訪日外国人が同じような質問を受けた時、次々に出てくるコメントを聞いて「なるほど！！」と思ったことが一度はあると思います。『グローバル職人になろう！』（山根英樹著）という書から、日本に在住する外国人が挙げる「日本(または日本人)の強み・弱み」についてまとめてみました。◆日本の強み・食事がおいしい。・完璧を追及するところ。・何事も常に相手にとって何が喜ばれるか考えて行動するおもてなしの勢。・仕事に対し一生懸命に取り組むこと。・日本製品の質の良さ。・災害などの大きな問題を乗り越えていけること。・環境適応能力があること。・治安が良い。・計画に基づく確実な実行力と継続力。◆日本の弱み・説明する時に回りくどい言い方をする時があるなど複雑にしてしまうこと。・閉鎖的なところがあること。・英語が苦手なところ。・融通が利かないところ。・はっきりと言ってくれない。・会話を中断することに遠慮しているのか、わからなくても流れのまま頷いてしまう。・誰もに完璧を求める傾向。できて当たり前という考え方。・ひとつのことに時間をかけすぎる。・伝統的なものが失われつつあること。他国からの視点による外国の人々からの指摘を参考にすると日本の特色を認識することができます。強みはさらに伸ばし、弱みは改善することでできればより魅力的な日本になると思います。日本の強みの1つとして「豊かなアイデア」を加えたいと思います。文具や生活グッズの種類の豊富さはどこにも負けないのではないのでしょうか。日本人はゼロから製品を生み出すというより、既存のものにアイデアを加えて改良することが得意だといわれています。これは日本の強みや弱みが混じり合った結果といえるかもしれません。日本は欧米のような他人と同じことを避ける文化ではないのでゼロからの大胆な発明はあまりしないけれども、完璧を求めたり、目新しいもの、より便利で良いものを求める結果、多くのアイデア商品が生み出されるのだと思うのです。
- ・ 強く印象に残った人物は司馬遼太郎です。学校が嫌いで、図書館と本屋さえあれば人間はそれでいいと考えていた司馬遼太郎は、中国人と朝鮮人が好きでした。好きになった理由は、「彼らは非常に人間というものを感じさせた」からでした。そして、司馬遼太郎にとって、中国と戦争をしている日本が嫌いであるという感じになりました。しかし、それは実際は日本も大好きという感情の裏返しだと言われました。敗戦で日本史に対して感心をもって、小説執筆するようになりました。司馬遼太郎の日本の歴史小説が与えた影

響は大きいとされています。今日の講義で司馬遼太郎の作品は「空海の風景」を知っていたので、ぜひ読んでみたいと思います。

今回は 2018 年の最後の授業。久恒先生の志の講座で楽しく勉強します、時間は速くて、秋学期は間もなく終わって、志の第 1 回講座に参加する前、志の深い意味を理解できなかった。ただ先生の講座を追求しただけだ、7 回目の日本復帰テーマの誌講座が終わった後で、人生といい、企業にしても、きっと不可欠なものだと分かった。志、信念、簡単に例を挙げば、一人で歩いて行って、肉体の組織、食糧を食べて行動することができて、最もは精神意志、所謂元気こそ。昨日、私は倒産するけちな親戚と話しました。彼は成功したし、他の人には及ばない資源を持っていました。しかし、本当の信仰に欠けているのです。ただなんてもうお金だけ考えた。結局失敗しました。あの頑固な独りよがりの企業家は、一日ぶりに私に言って、確かに失敗したのは、自分の人生の信仰に欠けている。7 回の異なった緯度志の講座の学習によって、日本の歴史や、日本の経済的な政治の歴史を大前進させた大人物と彼らが他人を守って、日本を守ってる精神に感動しました。だから、日本が戦後数十年で急速に強国になる理由は、これらの先駆者の志と日本を守っている情熱ことが分かりました。それは世界で外国人皆様が解ける答えこそ。先生、ご講座ありがとうございました。図解の方法教えて頂きまして、思想力を高まれて、残ったほかの授業に発表する時非常に高い役だ。就職起業および人生の道もう明らかに考えられる。志の授業を受けて、これから自分の思想、行動、欲望、目的、などの keyword と会って時もう迷わない。



2018 年 12 月 15 日 大学院教授会。インターゼミ最終発表会

- 品川:大学院教授会
- 九段:インターゼミ(社会工学研究会)の最終発表会



以下、学長コメントから。

- ・ サービス・エンタメ班：2000 年頃、百貨店からショッピングモールへ。時間消費、車社会、、、。多摩には国際ブランドの観光地があるか、サンリオ、アニメ、、、。
- ・ AI 班：ポテンシャル。障害者・高齢者の補完。血液分析、100 人の専門医のノウハウ、15 分。「ホモ・デウス」のいう無用者階級。人間中心主義への疑問。人間は何をやるのか。
- ・ 地域班：定住と交流。関係人口を増やしていく。物語が要る、定期・安定・成功体験、受け皿、システム。社会的投資研究所でソーシャルキャピタルファンド、、、。
- ・ 多摩学班：リバースモーゲッジにもリスク。「無子・高齢化」。団塊ジュニアには子供は生まれなかった、貧困化、未来への不安。40 代の高齢化が問題、資産形成なし。都市郊外型高齢化が問題。異様な個人主義、私生活主義、社会に無関心、無宗教、団塊世代、

工業社会の人、、

- ・ アジア・ダイナミズム班:モンゴルという目線から世界史を見る。広い視角。長期、広域、非ヨーロッパ。聖と俗。宗教を許容、多様性。紙幣の発明(フビライ)、権力と権威。ソ連の弾圧、ソ連崩壊で日本に接近(相撲、、)、中露に接近中。

2018 年 12 月 17 日 昭島市まちづくり企業サミットでコーディネーター役

昭島市まちづくり企業サミットでコーディネーターをつとめた。

国連アジア極東犯罪防止研究所の国際会議場 A。

- 臼井市長。木崎市議会議長。昭島観光まちづくり協会。国連アジア極東犯罪防止研修所。
- パネリスト:昭島市商工会。公益財団法人アジア刑政財団。(株)IHI。(株)エコス。昭和飛行機(株)。(株)タチエス。東京グリコ乳業(株)。日本航空電子工業(株)。日本電子(株)。フォスター電機(株)。フランスベッド(株)。HOYA(株)。
- 第一部「企業が目指す姿と昭島市のまちづくり」ー官民が連携する昭島市のまちづくり。
- 第二部:意見交換「今後の市や地域社会の関わり。地域防災力。職員の人事交流」



- 私のコメント。官民が連携したまちづくり
 - ・ 勝海舟「内でケンカをしているからわからないのだ。一つ外から見てごらんネ。直にわかるよ」
 - ・ 西本幸雄「いわしも大群となると力が出る。みんなが心底から力を合わせることによって、何かが可能になるんや」
 - ・ 川上哲治「中途半端だと愚痴がでる。いい加減だと言い訳がでる・真剣にやれば知恵がでる」

まとめの私のコメント。

- ・ 後藤慶太「ものごとは大きく考えること。おじけづいては成功しない」
- ・ 井上靖「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」
- ・ 佐藤栄作「問題は何といっても一つ一つ対策を立てて実効あらしめること、議論ではない」
- ・ ゲーテ「仲間が仕事をつくるのではない。仕事仲間をつくる」

- ・ 出光佐三「愚痴をやめよ。ただちに建設にかかれ」



- 国連アジア刑政財団会長の堺屋太一会長
 - ・ 明治は強い日本。戦後は豊かな日本。新しい日本は楽しい日本。多様性、意外性。
 - ・ 2025 年の大阪万博。プロジェクトを建てよ。昭和の森にパビリオン



- 昭和館での懇親会



- ・ 堺屋太一先生とは JAL 広報部時代に韓国ソウルでの文化講演会で一緒に以来。

- ・ 私の締めめの挨拶「昭島は多摩の一部。多摩とは多摩川流域と相模川流域の挟まれた地域。昭島は多摩大の領土。5年前の官・学・金、から本日で産と民（議会）が加わった。大いなる多摩へ！」

2018 年 12 月 19 日 副学長日誌

- センター入試説明会
- 学部運営委員会
- 教授会

2018 年 12 月 20 日 野田先生を囲む若い人の会

- 午前：大学で事務処理
- 午後：九段の文庫で企業幹部と学長を訪問
トランプ政権の内情。ビッグダディメンタリティ。ロシア疑惑。訴追。上院議員。空気が変わった。キーマンが不明。ケネディ大使がボーイングの役員。変数が多い。異次元高齢化。退職者ソサイアティ AERP。dispute aging ジェロントロジー研究。DNA。、、
- 夜：野田先生を囲む会。多摩大、宮城大、知研を中心とした若い人の会。柳名誉教授、日経の中沢編集委員も。
高橋茂人さんの名インタビューで創業型経営者の人物論がよかった。「ドラッカー。松下幸之助。本田宗一郎。城山三郎。堤清二。小林陽太郎。大前研一。孫正義。南部。沢田。堀、、」。最後の挨拶は私が指名されたので、「志」をテーマに話をする。鬼塚喜八郎、浪越徳治郎、村上信夫、塚本幸一、笹崎龍雄、、、、。



2018 年 12 月 21 日 多摩：授業。九段：戦略会議・運営会議。

- 久米先生
- 立志人物伝の 13 回目の授業。以下、久米先生の実況中継。

【#多摩大学 久恒 啓一先生 #立志人物伝 181221

自惚れろ>青島幸夫、孫正義、ジョブス、ドラッカー】

今日の講義は「自惚れる」才能に恵まれたイノベーターたちの名言。経営者の中でおなじみでないのは、元都知事の青島幸夫さんだと思います。しかしよくよく鑑みると...【1960 年当時、「僕は、運転免許を取って、美容師の免許を取って、映画も撮って、主演もし、作詞作曲をして、直木賞を取り、国会議員になる」と豪語して、植木等からも正気を疑われる。しかし、8 年後までにすべて実現することになった。】というのはスゴイこと！言葉もいちいち納得です。

▼青島幸夫

「才能はみんな同じなのに、やらないだけです。気力の問題ですね。ボクは才能は傑出してないが、ウヌボレだけは人一倍です」

「面白がってやっているヤツと、苦労してやっているヤツと、どっちが勝つか。やっぱりさ、面白がってやっているヤツにはかなわないんだよ。」

「オレはね、何か選択するときは厳しい方を選ぶ。だって、そっちの方が面白そうなのが待ってそうもん。」

久恒先生の青島幸夫さんへのコメントは...

石原慎太郎から才人と言われた青島幸夫は、人からは「ほら吹き」と呼ばれ、自身は「ウヌボレ」を自覚しながら、そういう自分を面白がって明日に向かって邁進したのだ。ウヌボレほど大事なものはない。

>>>詳しくは

<https://note.mu/hisatune/n/n358547ca4d75>

他にも、自惚れる才能に恵まれたイノベーターたちの名言

▼スティーブ・ジョブス

「我々は宇宙に衝撃を与えるためにここにいる」

<https://note.mu/hisatune/n/n8cc12dc84feb>

▼孫正義

「最初にあったのは夢と、そして根拠のない自信だけ。そこからすべてがはじまった。」

<http://k-hisatune.hatenablog.com/entry/20140723>

▼ピーター・ドラッカー

「未来を予知しようとすることは、夜中に田舎道をライトもつけずに走りながら、後ろの窓から外を見るようなものである。一番確実な未来予知の方法は、未来自体を作り出してしまふことである。」

<https://note.mu/hisatune/n/n330fcfccdf84>

▼アンドリュー・カーネギー

「職業はなんでもいい、ただ第一人者たるを心がけよ」

- 大学戦略会議:「研究」
- 大学運営会議:人事。

2018 年 12 月 22 日 インターゼミ年内最終回

九段: インターゼミの年内最終回。

- 久保田先生: イタリアのピサでの学会報告。
- 水盛先生: サンリオピューロランド物語。中国の仏系男子(日本の草食系男子)。モンゴルのクリルタイ、。。
- 山口なつみ: マイアミ出張報告。藤沢と姉妹都市。東洋のマイアミ。
- 学長講話。
- ユニクロの柳井さんとの対談。時価総額 8 位。2 兆円。海外が半分強。企画・製造・販売の一気通貫。
- 本「ラストベルトに住む」「神童は大人になってどうなったのか」「無子高齢化」
- 「ホモ・デウス」。流動性知能(記憶力)。結晶性知能(問題解決力)。唯識性知能(美学。計算・打算のないほれほれするような男。本気でついていきたい魅力)。団塊ジュニアは子供をつくらなかった、つくれなかった。資産なし、子供なし。
- 「脳力のレッスン」201。「世界宗教の誕生とその同時性」。
- 2019 年はどうなるか。いよいよ経済的に息詰まる。世界経済は変調。アベノミクスの幻想がふっとぶ。忖度官僚と手段を失った中央銀行がリセッションを迎える。愚かな国。奈落。主体性を。



2019 年 1 月 7 日 仕事始め

- 研究室: 近藤秘書とスケジュール調整。明日以降の日程の仕掛け。出版関係。
- ラウンジ: 杉田・金・趙先生と近況交換。
- 役員室: 学長の年頭方針(始まる前に挨拶。激励を受ける)

平成と並走した 30 年。創立時「IT×グローバル化」。寺島「アジアダイナミズムと地域密着」。現在 OB は学部 8043 人・大学院 805 人計 8848 人。知の再武装。三層構造の知の再武装が必要。18 歳若者(団塊の半分・3 分の一へ)。40-50 代(バブル崩壊。社会状況の変化。人生 100 年時代)。60 歳代(定年後 40 年。80 歳でも 7 割は健常者。ブラッシュアップ)。こういった状況をカバーする大学へ。一層「今、ここ、私」、常温社会、不満なし不安あり、成功モデルが不明、結晶性知能(課題解決力)、学生と教員の質の相関、多様性、質に踏みこむ。二層: OB の DB。ネットワーク化。知の再武装の受け皿。社会人教育のプラットフォーム。社会人大学院。大学院「社会的投資研究所(ソーシャルキャピタル、インベストメント、金融ジェロントロジー、認知症・休眠資金の活用)、ルール形成戦略研究所(スポーツも)の存在。社会科学をやっているとい緊張感。30 年の実績に自信をもって、進化、実体化させていく。それが結束力へ、志を誘発する。

2019 年 1 月 8 日 早朝ヨガ。書類作成。湘南キャンパス。

湘南キャンパス

- 学部長と懇談
- 学部運営会議にオブザーバー参加
- 高橋先生

2019 年 1 月 9 日 多摩。赤坂

午前: 大学

- 事務処理
- 酒井さん
- 学科長会議: 小林先生、趙先生。

午後: 都心

- 赤坂の野田一夫事務所: 近況報告。
- 信濃町: 千疋屋で橘川先生と待ち合わせ。近況交換。新書。寄付。2025 年万博へ。

2019 年 1 月 10 日 副学長日誌

- 10 時:水谷 IR 室長:分析と提言
- 14 時:長島部長:相談。
- 14 時 50 分:秋学期リレー講座最終回:寺島学長。

累計受講者 14.1 万人。皆勤賞は 106 名(多摩 87、湘南 10、九段 9)



- ・ すべては時代認識。経営も個人も。情報感受性。
- ・ 2019 年「経済の変調とリスクの顕在化」(ロンドンエコノミスト)。世界経済は 3%台前半に減速。欧州減速(伊・仏・独・英国)。株価乱高下。トランプ当選からの根拠なき熱狂から 24%ダウン。FRB は長期金利を確実に上げてきた。日本は 1%台と低迷。時価総額でパナ・東芝・日立の合 10 兆円未満、アップル 100 兆円の 10 分の 1。IT7 社(米中)。蛙飛び経済・夢に金がつく時代・データリズム。
- ・ 日本経済:勤労者可処分所得はピークの 1997 年 49.7 万円、2018 年は 42.4 万円(1997 年以降最低は 2011 年の 42.0 万円)。月 7.4 万円減・年間 88.8 万円。中間層の没落。家計消費支出(全国全世帯)は 2000 年から 2018 年対比で月 335821 円減、年 40.3 万減少。衣料は 37.7%減少。増加は通信・諸雑費・自動車関連、、。減少はこづかい・交際費で計 2 万 2 千円減(月)・年 24 万円の減。仕送り金・教養・書籍なども減少。日本人は学ばなくなった、学ばなくなった。内向・内向きの保守化。自画自賛番組の横行。海外渡航はずっと 1700 万人台、人数は 600 万人か。高齢者と若い女性中心で近場。壮年者は出張のみ。
- ・ 20 世紀の日本。人口 4300 万人から 2008 年に 1.28 億人と 3 倍。21 世紀は 2050 年 1 億人、世紀末 6000 万人で半減する。世界人口は 2 倍になる。国道 16 号線沿いの団地。食と農との関わり。魂の基軸としての宗教がない。(データから:教育支出は軒並み減少:仕送り金・教養・娯楽用耐久財・書籍・授業料・教養娯楽サービス・教養娯楽用品・補習教育・教科書・学習参考教材)。一人当たり GDP(2018 年予):シンガ 6.1。香港 4.8。日本 4.0、2013 水準世界 25 位。韓国 3.2。台湾 2.6。中国 1.0。タイ 0.7。世界 GDP シェア:1820 年日本 3%、1988 年 16%、2018 年 6%。世界人口:2000 年 61 億・2008 年 68 億・2018 年 76 億・2050 年 98 億・2100 年 112 億。

2019 年 1 月 11 日 大学院「立志人物論」のフィールドワークは「漱石山房記念館」見学。このメンバーでの人物記念館訪問を続けることになった

参加院生は 13 名。地下鉄早稲田駅から徒歩 10 分。新宿区立漱石山房記念館。

夏目漱石像と記念撮影。



以下、日本人院生の感想から

- 最終講義ありがとうございました。本日の漱石山房記念館楽しく見学させていただきました。漱石の人生とその作品またかわった明治の作家たちの関係が特に興味を引きました。漱石の小説で書かれているフレーズがありましたが、特に掴みの部分がうまく、自然に吸い込まれていきます。“吾輩は猫である、名前はまだない、どこで生れたかほとんど見当がつかぬ。”とか“おやゆずりの無鉄砲むてっぼうで小供の時から損ばかりしている。小学校に居る時分学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰こしを抜ぬかした事がある。なぜそんな無闇むやみをしたと聞く人があるかも知れぬ。別段深い理由でもない。”とかついつい引き込まれていくフレーズが秀逸である。本日発見して気に入ったフレーズは虞美人草の“真面目とはね、君、真剣勝負の意味だよ。… やっつけなくっちゃいこうやられない意味だよ。人間全体が活動する意味だよ。”これは静かであるが真剣勝負をいつもやっているという熱い想いを持つことの大切さが伝わってきた。一方漱石の創作活動がたった 11 年しかなかったことには驚いた。短い期間でたくさんの作品を仕上げたその創作力にはすごいものがある。また弟子たちにも恵まれて没後も漱石をほめたたえることで伝説化していったのであろう。明治時代の文学には活き活きとした躍動感とロマンを感じる。記念館を訪問すると作家の人生とその時代の作品の関係が良く分かるので 3 次元的に理解できて楽しい。時代によって作品の傾向が変わってきたり世相を反映したり、作家の別の側面が理解できる。講座終了後も記念館の訪問や皆さんとの交流を続けたいと思いますので引き続きよろしくお願いします。
- 本日、立志人物論の第 8 講、最後の講義として 漱石山房を訪問させて頂きました。新宿、早稲田界隈の閑静な住宅街の中にあり、瀟洒な佇まいの建物でなんとなく趣きのある記念館でした。夏目漱石といえば日本人では誰でも知っている有名な明治の文豪ですが、遅咲きの

作家で教師を辞めたあと、38歳でデビューして、実質の作家活動は約9年間と短いのですが、心に残る作品を残しています。高浜虚子と俳壇、歌壇での親交の後に、正岡子規のすすめで、「我輩は猫である」を明治38年に発表してその名声を博しました。短い期間に作家としての創作活動に尽力するとともに、弟子の育成にも務めていました。漱石の門下生は、木曜会を発足させ、漱石山脈を幅広く作っています。自身は、側転居士と称して漱石山房の館で後人の育成に力を尽くしています。芥川龍之介など、多くの有名作家を輩出しています。また、弟子にも数々の教を残しています。比喩的には難しい言葉ですが、「牛のように図々しく進む」という言葉は泥臭いですが、的をえているような気がします。人としての教訓を授けています。娘婿だった松岡譲(義理の息子)が、漱石の書籍の管理をしていたようですが、戦争の影響でそのほとんどを消失してしまったようです。弟子の小宮豊隆が東北大学に漱石の書籍を退避させ、貴重な資料が残されていることは、大変有意義なことです。夏目漱石、その生涯で、創作活動11年を通じて、未だに読み続けられている名作、「坊ちゃん」は私の心の中で正義感の強い教師が思い起こされます。夏目漱石、生誕150年を迎えて未だに幅広いファンを持つ、偉大さに感激させられます。そして、49歳の若さで病死してしまいましたが、なんと残念なことです。繰り返しになりますが、弟子への教として、「牛は超然として押して行くのです。人を押すのです。けっして文士を押すのではない。」心に響くいい教です。愚直に日々努力することを説いています。そして、多くの弟子たちが、夏目漱石を支えています。今回が、最終講義となってしまいましたが、「立志人物論」の講義は大変楽しく、歴史上の人物、偉人を再発見させてもらったことは、私自身にとって大変有意義なものでした。

- フィールドワークの所感をアップします。今日は早稲田の夏目漱石の記念館、漱石山房を訪問しました。漱石山房は2年程前にできた新しい記念館です。元々漱石が住んでいた場所ですが、戦争で焼失しその後は都営住宅になっていたため、記念館を作ることができず都営住宅の周囲のわずかな場所を漱石公園としていたそうです。都営住宅の老朽化建替えと漱石生誕120年のタイミングが重なり、2017年に新宿区が満を持して記念館にしました。新宿区としては相当の力の入れようで、当時の漱石山房内の書斎を精緻に再現し、cafeと図書館まで併設されていました。施設に入ると料金を支払う手前にカフェスペースがあり、無料でVTRと展示の一部を見ることができる作りになっている点も工夫されているなと思いました。早稲田と神楽坂の中間にある立地と相まって、館内に入らずとも楽しめ、一度行った人でも近くに立ち寄ったら休憩がてら度々訪れたい場所になっています。800館を超す記念館を訪問した久恒先生によれば、記念館として最上位レベルの施設とのことでした。今回は、ボランティアスタッフと思われるガイドの方(男性・おそらく60代)が文章で書いてある以上に詳しい話をご紹介くださいましたので、それも素晴らしかったです。続いて内容に関する所感です。夏目漱石といえば日本人で知らぬ人はいない超有名人ですが、恥ずかしながら教科書で読む以外ではほとんど調べたことがなかったので、今回の機会に記念館内をかなり細かくみてきました。漱石は1867年大政奉還の年に生まれ、1916年に49歳で亡くなっています。作家として有名ですが、作家として活動したのは38歳からの11年だけで、38歳までは教育の世界に

いました。教育者としての経験があるからか、作家として活動する中でも、漱石を慕う弟子が多くいて、弟子たちが非常に活躍したことがいまの漱石の名声に繋がっているという面もあるようです。弟子たちとは毎週木曜日の午後に集まる木曜会という場をもっていました。その木曜会を開いていたのが漱石山房です。記念館のメイン展示のメインが入ってすぐ1階にあり、漱石の書斎とその隣の木曜会を行っていた部屋も再現されています。漱石の書斎にある家具や蔵書も再現されていました。文章を書いていたデスクは非常に小ぶりで高さも低く驚きました。漱石は身長が158cmだったそうです。デスクの小ささのわりに部屋のサイズは比較的大きい印象がありました。板張りの床にかなり高い天井のモダンなスタイルの部屋でした。(注 天井の高さも再現してあるのだと思いますが明確に確認したわけではありません。)

部屋の中だけでなく窓やベランダ、屋根まで再現されていて 100 年前に生きた明治の知識人の暮らしが浮かび上がってくるような空間でした。2階には漱石の残した作品の言葉を抜粋した展示、作品群を時代ごとに分けて紹介した展示、そして縁のある人々に関する展示があります。作品の言葉の展示から私は以下の3つを抜粋しました。「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい」(草枕)「百年待っていて下さい」「百年、私の墓の傍に坐って待っていて下さい。きっと逢いに来ますから」(夢十夜)「自分に誠実でないものは 決して他人に誠実であり得ない」(行人)どの言葉からも、いつまでも色あせない、日本語の美しさを感じます。人間関係では、師・友/ライバル・後輩・家族を知りたいと思い見てみました。展示では友や後輩が多く、正岡子規、尾崎紅葉、芥川龍之介、寺田寅彦、魯迅など数多くの著名人の名前が挙がっていました。正岡子規とは第一高等中学で出会った同窓だったとのこと。歴史に名を刻む著名人が若いときに会うという話はこの二人に限らず多いので、お互い刺激しあい高めあう関係の友/ライバルというものが如何に価値あるものかということがよくわかります。師として、ロシアの哲学者であり音楽家だったケーベルの名前が挙がっていました。幼少期は夏目家から養子に出されるなど苦勞の多い家族関係があったようですが、1895年に愛媛の中学に赴任したところに結婚したのは、妻鏡子との間に二男五女の子をもうけて幸せな家族を築いたようです。かの有名な「吾輩は猫である」の猫(福猫)をはじめ、猫・犬・鳥など生き物も多く飼う家族だったということ、人が多く訪ねてくるということと合わせて、温かく賑やかな家庭だったのだらうと想像しました。二時半から四時ころまでたっぷり見学して、最期は併設されたカフェで空也最中セット(ほうじ茶)を頂き、一〇〇年の時を超える穏かな金曜日の午後のひと時を過ごさせて頂きました。終了後の懇親会では、先生と日本人5名(おじさん)留学生5名(おじょうさん)合計11名が参加し、漱石の話を交えつつ、異文化交流を大いに満喫させて頂きました。ご一緒させていただいたみなさま、楽しいひと時を共にできたことに感謝いたします。ありがとうございました。最後に、授業を講義頂いた久恒先生と同授業を共に参加した諸兄にお礼を申し上げます。

- 最終講義ありがとうございました。懇親会は途中退出で申し訳ありませんでしたが、またいつの機会か、ご一緒できればと思います。それでは、所感に移ります。今回訪れた漱石山房記念館ですが、外観も新しく、早稲田駅から住宅地を歩く中、突如現れるその雰囲気が素敵で

した。夏目漱石の生立ちやその作品、また交流のあった方々との手紙まで展示され、これが入館料 300 円はかなりのお得感がありました。個人的にまた訪れたいです。展示には、漱石の作品の中から名言を取り上げたものがあり、その中で印象に残った名言を紹介させていただきます。「知に働けば角が立つ。情に棹れば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。」・・・‘草枕’より「人間は好き嫌で働くものだ。論法で働くものじゃない」・・・‘ぼっちゃん’より「自分に誠実でないものは決して他人に誠実であり得ない」・・・‘行人’より。明治～大正に書かれた作品とは言え、ひとつひとつのフレーズが小説の中だけではなく、実社会でも通じ、また、現代のマネジメントにも通用する言葉だと改めて感じました。先生から、漱石の凄さは文豪としてだけではなく、多くの弟子を持ち、その多くが大成したことにあると伺い、こういった名言から多くの弟子たちが学び、成長したことが伺えます。秋学期全8回の講義を通じ、各種テーマで偉人たちの人生を振り返り、毎回学びの多い講義となりました。また、留学生も多く、ディスカッションを通じて、海外から見た日本の偉人や日本人として偉人について説明する際、普段とは違う視点で物事を考えることができ、とても有意義な場とのりました。ありがとうございました。記念館探訪は継続して参ります！

- 今回の講義はフィールドワークで漱石山房記念館へ。20 年程前、漱石山房の最寄り大学日本文学科に所属していながらも、漱石山房記念館の存在すら知りませんでした。心から反省します。※ちなみに、卒論は宮沢賢治で書きました。1 階には漱石の書斎が再現されており、どのような環境で数々の名作が執筆されていたのかがわかるようになっていました。学生時代に「こころ」が好きで何度も読み返し、先生はどのような心理であったのか、先生の告白をきいた学生はどのような心理であったのか、その真意がわからず悶々としていたあの日々が思い出されました。その「こころ」がここで書かれていたのかと思うと感慨深いものがあります。しかし、夏目漱石が作家として活動していたのがわずか 11 年、その 11 年という時間であれだけの名作を生みだしていた、ということも今回初めて知りました。世の中に「たら・れば」はありませんが、夏目漱石がもう少し長く生きることができていたならば、どれほどの作品が生みだされたのであろうかと、思わずにはいられません。夏目漱石自身がすごい才能であったのはもちろんですが、正岡子規や高浜虚子といった才能と出会い、木曜会の場で次代の若者たちを育てた、というところにも夏目漱石の偉大さを感じます。自分自身が存命中に活躍することよりも、その人が亡くなった後に何を残すことができるか、それこそがその人の偉大さのあらわれであるのだと考えます。そして、今回一番心に響いたのは「則天去私」。天に則り私を去る。夏目漱石が晩年に文学・人生の理想とした境地。修善寺の大患を経て、死を身近に意識してたどり着いた境地。人生とは何か・死とは何か、をつき詰めて考え、己の人間としてのあり方を言葉にしたものであると考えます。ひるがえって自分はどうか。煩惱だらけ、自己満足を最優先して過ごす日々。夏目漱石は享年 49。私は今 40 歳。それほど年齢は変わらないのにこの大きな差は一体何であろうか。まだまだ自分は修行が足りない実感。そのことがわかったということだけでも、今回の漱石山房訪問は価値がありました。久恒先生、そして天のお導きに感謝します。立志人物伝の講義は今回で終了。有意義なことを、楽しく

学ばせていただきました。このタイミングで立志人物伝を受講したのは運命であり、人生でおこることの1つ1つに意義があるというのを、改めて教えていただきました。そして、無趣味な私でしたが、人物記念館めぐりという趣味を得ることができました。今後も人物記念館めぐりを継続、まずは神奈川県内の人物記念館制覇を目指します。久恒先生、共に学んでくださった皆様、ありがとうございました。今後もこのグループを継続していくという話は大変うれしいことです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

ねこ塚。



以下、留学生の感想から

- 今日の第八回立志人物論は、field の授業形式で、先生は皆さんを夏目漱石大文豪の記念館朔石山房に連れて見学して行きました。朔石山房とは作家、教育家、画家と身に付く大文豪夏目漱石先生の晩年の住所であり、生まれた朔石坂の遠くない街であり、「三四郎」「こゝろ」「道草」など名作を世に送り出し、門下生たちがあつう「木曜会」と言う文学サロンである。丸内線早稲田口徒歩10分ほどの道のりである。初めてfieldworkの授業形式偉人記念館へ見学して行って、先生から指導されて、個人より皆さんと一緒にgroupで深い学習指導の意味を持っている。半日の見学活動をかけて、夏目漱石先生新たな発見いただきまして、彼の生き方を感動された。名作中の名言や格言に触れ、感銘を受けた経験になった。漱石山房の一階の展示区では、夏目先生が生前読んでいた、膨大な数量の本をもっと展示されています。私が深く感じさせてくれたのは、大人物になると必ずつつましい知識の汲み取りで育ったの必要である生涯展示区、夏目先生生まれたから、最後まで「生きたち」「出会い」「出来事」「性格」「関心」「能力」など6つ偉で夏目漱石先生49年の人生がを略介されて頂いて、夏目先生がたい好きの動、植物の紹介していただきまして、漱石山房今のデザインが猫文化を含まれた理由を承知しました。それは夏目先生の「世の中に好きな人段々なくなります、そして、天と地、草と木の美しく見えます、事にこの頃の春の光には花は大好きのです。私はそれを頼りに生きています」という名言は夏目漱石の生活態度を表したと思う。二階の階段の入り口で、この山房に大きな貢献をした人の名前記念碑がそびえ立っている、surpriseになるのは久恒啓一先生の名前を見つけた、さすが久恒啓一先生は漱石のfanだ。「吾輩は猫である。まだ名前は無い。」という、最も有名な冒頭を記した大正時代に活躍した日本の文豪であり、日本人には親しみのある文豪の夏目漱石さんと出会いの偉人達のvalue

に驚いている、私がきになるのは中国で一番有名の文学家、思想家、作家など身に付く魯迅と言う大名だ、小学時代の私は魯迅は日本へ医学専門の留学ただが、医者の身分を通して世の中の人々の体を治す power より全民の脳中の思想を治すことの価値があると考えまして、中国へ戻って国民の思想意識を呼び起こす覚悟を生み出した作品を大量生み出した。今日の見学を通じて、魯迅先生も夏目先生の忠実なファンであり、その時代の背景の下で夏目先生の影響を受けて自分の人生の軌跡を変え、手術刀を置いて代わりにpenを持って、当時の中国国民に大きな意味の影響を与えたと承知した。だから夏目漱石先生の短い49年の人生はどのくらい人に影響したかという、どのくらいの時事が先生の影響で変わったか、それこそ夏目漱石の really power だと考えました。見学活動を終ると本学部の久恒啓一先生の立志人物論講座を終了されましたが皆さんと一緒に勉強した時間本当に楽しかった、日本の歴史をあまり触れなかった、最初に志の意味全然わからない私なりの人は、この講座を通じて、生きている power を見つけた、lucky より幸福の感じを身につけた、背中隠している翅を生まれた、立志人物論講座で大人物達の志を習いまして、いつでも善い目的を持って、遠大な目標を決めて、勇気を出して、止めない行動して、折れない心を温めて、check-selfの自覚性を忘れず、未来は私の人生を飛べると信じになる。久恒啓一先生、日本人先輩方、留学生の皆様皆さんと一緒に出会ってくれて心から感謝しております、16:30 から、20:00 まで続いた懇親会、皆様お互いに交流をして勉強して、師匠との隔たりの緊張感がなくて、所々として話して、とても楽しかった。終了しても皆様と一緒になかった時間を脳中で浮きまして、行きなり悲しい感じを湧きました、本学部の立志人物論で素晴らしい皆様真面目で勉強してる精神を感動されて、柏谷先輩ような真面目精神を尊敬してる、留学生の私は増す増す日本を好きになって、これから、記念館へ訪問することを通して旅行の計画したいと考えたが、このgroup は一番良い交流社区だと思うが解散されたくないが、先生と皆様に解散しない意見を提出して、皆様から一致同意されてありがとうございます。酒向先輩今日の懇親会誘ってくれてありがとうございます、まだ次回皆様と一緒に偉人記念館の fieldwork を楽しみたい。

- 本日の夏目漱石記念館の見学は楽しかった。山房の書斎再現展示はかなりリアルです。10畳のスペースには付箋のある書籍がぎっしり積まれました。また、「移竹楽清陰」の自書が掲げられて、「竹を移植して清らかな陰を楽しむ」と説明いただきました。再現した書斎を見ると、夏目漱石宅で、漱石の教え子や漱石を慕う若手文学者が集まって、さまざまな議論をした木曜会も生々しいです。さらに彼の名言を読んで、原稿を見て、夏目漱石をもっと深くわかるようになりました。この講義を通して、様々な偉人のことを知り始めました。留学生として、特に日本で働くつもりの人にとって、非常に役に立ちました。さらに、彼らの思想を学ぶ上で、新しい自分を作ろうにしました。日本人のクラスメートがいつも丁寧にわからないことを説明してくれて、本当にありがとうございました。孫さんが言うように、このグループは永遠に解散しないように。ありがとうございました。
- 最終回授業で記念館に見学を行ったありがとうございます。今日、風邪をひいたため、懇親会は欠席で申し訳ございませんでした。今回は漱石山房記念館に第2回目で訪れました。前

回より、いろんな細かい所を新たな発見を頂いました。例えば；夏目漱石の「木曜会」をおける生徒又は友人との繋がり。記念館後ろ公園では「我輩猫である」主人公猫の墓を設置しました。更に、一番喜ぶ発見は記念館施設整備基金 寄付者御方名リストには、先生の名前を見つけました。夏目山房記念館の見学は本当に良いイベントと思いました。秋学期全8回の講義を通じ、各種テーマで偉人たちの人生を振り返り、毎回学びの多い講義となりました。毎回には、日本人先輩たちいつも優しくて留学生たちに解明をしたり、ディスカッションを行ったり、日本の歴史または偉人について認識をもっと広くて、深く勉強になりました。本当に心から感謝しました。

- 今回は夏目漱石の記念館を見学しました。夏目漱石は中国でも非常に有名な人でした。そして、記念館は公園と一緒に、コーヒーショップもあり、外観見るとオシャレも感じました。授業中も夏目漱石の作品を紹介しましたが、今回は夏目漱石が晩年を過ごした旧居に訪ねて、書斎も再現されたことに感動しました。先生は記念館の設備整備基金寄付者に名前を載せたことが凄いなと思います。将来自分もこのようなことを目指してします。日本の歴史文化あまり知っていません私は、この学期 8 回の講義を通して、沢山の偉い人の事績と思想を勉強になりました。毎日に日本の方とディスカッションして、いろんな立場から、講義の内容を理解できます。しかし、8 回の講義はまだ足りないと思います。これからも日本の歴史について続けて勉強します。
- 第 8 回は夏目漱石記念館に行ってください、大変勉強になっていると思います。夏目漱石の生涯を詳しく分かるようになってきました。夏目漱石の名言は沢山見つけました。「熊本より東京は広い。東京より日本は広い。日本より頭の中の方が広いでしょう。」「世の中にすきな人は段々なくなります。そして天と地と草と木が美しく見えてきます。ことにこの頃春の光ははなはだ好いのです。私はそれをたよりに生きています。」「記録して下さい。私はこいな風にして生きて来たのです。」「自分がそれだけの個性を尊重し得るように、会社から許されるならば、他人に対してもその個性を認めて、彼らの傾向を尊重するのが理の当然になって来るでしょう。」上記の名言は大体 大正、明治時代に書いていました。また、素晴らしいことは記念館施設整備基金寄付者リストには先生の名前を見つけました。最後の講義は日本人の偉人の夏目漱石記念館に見学に行ったり、先生と皆さんと一緒に懇親会に参加したりするので、自分の知識が広くて、大変嬉しかったと思います。心から本当に感謝したいと思います。先生 ありがとうございます。皆さん お疲れ様でした。これからもよろしくお願い致します。
- 最終講義ありがとうございました。高校時は教科書の中で鲁迅から夏目漱石のことを知りましたが、今回ようやく夏目漱石の記念館に行きました。西早稲田駅から降りた後、5分ほど歩いて、すぐに漱石山房記念館を見えました。この間の道も漱石＜吾輩は猫である＞中の猫の飾りがあり。記念館の外観は現代的な建物だと思いますが、300 円のチケットを買って、中に入ると「漱石山房」の一部、書斎・客間・ベランダ式回廊を再現するミニチュアが見えます。ここで漱石を創作時の場面と若手文学者が集まりの「木曜日」の場面も完璧に再現していました。中は外観と全然違うデザインで、昔の日本の部屋と現代的なものを併せて、とっても素

晴らしいと思いました。案内係の者から聞くと、この山房作るも結構悩んでいました。山房の広さについて、漱石の息子と「木曜日」の文学者の意見が違っていたからです。幸い、安井曾太郎の「麓の町」の絵で当時部屋の広さ、大きさを推測出来ました。壁の書道「移竹楽清閭陰」(竹を移植して清らかな陰を楽しむ)の自書が掲げられて。書斎を出で前に進むと記念館施設整備基金寄付者御方名の看板があります。そこで先生の名が見つかりました。2階を進むと「吾輩は猫である」の草稿、「坊ちゃん」冒頭の草稿、「文鳥」、「夢十夜」も見えます。ここで最も目を引いたのは、部屋着としていた長襦袢です。外に出ると夏目漱石の記念像と猫の墓があります。2 時間くらいの参観はとっても面白かったです。夜帰りの途中、夏目漱石誕生の地の石碑が発見しました。今学期は沢山の偉人のことを勉強しました。心から先生と優しい日本人のクラスメイトたちに感謝します。

- 本日の見学は漱石山房記念館に行ってきました。東西線「早稲田駅」1 番出口で口より歩いて 10 分間で到着しました。新宿区に夏目漱石の生誕 150 周年を記念として開設した記念館です。夏目漱石『道草』草稿、夏目漱石「ケーベル先生の告別」原稿、夏目金之助(漱石)夏目鏡子宛書簡、津田青楓 画讃「漱石先生像」、「漱石山房書斎再現」が展示されています。一番印象に残ったのは漱石が晩年9年間を過ごした漱石山房書斎の再現です。夏目漱石はこの小さい部屋で「三四郎」、「道草」など数々の名作を作り出しました。客間では週 1 回木曜日に「木曜日会」と呼ばれる文学サロンが開催されます。漱石を慕う若い文学者たち(安倍能成、小宮豊隆、鈴木三重吉、森田草平など)は漱石と自由な雰囲気作品を論議します。日本人が夏目漱石を尊敬する理由、夏目漱石は世界にも影響を与える理由の一つは多くの門下生に助言をしまして、多くの作者志望者を育てたことだと思います。夏目漱石の名言「月が綺麗ですね」は中国にも響いています。ロマンチックな愛の言葉として非常に有名です。「I LOVE YOU」を「あなたを愛しています」と訳さずに「月が綺麗ですね」と表現することは夏目漱石の感性や人間性を感じています。夏目漱石の作品といえば『坊ちゃん』、『こころ』、『吾輩は猫である』などが有名です。『吾輩は猫である』は人間ではなく、猫の目線で物語が描かれているところにユーモラスを感じました。最後の懇親会で皆さんと喋りながらものすごく楽しい時間を過ごしました。「立志人物論」の講義で、偉人のエピソードや名言などを学ばせて頂き大変勉強になりました。ありがとうございました。

木 裕子	原田 佳尚・真葉	ま・あ・わ行
川 和江	原 豊	前田 昌彦・
太一郎	半藤 一利	前田
・希実	半藤 末利子	前田 翔
里 藍	日傘 順子	真柄
里 咲	久恒 啓一	牧野
和堂	日高 秀二	株式会社マクビーカ
合会	日比 堯子	増
漱子	平岡 敏夫	益田
宏之		

漱石の長女の娘の半藤末利子は漱石山房記念館の館長。半藤一利は夫で作家。私も寄付者として名前が刻まれている。

漱石の書斎の再現。書斎 10 畳。サロン 10 畳。机など本物は神奈川近代文学館に寄付。和漢洋の書物 3068 冊は小宮隆太郎の世話で東北大学の漱石文庫(書き入れや傍線 3 割)。「陰清楽竹移」。40 歳から 9 年間住む。生誕 150 年記念として再建。以前住んでいた家は愛知県犬山市の「明治村」に移築。その家は森鷗外も以前住んでいた。



終了後、神楽坂で懇親会。楽しい会。このメンバーは解散せずに、人物記念館訪問と懇親会を続けたいとの留学生の提案があり、皆さん賛成された。幹事も決定。次はどこにしようか？



以下、私の所感と新情報。2 年たって漱石山房はずいぶんと充実している。

- 木曜会：午後 3 時から・10 年間。文学サロンに発展。死後は「九日会」(月命日 9 になる)。
- 「漱石山房」に関する弟子たちの書物を読もう！。「漱石山房の秋」「山房の秋」(内田)「ああ漱石山房」、。。。先生の在り方。寺田寅彦、安部能成、鈴木三重吉、森田草平、松根東洋城、野上豊一郎、岩波茂雄、安部次郎、内田百閒、小宮豊隆。芥川龍之介、久米正雄、松岡譲、。森田草平「啓発される。理解してもらえた」
- 漱石 158 センチ。1967 年生まれなので、明治 38 年に書いた「吾輩は猫である」は 38 歳の作品。38 歳から 11 年間の作家生活。
- 「通常展-人と人を結びつけることば展」。「ケーベル先生の告別」(東京朝日新聞 1914.8. 12)の中で漱石は「先生に一番大事なものは、人と人を結びつける愛と情である」と先生の在り

方の神髓を述べている。漱石は弟子たちに宛てた書簡には、人と人を結びつける言葉にあふれている。ケーベル先生(①848-1923)は帝大の中で一番人格の高い教授との問いには百人のうち九十人がケーベル先生と答えるであろうと。21年間日本で生活。ドイツ系ロシア人、ベルリン大学。1893年45歳の時に東京帝大の外国人教師になる。東京音楽学校でもピアノと音楽史を教えた。滝廉太郎や山田耕作が学んだ。第一次大戦の勃発でドイツに帰れずに横浜のロシア総領事館で亡くなるまで暮らした。

- 漱石は俳句がいい。子規より好きだ。「菫ほど小さき人に生まれたし」「ちらちらと陽炎立ちぬ猫の家」「菜の花の中に小川かな」「草山の馬放ちけり」。
- 新聞の連載小説「一回一回で筆を止めて、後は明日まで頭を休めて置いた方が、よく出来そうに思う」。
- 9時から10時に起床。朝食後昼食まで執筆。午後は漢詩、謡の稽古、散歩。朝食はパンと紅茶。パンは火鉢で焼いて砂糖をつける。夕食は一汁2、3菜、香の物、メインは肉と野菜が交互。牛鍋が好き。酒はあまり飲めない。赤くなる。甘いものが好き。ジャムが駄物。二男五女。
- 四谷の古道具屋に里子に出される。すぐに町方名主であった生家に戻される。四谷太宗寺門前名主・塩原の養子になる。「俺は六人の末子で両親から余計者、要らぬ子と扱われた」。「ひとつ間違えると大泥棒になる、ただし名前に金か金偏の字をつければ難を逃れる」と言われ、金之助と命名された。
- 留学2年。心理学、社会学から文学を論じようとした。

午前は、「立志人物伝」能力14回目の授業。



久米先生の私の授業の実況中継。

【多摩大 久恒啓一副学長講義「立志人物伝」

宮尾登美子 葉室麟 斉藤十一 松平康隆

宇野精一 小森和子 芦田伸介]

古今東西の名言探究者、久恒先生曰く「人は出会った人の言葉で成り立っている」。立志人物伝を受講して偉人たちの名言と生きざまに触れた学生の感想が興味深いのです。

「本を読みたい」「計画を立てたい」「なぜ偉人は名言を言えるのか」「意外に偉人は人間くさい」

等々

私は、大学時代になすべき最も大切なことの一つは「生涯の師」に数多く出会うことだと考えます。この講義を半年聴講した私の素直な感想は「私も大学入学時に受けたかった」。今でこそありがたいことに「生涯の師」に恵まれて学びの日々を送っている私ですが、もう少し遠回りをせずに済んだことでしょう。

本日、私の心に刺さった久恒先生の言葉は「ある仕事をした人は自分自身になっていく」です。先生のブログで紹介された、歴史作家が作品の中で登場人物に語らせている言葉の数々が好いのです。

清麿正行という刀工は「刀は、、わたしそのものでございます。これが俺だ。古今どこにもないおれの刀だ」

(山本兼一「おれは清麿」より)

葛飾北斎の娘お栄は、「わたしはわたしになりたいんだ。そのわたしに、まだ手が届かない」

(朝井まかて「眩」より)

こうした自分自身でしか評価できない「永遠未完のライフワーク」を完遂することこそ人生のゴール。そのために、芸術家たちは、命をすり減らし、いくら時間があっても足りないと感じるのでしょう。

12月30日。宮尾登美子「書きたいことはいっぱいあり、全部書くには二百歳まで生きなくてはなりません」

<https://note.mu/hisatune/n/nc832b98966d4>

12月23日。葉室麟「体調管理を万全にして、なすべき仕事をなしとげなければならない」

<https://note.mu/hisatune/n/n78e354ad45d1>

12月28日。斎藤十一「芸能人には引退はあるが、芸術家にはない。書きながら柩に入るのが作家だ。、、時に私の死期も近いから、私への香典原稿を一作頂きたい」

<https://note.mu/hisatune/n/nec46d28ba502>

その他の名言も味わい深いものばかり。

これから始まる新元号、予測不能で不連続な世の中の幕開けにふさわしいので、ぜひご一読くださいませ。

12月31日。松平康隆「金メダルを狙うには、非常識を積み重ねていくしかないんだよ」

<https://note.mu/hisatune/n/nec46d28ba502>

1月7日。宇野精一「『平成』は平和な時代だけれども、その平和は実は武器のおかげで、そしてこれまで国のために命を捨てた人々のおかげで保たれているのです」

<https://note.mu/hisatune/n/n81d8a48865fb>

1月8日。小森和子「ダメならダメでしょうがない。まずは思った通りにやってみよう。そんな度胸のよさが人生を切り開いてくれることもあるのね」

<http://k-hisatune.hatenablog.com/archive/2019/01/08>

1月9日。芦田伸介「次々と私の人生という名の『舞台』に登場してくる『名優』たちのおかげで、私の『人生劇場』が波乱万丈になった」<http://k-hisatune.hatenablog.com/archive/2019/01/09>

2019 年 1 月 12 日 インターゼミ最終回

15 時半頃から 2018 年度インターゼミ最終回

- 教授、大学院OB、大学院生、学部生それぞれから「新年レゾリューション」(2019年に挑戦したいこと。人生において挑戦し実現したいこと)を述べてもらう。
- 学長講話: 基盤的知と人的ネットワーク。ヒューマンネットワークとアセットマップ。知の再武装の3層構造(18歳。右肩下がりと資産形成のない40代。60代)。インターゼミ10年、300人。常温社会。不満なし・不安あり。希望なし・失望なし。いま、ここ、わたし。切磋琢磨。成功者には「使命感」と「出会い」あり。知の再武装へチューニング。



2019 年 1 月 15 日 副学長日誌

大学にて

- 杉田学部長: 明後日の最終講義
- 今泉先生: 大学院修士論文講座の 4 月の日程
- 水嶋課長: 大学コンソーシアム八王子
- 川手課長: 書棚
- 森島課長: センター入試

研究室

- 別府の後藤さんと ZOOM で対話。佐保君に手伝ってもらう。

2019 年 1 月 16 日 副学長日誌

研究室

- 樋口先生: 家族のこと。

ラウンジ

- 森島課長: 一般入試
- 志賀先生: ライフワーク
- 杉田先生: 1 年生
- バートル先生: 日本語学校
- 久保田先生: ポッドキャスト「ビジネスに活かす 偉人の名言」に登録し聴いた感想をもらう。
- 山本さん: T スタでの対談の録画の進行状況
- 飯田先生: 最終講義

明日の最終講義の準備

2019 年 1 月 17 日 退任記念講義——「これまでの私、これからの私」。「失敗」と「未来」を語る

本日は退任記念講義。

「これまでの私 これからの私」というタイトルで、「失敗」と「未来」をテーマに、学生と教職員に向けて講義を行った。稀勢の里ではないが、「一片の悔いもない」11 年間だった。

以下、久米客員教授のレポート。

【多摩大学 久恒啓一副学長 退任記念講義 これまでの私 これからの私】

今日は「らしくない」けれど「らしい」特別な講義を聴きました。

私が尊敬する図解と名言の師匠 久恒先生が、専任教授として登壇される最後の講義です。まず「終わり」なのに、新たな「始まり」を感じさせるところが退任講義「らしくない」。そして「涙」ではなく「笑い」がしめくるところが久恒先生「らしい」。十年後には、こんな最終講義ができる人になりました

いと憧れてしまいました。

なにしろ、過去について自慢はせず、失敗談ばかり話されたのです。久恒先生曰く「これから失敗の連続になる。会社に入ってもすぐ失敗する。どうしてこんなに自分は失敗するのだろうと思った。」たしかに、経理になれば振込を間違え、人事になれば50人も人を余計に採用するなど、考えられない失敗を重ねられていてビックリです。

しかし「40歳で課長になった時に失敗が役立った。あらゆる失敗をしていたので部下の失敗の理由がよくわかった」そうで、まさに失敗を重ねることこそが究極の OJT(On-The-Job Training)に思えてきます。

■写真1 ホームページに私のすべてが入っている

おそらく、久恒先生は、インターネット上に日々リアルタイムで「自分自身の人物資料館」を創り続けている「最初の人類」でしょう。しかも独自の図解のメソッドに基づくユーザーインターフェイスで体系化されています。

種々の SNS の長所を使い分けながら充実させて、すでに 5,000 日突破。今日の講義で参照した資料もすべてホームページに収められています。これまで作った図解、学生たちのアンケート、これまでに訪ねた人物資料館(857 館)のデータはもちろんのこと、ゴルフのスコアから、母の歌集まで入っているというから驚きです。

久恒先生曰く「20年間続けてわかったこと。ホームページが空母。Facebook など sns は戦闘機。」たしかに、久恒先生のホームページは、SNS にジャンプするリンク集の役割も果たしながら、それら外部に寄稿した記事も、ホームページに集約されて体系的に眺めることもできるのです。

「自分で作ったビッグデータでなければ、知的生産としては使えない」という言葉も心に刺さりました。単にググって wikipedia を棒読みした情報と、自ら現場で取材し、人と出会い、調べ学んだ血肉となった知恵の集積とでは、価値が違うでしょう。

■写真2 計画が重要。毎年チェックする習慣を。

久恒先生は、計画の重要性を説き、自分の計画通りに過ごそうと提言します。自らの 30 年計画を振り返ると、日本航空の社員だった時代に「大学教授になる」と書いてあって不思議だそうです。こうして大きく考えると沿っているようにも見えますが、実はかなっていないことが多いとのこと。「それでも毎年チェックをして、○×△をつけることを3年ぐらい続けていると×が○になる。そんな良い習慣を身に着けることが大切」だと訴えます。

久恒先生曰く「計画通りにうまくいかないけれど立てないよりは、はるかに良い」「年度計画、中期計画を書いていると、そういう方向にいくような気がする。」「何が起きるかわからないけれど、若いうちに失敗しておくのが大切。ある程度力がついたら自分のテーマにまい進する。」だそうです。

■写真3 人生は豊かさ(自由の拡大)への旅である

このシンプルな人生の図解には驚きました。ちょうど昨日、クエスティーで「人生は旅」という話をしたのでシンクロニシティです。

久恒先生曰く、「カラダをベースに、カネとヒマの自由を得て、ココロ・アタマの自由を獲得する」ことが、人生という名の旅の原動力。これは転職の時には使える考え方で、例えば久恒先生は、この

たび教授を退任することで、カネ(給料)が減る代わりに、ヒマ(自由時間)を得ることで、より大きなココロ・アタマの自由を獲得できるそうです。

久恒先生が、これから書きたい本のリストを見せていただきましたが、想像を絶する労力です。それだけではなく、久恒先生が理事長をつとめる「知的生産の技術研究会」の仕事として、梅棹忠夫先生の全集図解化にも挑戦したいそうです。これだけ大事業を遂行するにのほ、おカネよりもヒマが、さらには人生百年時代を元気に生き抜くカラダ、ココロ、アタマが必要でしょう。

■写真4 人生100年時代には、3回のキャリアデザインを

人生100年というと、みんなコストとリスクの話ばかりしているが、そんなお金の話ばかりでは困る、考え方が間違っていると久恒先生は強調しました。それもこれも、昔の短い寿命をもとに不惑などの年齢別心得を説いた「孔子が悪い」だから、みんなが迷うとおっしゃるのです。

そこで、久恒先生は、孔子の図を 1.6 倍伸長して、人生100年時代の心得を図のように提唱しています。なるほど、この図に合わせるなら、青年期、壮年期、実年期で3回キャリアデザインできます。私はまだ壮年期半ばですから、まだ1.5回チャレンジできるのだと思うと、元気と勇気が湧いてきました。

少壮老死

少にして学べば、壮にして為すことあり

壮にして学べば、老いて衰えず

老にして学べば、死して朽ちず

(その他、失敗と未来に関する名言集も素敵だったのですが、ボリュームがあるので、写真を拡大して読んでみてください。)

この半年間、私の担当講義の前に、久恒先生との雑談会と「立志人物伝」を聴講できて幸せでした。学生時代に聴いておけば…と思ったこともありましたが、今日の最終講義を聴いて、いや今聴くからこそ意味があると納得しました。やはり人生100年時代の壮年期には、働きながら学び、学びながら教える、同時並行の生き方が求められるのですね。

久恒先生、今日は素晴らしい講義をありがとうございました。そしてこれからも先生の背中を見ながら、今以上に離されないように追いかけます。引き続き、ご高導のほどよろしくお願い申し上げます。

受講した教職員、学生のアンケート。

以下、教職員のアンケートから

「学生というより我々中年期を迎え、迷える時期に貴重なお話をうかがえたこと大変ありがたく思います。今後の自分を考える上で大切な時間となりあました」「11 年間教育、研究、大学運営・改革、大変お疲れさまでした。多くのことを学び、気づきをいただきました。心から感謝申し上げます」「これからも大活躍なさること、間違いのないと思います。遠くから近くから応援します」「どれをとっても説得力があり、納得できることばかりで、大変勉強になりました。いくつかの項目はわかっているつもりではありますが、仕事のせいにして実行に移せていませんで、今後は少しでも久恒

先生に近づけるように実際行動にしていきたいと思います。すばらしい講義をどうもあいがとうございました」「私自身も大学入試あたりから現在まで失敗の連続ですが、今後は計画を立て、仕事にもチャレンジして、失敗を恐れず行動したいと思います」「失敗を恐れる学生がどんどん増えている気がします」「失敗の数こそ資産！その通りですね！御指導いただきありがとうございました」「アーカイブ、ストックを大切にされたおと、それが過去でなく未来のためであることを感じました。起業に期待しております！成功をあせる日本に発言をお続けください」「多摩大学を立派にマネジメントしていただいた久恒先生のバックグラウンドと考え方がわかり興味深かった。ご苦労様でした！久恒先生のマネジメントなくして現在の多摩大はなかったと思います」「いつも明るく、軽いノリでお仕事をされているように感じていましたが、実はバックグラウンドに自らの歴史、あらゆる成長の過程の全記録を残されていて、それを有機的に結び付けておられたのだとわかりました。私はこれまでの自分の歴史をあまり大切にしていなかったことを残念に思います。近い未来に迫った退職後のことをこれを機会に考えていきたいと思います」

以下、学生のアンケートから

・心に残るお話ありがとうございました・先生の人生観、とても興味深かった。私は失敗を恐れてきたのでとても励みになりました・失敗を恐れることは進化をあきらめることだ感じました・人生計画を立ててよい人生にしたい・失敗する人は成功する・失敗のお話を聞いて私の中で何かが吹っ切れたように思いました・正解も間違いもなくで大きな目で心で経験していくことが大切なんだ・未来は考えるものではなく自分で作りだすもの・自分の心に響いた言葉だけを胸に刻み生きていくことが大切だ・人生は失敗から始まる・先生の授業は他の先生の授業とは違い楽しく聞くことができた・いつかは言葉で人を動かしたい・習慣など当たり前のことを当たり前にコツコツとこなしていきたい・先生が思っていたよりもずっとすごい人でびっくり・いろんなことに挑戦して失敗してそこから学んでいくことが大切だ・30代に思い立って30年以上も継続していくエネルギーはどこから・この授業を通じて毎日日記をつけるようになりました・公私のほかに個の時間も大切だ・多く失敗し成長していく・勇気をいただきました・感動しました・良き多摩大を発信していきたい・先生の講義は確実に自分の武器を身に着けることができる講義でした・失敗の連続の多さに驚きました・計画・失敗の話はとてもよかった。失敗してもよいと思えた・どの先生も久恒先生を尊敬している理由が分かった・改めて久恒先生の偉大さを確認した・尊敬します・学生のうちにたくさん失敗し学習する・確かに成功の本はたくさんあるが失敗についての本はない・失敗や挫折に対する考えが変わった。ネガティブ思考が強かった今までの私にはとてのタメになった講義・先生のお話は今までのどの言葉よりも重みがあった・先生の授業で「は、これを伝えたい！」という熱意を感じていました・自分の考え方を考えるいい風を受けた・あまり深く考えずに進もう・人生計画を10年ごとに立ててみたい・本を読むことが一番だ・偉人館に行く・先生のおかげでパワポで図が描けるようになった・挑戦する・先生のブログを読む・くじけた時や悩んだときに先生の言葉を思いだしたい・悔いのないように過ごしていく・失敗をポジティブにとらえていこう・教授の方々が楽しそうに聴いているのが印象的・今まであらゆる有名な偉人の話を聴いてきましたが、久恒先生の今までの経験の話が一

面白かった・何を得て行動に移すか、そこで差がでる・チャンレンジ！・後輩にも影響を与えたい。

2019 年 1 月 18 日 大学コンソーシアム八王子設立 10 周年記念シンポジウムシリーズ1「大学理事長・学長と市長との懇談会」

大学コンソーシアム八王子設立 10 周年記念シンポジウムシリーズ1「大学理事長・学長と市長との懇談会」に出席した。「これからの 10 年、大学間・地域連携によって実現すべきこと」がテーマ。

- 軽部会長：10 周年。25 校・11 万人。学生事業補助金。FD/SD フォーラム（86 大学・252 人）。夏休みこどもいちょう塾。学生発表会（15 大学 15 件、22 件実行）。C4M コンテスト。学園都市大学（年 6000 人が受講）。単位互換（16 校 160 科目）、。。
- 石森市長：市制 100 周年。コンソーシアム 10 周年。学園都市ビジョン。12 大学と包括連携協定。
- 東京工科大学軽部学長が会長。以下、工学院大学、明星大学、多摩美大、東京工業高専、創価大学。東京純心大学、創価女子短大杏、杏林大学、東京薬科大学、拓殖大学、東京家政学院大学、中央大学、サレジオ工業高専、日本文化大学、デジタルハリウッド大学、法政大学、桜美林大学、首都大学東京、多摩大学、東京造形大学、山野美容芸術短大、ヤマザキ動物看護大学。
- 大学コンソーシアム八王子の 10 年間の取り組み
- 八王子学生委員会の活動紹介：7 大学 18 名。地域合同学園祭「学生天国」。八王子いちょう祭り。情報誌の発刊。



- 講演：文科省高等教育局大学振興課大学推進室「高等教育施策の動向について」
2040 年へ向けての答申：SDGs。Society5.0。人生 100 年。グローバル化。地方創生。多様な価値観をもった人材、連携統合は機能別分化、複数学部教授、国公私の連携プラットフォーム、共同大学院。共同利用拠点、教学マネジメント、、、。
- 意見交換会：高齢化。留学生寮。共同インターンシップ。スポーツ。学び直し。共生工学。老年学。地域学位。防災。SDGs。



- 懇親昼食会：首都大学東京の上野学長、桜美林大学の畑山学長、法政大学の増田副学長、八王子市の小浦市民活動推進部長、大学コンソーシアムは八王子の袋布事務局長と懇談。
話題：首都大の名所変更、桜美林の航空関係学部、多摩信金の長島部長の多摩大出向、音楽・演劇、八王子千人同心、。。

大学

- 杉田学部長
- バートル先生
- 昨日いただいたお花



2019 年 1 月 19 日 センター試験初日

センター試験初日

2019 年 1 月 20 日 センター試験二日目

センター試験二日目。

二日とも私の役目は、冒頭のあいさつ

2019 年 1 月 21 日 副学長日誌

ラウンジにて

- 趙先生
- 小西先生
- 飯田先生

2019 年 1 月 22 日 退任記念講義の受講生の感想のまとめ

退任記念講義の受講生の感想。エニアグラムの性格タイプ別。

＜タイプ1＞・今まで失敗を恐れ、なるべく失敗をしないように生きてきた。これからは失敗をポジティブに捉えて生きていこうと思った。

・改めて失敗は悪いことではないと分かった。一番悪いのは失敗を恐れて何もしないことで、失敗してもそこから学べば良いのだと思った。若いうちにこそ色々な事に挑戦して失敗していくことが大切なのだった。

・先生の人生のお話が聞けて今までのどの言葉よりも重みがあると思った。

・失敗することは自分が成長したということを学習したので、学生のうちにたくさん失敗してたくさん学習したいと考えた。

・この授業を受けて、個人、仕事、人生という3つの意味を知れた。どの先生も先生を尊敬している理由が分かった気がします。

＜タイプ2＞

・こんな凄い人でも昔は案外、今の自分たちと同じ人だったんだなと感じた。そこで、何を心得て、行動にうつすか、そこで差が出るのだなと思った。

・プラスになることばかりだった。

・この講義が終わっても偉人館に行ってみたいと思った。

・自分の考え方を変える良い風を受けることができた。

・佐藤一斎の少壮老死にはとても感心した。

・先生の人生を尊敬します。

・改めて久恒先生の偉大さを確認した。

・全体を見ることができないから、選択、決断できないのだと先生が仰っていたことが、今の自分に言っているのではないかと捉えた。

・「失敗をしないように生きている人はそれこそ大きな失敗である」に、大きな勇気を貰えた。

・ナポレオンの言葉は奥が深くて良いなと思った。

・テレビなどで偉人の紹介をしていたら見てみようと思った。

・自分もいつかは言葉で人を動かしていきたい。

・計画通りにはいかないが立てないよりはまし。学生のうちにたくさん失敗をしろという言葉。その通りだと思った。

<タイプ3>

- ・また違う所でお会いしたら話を聞きたいと思った。
- ・感動した。
- ・人は失敗から多くを学ぶ、今後の社会人生活で多く失敗し成長していきたいと思う。
- ・多くの失敗から自分は何ができるのかを見つけたのだと思う。人生は計画通りにはいかないが、計画を立てることが重要であると分かった。自分の人生にはチャンレンジする心が必要だと思った。
- ・久恒先生の人生観について、とても興味深いお話をいただきありがとうございました。私は失敗を恐れてきたので、そのような話をいただいてとても励みになっております。

<タイプ4>

- ・未来は予想するよりも自分で創れば良いという言葉が最も心に残りこれから仕事をする上で、そういう志を持って仕事をしていきたい。
- ・未来は想像して行動することで動かすことができるのだと感じた。
- ・あまり深く考えず進もうと思った。人生の計画を10年ごとにたててみようと思う。

<タイプ5>

- ・自分は失敗を恐れてあまり消極的に行動ができていなかったもので、これからは失敗を恐れず新しいことにチャレンジしていこうと思った。
- ・パワーポイントで図が描けるようになった。
- ・先生自身のお話を頂き二度と聞けない話を聞けて楽しい授業でした。
- ・いろんな事に挑戦して失敗してもそこから学んでいくことが大切なんだと思った。
- ・久恒先生の授業は他の先生の授業と大きく違い、本当のパワーポイントの使い方、人生の進み方を教えてくれた。とても心に残った。
- ・尊敬できる調べたいと思える人物を見つけることが出来た。
- ・久恒ゼミに入る予定でしたが残念でした。偉人たちは、自分の持つ価値観を一番の武器にしている。
- ・先生の講義を受けられて本当に良かった。

<タイプ6>

- ・くじけた時や悩んだ時、先生の言葉を思い出したいと思います。
- ・図解の講義と、この立志人物伝の講義を受けたがどちらも役に立つ講義だった。楽しかったから一度も休まないで講義を受けた。
- ・先生でなければ絶対に聞けなかったであろう話もあり貴重な体験ができた。
- ・長い間多摩大学を支え続けてくれてありがとうございました。良い多摩大学を発信していけたら良いなと思います。
- ・公私の他に個の時間も大切だと分かった。
- ・自分の思いを書き留めること、継続することが大切だと学び、毎日日記をつけるようになった。
- ・人生は失敗から始まるのだと感じた。

- ・人生とは色々な自由がないとやっていけないということを図で見て確かにそうだった。未来は考えるのではなく自分で作り出すもの。
- ・沢山の失敗や時に逃げていたりしている。そう聞いた時に私の中で何か吹っ切れたように感じた。最後の講義に参加できたことを幸せに思います。運が良かった。先生の今までとこれからを聞いて正解も間違いもなくで大きな眼で心で経験していく事が大切なのだと感じました。
- ・人生計画をして良い人生にしたいと思った。
- ・何もしないで成功しても成功の大きさが違うという言葉が一番心に残った。私は失敗を恐れ、楽しんで成功できる道へと進もうとしていた。

<タイプ7>

- ・今ではとても凄い久恒先生にも人生を振り返ると、様々な経験や失敗があり今があるのだなと感じた。
- ・先生の授業は、これを伝えたい！という熱意がとても伝わってきた。
- ・久恒先生は失敗(経験)して人生を豊かにしてきたことを知った。確かに成功の本はたくさんあるが失敗についての本はない。
- ・60 年以上の人生の大半をグラフ化し、振り返ることを可能にする努力が凄いと思う。30 年近くも継続していくエネルギー、モチベーションはどこからやってくるのか是非聞いてみたい。
- ・久恒先生が思っていたよりもずっと凄い人でびっくりした。
- ・毎日ブログを続け 5000 日オーバーには感服いたしました。

<タイプ8>

- ・楽しくて興味の湧いてくる講義だった。
- ・成功の反対は失敗ではない！

<タイプ9>

- ・未来を見つめ、考えることができて、とても有意義な講義だった。
- ・図解を作る側の人も簡単で見ることも簡単、素晴らしい講義だったと思う。
- ・平成が終わり新しい年号が始まろうとしています。教授も新しいことが始まり続けることをお祈り申し上げます。
- ・自分の人生を記録し、目標を図にしている先生だからこそ、やっておいて良かったと確かに感じるものがあるのだと思いますし、ブレない芯を持つには人生観、価値観を確立することが大切だと分かった。
- ・「これまでの人生は失敗の連続だ」と先生は言ったけど、実は素晴らしいと思います。先生はずっと自分の人生を計画している。「失敗する人は成功する」

<タイプ？>

- ・先生のブログなど見て思い出そうと思う。
- ・先生が沢山経験していてすごいと思った。
- ・一回一回の授業で何か 1 つ得られる楽しい時間だった。自分についてくれた後輩にも影響を与えられたらいいと思う。

- ・話を聴いていてすごく面白かった。もっと色々な話を聴きたいと思いました。教授の方々が楽しそうに聴いているのが印象的でした。これまであらゆる有名な偉人の話を聴いてきたが、久恒さんの今までの経験の話が一番面白かった。
- ・偉人のすばらしさを知ることが出来た。久恒先生のこれまでの人生の生き方とこれからの生き方について素晴らしい計画を持っていたのだということが分かった。自分の人生も悔いのないようにこれからも過ごしていきたいと思う。
- ・失敗というのは重ねれば重ねるほど将来の自分に生きてくるんだと、今日の講義で一番理解を深めた。
- ・この講義を通して物の見方が大きくかわりました。学ぶには本を読むことが一番大事なんだなと思った。
- ・久恒先生のことがとても細かく分かった。
- ・失敗や挫折に対する価値観が変わった。ネガティブ思考が強かった今までの私にはとてもタメになった講義でした。
- ・失敗しても良いと思えた。
- ・先生の授業は他の授業とは違い楽しく聞くことができた。
- ・自分の心に響いた言葉を胸に刻み生きていくのが大切だと思った。
- ・自分を分析するのが楽しくなった。
- ・人生の考え方がとても参考になりました。
- ・先生の話詳しく聞けて人間は失敗から成長していくものだとか改めて感じた。
- ・失敗を経験すればいずれか結果へと繋がることは何かが繋がっているのだと感じた。
- ・失敗の連続の多さに驚いた。沢山の出会いが人を変えるんだなと改めて思った。
- ・久恒先生のおかげで図解の素晴らしさや様々な偉人の生き様を知ることができた。久恒先生の講義は確実に自分の武器を身につけることができる講義でした。
- ・先生に勇気を頂いた。ありがとうございます。
- ・人に影響を与える人とは自分をしっかり持っている人だと理解した。
- ・私自身失敗を避けて生きてきたかも知れない。習慣など当たり前のことを当たり前に目の前のことをコツコツとこなすのは簡単なことではないが、自分の価値観や考えは大きく変化していると思うので努めようと思った。

以下、教職員からの感想

- ・どれを取っても説得力があり、納得もできることばかりで、大変勉強になりました。いくつかの項目は分かっているつもりではありますが、仕事のせいにして実行に移していませんので、今後は少しでも久恒先生に近づけるように実際行動して行きたいと思います。素晴らしい講義をどうもありがとうございました。
- ・多摩大学を立派にマネジメントしていただいた久恒先生のバックグラウンドと考え方が分かり興味深かった。ご苦労様でした。久恒先生のマネジメントなくて現在の多摩大は無かったと思いま

す。

・学生というよりは、我々中年期を迎え、迷える時期に貴重なお話を伺えたこと、大変ありがたく思います。今後の自分を考える上で大切な時間となりました。

・私自身も大学入試あたりから現在まで失敗の連続ですが、今後は計画を立て、何事にもチャレンジして失敗を恐れずに行動したいと思います。

・授業時間が重なり全部を聴けずに残念でした。これからも大活躍なさること間違いないと思います。遠くから、近くから、応援します。

・11年間教育、研究、大学運営、改革、大変お疲れ様でした。多くのことを学び、気づきを頂きました。心から感謝を申し上げます。

・アーカイブ、ストックを大切にされたと、それが過去でなく未来のためであることを感じた。

・失敗の数こそ資産！その通りですね！

・失敗を恐れる学生がどんどん増えている気がします。性格のタイプに応じて4つの自由の比重は変わりそうだと感じました。是非時間的自由の中に囲碁を入れましょう！

・久恒先生はいつも明るく軽いノリでお仕事をされている様に感じていましたが、バックグラウンドに自らの歴史、あらゆる成長過程の記録を残されていて、それらを有機的に結びつけておられたのだと分かりました。私はこれまでの自分の歴史をあまり大切に出来なかった事を残念に思います。近い未来にせまった退職後のことをこれを機会に考えていきたいと思っています。

2019年1月23日 京西テクノス株式会社を見学—メンテナンス業への業態転換。スピード成長。IOT。グローバルトップニッチ企業。利益率 10%へ。オープンな人事方針。コミュニケーション重視。

多摩信金の長島部長の引率で、多摩市愛宕の京西テクノス株式会社を訪問。

多摩大からは、杉田先生、小林先生、松本先生、高野キャリア支援課長と私。玄関にはウェルカムボードあり。

メンテナンス業への業態転換。スピード成長。IOT。グローバルトップニッチ企業。利益率 10%。オープンな人事方針。コミュニケーション重視。、、、

時代をたくましく乗り切ろうとしている企業の息吹を浴びた。こういう素晴らしい企業をもっと発掘して学生を送り込みたいものだ。

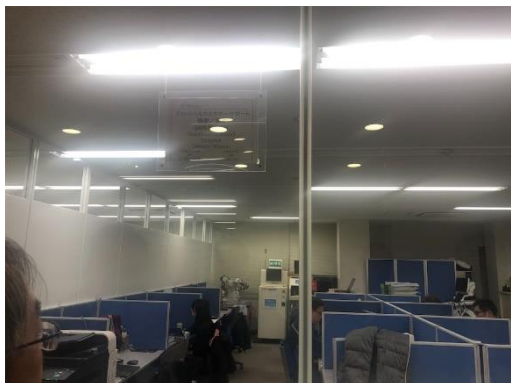


臼井努社長から丁寧に会社説明をいただく。

- 50 年間電機関係の部品の受託をやってきた。中国の台頭などでコストダウンの要請がつよくなり、20 年ほど前から安さを求められるモノづくりからスピードに要請があるメンテナンスに重点を移した。モノは必ず故障する。単価も高い。この方針で売上高と利益のアップをはかってきた。
- 多摩には横河、HP、GE などのメーカーが多い。医療・計測。IT のメンテナンス企業として全国に 10 か所の地方拠点。300 名のエンジニア。サポートセンターのエンジニアはリモートメンテでの問題解決と現地に駆けつけての解析・修理。どのメーカーの製品でも対応するマルチベンダーサービス業。
- 外資などから仕事と人員がまるごと転籍してくる。メンテがテーマだといろいろな勉強ができる。メーカーは製品の供給やサービスを打ち切ってしまうので、古い装置もメンテの対象としている。
- 日本にいながらのグローバル化に挑んでいる。一つは、IOT によるリモート監視ソリューション。ネットを介してプログラムの書き直しも。海外の現場でトラブルが発生する原因の温度・湿度・電源・水温などを監視。ホテルの風呂の混雑具合をみる人感センサー。装置とサービスの提供。もう一つは、24 時間空港の関西国際空港に FEDEX と組み保税工場を設けてそこで保税状態のまま修理し海外に届けるという事業。
- 電機機器の修理業の規模。業界は 1 兆 3700 億円。8710 社。85000 人。4 分の 3 は 9 人以下の零細。当社は 2001 年に 7.5 億円の売り上げだったが、ほぼ毎年増収で今年は 80 億に達するだろう。成長のスピードは速い。大手電機の計測器部門を買収(75 名)を機会に新社屋を建設中。2025 年には 500 名の社員で 100 億の売り上げ、10 億の利益を出したい。そして一部上場大企業並みの給料を出す。1 人 1 時間 1 万円。給与は役職別にオープンにしている。社員には一生働いてもらいたい。風土、教育、コミュニケーション、外部との接触、、、。今年は 8 名を採用。スタッフ職の充実に向けて文系も必要。メンテナンスはコミュニケーション業。社内のヨコの連携が大事であり、全員で餅つき大会、経団連会館での研修、牛肉フェス、マクロ解体などのイベントも行っている。
- グローバルトップニッチ企業。個人の目標設定と実績の評価。メーカー系サービス部門のソリューションサービスがライバルだが、コストや柔軟性で負けない。モノは必ず劣化する。ロボッ

ト、メガソーラ、医療機器、、、お客さんだった企業のマネジメント層も面白そうだと転職してくる。新卒という原石も磨いていく。

- 上場はしない。スピードが必要。自由度が大事。将来は所有と経営の分離も。社内の臼井塾で経営幹部候補を鍛えている。
- 高橋管理部長引率で社内見学:カスタマーサポートは 24 時間 365 日。予防安全。シーメンス、テルモ、ジョンソン・ジョンソン、顕微鏡、AED、CT、GE ヘルスケア、電力機器、ABB のロボットショールーム、、、。



大学納:ラウンジ

- 山本さん
- 高野課長
- 飯田先生

2019 年 1 月 24 日 SRC(学生研究発表会)。大学院運営委員会

- SRC(学生研究発表会)



品川キャンパス: 大学院運営委員会。

春季修了予定者最終試験部屋割り。事業計画。来年度時間割。博士課程・修士課程指導教員。学籍異動。来年度教授会・運営委員会日程。以上が審議事項。

2019 年 1 月 25 日 大学運営委員会(九段)

大学運営委員会。

「転職サポート」「偏差値教育を超えて」「結晶性知能」「3 層の知の再武装(18 歳・40 代・60 代)」
「大学院」「総合戦略」。、、

インターゼミ(社会工学研究会)の打ち上げ懇親会。サテライト入試初日

午後: サテライト入試初日。本部詰め。

夕刻から: インターゼミの打ち上げ懇親会。

参画者: 学生・院生・学部卒業生・院修了生 369 名(のべ)。教職員 156 名(実数 35 名)。インターゼミ卒業生・修了生総数 75 名。

本日の参加者: 学生・院生・卒業生・修了生 48 名。うち、卒業生 17 名、教職員 17 名。



学長：好奇心。課題解決力は結晶性知能。記憶力は流動性知能、、、。



私の退任の挨拶。

多摩大 11 年「再建のステージ終了。潮時。退任する」。

インターゼミ 10 年「量・質とも今年が最高」。

10 年「1 万時間の法則。スペシャリスト、一流。3h・10 年で 1 万時間。30 歳で知研に入り 40 歳で出版。牧野富太郎は 10 年かけて 78 歳で日本植物図鑑。寺島学長の 17 世紀オランダ論は 2010 年からで 2020 年に完結。」。

26 年かかったのは滝沢馬琴の南総里見八犬伝。34 年「本居宣長の古事記伝。徳富蘇峰の近世日本国民史 100 巻は 89 歳で完了（世界最大の著作とギネスに）」。

多摩大の 30 年「躍進の 10 年、凋落の 10 年、再建の 10 年。飛躍の 10 年に向けての推進力はインターゼミ」。



二次会は久保田先生率いるAI班とワインバーで歓談。



2019 年 1 月 27 日 午後はサテライト入試。

サテライト入試二日目。本部詰め。

2019 年 1 月 28 日 阿部・多摩市長来訪——多摩(聖跡桜ヶ丘・多摩センター・永山)の公共施設の見直しと将来像

- 阿部・多摩市長らが新年のご挨拶に見える。杉田学部長、小林学長室長、松本地域活性化マネジメントセンター長、水嶋教務課長と対応。
パルテノン多摩の改修計画。図書館本館(中央図書館)開設計画。日本医大多摩永山病院の建替、、。オリンピック・パラリンピック、、、。
- 研究室
 - ・ 2 月の講演の資料準備。東京都と座間市。
 - ・ 『新・深・真 知的生産の技術』(知研編)の最終チェック。
 - ・ 渡辺先生、加藤仁一さんと電話。
 - ・ 「天皇」関係の書籍注文。

2019 年 1 月 29 日 東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組みに関する連携協定締結式と記者会見

東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組みに関する連携協定締結式と記者会見。多摩市役所にて。多摩市が自動車競技ロードレース会場となるため、多摩市と市内 6 大学が連携協定を結んだ。30 日の東京新聞に載っていた。



13 時半：市長室で懇談

14 時：連携協定締結式・記者会見。

阿部多摩市長。桜美林大学の畑山学長。国士館大学の佐藤学長。東京医療学院大学の佐久間学長。恵泉女学園大学の岩村副学長。大妻学院の船戸部長。多摩大学の久恒副学長。東京、日経、朝日などの新聞からの質疑応答があった。



多摩大学(久恒)

「ロードレースは多摩大の正門の前を通る。2019 年 7 月 21 日にテストイベント。多摩大を会場としたイベントを計画中。競技のルール、自転車の魅力を体感するもの。2018 年は準備として大会組織委員会の応援プログラムに参加。組織委員会から講師を招いて「多摩学」等の科目でビジョン・参加プログラム・日程などを学んだ。大学としてはビッグプロジェクトに参加することで大きな学びになる。また産・学・官・民との連携が深まるこにも期待。協定締結を機にキャンパスを挙げて大いに盛り上げていきたい」



多摩市長室には、多摩大がプレゼントした「多摩大鳥瞰図絵」が飾ってあった。これが話題になった。



随行の多摩大スタッフ: 杉田学部長、松本センター長、水嶋課長、矢内さん。

2019 年 1 月 30 日 午前は人事委員会、学部運営委員会。夜は多摩センターで飲み会。

キャンパス

- 人事委員会
- 学部運営委員会

研究室と自宅

- AICHIの塩屋・松本さんと書棚の相談。

京王プラザホテル内の「京王ビズ」

多摩センターの酒の専門店「里庵」。4 月から多摩大教授に就任する多摩信金の長島さんと松本先生と 3 人で多摩大と多摩大総研の今後のことを話し合いながら日本酒を楽しむ。トップ、キャンパス、探訪、総研のプロジェクト、。。。。。

2019 年 1 月 31 日 副学長日誌

- 学部・大学院の成績つけ修了。

- 午後：湘南キャンパス：グローバルスタディーズ学部運営委員会に陪席
研究費。離学。ゼミ。卒業。TOEIC。事業計画。入試。就職。実質。

2019 年 2 月 2 日 副学長日誌

一般入試初日。本部詰め

2019 年 2 月 3 日 副学長日誌

午後：一般入試一期二日目。本部詰め。杉田、金、久保田先生と懇談。読解力、科学、教養などについて自説を述べた。

2019 年 2 月 4 日 副学長日誌

大学：ラウンジ

- 久保田先生：ポッドキャスト「ビジネスに活かす 偉人の名言」の第 4 回目「笹崎龍雄」についての感想をもらう。少し脱線して長くなってもいいのではないかな。
- その子先生：ポッドキャスト
- バートル先生：単行本の最終段階

2019 年 2 月 5 日 午前：アドバイザーボード。

午前：多摩大学アドバイザーボード。九段サテライト。

多摩信金。かながわ信金。ソフトバンク、トランス・コスモス。学研ホールディング。学長以下で、以上のアドバイザーボードへの説明とご意見をうかがう会。

- 学長「OB8848 人。グローカリティとアジアダイナミズム。都市郊外型大学。課題解決型大学。三層の知の再武装のプラットフォーム。18 歳。40 代。60 歳以上。」「ジェロントロジー研究推進協議会。1.5 万ドルで個人旅行。高度観光人材。資格。、、」
- 研究開発機構長としての私「ルール形成戦略研究所。社会的投資研究所。SDGs。17 と 169。ルールの仕掛け合い。非価格競争力。日本劣勢。人材不足。体系化と支援・補完。大学院の 1 年コース。1200 兆円。インパクトサロン。時代潮流・世界潮流である SDGs をにらんだ二つの研究所。社会のダイナミズムを取り込んで大学全体を活性化」
- ボードメンバ「人間形成。信金と似たテーマ。大都市郊外型高齢化は強み（自動運転・シェア、、は高齢者活躍の時代、IT はルールを根本から変える。多摩はアドバンテージ。ルールを作れ）。困っている大学にノウハウを教えてほしい。40 代、60 代をどうマネタイズするか」

2019 年 2 月 6 日 「仲よき事は 美しき哉」

大学

- 人事委員会
- 学部運営委員会
- 2 月教授会
- 13 時から 16 時まで教員懇親会が食堂にて開催された。新しい先生も含めて、ほぼ全員と話
ができた。「仲良き事は 美しき哉」(武者小路実篤)



2019 年 2 月 9 日 大学院の修士論文・実践知論文最終試験——現代のビジネスの課題がよくわかる

修士論文・実践知論文最終試験。10 時から 13 時 40 分。7 名の審査。

D 室の審査員は、田坂広志先生と真野俊樹先生。

- 中国高齢者介護に関する考察——山東省青島市を例として
- 医療・介護領域における身元保証人問題について——身元保証会社の可能性とその社会的意義
- 中国における健康食品のビジネス展開——マンジェリコン茶を中心に
- 医療の質を評価し改善につなげる病院組織
- 新たな介護施設運営経営マネジメントメソッドの提案「幸福経営」
- 持続可能な医療サービスを提供する企業内大学構想
- 歓楽街を持つ地域の安心なまちづくりモデルの創出

他の部屋での試験のキーワード。私の担当した発表も含めて現代のビジネスの課題がよくわかる。

「マインドセット」「人材流失」「中国浙江省」「ミャンマー」「外国人採用」「留学生の就職」「ドラッグストア」「抜擢」「宿泊システム」「ヘルスツーリズム」「研修移転」「新規事業創出」「ブランド拡張」「営業起点イノベーション」「映画コンテンツ」「鉄道貨物輸送」「構造変革」「モチベーション」「経営者の意思決定」「離職防止」「エクステンションプレイス」「バイオマス」「中国人観光客の地方誘致」「フィットネスクラブ」「台湾福祉用具レンタル市場」「信頼関係」「ミドル・シニア世代のセカンドキャリア」。

終了後、大学院教授会。

2019 年 2 月 10 日 多摩大 T-Studio の「名言との対話」第 35 回——樋口裕一「すべての道がローマに通じるのなら、ドンキホーテよ、デタラメに行け」

多摩大 T-Studio の「名言との対話」第 35 回をリリース。

対話の相手は樋口裕一さん。座右の銘は「すべての道がローマに通じるのなら、ドンキホーテよ、デタラメに行け」

以下、樋口裕一さんのブログから。

私が大学に入学したのは1970年。安田講堂事件の翌年。まだまだ大学紛争の盛んなころだった。大学はタテ看板と落書きとヘルメットにあふれていた。

数年後には内ゲバが始まり、私の通う大学では革マル派の学生が中核派の学生を大学構内でリンチして殺すという事件が起こって、大騒ぎになった。ひところ、銭湯に行くと、指名手配のビラに大学の顔見知りの顔が張り出されていたものだ。

そんな時代、教室の落書きに見つけたのが、このブログのサブタイトルに選んだ「すべての道がローマに通じるなら、ドン・キホーテよ、デタラメに行け」という言葉だった。

当時、私は、今の私からは想像もつかないと思うが、サングラスをかけ、髪を肩まで垂らし、下駄をはいてタバコをふかしながら歩く、いわばバンカウの無頼漢だった。革マルとも、ほかのどのセクトとも距離を置いていたが、反体制的意欲にあふれていた。

そんな私は、この落書きに強く打たれた。
「どうせ人間は死んでしまう。堅気に生きようとドロップアウトして生きようと、どうせ死ぬのに変わりはない。だったら、デタラメに生きようではないか」、そんなメッセージに思えた。しばらく、この言葉が私の人生のモットーだった。

私は、小論文を指導し、論理的な文章を書くことを提唱し、「頭がいい人、悪い人の話し方」などといって世俗的な本を書いている。だから、私を個人的に知らない人には、驚かれる。が、この言葉は、私自身にぴったりくる。

最近になって、これが新居格という、私が生まれたのと同じ1951年に死んだ昭和初期のアナーキストの言葉だと知った。この人物に大いに関心を持ち始めている。インターネットで仕入れたくらいの知識しかないが、もう少しこの人物を調べたいと思っている。、、、、、、

2019年2月11日 退任記念講義の映像

多摩大学久恒啓一副学長 退任記念講義。平成31年1月17日

動画をアップ。

書齋と離れの片づけ。

2019年2月13日 副学長日誌

研究室

- カ丸君と「図解スキルマスター講座」の件。
- 岩澤君と「多摩大学時代の総決算」パンフの編集打ち合わせ。形が整ってきた。

聖蹟桜ヶ丘

- 昼食を摂りながら、宮城大時代のゼミ生であるカ丸、岩澤両君と、今後のプロジェクトの打ち合わせ。

研究室

- 研究室の移動の件、川出総務課長と。
- 書類整理・破棄。

2019 年 2 月 14 日 副学長日誌

大学

- 研究室で整理。
- 飯田先生:引っ越し談義
- ラウンジで今泉先生と雑談。山本さん、加藤先生が加わる。

2019 年 2 月 20 日 副学長日誌

研究開発機構評議員会(機構長)を九段サテライトで開催。

総合研究所。情報社会研究所。医療・介護ソリューション研究所。ルール形成研究所。社会的投資研究所。以上の代表者が参集する会議。

2019 年 2 月 21 日 午前:多摩。午後:湘南。

午前:大学にて仕事。

午後:湘南のグローバルスタディーズ学部の学部運営委員会に出席。杉本君と久しぶり

2019 年 2 月 22 日 午前:多摩(研究室)

午前は多摩。大学。

2019 年 2 月 23 日 副学長日誌

午前

- 教授会:卒業判定
- FRC:共同研究



2019 年 2 月 25 日 副学長日誌

- 大学:片づけ。
- 代官山のレストランテ ASO で食事会。

2019 年 2 月 26 日 「本の引っ越し」大作戦

研究室から自宅への本の引っ越しが完了。

研究室から。



自宅の書斎へ



離れの書庫へ



終了は 15 時半

2019 年 2 月 27 日 教員・職員参加の全体方針共有会

全体方針共有会が丸一日行われた。教員・職員参加。

組織力の強化と若手新人教員 6 人の加入による、戦力向上の期待。



2019 年 3 月 1 日 副学長日誌

午後:九段

- 自己点検案の読み合わせ
- 自己点検評価委員会
- 大学運営委員会:学長「三層の知の再武装。準資格。新しい収入源。OB のデータベース。社会的公器としての大学、、、。20 代の 7 割以上が天職サイトに登録という状況、、」

2019 年 3 月 3 日 多摩大学経営情報学部 FD/SD 研修会を開催。湘南国際村にて。一泊二日。教員と職員の合同研修会

多摩大学経営情報学部 FD/SD 研修会を開催。湘南国際村にて。一泊二日。

教員と職員の合同研修会。

来年度から参加する新人教員 6 名も参加。





2019 年 3 月 4 日 「つまらない生き方を」——研修会二日目。湘南キャンパスにて研修会二日目。

10 時前に湘南キャンパスに到着し、キャンパス見学。

10 時半から手塚明美さん(認定 NPO 法人藤沢市民活動推進機構副理事・事務局長)の講義を聴く。

- 「つまらない生き方を」「事例」「多世代間交流を楽しむ」「夢をかたちに」「多少の報酬」「地域の居場所」「80 歳まで届くとあとは大丈夫」「支える側で、たまには支えられる」「72、3 歳に心が虚弱になりやすいから元気づける」「カネではない価値観を大事にする」「社会活動参加者はなまなか死なない」「電車、バスなど公共交通機関を使う人は長生き」「自分以外の人のためならムリができる」「社会貢献意識は 65%、実際にやっている人は 1 割程度」「横浜ドリームハイツ・コミュニティハウス片瀬山」「地域の縁側」「老年学の沢岡先生」「仮想敵が必要」「拠点を機能的にしよう」「事業展開！」
- 感想とアイデア: 現在進行形の事例収集。あすなろ会。近所の居場所。65 歳。72 歳、80 歳。



2019 年 3 月 6 日 副学長日誌

学科長会議

研究室の引っ越し作業開始。

2019 年 3 月 7 日 本年度最後の入試

大学

- 松本先生
- 杉田先生・金先生
- 午後: 入試本部詰め。本年度最後の入試。

研究室

- ZOOM で仙台の岩澤君と「多摩大学時代の総決算」の編集ミーティング。最終段階。

2019 年 3 月 9 日 多摩大学大学院授与式

多摩大学大学院学位授与式。

- 始まる前に学長と懇談。新著『新・深・真 知的生産の技術』を贈呈。世田谷、児童虐待、。。



学長:840 名の OB。平成と並走した 30 年。中国は日本の 10 分の 1 から 3 倍へ。アジアダイナミズム。次のビジョン、構想は？ジェロントロジー。100 年人生。工業生産力モデルの揺らぎの 30 年。次の時代はこれでよいのかになる。新しい付加価値とは何か。時代のテーマは何か。知の再武装が必要。自分もストラグルしている。三層の知の再武装。18 歳。成功体験なき 40 代という危うい層。60 歳以上は仕事の進化が必要。カセギからツトメへの思想転換。歴史的転換点。

理事長:平成最後の修了生。実学志向。

研究科長:知の再武装。ライフワーク。ライフシフト。

同窓会長:知の再武装。窓を開けよう。ヨコからタテへ。

院生代表:実践知。

修了生代表:2005 年多摩大卒業。起業した会社は 12 年目。不条理の解決に職業や仕事で貢献という志。社会起業家として一隅を照らす。

- 田坂広志教授の最終講義

- ・ 作家は処女作に向かって成長する。原点。「生命論のパラダイム」。予測はできないが予見はできる。ヘーゲルの弁証法。螺旋的発展の法則。懐かしい古いものが新しい価値をともなって登場する。対立物の相互浸透の法則。古代は生命論パラダイム、20 世紀文明は機械論パラダイム(巨大な機械、要素還元主義と操作主義)、次の時代は生命論パラダイム。
- ・ 物事は複雑になると生命体になっていく。複雑系。複雑なものには命が宿る。自己組織化、共鳴、創発、進化、共進化、生態系、バタフライ効果。新たな生命論パラダイムの時代。東洋文明は生命論、再評価。東洋文明の日本精神を土台に西洋文明の化学技術を包摂したのが日本。アウフヘーベン。
- ・ 価値観の転換:無限から有限へ(国土、環境)。不変から無常へ(変化)。対立から包摂へ(多元主義)。制服から自然(じねん)へ(共生、自然)。機能から意味へ(日本)。縁(え

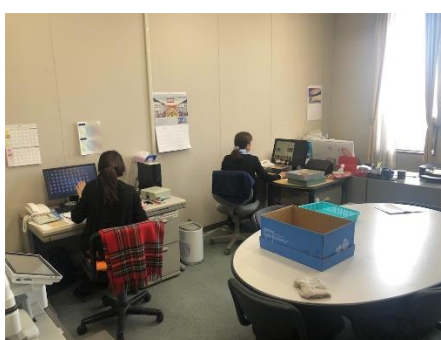
にし)。一期一会。感謝、、。日本には大いなる使命がある。



(図解ウェブは複雑系の生命体。図解技術。図解思考。図解思想。価値観の転換をけん引できるのが図解思想。マネジメント。日本とは何か＝図解。日本人とは何か＝人物)。

2019 年 3 月 12 日 隣の多摩大学総合研究所へ移動

研究室を移動。本日から隣の多摩大学総合研究所(所長)が居室となる。窓際の席。気分を一新して、新しい時代を切り拓こう。



- ・ 松本先生
- ・ 久保田先生

2019 年 3 月 13 日 多摩の企業見学 2 回目は、三鷹の株式会社コミクリ(佐藤弘人社長)

三鷹駅で多摩信金の長島さん、同僚の小林先生、中村その子先生、増田先生、学生二人と待ち合わせ。

「ファブスペースみたか」を見学。3D プリンター(立体物プリンター。30 分 540 円)、レーザーカッター(小型加工機)、UV プリンター(多様な巣材にダイレクトにプリント)、モデリングマシン(加工)、電子刺繍マシン、ペーパーカッター、ハンディ3Dスキャナー等のデジタル機器を整備した会員制のスペース。



佐藤弘株式会社コミクリを訪問。佐藤弘人社長から説明を受ける。コミクリはコミュニティ・クリエイションの略。以下、キーワード。

- ・ 24 年間、IT 企業で働いた後に、まちづくり三鷹に入社。2009 年に起業して 10 年。松江、塩尻、福岡、田川、小平、周南に拠点。テレワーク事業も開始。
- ・ 8 名で起業し、現在は社員 60 名、テレワーカー 600 名。人と情報と地域を IT で元気にする企業。
- ・ 事業は 5 本柱。Ruby ソリューション「松本ゆきひろ。図書館システム。オープンソース。TKT 予約」。ウェブソリューション「女性。HP 運用。CMS。デザイン。自治体」。システムソリューション「人事給与。サーバー構築」。地方創生「8 か所。子育て・介護を地方でしながら働く」。自治体窓口サービス「ワンストップサービスを IT で」。
- ・ 地方のテレワーク拠点で一流企業の仕事をする。沖ノ島。インターネット。ライティングの需要。ふるさと納税による教育格差の是正。まちづくり会社。人口の社会増も。
- ・ 今後：IoT 開発。VR（仮想現実）。ホロレンズ。MR（複合現実：歴史・観光）。AI。自動運転の声、地図開発、。
- ・ 半年の技術者研修。プログラマー。システムエンジニア。プロジェクトマネジャー。シニアシステムエンジニア。セールスエンジニア。
- ・ リモートワーク。対面を重視。社員満足。2020 年 100 名。年俸制。社長は地方出張がほとんど。子育て後の復帰。ママドラフト会議。



事務所。IT企業らしい自由な雰囲気。



- ・ 印象:急速に、しかし堅実に業容を拡大しつつあるITソリューションベンチャーという印象を持った。多摩大のいう「志企業」だ。社長の志の高さと頑張りに敬服。
- ・ 魅力:人材育成方針と育成プログラムがしっかりしているので、社員は迷いなく仕事に没頭できるだろう。こういう企業に学生は参加して欲しい。この取り組みを紹介する本を出したらいかが？
- ・ どう生かすか:地方で時代の最先端の仕事に関わることができ、その仕事が地域創生というテーマのど真ん中に焦点が合っている。そういう企業の代表としてPRしていきたい。

2019 年 3 月 14 日 副学長日誌

午後は大学で仕事

2019 年 3 月 15 日 副学長日誌

研究室: 原稿。明日の準備。

ラウンジ: 山本さん。飯田先生。志賀先生。

2019 年 3 月 16 日 多摩大学目黒高校卒業式で来賓祝辞。歌は「不易」、名前は「流行」

多摩大学目黒高校の卒業式に参列。9 時半から 2 時間ほど。

312 名が卒業。この高校の卒業式には何度も出席しているが、以下のように賞が多い。

理事長賞。優等賞。6 カ年皆勤賞(7 人)。3 カ年皆勤賞。東京都知事賞。日本私立中学高等学校連合会賞。東京都中学高等学校協会賞。東京都私学財団奨励賞。体育優良生徒。文化活動優良生徒。東京都高等学校野球連盟優秀選手賞。高校生新聞社賞。

歌は昔から変わっていない。君が代。仰げば尊し。蛍の光。そして学園歌。歌っているときに、泣く女生徒はいない。君が代は「苔のむすまで」で永遠を、仰げば尊し「今こそ別れめいざさらば」と蛍の光「開けてぞ今朝は別れゆく」で別れを、そして学園歌は「この輝ける日々よいつまでも」と未来をうたっている。

名前もバラエティが豊かでおおいに変化。太郎、次郎、三郎、四郎、、などの多産時代のつけ方とはずいぶん違う。漢字の意味するものを見ていると少子化で親の精魂を込めた愛情が反映されていると感じる。女生徒のひらがなの名前は、まひろ、さくら、ゆめか、なつみ、さくら、ひより、さくら、ひなた、ひとみ、せれな、ほのか。さくらが 3 人もいた。「子」がついたのは、わずか 8 人だから 36 人ほどのクラスに 1 人という勘定になる。男生徒では「太」のつく名前が 21 人と目についた。クラスの 2 人ほど。



いつも感じることだが、厳粛な雰囲気の中で、未来を担う若者を育てる教育という仕事の神聖さ、そして彼らのはるかなる人生の旅を想う。

私は来賓代表祝辞を担当。10 数分。

「外的世界と内的世界。アジアダイナミズム。人生100年時代。キャリア3期・人生6期。現代の志塾。なぜ勉強するのか。少壮老死。人文・社会・自然科学の関係。教養のある人。偉い人。大学時代には失敗せよ。挑戦・失敗・永遠の未完成。」

終了後、昼食をいただきながら父母の代表と懇談。何人かの先生からも挨拶を受ける。

2019年3月19日「図解アルチザン」、再決起集会

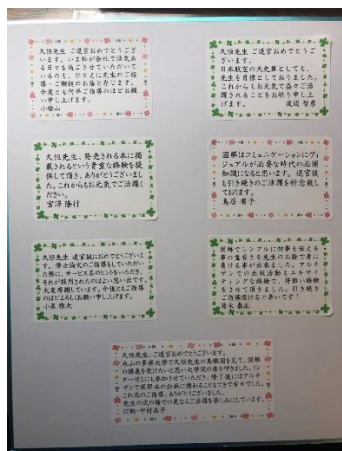
多摩大大学院で私の授業を受けた社会人たちで構成する「図解アルチザン」のメンバーの祝宴。

2008年に多摩大に着任した年から出版プロジェクトを展開してきた。

『図解 資本論』（イーストプレス。2009年）。『40文字でわかる！ 知っておきたいビジネス理論』（電子書籍。ごまブックス。2013年）。『40文字でわかる！ 知っておきたいビジネス理論』（PHP。2014年）。『40文字でわかる！ 今さら聞けないあの企業のビジネス戦略』（電子書籍。2016年）。以上4冊を刊行してきたが、なかには電子書籍ではベストセラーになったものもある。期せずして、今夜は「図解アルチザン」の再決起集会となった。



いただいた色紙



いただいたクロスのボールペンと金のゴルフボール



2019 年 3 月 20 日 副学長日誌

午前：学部運営委員会。

午後：できあがった「多摩大時代の総決算」を教員全員に配布。

2019 年 3 月 21 日 平成 30 年度多摩大学「卒業のつどい」。私もイチローと一緒に卒業です

平成 30 年度多摩大学卒業式。245 名が卒業。

学長：多摩大は平成と並走。学部・大学院 OB は 9201 人。一期生は 50 代に差し掛かっている。平成の期間に何が変わったのか。冷戦後の 30 年。一つはインターネット。軍事技術のアーパネット（1962 年）の民生転換。開放系・分散系。それがビッグデータ、AI へ。ネットワーク情報革命の 30 年。二つ目はアジアダイナミズム。平成の始まりは日本はアジアで断トツ、中・印・アジアのトータルの 3 倍。現在は日本を除くアジアは日本の 4 倍、中国は 3 倍。これからは？ 工業生産力モデルの行き詰まり。終身雇用・年功序列の崩壊。ジェロントロジー。人生 100 年時代。人生に対する考え方が重要。学び続ける。自分の頭で考える習慣。課題解決力。人的ネットワークが半分以上。使命感。

理事長：現代の志塾。志の実現へ。少子化は若者に期待がかかる。チャンスが増える。「夢なきものに計画なし、計画なきものに実行なし、実行なきものに成功なし、ゆえに夢なきものに成功なし」（吉田松陰）。、

杉田学部長：精神的成長。環境との適合と自分の軸。

総代の二人の挨拶がよかった。多摩大の提供するプログラムに乗っかれば大丈夫ということを改めて確信した。

- ・ 首席。小 3 から不登校。通信制高校。多摩大入学後 1-2 年は成績は良かったが人間的成長はなかった。それから大学が用意したアクティブラーニングを中心に参加。地域、特産品、、、という体験、経験を消化できた。今後は「志」を軸に選択しながら人生を歩んでいく。

- ・ 学生会部長、多摩蔡実行委員長。人とのつながりが原動力となった。友人、両親、先生に感謝。(感極まって涙も)。



本年度の公式行事は本日で終了。私も卒業です。以下、壇上で式を見ながらの感想。
「以下、同文」的人生を送るな。「10 年一昔」、教授陣も白髪と後退が増えたなあ。
以下、水盛先生が撮った写真。





2019 年 3 月 26 日 第 3 回「ビジネススクエア多摩」企画運営委員会

第 3 回「ビジネススクエア多摩」企画運営委員会

メンバー：多摩市。多摩信金。多摩大。

近況報告。平成 30 年度事業報告。平成 31 年度以降の運営。地域未来投資促進法。

ラウンジ。

- ・中村その子先生
- ・公平教務課長

2019 年 3 月 27 日 最後の教授会挨拶「紙、泥、そして木、次は鉄の船へ」

午前。

学部運営委員会の後、教授会。新レイアウト。



3 月の教授会なので、最後に挨拶。

「今年は横綱稀勢の里・メジャートップのイチローが引退しましたが、私も同じタイミングで専任を退任します。多摩大の 30 年。最初の 10 年は大学改革の旗手として黄金の輝きで航海を始めました。ただこの船は「紙」の船でした。次の 10 年は牡蠣殻がつき速度が落ち最後は「泥」の船に変わ

りました。2008 年に着任し状況を把握し、野田先生がつくり寺島先生が学長をつとめる多摩大の再建を担うことになりましたが、それは私の「天命」と考えました。この 10 年で教職員一丸となって努力し「再建のステージ」は完了しました。素晴らしい仲間との年月は私の宝です。皆さんと一緒に「木」の船に作り替えることができましたと思います。今からの 10 年、少子化の一段の進行・専門職大学の発足など波が高いけれど、チームワークという強力なエンジンが装着できているので、十分に戦える体制にあります。次の 10 年で木の船を「鉄」の船に改造していくことを期待しています。ありがとうございました」。



「多摩大学時代の総決算」を各課の職員へ配布。

2019 年 3 月 28 日 来年度の多摩大総研の活動打ち合わせ。

午前:4 月の講演準備。

午後:多摩大学総合研究所。松本、長島両氏と来年度の活動打ち合わせ。

活性化した活動になりそうだ。



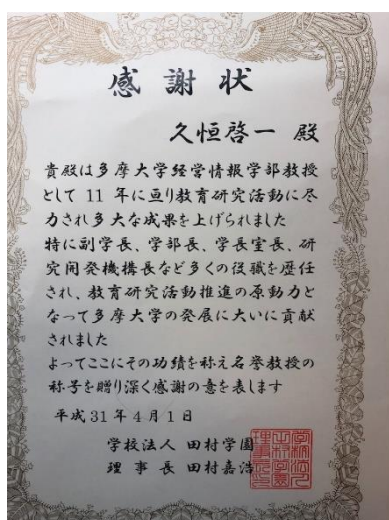
品川での大学院運営委員会に出席。

2019 年 3 月 29 日 最後の大学運営委員会で挨拶。最後の教職員懇親会で挨拶

- ・ 午前中は研究室:4 月の 4 つの講演の資料準備。
- ・ 午後は九段:大学運営委員会:最後に挨拶「10 年間、大学運営委員会にすべて出席した。混乱から組織的運営へ。量的にはあるレベルに達した。例えば 2012 年作成の初の学部中期計画では名目就職率 98%・実質 88%という挑戦的目標をたてたが、2018 年度には達成した。高い目標を持つことが大事だ。今後は質の向上に向けて教育はアクティブラーニング、研究はジェロントロジーという方向感をはっきりしている。今年の卒業生総代の一人は不登校で通信教育高校からの入学者でアクティブラーニングで目覚め首席となった。もう一人は大学の提供した海外留学、インターゼミなどにフル参加して著名企業に就職している。提供している教育プログラムを信じ、こなせば未来が開けるというモデルだ。ここを自信を持って説明すべきだ。私は研究をテーマとする特任としてはどんどんまとめていく予定。総研所長としては卒業生の「知の再武装」のための参画のプラットフォームを提供し大学本体をバックアップしていきたい」。
- ・ 夕刻からは新宿の京王プラザホテルで全学の教職員懇親会:学長、理事長の挨拶。永年勤続表彰(10 年・20 年・30 年)。退職者挨拶。入職者紹介。



- ・ ここでの挨拶は、他学部や大学院の先生たち、全学の職員、そして新しく入職する教職員に向けてなので、先日の教授会で述べたメッセージ性の強い内容と同じにした。
「10 年一昔。多摩大の 30 年。最初の 10 年は大学改革の旗手として黄金の輝きで航海を始めました。ただこの船は「紙」の船でした。次の 10 年は牡蠣殻がつき速度が落ち最後は「泥」の船に変わりました。次の 10 年で教職員一丸となって努力し「再建のステージ」は完了しました。皆さんと一緒に「木」の船に作り替えることができましたと思います。これからの 10 年、波が高いけれど、チームワークという強力なエンジンが装着できているので、十分に戦える体制にあると思います。次の 10 年で木の船を「鉄」の船に改造していくことを期待しています。お世話になりました」。
- ・ 理事長から「感謝状をいただく」。



2019 年 3 月 31 日 『多摩大学時代の総決算』、『宮城大学時代の総決算』と併せて、
宮城大 11 年・多摩大 11 年の合計 22 年間の大学教授生活の総決算
『多摩大学時代の総決算』(47 ページ)。教職員に配布済み



『多摩大学時代の総決算(2008 年度～2018 年度)』。

宮城大 11 年・多摩大 11 年の合計 22 年間の大学教授生活の総決算。

